

---

久喜市

---

# 栗橋宿跡 VI

---

首都圏氾濫区域堤防強化対策における  
埋蔵文化財発掘調査報告  
(第3分冊)

2022

国土交通省 関東地方整備局  
公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

# 目次

## (第1分冊)

巻頭図版

序

例言

凡例

目次

### I 発掘調査の概要 ..... 1

1 発掘調査に至る経過 ..... 1

2 発掘調査・報告書作成の経過 ..... 2

(1) 発掘調査 ..... 2

(2) 整理・報告書の作成 ..... 2

3 発掘調査・報告書作成の組織 ..... 3

### II 遺跡の立地と環境 ..... 5

1 地理的環境 ..... 5

2 歴史的環境 ..... 7

(1) 中世の栗橋とその周辺 ..... 7

(2) 近世の栗橋とその周辺 ..... 11

(3) 栗橋宿の様子 ..... 14

(4) 近世から近代への栗橋 ..... 17

### III 遺跡の概要 ..... 19

### IV 遺構と遺物 ..... 39

1 第一面の遺構と遺物

(1) 建物跡 ..... 39

(2) 基礎状遺構 ..... 65

(3) 埋設桶 ..... 70

(4) 埋設甕 ..... 84

(5) 杭列 ..... 85

(6) 木樋 ..... 92

(7) 溝跡 ..... 92

(8) 焼土遺構 ..... 109

(9) 土壇 ..... 115

①区画AAの土壇 ..... 115

②区画ABの土壇 ..... 115

③区画ACの土壇 ..... 148

④区画ADの土壇 ..... 205

### (第2分冊)

⑤区画AEの土壇 ..... 255

⑥区画AFの土壇 ..... 360

⑦区画AGの土壇 ..... 441

(10) ビット ..... 500

(11) 遺構外出土遺物 ..... 502

### 2 第二面の遺構と遺物

(1) 建物跡 ..... 516

(2) 埋設桶 ..... 517

(3) 井戸跡 ..... 525

(4) 溝跡 ..... 547

(5) 性格不明遺構 ..... 550

### (第3分冊)

(6) 土壇 ..... 551

①区画AAの土壇 ..... 551

②区画ABの土壇 ..... 572

③区画ACの土壇 ..... 631

④区画ADの土壇 ..... 669

⑤区画AEの土壇 ..... 677

⑥区画AFの土壇 ..... 699

⑦区画AGの土壇 ..... 710

(7) ビット ..... 715

(8) 遺構外出土遺物 ..... 719

### 3 第三面の遺構と遺物

(1) 建物跡 ..... 733

(2) 溝跡 ..... 734

(3) 畝跡 ..... 743

(4) 小鍛冶跡 ..... 745

(5) 土壇 ..... 746

①区画 AA の土壌	746
②区画 AB の土壌	756
③区画 AC の土壌	759
④区画 AD の土壌	766
⑤区画 AE の土壌	894
⑥区画 AF の土壌	904
⑦区画 AG の土壌	920
(6) ビット	925
(7) 遺構外出土遺物	925
4 文字資料	933
5 出土遺物一覧表と遺構の時期	941

V 自然科学分析	997
1 堆積物微細構造軟X線分析 (1)	997
2 砂粒組成分析・粒度分析 (1)	1003
3 堆積物微細構造軟X線分析 (2)	1008
4 砂粒組成分析・粒度分析 (2)	1012
5 火山灰分析	1017
6 寄生虫卵分析	1019
7 花粉分析	1025
VI 調査のまとめ	1027
(第4分冊)	
写真図版	

## 挿図目次

### (第3分冊)

第415図 区画 AA 土壌 (1)	552
第416図 第398号土壌出土遺物 (1)	553
第417図 第398号土壌出土遺物 (2)	554
第418図 第398号土壌出土遺物 (3)	555
第419図 区画 AA 土壌 (2)	557
第420図 区画 AA 土壌 (3)	558
第421図 区画 AA 土壌出土遺物 (1)	559
第422図 区画 AA 土壌出土遺物 (2)	560
第423図 区画 AA 土壌出土遺物 (3)	561
第424図 区画 AA 土壌出土遺物 (4)	562
第425図 区画 AA 土壌出土遺物 (5)	564
第426図 区画 AA 土壌出土遺物 (6)	565
第427図 区画 AA 土壌出土遺物 (7)	566
第428図 区画 AA 土壌出土遺物 (8)	567
第429図 区画 AA 土壌出土遺物 (9)	568
第430図 区画 AA 土壌出土遺物 (10)	569
第431図 区画 AA 土壌出土遺物 (11)	571
第432図 区画 AA 土壌出土遺物 (12)	571
第433図 区画 AB 土壌 (1)	573
第434図 第343号土壌遺物出土状況	574
第435図 第335号土壌出土遺物 (1)	575
第436図 第335号土壌出土遺物 (2)	576

第437図 第343号土壌出土遺物 (1)	578
第438図 第343号土壌出土遺物 (2)	579
第439図 第343号土壌出土遺物 (3)	580
第440図 第343号土壌出土遺物 (4)	581
第441図 第343号土壌出土遺物 (5)	582
第442図 第343号土壌出土遺物 (6)	583
第443図 第343号土壌出土遺物 (7)	584
第444図 第343号土壌出土遺物 (8)	585
第445図 第343号土壌出土遺物 (9)	586
第446図 第343号土壌出土遺物 (10)	587
第447図 第343号土壌出土遺物 (11)	588
第448図 第343号土壌出土遺物 (12)	589
第449図 第368号土壌出土遺物 (1)	594
第450図 第368号土壌出土遺物 (2)	595
第451図 第368号土壌出土遺物 (3)	596
第452図 第368号土壌出土遺物 (4)	597
第453図 第368号土壌出土遺物 (5)	598
第454図 第368号土壌出土遺物 (6)	599
第455図 第368号土壌出土遺物 (7)	600
第456図 区画 AB 土壌 (2)	603
第457図 第332号土壌遺物出土状況	604
第458図 第333号土壌遺物出土状況	605

第459区	区画 AB 土壤 (3) .....	606	第494区	第344号土壤出土遗物 (9) .....	644
第460区	区画 AB 土壤 (4) .....	607	第495区	第344号土壤出土遗物 (10) .....	645
第461区	区画 AB 土壤 (5) .....	608	第496区	第344号土壤出土遗物 (11) .....	646
第462区	区画 AB 土壤出土遗物 (1) .....	609	第497区	第344号土壤出土遗物 (12) .....	647
第463区	区画 AB 土壤出土遗物 (2) .....	610	第498区	第344号土壤出土遗物 (13) .....	648
第464区	区画 AB 土壤出土遗物 (3) .....	611	第499区	第344号土壤出土遗物 (14) .....	649
第465区	区画 AB 土壤出土遗物 (4) .....	612	第500区	第344号土壤出土遗物 (15) .....	650
第466区	区画 AB 土壤出土遗物 (5) .....	613	第501区	第344号土壤出土遗物 (16) .....	651
第467区	区画 AB 土壤出土遗物 (6) .....	614	第502区	第344号土壤出土遗物 (17) .....	652
第468区	区画 AB 土壤出土遗物 (7) .....	615	第503区	第344号土壤出土遗物 (18) .....	653
第469区	区画 AB 土壤出土遗物 (8) .....	618	第504区	第344号土壤出土遗物 (19) .....	654
第470区	区画 AB 土壤出土遗物 (9) .....	618	第505区	第344号土壤出土遗物 (20) .....	655
第471区	区画 AB 土壤出土遗物 (10) .....	618	第506区	区画 AC 土壤 (2) .....	662
第472区	区画 AB 土壤出土遗物 (11) .....	619	第507区	区画 AC 土壤 (3) .....	663
第473区	区画 AB 土壤出土遗物 (12) .....	620	第508区	区画 AC 土壤出土遗物 (1) .....	664
第474区	区画 AB 土壤出土遗物 (13) .....	621	第509区	区画 AC 土壤出土遗物 (2) .....	665
第475区	区画 AB 土壤出土遗物 (14) .....	622	第510区	区画 AC 土壤出土遗物 (3) .....	666
第476区	区画 AB 土壤出土遗物 (15) .....	623	第511区	区画 AC 土壤出土遗物 (4) .....	666
第477区	区画 AB 土壤出土遗物 (16) .....	625	第512区	区画 AC 土壤出土遗物 (5) .....	667
第478区	区画 AB 土壤出土遗物 (17) .....	627	第513区	区画 AC 土壤出土遗物 (6) .....	667
第479区	区画 AB 土壤出土遗物 (18) .....	628	第514区	区画 AC 土壤出土遗物 (7) .....	668
第480区	区画 AB 土壤出土遗物 (19) .....	629	第515区	区画 AD 土壤 (1) .....	669
第481区	区画 AB 土壤出土遗物 (20) .....	630	第516区	第403号土壤出土遗物 .....	670
第482区	区画 AB 土壤出土遗物 (21) .....	631	第517区	区画 AD 土壤 (2) .....	672
第483区	区画 AC 土壤 (1) .....	633	第518区	区画 AD 土壤出土遗物 (1) .....	673
第484区	第344号土壤遗物出土状况 (1) .....	634	第519区	区画 AD 土壤出土遗物 (2) .....	674
第485区	第344号土壤遗物出土状况 (2) .....	635	第520区	区画 AD 土壤出土遗物 (3) .....	675
第486区	第344号土壤出土遗物 (1) .....	636	第521区	区画 AD 土壤出土遗物 (4) .....	675
第487区	第344号土壤出土遗物 (2) .....	637	第522区	区画 AD 土壤出土遗物 (5) .....	676
第488区	第344号土壤出土遗物 (3) .....	638	第523区	区画 AE 土壤 (1) .....	678
第489区	第344号土壤出土遗物 (4) .....	639	第524区	第388号土壤出土遗物 (1) .....	679
第490区	第344号土壤出土遗物 (5) .....	640	第525区	第388号土壤出土遗物 (2) .....	680
第491区	第344号土壤出土遗物 (6) .....	641	第526区	第388号土壤出土遗物 (3) .....	681
第492区	第344号土壤出土遗物 (7) .....	642	第527区	第388号土壤出土遗物 (4) .....	682
第493区	第344号土壤出土遗物 (8) .....	643	第528区	第388号土壤出土遗物 (5) .....	683
			第529区	第415号土壤出土遗物 .....	684
			第530区	区画 AE 土壤 (2) .....	685



第531図	区画AE土壌(3)……………	686	第568図	遺構外出土遺物(3)……………	723
第532図	第387号土壌遺物出土状況……	687	第569図	遺構外出土遺物(4)……………	723
第533図	区画AE土壌(4)……………	688	第570図	遺構外出土遺物(5)……………	724
第534図	区画AE土壌(5)……………	689	第571図	遺構外出土遺物(6)……………	724
第535図	区画AE土壌(6)……………	690	第572図	遺構外出土遺物(7)……………	724
第536図	区画AE土壌出土遺物(1)……	691	第573図	遺構外出土遺物(8)……………	725
第537図	区画AE土壌出土遺物(2)……	692	第574図	遺構外出土遺物(9)……………	726
第538図	区画AE土壌出土遺物(3)……	693	第575図	遺構外出土遺物(10)……………	728
第539図	区画AE土壌出土遺物(4)……	694	第576図	遺構外出土遺物(11)……………	728
第540図	区画AE土壌出土遺物(5)……	695	第577図	遺構外出土遺物(12)……………	729
第541図	区画AE土壌出土遺物(6)……	695	第578図	遺構外出土遺物(13)……………	730
第542図	区画AE土壌出土遺物(7)……	696	第579図	第三面区画参考図……………	731
第543図	区画AE土壌出土遺物(8)……	696	第580図	第4号建物跡……………	732
第544図	区画AE土壌出土遺物(9)……	697	第581図	第4号建物跡出土遺物……………	733
第545図	区画AE土壌出土遺物(10)……	698	第582図	溝跡(1)……………	735
第546図	区画AF土壌(1)……………	700	第583図	溝跡(2)……………	736
第547図	区画AF土壌(2)……………	701	第584図	溝跡出土遺物(1)……………	737
第548図	区画AF土壌(3)……………	702	第585図	溝跡出土遺物(2)……………	738
第549図	区画AF土壌(4)……………	703	第586図	畝跡……………	742
第550図	区画AF土壌出土遺物(1)……	704	第587図	小銀冶跡……………	744
第551図	区画AF土壌出土遺物(2)……	705	第588図	小銀冶跡出土遺物……………	745
第552図	区画AF土壌出土遺物(3)……	706	第589図	区画AA土壌(1)……………	747
第553図	区画AF土壌出土遺物(4)……	707	第590図	第523号土壌出土遺物(1)……	748
第554図	区画AF土壌出土遺物(5)……	707	第591図	第523号土壌出土遺物(2)……	749
第555図	区画AF土壌出土遺物(6)……	708	第592図	第523号土壌出土遺物(3)……	750
第556図	区画AF土壌出土遺物(7)……	709	第593図	第523号土壌出土遺物(4)……	751
第557図	区画AG土壌(1)……………	711	第594図	第523号土壌出土遺物(5)……	752
第558図	区画AG土壌(2)……………	712	第595図	区画AA土壌(2)……………	754
第559図	区画AG土壌出土遺物(1)……	713	第596図	区画AB土壌……………	757
第560図	区画AG土壌出土遺物(2)……	715	第597図	区画AB土壌出土遺物(1)……	758
第561図	区画AG土壌出土遺物(3)……	715	第598図	区画AB土壌出土遺物(2)……	758
第562図	区画AG土壌出土遺物(4)……	716	第599図	区画AC土壌(1)……………	760
第563図	区画AG土壌出土遺物(5)……	717	第600図	区画AC土壌(2)……………	761
第564図	ピット……………	718	第601図	区画AC土壌(3)……………	762
第565図	ピット出土遺物……………	719	第602図	区画AC土壌出土遺物(1)……	763
第566図	遺構外出土遺物(1)……………	720	第603図	区画AC土壌出土遺物(2)……	764
第567図	遺構外出土遺物(2)……………	721	第604図	区画AC土壌出土遺物(3)……	764

第605图	区画 AC 土壕出土遗物 (4) ……	765	第633图	第 497 号土壕出土遗物 (14) ……	795
第606图	区画 AC 土壕出土遗物 (5) ……	765	第634图	第 497 号土壕出土遗物 (15) ……	796
第607图	区画 AC 土壕出土遗物 (6) ……	765	第635图	第 497 号土壕出土遗物 (16) ……	797
第608图	区画 AD 土壤 (1) ……	767	第636图	第 497 号土壕出土遗物 (17) ……	798
第609图	区画 AD 土壤 (2) ……	768	第637图	第 497 号土壕出土遗物 (18) ……	799
第610图	区画 AD 土壤 (3) ……	769	第638图	第 497 号土壕出土遗物 (19) ……	800
第611图	第 497 号土壕出土状况 ……	770	第639图	第 497 号土壕出土遗物 (20) ……	801
第612图	第 497 号土壕烧土层出土遗物 (1) ……………	771	第640图	第 497 号土壕出土遗物 (21) ……	802
第613图	第 497 号土壕烧土层出土遗物 (2) ……………	772	第641图	第 497 号土壕出土遗物 (22) ……	803
第614图	第 497 号土壕烧土层出土遗物 (3) ……………	773	第642图	第 497 号土壕出土遗物 (23) ……	804
第615图	第 497 号土壕烧土层出土遗物 (4) ……………	774	第643图	第 497 号土壕出土遗物 (24) ……	805
第616图	第 497 号土壕烧土层出土遗物 (5) ……………	775	第644图	第 497 号土壕出土遗物 (25) ……	806
第617图	第 497 号土壕烧土层出土遗物 (6) ……………	776	第645图	第 497 号土壕出土遗物 (26) ……	807
第618图	第 497 号土壕烧土层出土遗物 (7) ……………	777	第646图	第 497 号土壕出土遗物 (27) ……	808
第619图	第 497 号土壕烧土层出土遗物 (8) ……………	778	第647图	第 497 号土壕出土遗物 (28) ……	809
第620图	第 497 号土壕出土遗物 (1) ……	782	第648图	第 497 号土壕出土遗物 (29) ……	810
第621图	第 497 号土壕出土遗物 (2) ……	783	第649图	第 497 号土壕出土遗物 (30) ……	811
第622图	第 497 号土壕出土遗物 (3) ……	784	第650图	第 497 号土壕出土遗物 (31) ……	812
第623图	第 497 号土壕出土遗物 (4) ……	785	第651图	第 497 号土壕出土遗物 (32) ……	813
第624图	第 497 号土壕出土遗物 (5) ……	786	第652图	第 497 号土壕出土遗物 (33) ……	814
第625图	第 497 号土壕出土遗物 (6) ……	787	第653图	第 497 号土壕出土遗物 (34) ……	815
第626图	第 497 号土壕出土遗物 (7) ……	788	第654图	第 497 号土壕出土遗物 (35) ……	816
第627图	第 497 号土壕出土遗物 (8) ……	789	第655图	第 497 号土壕出土遗物 (36) ……	817
第628图	第 497 号土壕出土遗物 (9) ……	790	第656图	第 497 号土壕出土遗物 (37) ……	818
第629图	第 497 号土壕出土遗物 (10) ……	791	第657图	第 497 号土壕出土遗物 (38) ……	819
第630图	第 497 号土壕出土遗物 (11) ……	792	第658图	第 497 号土壕出土遗物 (39) ……	820
第631图	第 497 号土壕出土遗物 (12) ……	793	第659图	第 497 号土壕出土遗物 (40) ……	821
第632图	第 497 号土壕出土遗物 (13) ……	794	第660图	第 497 号土壕出土遗物 (41) ……	822
			第661图	区画 AD 土壤 (4) ……	839
			第662图	第 500 号土壕出土遗物 (1) ……	840
			第663图	第 500 号土壕出土遗物 (2) ……	841
			第664图	第 500 号土壕出土遗物 (3) ……	842
			第665图	第 500 号土壕出土遗物 (4) ……	843
			第666图	第 500 号土壕出土遗物 (5) ……	844
			第667图	第 500 号土壕出土遗物 (6) ……	845
			第668图	第 500 号土壕出土遗物 (7) ……	846
			第669图	第 500 号土壕出土遗物 (8) ……	847

第670図	第500号土壌出土遺物(9)……	848	第707図	区画AD土壌出土遺物(3)……	896
第671図	第500号土壌出土遺物(10)…	849	第708図	区画AD土壌出土遺物(4)……	897
第672図	第500号土壌出土遺物(11)…	850	第709図	区画AD土壌出土遺物(5)……	897
第673図	第500号土壌出土遺物(12)…	851	第710図	区画AD土壌出土遺物(6)……	897
第674図	第500号土壌出土遺物(13)…	852	第711図	区画AE土壌(1)……………	898
第675図	第500号土壌出土遺物(14)…	853	第712図	第552号土壌出土遺物(1)……	899
第676図	第500号土壌出土遺物(15)…	854	第713図	第552号土壌出土遺物(2)……	900
第677図	第500号土壌出土遺物(16)…	855	第714図	区画AE土壌(2)……………	902
第678図	第500号土壌出土遺物(17)…	856	第715図	区画AE土壌出土遺物(1)……	903
第679図	第500号土壌出土遺物(18)…	857	第716図	区画AE土壌出土遺物(2)……	904
第680図	第500号土壌出土遺物(19)…	858	第717図	区画AE土壌出土遺物(3)……	905
第681図	第500号土壌出土遺物(20)…	859	第718図	区画AE土壌出土遺物(4)……	905
第682図	第500号土壌出土遺物(21)…	860	第719図	区画AF土壌(1)……………	906
第683図	第500号土壌出土遺物(22)…	861	第720図	区画AF土壌(2)……………	907
第684図	第500号土壌出土遺物(23)…	862	第721図	第473号土壌遺物出土状況……	908
第685図	第500号土壌出土遺物(24)…	863	第722図	第473号土壌出土遺物(1)……	909
第686図	第500号土壌出土遺物(25)…	864	第723図	第473号土壌出土遺物(2)……	910
第687図	第500号土壌出土遺物(26)…	865	第724図	第473号土壌出土遺物(3)……	911
第688図	第500号土壌出土遺物(27)…	866	第725図	第473号土壌出土遺物(4)……	912
第689図	第500号土壌出土遺物(28)…	867	第726図	第473号土壌出土遺物(5)……	913
第690図	第500号土壌出土遺物(29)…	868	第727図	第473号土壌出土遺物(6)……	914
第691図	第500号土壌出土遺物(30)…	869	第728図	第473号土壌出土遺物(7)……	915
第692図	第500号土壌出土遺物(31)…	870	第729図	第473号土壌出土遺物(8)……	916
第693図	第500号土壌出土遺物(32)…	871	第730図	第473号土壌出土遺物(9)……	917
第694図	第500号土壌出土遺物(33)…	872	第731図	第473号土壌出土遺物(10)…	918
第695図	第500号土壌出土遺物(34)…	873	第732図	第473号土壌出土遺物(11)…	919
第696図	第500号土壌出土遺物(35)…	874	第733図	第473号土壌出土遺物(12)…	920
第697図	第500号土壌出土遺物(36)…	875	第734図	ビット……………	926
第698図	第500号土壌出土遺物(37)…	876	第735図	遺構外出土遺物(1)……………	927
第699図	第500号土壌出土遺物(38)…	877	第736図	遺構外出土遺物(2)……………	928
第700図	第500号土壌出土遺物(39)…	878	第737図	遺構外出土遺物(3)……………	929
第701図	第500号土壌出土遺物(40)…	879	第738図	遺構外出土遺物(4)……………	929
第702図	第500号土壌出土遺物(41)…	880	第739図	遺構外出土遺物(5)……………	930
第703図	第500号土壌出土遺物(42)…	881	第740図	遺構外出土遺物(6)……………	930
第704図	区画AD土壌(5)……………	895	第741図	遺構外出土遺物(7)……………	931
第705図	区画AD土壌出土遺物(1)……	896	第742図	角閃石安山岩転石長短散布図…	976
第706図	区画AD土壌出土遺物(2)……	896	第743図	試料採取位置……………	998

第744図	1-1地点試料写真・X線写真	999	第752図	砂粒組成	1018
第745図	2地点試料写真・X線写真	1000	第753図	寄生虫卵・花粉化石群集	1021
第746図	砂粒組成	1004	第754図	寄生虫卵・花粉化石	1022
第747図	粒径頻度および粒径累積加積曲線	1006	第755図	18世紀前葉の火災関連遺構・ 遺物分布図	1030
第748図	試料採取位置	1009	第756図	栗橋2-3期遺構分布図	1031
第749図	堆積層の断面とX線写真	1010	第757図	羽口の変遷図	1034
第750図	砂粒組成	1013			
第751図	粒径頻度および粒径累積加積曲線				

## 表目次

### (第3分冊)

第113表	第二面区画AA土壌一覧表	552	第128表	区画AB土壌出土遺物観察表(3)	618
第114表	第398号土壌出土遺物観察表	556	第129表	区画AB土壌出土遺物観察表(4)	619
第115表	区画AA土壌出土遺物観察表(1)	563	第130表	区画AB土壌出土遺物観察表(5)	619
第116表	区画AA土壌出土遺物観察表(2)	564	第131表	区画AB土壌出土遺物観察表(6)	624
第117表	区画AA土壌出土遺物観察表(3)	565	第132表	区画AB土壌出土遺物観察表(7)	626
第118表	区画AA土壌出土遺物観察表(4)	566	第133表	区画AB土壌出土遺物観察表(8)	627
第119表	区画AA土壌出土遺物観察表(5)	570	第134表	区画AB土壌出土遺物観察表(9)	628
第120表	区画AA土壌出土遺物観察表(6)	571	第135表	区画AB土壌出土遺物観察表(10)	630
第121表	区画AA土壌出土遺物観察表(7)	571	第136表	区画AB土壌出土遺物観察表(11)	630
第122表	第二面区画AB土壌一覧表	572	第137表	区画AB土壌出土遺物観察表(12)	631
第123表	第335号土壌出土遺物観察表	576	第138表	第二面区画AC土壌一覧表	632
第124表	第343号土壌出土遺物観察表	590	第139表	第344号土壌出土遺物観察表	656
第125表	第368号土壌出土遺物観察表	601	第140表	区画AC土壌出土遺物観察表(1)	666
第126表	区画AB土壌出土遺物観察表(1)	616			
第127表	区画AB土壌出土遺物観察表(2)	618			

第141表	区画 AC 土城出土遺物観察表 (2)	第162表	区画 AE 土城出土遺物観察表 (7)
.....	666	.....	696
第142表	区画 AC 土城出土遺物観察表 (3)	第163表	区画 AE 土城出土遺物観察表 (8)
.....	667	.....	698
第143表	区画 AC 土城出土遺物観察表 (4)	第164表	第二面区画 AF 土城一覽表.....
.....	667	.....	699
第144表	区画 AC 土城出土遺物観察表 (5)	第165表	区画 AF 土城出土遺物観察表 (1)
.....	668	.....	706
第145表	区画 AC 土城出土遺物観察表 (6)	第166表	区画 AF 土城出土遺物観察表 (2)
.....	668	.....	707
第146表	第二面区画 AD 土城一覽表.....	第167表	区画 AF 土城出土遺物観察表 (3)
.....	669	.....	707
第147表	第403号土城出土遺物観察表 ...	第168表	区画 AF 土城出土遺物観察表 (4)
.....	671	.....	707
第148表	区画 AD 土城出土遺物観察表 (1)	第169表	区画 AF 土城出土遺物観察表 (5)
.....	673	.....	708
第149表	区画 AD 土城出土遺物観察表 (2)	第170表	区画 AF 土城出土遺物観察表 (6)
.....	675	.....	709
第150表	区画 AD 土城出土遺物観察表 (3)	第171表	第二面区画 AG 土城一覽表.....
.....	675	.....	710
第151表	区画 AD 土城出土遺物観察表 (4)	第172表	区画 AG 土城出土遺物観察表 (1)
.....	675	.....	714
第152表	区画 AD 土城出土遺物観察表 (5)	第173表	区画 AG 土城出土遺物観察表 (2)
.....	676	.....	715
第153表	第二面区画 AE 土城一覽表.....	第174表	区画 AG 土城出土遺物観察表 (3)
.....	677	.....	715
第154表	第388号土城出土遺物観察表 ...	第175表	区画 AG 土城出土遺物観察表 (4)
.....	683	.....	716
第155表	第415号土城出土遺物観察表 ...	第176表	区画 AG 土城出土遺物観察表 (5)
.....	684	.....	717
第156表	区画 AE 土城出土遺物観察表 (1)	第177表	第二面ビット一覽表 .....
.....	693	.....	717
第157表	区画 AE 土城出土遺物観察表 (2)	第178表	ビット出土遺物観察表 .....
.....	694	.....	719
第158表	区画 AE 土城出土遺物観察表 (3)	第179表	遺構外出土遺物観察表 (1).....
.....	694	.....	722
第159表	区画 AE 土城出土遺物観察表 (4)	第180表	遺構外出土遺物観察表 (2).....
.....	695	.....	722
第160表	区画 AE 土城出土遺物観察表 (5)	第181表	遺構外出土遺物観察表 (3).....
.....	695	.....	723
第161表	区画 AE 土城出土遺物観察表 (6)	第182表	遺構外出土遺物観察表 (4).....
.....	696	.....	723
		第183表	遺構外出土遺物観察表 (5).....
		.....	724
		第184表	遺構外出土遺物観察表 (6).....
		.....	724
		第185表	遺構外出土遺物観察表 (7).....
		.....	727

第186表	遺構外出土遺物觀察表(8)……	728	第213表	区画AD土壌出土遺物觀察表(1)	896
第187表	遺構外出土遺物觀察表(9)……	728	第214表	区画AD土壌出土遺物觀察表(2)	896
第188表	遺構外出土遺物觀察表(10)……	730	第215表	区画AD土壌出土遺物觀察表(3)	897
第189表	遺構外出土遺物觀察表(11)……	730	第216表	区画AD土壌出土遺物觀察表(4)	897
第190表	第三面建物跡一覽表……	732	第217表	区画AD土壌出土遺物觀察表(5)	897
第191表	第4号建物跡出土遺物觀察表…	733	第218表	区画AD土壌出土遺物觀察表(6)	897
第192表	第三面溝跡一覽表……	734	第219表	第三面区画AE土壌一覽表……	898
第193表	溝跡出土遺物觀察表……	739	第220表	第552号土壌出土遺物觀察表…	900
第194表	第三面畝跡一覽表……	741	第221表	区画AE土壌出土遺物觀察表(1)	902
第195表	第三面小鍛冶跡一覽表……	743	第222表	区画AE土壌出土遺物觀察表(2)	903
第196表	小鍛冶跡出土遺物觀察表……	745	第223表	区画AE土壌出土遺物觀察表(3)	904
第197表	第三面区画AA土壌一覽表……	746	第224表	区画AE土壌出土遺物觀察表(4)	904
第198表	第523号土壌出土遺物觀察表…	753	第225表	第三面区画AF土壌一覽表……	905
第199表	第三面区画AB土壌一覽表……	756	第226表	第473号土壌出土遺物觀察表…	921
第200表	区画AB土壌出土遺物觀察表(1)	758	第227表	第三面ビット一覽表……	925
第201表	区画AB土壌出土遺物觀察表(2)	758	第228表	遺構外出土遺物觀察表(1)……	928
第202表	第三面区画AC土壌一覽表……	759	第229表	遺構外出土遺物觀察表(2)……	928
第203表	区画AC土壌出土遺物觀察表(1)	764	第230表	遺構外出土遺物觀察表(3)……	929
第204表	区画AC土壌出土遺物觀察表(2)	764	第231表	遺構外出土遺物觀察表(4)……	929
第205表	区画AC土壌出土遺物觀察表(3)	764	第232表	遺構外出土遺物觀察表(5)……	930
第206表	区画AC土壌出土遺物觀察表(4)	765	第233表	遺構外出土遺物觀察表(6)……	930
第207表	区画AC土壌出土遺物觀察表(5)	765	第234表	遺構外出土遺物觀察表(7)……	932
第208表	区画AC土壌出土遺物觀察表(6)	765	第235表	文字資料積文……	934
第209表	第三面区画AD土壌一覽表……	766	第236表	写真掲載文字資料一覽表……	939
第210表	第497号土壌焼土層出土遺物觀察表	779	第237表	第一面出土遺物一覽表……	942
第211表	第497号土壌出土遺物觀察表…	823	第238表	第二面出土遺物一覽表……	952
第212表	第500号土壌出土遺物觀察表…	882	第239表	第三面出土遺物一覽表……	959

第240表	第一面瓦計測表	963	第252表	第一面遺構時期推定一覽表	977
第241表	第二面瓦計測表	968	第253表	第二面遺構時期推定一覽表	984
第242表	第三面瓦計測表	969	第254表	第三面遺構時期推定一覽表	988
第243表	第一面出土貝類一覽表	970	第255表	出土陶磁器類組成表	991
第244表	第二面出土貝類一覽表	970	第256表	砂粒組成	1004
第245表	第三面出土貝類一覽表	970	第257表	粒度分析結果	1005
第246表	第一面出土植物遺存體一覽表	971	第258表	砂粒組成	1013
第247表	第二面出土植物遺存體一覽表	973	第259表	粒度分析結果	1014
第248表	第三面出土植物遺存體一覽表	974	第260表	砂粒組成	1017
第249表	第一面出土動物遺存體一覽表	975	第261表	寄生蟲卵分析結果	1020
第250表	第二面出土動物遺存體一覽表	975	第262表	花粉分析結果	1025
第251表	第三面出土動物遺存體一覽表	976			

## (6) 土壌 (第415～558図)

土壌は154基検出された。第一面と同様に、各区画の様相を把握するために、土壌については原則区画ごとに掲載した。

なお、第二面は明確な区画施設が検出できていないことから、第一面の区画を用いた。第384図に示した第二面の区画は、参考区画であり、実態に即しているわけではないことを留意したい。また、第一面の区画対比に用いた『絵図』と第二面で検出された一部の遺構の年代には、ある程度の年代差があることに注意したい。区画をまたぐ土壌については、原則北側の区画に帰属させた。

特徴的な土壌は抽出し、遺構図及び掲載遺物については各区画ごとに先行して図示した。掲載遺物は遺構ごとにまとめたうえで、全種の遺物を一括掲載した。

非抽出とした土壌は、遺構図を各区画ごとにまとめ、出土遺物は陶磁器・土器類、土製品、瓦、木製品、金属製品、銭貨、石製品、硝子・骨製品、壁材の順で、各種別に分けて掲載した。

各土壌における最新期の陶磁器と推定廃絶期については、第253表「遺構時期推定一覧表」を参照されたい。また、遺構と出土遺物については、紙数の都合上全てを記述することができないため、特徴的なものを記載していく。

### ①区画AAの土壌 (第415～432図)

土壌は14基検出された。区画AAは『絵図』に見える「荒物屋/忠助」の区画で、大部分は第9地点(『栗橋宿跡VII』)に属する。第一面では土壌が検出されなかったが、第二面では一定量が検出された。日光道中に直交する長軸方位の土壌が多い。

第113表に位置・規模等の基本的な情報を示した。

本区画で抽出した土壌は第398号土壌で、先行して第415図に遺構図、第416～418図に遺物図を示した。

非抽出となった土壌は、第419・420図に遺構図、第421～432図に遺物図を示し、特徴的な遺構、遺物について記述する。

### 第398号土壌 (第415～418図)

F7-B6・7グリッドに位置する。遺構の北部は第9地点へと続いているため、平面形は不明である。検出長軸3.65m、幅1.15m、深さ1.05mを測り、長軸方位はN-75°-Eを指す。

覆土の下層は砂質土、中層には木質が多量に含まれ、一部層状に堆積している。上層には白・黄色の砂粒が混入している。遺物は中層を中心に出土している。上層は一部攪乱を受けているが、後世の遺物の混入は認められなかった。

出土遺物は多量である。陶磁器は肥前系磁器の小丸碗を主体とし、小丸碗、瀬戸美濃系陶器の鎧茶碗を最新期とする。推定廃絶期は18世紀後葉である。

第416～418図に出土遺物を図示した。第416図1～8は肥前系磁器である。1は波佐見系磁器のくらわんか手碗である。外面はコンニャク印判染付が施され、内面には崩れた五弁花文の染付がみられる。2は筒形碗である。内底面には明瞭な五弁花文染付がみえる。3は小丸碗である。内底面に五弁花文と二重圏線の染付がみられる。6は高台高が低い蛇ノ目凹形高台の皿である。

9は瀬戸美濃系陶器の鎧茶碗である。第405号土壌出土製品(第421図3)と同様の器形、作りと考えられる。内外面は軸が掛け分けられており、上位は漆黒の鉄軸である。外面にトビガンナ状の押形文が施文される。

10は瀬戸美濃系陶器の柿釉灯明皿である。外面下位から底部にかけて軸が拭き取られ、内面に重ね焼き痕がみられる。

11は江戸在地系土師質土器の丸火鉢である。底部はヘラナデ調整で、3箇所に丸形の脚が付く。内底面は円周状のナデ調整を行った後に、中央部をランダムなナデ調整を施している。

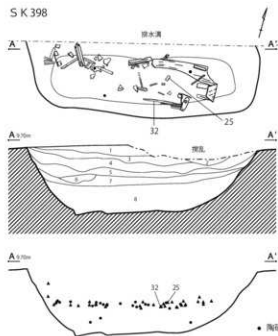


第113表 第二面区画AA土壌一覧表

単位: m

番号	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	方位	備考	挿図
398	F7-B6・7	不明	3.65	(1.15)	1.05	N-75° -E		415
405	F7-B6	隅丸長方形	1.95	(0.60)	0.60	N-77° -E		419
406	F7-B6	隅丸長方形	(1.40)	(0.50)	0.40	N-77° -E	SK407より新	419
407	F7-B6	槽内形	(2.80)	2.10	0.40	N-77° -E	SK406・482・PT6より古 SK487・488と重複	419
481	F7-B7	不明	1.80	(0.85)	0.35	N-75° -E		420
482	F7-B6	不整形	2.50	2.00	0.70	N-15° -W		419
484	F7-B6	不整形	1.10	0.40	0.40	N-76° -E		419
485	F7-B6	不整形	1.40	(0.70)	0.50	N-72° -E		419
487	F7-B6	不明	(2.50)	(1.10)	0.70	N-65° -E	桶20・SK482・488より古 SK407と重複	419
488	F7-B6	槽内形	1.50	0.80	(0.35)	N-54° -E	SK482より古 SK487より新 SK407と重複	419
491	F7-B5	不明	—	—	(0.02)	—	SK506・511・桶21・22より古 SK492より新	420
492	F7-B5	不明	(3.00)	(1.05)	0.75	N-72° -E	SK491・506・511・桶21・22より古	420
506	F7-B5	不明	(1.50)	0.60	0.25	N-20° -E	桶20・21・22より古 SK491・492・511より新 SK512と重複	420
511	F7-B5	不明	—	—	0.30	—	桶21・22・SK506より古 SK491・492より新	420

SK398



第415図 区画AA土壌(1)

- SK398
- 1 褐色土 シルト質 粘性強 しまり弱 木質・炭化物粒子微量  
黄色で細かい粒子の砂が混入
  - 2 黒褐色土 粘土質 木質・木片を含む しまり弱
  - 3 灰黄色土 シルト質 粘性あり しまり弱 木質微量  
上層と同様の砂粒と白色の細かい粒子をもつ砂が混入
  - 4 褐色土 砂質 しまり弱 木質多量
  - 5 灰褐色土 砂質 しまり弱 木質が層状に堆積
  - 6 灰黄色土 シルト質 粘性弱 しまり弱 木質を含む 炭化物粒子微量
  - 7 褐色土 シルト質 粘性強 しまり弱 木質多量
  - 8 灰黄色土 砂質土

12は瓦質土器の平底焙烙である。底部は無調整のシワ状痕のみられる。体部下位はケズリ調整によりシワ状痕を消しているが、中位にシワ状痕が遺存している。内耳の下端部は内底面の端部に付く。口縁部の断面形は角形である。胎土に角閃石が一定量含まれ、在地産と推定される。

第417図13は江戸在地系土師質土器の丸底焙烙である。胎土は粉質で、細粒の雲母が含まれる。底部は無調整の砂目底で、丸みが強く、器高が高

い。体部に使用痕と推定される煤が付着する。

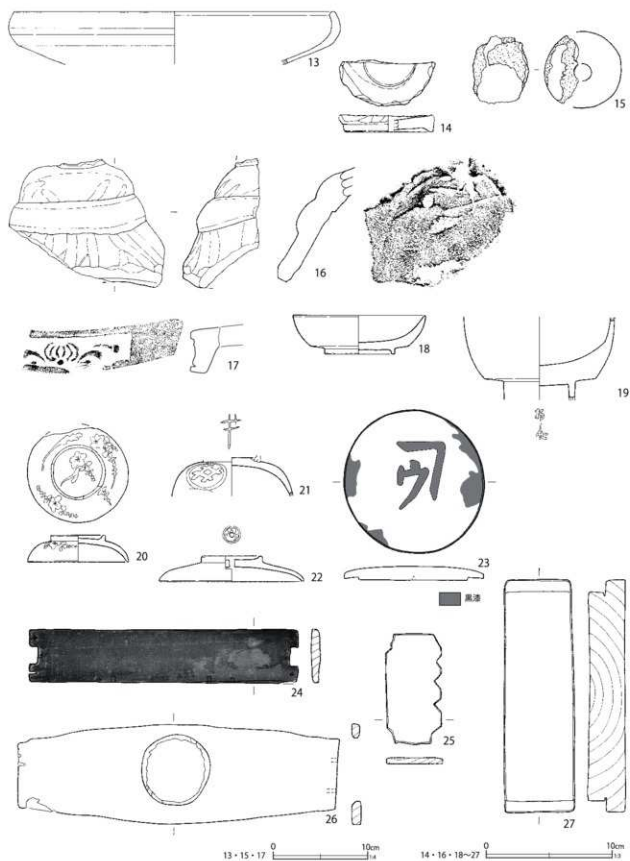
16は人物像の背面と思われる土製人形である。型成形で、下面は開口する。外面に雲母が付着し、胎土中に小磯が含まれる。

17は江戸式に類似する軒杖瓦である。瓦当文様は中心弁が六枚である。唐草文の巻きは弱く、短い。

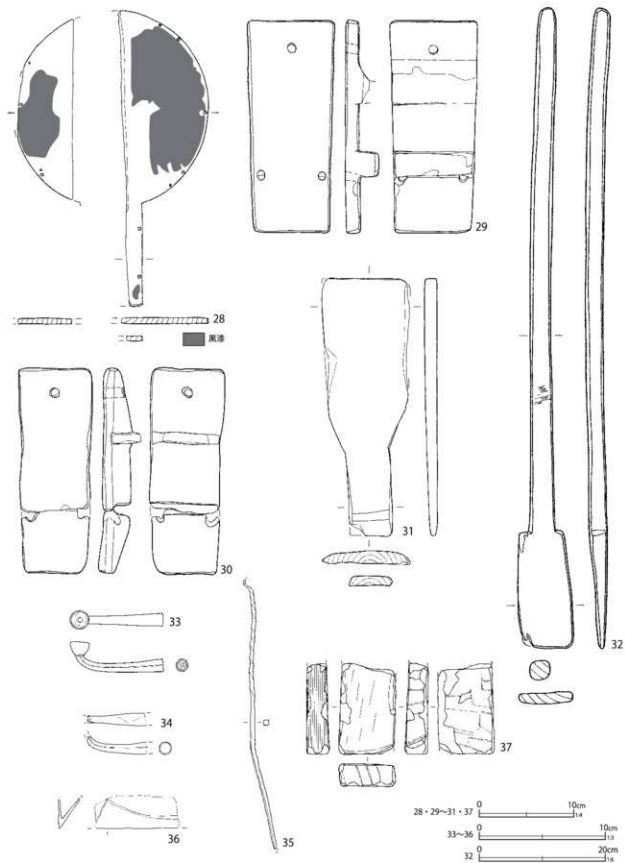
21は漆桶蓋で、外面に家紋、つまみ内に「井」の文字が書かれる。23は曲物の蓋である。曲物



第 416 图 第 398 号土坑出土遗物 (1)



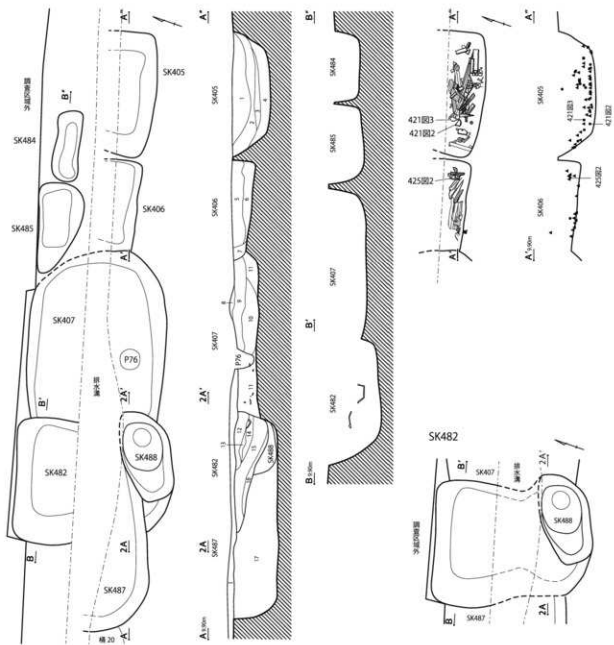
第417图 第398号土坑出土遗物(2)



第 418 図 第 398 号土壙出土遺物 (3)

第114表 第398号土壙出土遺物観察表 (第416～418図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版	
1	磁器	碗	(10.8)	5.5	4.2	—	20	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付		
2	磁器	碗	(7.6)	5.9	3.6	—	50	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付		
3	磁器	碗	—	[3.2]	2.9	—	20	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付		
4	磁器	碗	—	[2.5]	(3.0)	—	15	良好	白	肥前系 外面青磁釉 内面施釉・染付		
5	磁器	坏	—	[3.5]	2.6	—	20	良好	灰白	肥前系 内外面施釉 露胎部淡黄褐色		
6	磁器	皿	12.9	3.3	8.9	—	70	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 蛇ノ目凹形高台		
7	磁器	德利	—	[3.7]	(6.4)	—	5	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付		
8	磁器	花生	—	[10.4]	5.0	—	65	良好	白	肥前系 外面青磁釉		
9	陶器	碗	—	[4.3]	—	1K	5	普通	灰	瀬戸美濃系 内外面鉄・灰釉上下掛け分け 外面トビガンナ状押形文		
10	陶器	灯明皿	(10.1)	1.9	(4.2)	1K	25	普通	黄灰	瀬戸美濃系 内外面施釉 体部下位・底部軸抜き取り 内面重使痕		
11	土師質土器	火鉢	17.0	8.5	14.0	AH1	60	普通	灰白	江戸在地系 底部ヘラナデ 内底面円筒状ナデ後に中央ランダムなナデ		
12	瓦質土器	焙烙	—	5.2	—	CHK	5	普通	にぶい橙	底部シワ状痕 体部下位クズリ 被熱・煤付着		
13	土師質土器	焙烙	(33.6)	[5.6]	(32.9)	AK	10	普通	にぶい橙	江戸在地系 砂目底 胎土粉質 体部煤付着		
14	陶器	皿	—	[1.3]	(6.8)	1K	—	普通	灰白	瀬戸美濃系 内面灰釉 円盤状製品転用(底部) 縦3.5cm 横7.6cm		
15	土製品	羽口	長さ[5.9]	卵側内径(1.8)	輪側内径(1.8)	重さ140.2	I	—	普通	にぶい黄橙	やが砂質 外面整形不明	
16	土製品	人形	高さ[6.7]	幅[8.2]	厚さ1.5	重さ76.8	AHK	—	良好	にぶい橙	型成形 開口 外面雲母付着 内面ナデ 胎土小粒φ3～5mm含む 弱く被熱	121-8
17	瓦	軒棧瓦	長さ[3.4]	幅[17.3]	高さ[8.2]	AEX	—	普通	灰白	江戸式 横手 銀化	126-10	
18	木製品	漆椀	口径(10.4)	高さ3.0	底径(5.5)					横木取り 内外面赤漆 口縁・高台縁黒漆		
19	木製品	漆椀	高さ[6.6]							横木取り 内外面赤漆 高台内に黒で文字		
20	木製品	漆椀蓋	つまみ径4.3	口径(8.0)	高さ2.1					横木取り 内面赤漆 外面黒漆 口縁黒漆 外面・つまみ内に金色で文様		
21	木製品	漆椀蓋	高さ[3.0]							横木取り 内面赤漆 外面黒漆 赤漆で家紋 高台内赤で文字 №17		
22	木製品	漆椀蓋	つまみ径4.1	口径11.3	高さ0.2					横木取り 内外面赤漆 高台縁・口縁黒漆 つまみ内黒で家紋 つまみ中央穿孔		
23	木製品	曲物	厚さ1.1	口径11.5						板目 曲物蓋 黒漆で文字「刃」 側面に黒漆 表面と裏面に茶色の塗料		
24	木製品	箱	長さ4.3	幅21.2	厚さ0.6					板目 表面・側面黒漆 裏面赤漆面で波状模様木釘孔10		
25	木製品	不明品	長さ8.8	幅4.4	厚さ0.5					板目 №2	150-12	
26	木製品	不明品	長さ7.9	幅25.4	厚さ0.6					板目 側面木釘穴 表面炭化 №4		
27	木製品	不明品	長さ18.3	幅5.5	厚さ3.0					板目 表面黒書	150-14	
28	木製品	籠箱	長さ31.3	幅(20.5)	厚さ0.6					板目 表面黒漆 木釘残11		
29	木製品	下駄	長さ22.4	幅9.1	高さ3.5					板目 連歯下駄		
30	木製品	下駄	長さ21.6	幅7.6	高さ[4.0]					板目 陰卵下駄		
31	木製品	羽子板状製品	長さ27.2	幅(9.4)	厚さ1.3					板目 表面黒書 炭化 側板転用	150-15	
32	木製品	櫛状製品	長さ103.0	幅8.7	厚さ3.1					板目 柄に紅の痕跡 №15		
33	銅製品	煙管	長さ7.4	火皿径1.5	小口径1.0	重さ9.8				№18 雁首 内部に銅すり残存	133-1	
34	銅製品	煙管	長さ[4.8]	小口径1.0	重さ3.9					雁首		
35	鉄製品	火箸	長さ[21.3]	幅0.4	厚さ0.4	重さ13.1				箸頭環状(欠損) 持ち代に捻りあり	134-1	
36	鉄製品	鋤先	縦[2.6]	横[6.8]	厚さ1.7	重さ32.4						
37	石製品	砥石	長さ9.6	幅6.0	厚さ2.4	重さ234.7				流紋岩 裏・側面幅広い工具痕3 側面ノコギリ痕1 砥面1	140-1	



S K 405 (1~4)・406 (5~7)・407 (8~11)・482 (12~16)・487 (17)

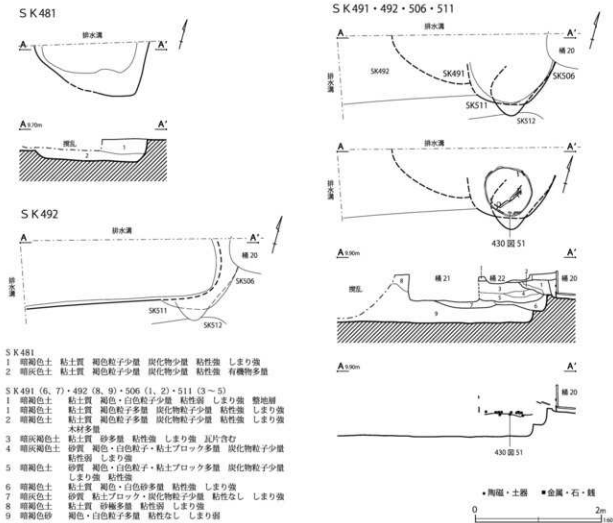
- 1 暗褐色土 粘土質 炭化物少量 褐色・白色粒子少量 しまり強 整地層
- 1 黄褐色土 砂質 しまり弱 炭化物粒子微量
- 2 灰褐色土 砂質 しまりあり 木質が層状に堆積
- 3 褐色土 シルト質 粘性強 しまりあり 木質・木片多量
- 4 灰色土 シルト質 粘性強 しまり弱 木質を含む
- 5 灰褐色土 シルト質 粘性あり しまり弱 木質・炭化物粒子微量
- 6 褐色土 シルト質 粘性強 しまり弱 木質・木片多量
- 7 灰褐色土 シルト質 粘性あり 炭化物粒子微量
- 8 灰褐色土 シルト質 粘性あり しまり弱 含有物なし
- 9 褐色土 粘土質 しまり弱 木質・炭化物粒子多量
- 10 褐色土 粘土質 しまり弱 木質・炭化物粒子を含む  
灰色の粘土ブロックが混入

- 11 暗褐色土 粘土質 炭化物粒子少量 褐色・白色粒子少量 しまり強
- 12 暗褐色土 海産物類出土 粘土質 炭化物粒子少量 褐色・白色粒子少量 しまり弱  
砂粘土ブロック少量
- 13 暗褐色砂 炭化物粒子少量 褐色・白色粒子少量
- 14 灰褐色土 粘土ブロック多量 しまりあり
- 15 灰褐色土 粘土質 炭化物少量 砂粘土ブロック多量 褐色粒子少量  
しまり弱 陶磁器類出土
- 16 暗灰褐色土 炭化物粒子少量 褐色・白色粒子少量 しまり弱 有機物少量
- 17 暗褐色砂 粘土ブロック多量 褐色・白色粒子多量 しまりあり

- 陶磁・土器
- 金属・石・硯
- 木
- 瓦・骨・貝

0 2m  
10m

第419図 区画AA土壌(2)



第420図 区画AA'土壌(3)

と合わせる段が作られる。表表面に茶色の漆、側面には黒漆が塗られ、表面に「可」の文字が書かれる。24は箱の側板で、高さ4.3cmとごく浅い。28は鏡箱で、表面に黒漆が残存する。側板を木釘で留めた痕跡が残る。31は羽子板状の木製品で、端部が斜めに削られていることから、桶側板の転用品と考えられる。32は櫛状木製品である。身の長さ103.0cm、幅8.7cmと小形である。柄に紐の圧痕がみられる。33・34は銅製煙管の雁首である。33の内部には有機質の羅字が遺存する。35は鉄製の火箸である。箭頭は環状で、持ち代には螺旋状に捻りがみられる。36は鉄製の鋤先である。

37は白色の流紋岩製砥石である。左側面にはノコギリ状工具痕がみられ、側面、裏面にはチョウナ状工具と推定される刃幅の広い工具痕がみられる。

**第405号土壌** (第419・421・426・427・428・431・432図)

F7-B6グリッドに位置する。平面形は隅丸長方形で、検出長軸1.95m、短軸0.6m、深さ0.6mを測る。長軸方位はN-77°-Eを指す。北側は調査の際に調査区周囲に廻らせた排水溝により壊されているため、検出されていない。

覆土の下層は木質を多量に含むシルト質土で、上層は砂質土である。中層の木質は層状であ

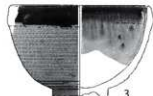
S K 405



1



2



3



4



S K 406

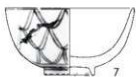


5



6

S K 407



7



8



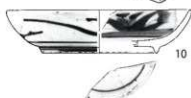
9



10



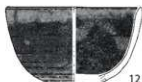
11



12



13



14



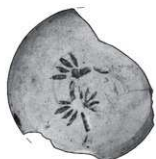
15



16



17



18



19



20



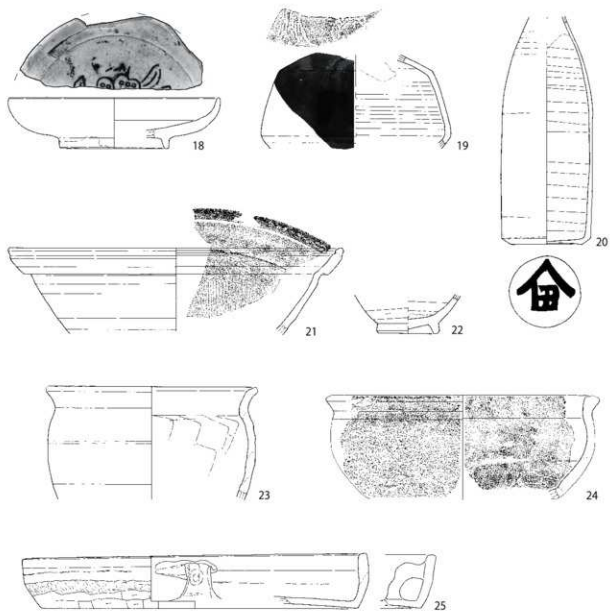
21



第 421 图 区画 AA 土壙出土遺物 (1)



S K 407



S K 481

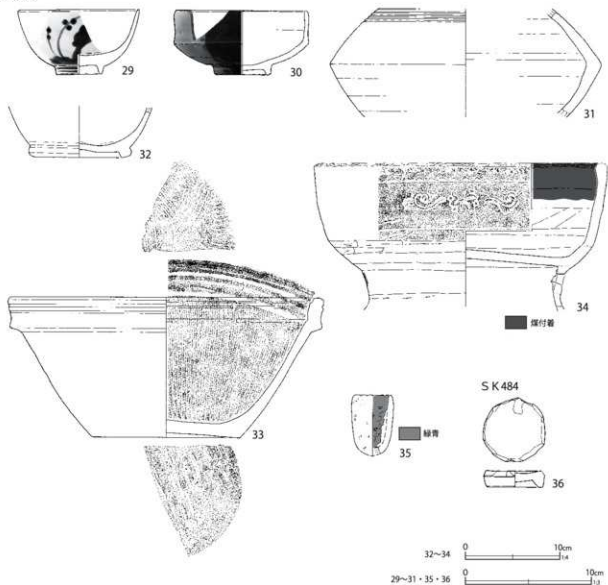


21・23~25 0 10cm 14

18~20・22・26~28 0 10cm 13

第 422 图 区画 AA 土壇出土遺物 (2)

S K 482



第 423 図 区画 AA 土壇出土遺物 (3)

る。遺物は下層を中心に出土している。

遺物は一定量出土しており、陶磁器類は肥前系磁器の小広東碗（第421図1）、瀬戸美濃系陶器の鎧茶碗（同3）が最新期である。推定廃絶期は18世紀後葉である。

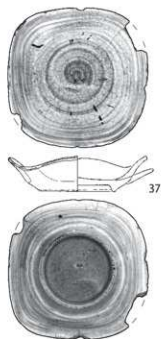
第421図1～4に陶磁器、第426図1に瓦、第427図1に木製品、第428図1・2に金属製品、第431図1に銭貨、第432図1～3に石製品を図示した。

第421図1は肥前系磁器の小広東碗である。2

は波佐見系磁器のくらわんか手碗である。外面に雪輪草花文染付がみられる。3は瀬戸美濃系陶器の鎧茶碗である。丸碗形で、渦巻高台である。外面下位にはトビガンナ状の細かな押形文が施文される。内外面は軸を掛け分けており、上位は漆黒の鉄軸である。4は瀬戸美濃系陶器の柿柚灯明皿である。外面下位から底部にかけて軸が拭き取られている。口唇部と内底面、底部に重ね焼き痕がみられる。

第426図1は江戸式に類似する軒椀瓦である。

S K 485

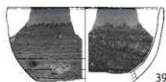


37

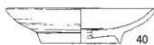
S K 488



38



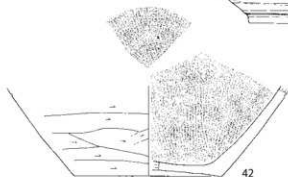
39



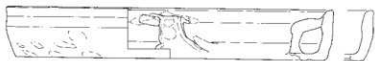
40



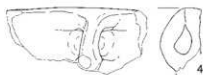
41



42



43



44



45

42・43 0 10cm  
1/437-41・44・45 0 10cm  
1/3

第 424 図 区画 AA 土壌出土遺物 (4)

胎土は砂質である。

第427図1は樽の蓋で、二枚の板を合釘で結合している。焼印「平」がみえる。

第428図1は銅製煙管の雁首、2は鉄製の頭巻釘である。第431図1は銅製の新寛永通寶である。

第432図1・2は多孔質の角閃石安山岩転石製、3は軽石製の磨石である。1は裏面が大きく欠失しているが、僅かに使用痕がみられる。表面は使用痕が著しく認められ、自然面が部分的に遺

存している。2は表裏面を使用面とし、平坦となっている。側面は自然面が遺存している。3は裏面が主要な使用面となっており、断面は凸面状を呈する。内湾しているものに使用した可能性がある。表面は自然面が大きく遺存している。

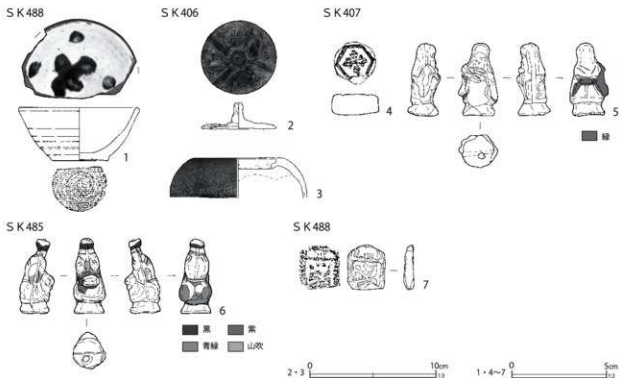
第406・407・482・487・488号土壌 (第419・421~423・425~429・431・432図)

第407・482・487・488号土壌はしまりの強い褐色・白色粒子等を含む整地層の直下から検出された遺構である。第406号土壌はこれより新し

第115表 区画AA土壌出土遺物観察表(1)(第421~424図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	(10.4)	[2.6]	—	5	良好	白	SK405	肥前系 内外面施釉・染付		85-10 87-16
2	磁器	碗	(9.6)	5.0	3.8	—	5	普通	白	SK405	肥前系 内外面施釉 外面染付 №8	
3	陶器	碗	(10.8)	7.3	3.8	EIK	40	良好	灰	SK405	瀬戸美濃系 湯呑高台 外面下位トビガンナ状押形文・施釉 内面灰釉 口縁部鉄輪 №7	
4	陶器	灯明皿	(11.0)	2.0	(5.0)	IK	25	良好	灰白	SK405	瀬戸美濃系 内外面施釉 体部下位・底部軸拭き取り 口唇部・内底面・底部重燒痕	
5	磁器	碗	(11.8)	[4.9]	—	—	5	良好	白	SK406	肥前系 外面青磁釉 内面施釉・染付	
6	陶器	碗	8.9	4.9	3.1	K	55	良好	灰白	SK406	京都信楽系 胎土磁質 内外面施釉 外面鉄絵	
7	磁器	碗	(10.0)	5.3	3.8	—	20	普通	白	SK407	肥前系 内外面施釉 外面染付	
8	磁器	碗	(7.8)	[4.9]	—	—	10	良好	白	SK407	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 焼痕あり	
9	磁器	碗	8.9	4.6	3.3	—	70	普通	白	SK407	瀬戸美濃系 内外面施釉・色絵(赤・黄・緑・黒)	
10	磁器	皿	(14.4)	3.4	(9.0)	—	15	良好	白	SK407	肥前系 内外面施釉・染付	
11	陶器	碗	(8.8)	[5.4]	—	K	20	良好	灰白	SK407	京都信楽系 内外面施釉 外面色絵(赤・緑) 弱く被熱	
12	陶器	碗	(10.4)	[5.9]	—	EIK	20	普通	灰白	SK407	瀬戸美濃系 内外面尾呂輪	
13	陶器	碗	(9.0)	[3.9]	—	K	5	良好	灰白	SK407	瀬戸美濃系 内面灰釉 外面鉄絵軸上下掛け分け	
14	陶器	碗	(9.0)	5.5	3.4	K	10	良好	灰白	SK407	萬古系 内外面施釉 高台内刻印「萬古」	
15	陶器	碗	—	[2.9]	—	—	5	普通	灰	SK407	胎土硬質 内面下位鉄輪 内面上位外面白釉	
16	陶器	皿	—	[1.8]	4.5	K	10	普通	灰白	SK407	肥前系 内外面青磁釉 見込蛇の目輪割	
17	陶器	皿	12.3	2.4	6.7	DIK	70	普通	灰白	SK407	瀬戸美濃系 内外面灰釉 内面摺絵(鉄絵) 強く被熱	
18	陶器	皿	(16.5)	4.0	(8.4)	EK	25	良好	灰白	SK407	瀬戸美濃系 内外面灰釉 内面摺絵(鉄絵)	
19	陶器	土瓶	—	[7.4]	—	EIK	10	良好	にぶい黄	SK407	飯盛焼 外面上位トビガンナ施文 外面黒釉流し掛け 内外面緑黄色系釉	
20	陶器	摺鉢	(35.0)	—	18.0	—	1	普通	にぶい黄	SK407	外面灰釉 底部染書「雷」 内面黒粉着	
21	陶器	摺鉢	(35.0)	—	18.0	—	1	普通	灰白	SK407	瀬戸美濃系 内外面鉄輪 内面標目 14条/単位	
22	陶器	壺焼類	—	[3.1]	4.1	EIK	15	良好	にぶい黄	SK407	外面ケズリ 内面鉄輪	
23	瓦質土器	火消壺	(22.0)	[11.9]	—	CHK	20	普通	灰白	SK407	やや酸化焼成 内面ヘラナデ 被熱(外面剥落) 胎土中心褐灰色	
24	瓦質土器	火鉢	(27.4)	[11.0]	—	CHK	10	普通	にぶい橙	SK407	やや酸化焼成 内面上位煤粉着 被熱(外面・口縁部剥落著しい)	
25	瓦質土器	焙烙	(35.7)	5.6	33.4	CHK	25	普通	灰白	SK407	底部シワ状痕 体部下位強いケズリ・中位シワ状痕残る 爐土内耳2遺存 胎土中心褐灰色 SK488と接合	
26	磁器	碗	8.0	3.7	2.7	—	60	良好	白	SK481	肥前系 内外面施釉・色絵(赤・黒・金)	
27	かわらけ	小皿	(7.4)	1.2	(4.0)	AHK	10	普通	にぶい橙	SK481	江戸在地系 底部糸切痕 胎土粉質 体部二次穿孔1あり	
28	かわらけ	小皿	縦3.9	横4.3	厚さ0.5	AHK	10	普通	にぶい黄	SK481	江戸在地系 底部糸切痕(左)・墨痕 胎土粉質 欠丸部著しく磨耗	
29	磁器	碗	9.4	5.1	3.4	—	60	普通	白	SK482	肥前系 内外面施釉 外面染付	
30	陶器	碗	10.2	5.1	3.8	K	80	良好	灰白	SK482	瀬戸美濃系 内外面施釉・灰釉左右掛け分け	
31	陶器	土瓶	—	[8.6]	—	EK	10	普通	灰白	SK482	京都信楽系 内外面施釉 体部下位被熱(弱く黒化)	
32	陶器	壺	—	[5.5]	9.0	EIK	15	良好	灰白	SK482	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面目跡4	
33	陶器	摺鉢	(32.8)	14.8	(15.6)	EIKM	25	普通	赤褐	SK482	堺明石系 内面標目 底部ヘラナデ	
34	瓦質土器	火鉢	29.6	[15.1]	[20.5]	CHK	95	普通	にぶい橙	SK482	底部シワ状痕 外面中位弱いケズリ やや酸化焼成 外面スタンプ施文・赤彩 高台端部の欠失部を研磨し高台を二次成形する 胎土中心褐灰	
35	土器	埴埴	(2.7)	[4.7]	—	I	45	普通	黄灰	SK482	内外面洋灰付着物 内面緑青付着 重さ18.0g	
36	陶器	碗	—	[1.3]	4.4	EI	—	普通	灰白	SK484	瀬戸美濃系 内面鉄輪 円盤状製品転用(底部) 縦5.1cm 横4.8cm	
37	陶器	皿	10.8	2.8	5.8	K	90	普通	灰白	SK485	瀬戸美濃系 内外面刷毛目 口縁部歪ませる	
38	磁器	碗	(9.8)	[4.8]	—	—	5	良好	白	SK488	肥前系 内外面施釉 外面染付	
39	陶器	碗	(12.1)	[5.8]	—	IK	15	良好	灰白	SK488	瀬戸美濃系 内外面尾呂輪	
40	陶器	皿	(11.5)	2.8	(6.2)	IK	30	良好	灰白	SK488	瀬戸美濃系 内外面灰釉 内面輪状重燒痕 墨粉付着	

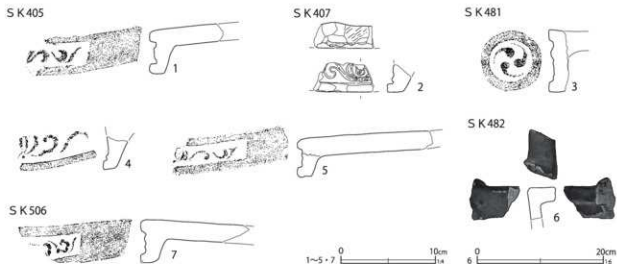
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
41	陶器	皿	(10.6)	2.5	(6.2)	I	30	普通	灰	SK488	瀬戸美濃系 内外面灰釉 被熱(黒化)	
42	陶器	播鉢	—	[9.5]	(15.6)	IL	15	普通	明赤褐	SK488	堺明石系 体部ケズリ 内面播目 胎土に小礫含む	
43	瓦質土器	焙烙	(34.4)	5.3	(32.6)	CIK	15	普通	灰白	SK488	底部シワ状痕 糠す 胎土中心黒色	
44	土師瓦土器	焙烙	—	[5.2]	—	ADEIK	5	普通	灰褐	SK488	外面黒化 胎土中心褐灰	
45	陶器	碗	—	[2.0]	4.8	EIK	—	普通	灰白	SK488	瀬戸美濃系 内外面鉄釉 円盤状製品転用(底部) 縦5.2cm 横5.1cm	



第 425 図 区画 AA 土壌出土遺物 (5)

第 116 表 区画 AA 土壌出土遺物観察表 (2) (第 425 図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	土製品	ミニチュア	口径 6.4 底径 3.0		器高 2.8	15.8	AIK	良好	橙	SK488	江戸在地系 鉢 底部離し系切痕(左) 内外面施釉 内面白化粧・緑軸彩色	
2	陶器	玩具類	—	2.1	5.9	23.0	—	良好	灰白	SK406	京都系 袖子でんぼ 3の蓋 型成形 上・下面黄色釉 薬部分緑釉 底部ピン痕 3 No.2	
3	陶器	玩具類	(6.2)	[3.2]	—	51.7	A	普通	灰白	SK406	京都系 袖子でんぼ 2の身 型成形 内外面黄色釉 被熱(一部黒化)	
4	土製品	泥面子	径 2.5		1.1	7.4	AHK	良好	橙	SK407	江戸在地系 一枚型成形 雲母付着	122-12
5	土製品	人形	高さ 3.8	2.1	1.7	7.4	AK	良好	にがい黄褐	SK407	前後合二枚型成形 中実 彩色(緑)	
6	土製品	人形	高さ 3.9	1.7	1.9	8.7	AK	普通	にがい黄褐	SK485	前後合二枚型成形 中実 彩色(黒・黄・緑) 獅子舞カ	121-9
7	土製品	芥子面	2.3	2.0	0.5	2.3	AK	普通	橙	SK488	江戸在地系 一枚型成形	121-10



第426図 区画AA土壌出土遺物(6)

第117表 区画AA土壌出土遺物観察表(3)(第426図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	径	胎土	地成	色調	遺構	備考	図版
1	瓦	軒棧瓦	[7.8]	[12.2]	1.9	[6.3]	—	GIK	普通	灰白	SK405	江戸式か胎土砂質 燻す	
2	瓦	軒棧瓦	[2.7]	[6.4]	—	[3.0]	—	AIK	普通	灰白	SK407	江戸式 燻す 欠失部二次利用 被熱(欠失部煤付着)	126-12
3	瓦	軒棧瓦	[2.3]	[6.7]	—	[6.6]	—	EIK	普通	灰白	SK481	右巻三巴文 燻す 弱く銀化	
4	瓦	軒棧瓦	—	[9.3]	[2.6]	[4.1]	—	ACIK	普通	灰白	SK481	燻す 雲母付着	
5	瓦	軒棧瓦	[15.4]	[13.2]	2.0	[6.5]	—	AIK	灰白	灰白	SK481	江戸式 燻す 雲母付着	
6	瓦	鬼瓦	[6.8]	[8.2]	—	[5.4]	—	AIK	普通	灰	SK482	燻す 強く銀化	
7	瓦	軒棧瓦	[11.5]	[12.4]	2.0	[5.8]	—	AEIK	普通	灰白	SK506	燻す 雲母付着	126-13

いが、整地層は削平されてしまっており、整地層との新旧関係は不明である。遺構の基本的な情報は第113表を参照されたい。

整地層は標高9.6m前後で検出されており、基本土層西壁(第5～7図)の区画AA付近にみられる第IXa層と同一標高である。基本土層の第V層最下部が天明三年(1783)浅間山噴火時の生活面であることから、第407・482・487・488号土壌は天明三年以前の遺構と言える。

第407号土壌は19世紀後半の遺物が多量に混入しているが、混入遺物を除くと、波佐見系磁器のくらわんか手碗や瀬戸美濃系陶器のせんじ碗がみられ18世紀中葉頃の陶磁器組成を示す。

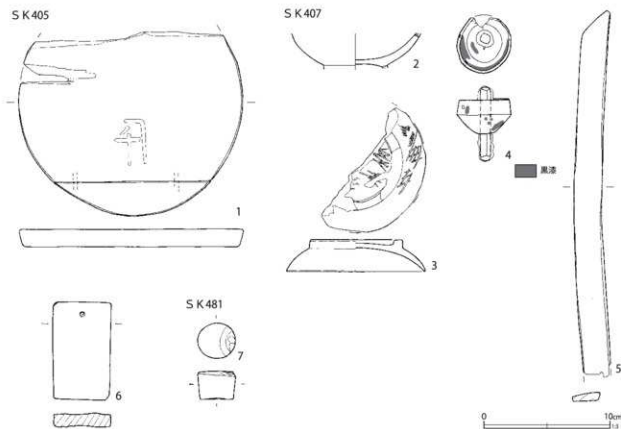
第482号土壌も同様に19世紀中葉以降の混入遺物が多数みられる。混入遺物を除くと、波佐見系磁器のくらわんか手碗を主体に、肥前系磁器の筒

形碗、瀬戸美濃系陶器のせんじ碗を最新とする18世紀中葉頃の陶磁器類で占められる。重複関係、遺物は共に第407号土壌より新しい。

第488号土壌は第482号土壌より古い。陶磁器は一定量出土し、波佐見系磁器のくらわんか手碗、瀬戸美濃系陶器の尾呂茶碗等、18世紀前半の遺物で占められる。トビガンナ施文の行平鍋は混入である。

第487号土壌は重複土壌の中で最も古い。出土遺物は極めて少ないが、瀬戸美濃系陶器の腰錠碗が出土している。

第406号土壌は重複土壌の中で最も新しく、陶磁器は少量出土している。肥前系磁器の外面青磁釉で朝顔形に開口する碗や筒形碗、瀬戸美濃系陶器の柿軸灯明皿がみられる。陶磁器の様相は天明三年以前の18世紀後葉に比定される。



第427図 区画AA土壌出土遺物(7)

第118表 区画AA土壌出土遺物観察表(4)(第427図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	木取り	遺構	備考	図版
1	木製品	樽	-	-	1.4	17.7	-	-	板目	SK405	蓋 2枚結合 焼印 No.7・13	
2	木製品	漆桶	-	-	-	-	[2.8]	-	横木取り	SK407	内面赤漆 外面黒漆	
3	木製品	漆桶蓋	つまみ径(7.1)		-	(10.9)	2.5	-	横木取り	SK407	内面赤漆 外面黒漆 つまみ縁・口縁黒漆 外面・つまみ内に金で文様	
4	木製品	漆桶	-	-	-	4.4	5.9	-	芯持材	SK407	鉄製軸 側面木釘2 黒漆で文様 黒漆残	
5	木製品	木太刀	[28.9]	2.3	0.6	-	-	-	板目	SK407		
6	木製品	木札	7.7	4.6	1.1	-	-	-	板目	SK407	表面面黒書	151-2
7	木製品	木栓	-	-	-	3.0	2.2	-	板目	SK481	焼印	

整地層は先に述べた第405号土壌と共に、第406号土壌まで覆っていた可能性が高い。

以上の土壌の他にも特徴的な遺物が出土しているため、以下に記述する。

第421図12、第424図39は瀬戸美濃系陶器の尾呂茶碗である。内外面に尾呂軸が施軸される。栗橋宿では出土例が少ないが、18世紀前半の遺構が多い第8地点では一定量の出土がある。

第421図14は萬古系陶器の碗である。高台内に刻印「萬古」がみえる。栗橋宿で出土する萬古系陶器は急須がほとんどであり、碗は初出である。京都信楽系陶器に類似するような胎質、釉調である。口縁端部は内面側に尖るような形状である。

第422図19は箱形を呈する器形の土瓶で、胎土、釉調、施文方法から19世紀に埼玉県飯能市で生産された飯能焼と考えられる。

SK 405



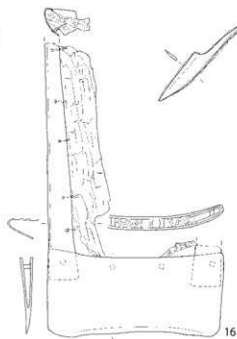
SK 407



SK 481



SK 482



4.5

5cm

1.2-6~18

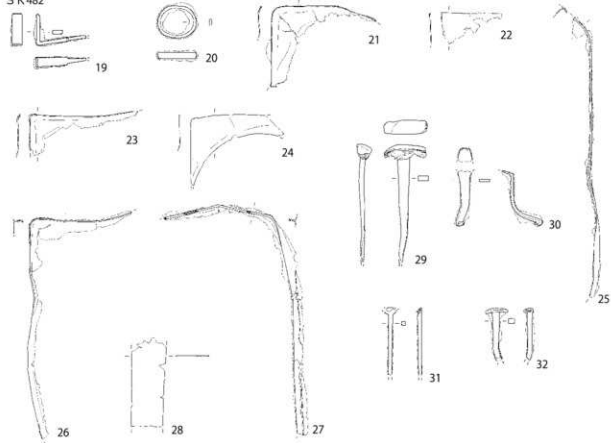
0 3 5cm

10mm

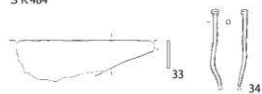
第 428 图 区画 AA 土坑出土遗物 (8)



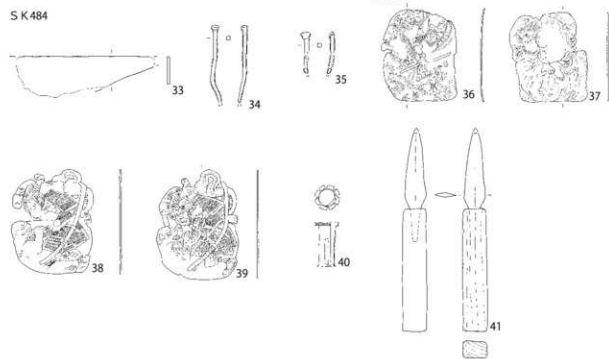
S K 482



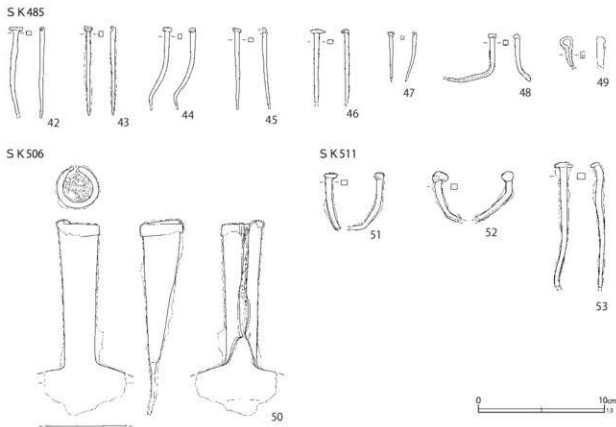
S K 484



S K 485



第 429 图 区画 AA 土坑出土遗物 (9)



第430図 区画AA土壌出土遺物(10)

第407号土壌で出土した19世紀後半の混入遺物群に伴うと考えられる。

外面上位にトビガンナ施文が施され、垂れ流れている軸の間からみえる。トビガンナ施文の土瓶は、飯能焼原窯（『飯能の遺跡(35)』飯能市2007）に出土事例があり、原窯では鍋以外にトビガンナ施文製品の出土量が非常に少ない。

内外面に緑褐色系釉が施軸され、外面の釉調は飯能焼「黒色系」（飯能市1999）である。鉄分が豊富にぶい赤褐色の胎土の影響により、ほぼ黒釉に発色している。釉を垂れ流す手法は原窯では稀である。

20は産地不詳陶器の爛徳利で、底部に墨書「畚」がみえる。第8地点で多くみられる屋号である。

第423図34は瓦質土器の脚付火鉢である。やや酸化焙焼成で、表面は橙色気味である。輪高台状

の脚部は高く、下位に段が付くと推定される。外面中位には草花スタンプ文、上位に波状文が施文される。栗橋宿では稀な文様である。

35は砲弾形を呈する土製増場である。内面に緑青が付着している。第8地点では他地点より多くの増場が出土しており、銅製品の生産が行われていたことが示唆される。

第425図2・3は京都系陶器の柚子でんぼの蓋と身である。型成形で、微細な凹凸の柚子肌が表現されている。黄色釉が施軸され、蓋の葉は緑釉が施軸される。

第432図8は白色の流紋岩製砥石である。裏面に段が付くノコギリ状工具痕が遺存する。段には工具よる削り痕がみられる。表面にもノコギリ状工具痕が遺存するが砥面であるため、大部分が消えている。側面には刃幅の広い工具痕が遺存する。また、左側面には溝状の使用痕がみられる。

第119表 区画AA土壌出土遺物観察表(5)(第428~430図)

番号	種別	器種	法量	遺構名	備考	図版
1	銅製品	煙管	長さ4.1 火皿径1.8×1.5 小口径1.0 重さ3.8	SK405	雁首	
2	鉄製品	釘	長さ[4.3] 幅0.4 厚さ0.4 重さ3.3	SK405		
3	銅製品	簪	長さ[13.5] 幅0.5 厚さ0.3 重さ7.3	SK407	飾欠失 草花文彫刻	136-1
4	鉛製品	鉛面子	縦4.4 横3.4 厚さ0.03 重さ5.3	SK407	武者(弁慶カ) 赤彩あり	135-5
5	鉛製品	鉛面子	縦4.6 横3.7 厚さ0.03 重さ9.0	SK407	渡辺綱(鬼沼治) 白彩あり	135-5
6	銅製品	針金	縦7.7 横5.3 厚さ0.1 重さ1.1	SK407		
7	鉄製品	鎌	長さ[7.1] 幅1.8 厚さ0.3 重さ16.8	SK407	鎌尻部のみ 柄の木質付着	
8	鉄製品	火箸	長さ35.6 厚さ0.5 重さ46.4	SK407	箸頭僅状 使い代角状	134-1
9	鉄製品	包丁	長さ[21.7] 刃長[13.1] 刃幅3.4 背幅0.2 重さ48.2	SK407	刃先欠損	134-1
10	鉄製品	環金具	径5.5×4.5 厚さ0.4 重さ15.9	SK407		
11	鉄製品	釘	長さ[5.3] 幅0.3 厚さ0.4 重さ4.0	SK407		
12	鉄製品	釘	長さ[5.3] 幅0.3 厚さ0.3 重さ3.2	SK407		
13	鉄製品	環釘	長さ5.2 幅0.6 厚さ0.2 重さ8.3	SK407		
14	鉄製品	釘	長さ[2.5] 幅0.2 厚さ0.2 重さ0.9	SK407		
15	銅製品	煙管	長さ2.9 火皿径1.4 小口径0.8 重さ2.9	SK481	雁首 火皿欠損	133-1
16	鉄製品	鋤先	長さ[23.3] 刃幅14.0 重さ225.1	SK482	木柄残存 側縁補強	134-1
17	鉄製品	掘鉄	長さ24.7 刃幅1.2 背幅0.2 重さ34.0	SK482	大きく変形	134-1
18	鉄製品	鎌	長さ[13.7] 刃長[6.6] 刃幅5.0 背幅0.3 重さ71.7	SK482	刃部2/3欠損	
19	鉄製品	環受金具	縦2.5 横[4.0] 幅0.8 厚さ0.3 重さ7.5	SK482		
20	鉄製品	環金具	縦2.5 横3.0 幅0.5 厚さ0.2 重さ6.7	SK482		
21	鉄製品	不明	縦[6.4] 横[8.5] 厚さ0.1 重さ10.8	SK482	縁部折返して連結	
22	鉄製品	不明	縦[2.5] 横[4.8] 厚さ0.1 重さ1.4	SK482	縁部折返して連結	
23	鉄製品	不明	縦[3.5] 横[8.7] 厚さ0.1 重さ5.3	SK482	縁部折返して連結	
24	鉄製品	不明	縦[5.6] 横[7.4] 厚さ0.1 重さ3.6	SK482		
25	鉄製品	不明	縦[21.3] 横[2.3] 厚さ0.1 重さ13.9	SK482	縁部折返して連結	
26	鉄製品	不明	縦[18.1] 横[8.4] 厚さ0.1 重さ12.1	SK482	縁部折返して連結	
27	鉄製品	不明	縦[16.9] 横[14.6] 厚さ0.1 重さ21.9	SK482	縁部折返して連結 以上同一具カ	
28	鉄製品	不明	縦[7.1] 横2.8 厚さ0.1 重さ3.0	SK482		
29	鉄製品	釘	長さ[9.3] 幅0.8 厚さ0.4 重さ16.8	SK482	木質付着	
30	鉄製品	釘	長さ[4.4] 幅0.8 厚さ0.2 重さ6.9	SK482		
31	鉄製品	釘	長さ[5.4] 幅0.3 厚さ0.3 重さ2.4	SK482		
32	鉄製品	釘	長さ[4.2] 幅0.5 厚さ0.4 重さ5.5	SK482		
33	鉄製品	不明	長さ[11.0] 幅[3.3] 厚さ0.2 重さ25.3	SK484		
34	鉄製品	釘	長さ[6.2] 幅0.3 厚さ0.3 重さ2.9	SK484		
35	鉄製品	釘	長さ[3.3] 幅0.3 厚さ0.3 重さ1.2	SK484		
36	鉛製品	鉛面子	縦3.7 横3.0 厚さ0.03 重さ4.2	SK485	武者 赤彩あり	135-6
37	鉛製品	鉛面子	縦3.5 横3.1 厚さ0.04 重さ3.6	SK485	加藤清正(虎狩)カ	135-6
38	鉛製品	鉛面子	縦4.2 横3.2 厚さ0.03 重さ6.4	SK485	加藤清正(虎狩) 赤白彩あり	135-6
39	鉛製品	鉛面子	縦4.4 横3.3 厚さ0.05 重さ6.0	SK485	加藤清正(虎狩) 赤彩あり	135-6
40	銅製品	不明	径1.9 高さ3.5 厚さ0.1 重さ6.9	SK485		
41	鉄製品	槍鉋カ	長さ[15.7] 刃長[5.3] 刃幅1.7 厚さ0.3 重さ35.5	SK485	木柄付き	
42	鉄製品	釘	長さ[7.0] 幅0.4 厚さ0.3 重さ3.6	SK485		
43	鉄製品	釘	長さ7.1 幅0.3 厚さ0.4 重さ4.1	SK485		
44	鉄製品	釘	長さ[6.3] 幅0.3 厚さ0.4 重さ3.1	SK485		
45	鉄製品	釘	長さ[6.3] 幅0.4 厚さ0.3 重さ2.6	SK485		
46	鉄製品	釘	長さ[5.8] 幅0.4 厚さ0.3 重さ3.8	SK485		
47	鉄製品	釘	長さ[3.7] 幅0.2 厚さ0.3 重さ1.0	SK485		
48	鉄製品	釘	長さ[3.8] 幅0.4 厚さ0.4 重さ3.1	SK485		
49	鉄製品	環釘	長さ[2.4] 幅0.15 厚さ0.5 重さ2.0	SK485		
50	鉄製品	十能	長さ[15.5] 幅[6.5] 厚さ0.2 重さ126.8	SK506	柄部 内部に木質残存	135-3

番号	種別	器種	法量	遺構名	備考	図版
51	鉄製品	釘	長さ [4.5] 幅 0.5 厚さ 0.4 重さ 6.2	SK511	No.3	
52	鉄製品	釘	長さ [4.0] 幅 0.5 厚さ 0.4 重さ 5.0	SK511	No.1	
53	鉄製品	釘	長さ [10.0] 幅 0.6 厚さ 0.5 重さ 12.0	SK511	No.5	

SK 405

SK 407

SK 488



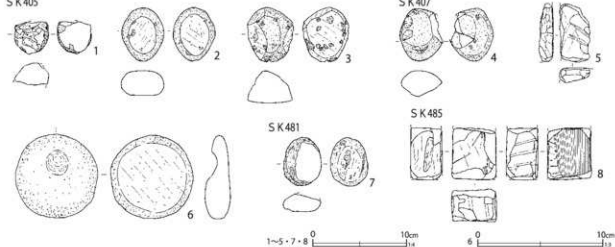
第 431 図 区画 AA 土壌出土遺物 (11)

第 120 表 区画 AA 土壌出土遺物観察表 (6) (第 431 図)

番号	種別	器種	法量	遺構名	備考	図版
1	銅製品	銭貨	径 23.5 厚さ 0.9 重さ 2.3	SK 405	寛永通寶 (新)	
2	銅製品	銭貨	径 22.6 厚さ 0.9 重さ 2.2	SK 407	寛永通寶 (新)	
3	銅製品	銭貨	径 26.9 厚さ 1.1 重さ 3.4	SK 407	文久永寶	
4	銅製品	銭貨	径 24.3 厚さ 1.1 重さ 2.8	SK 488	寛永通寶 (古)	

SK 405

SK 407



第 432 図 区画 AA 土壌出土遺物 (12)

第 121 表 区画 AA 土壌出土遺物観察表 (7) (第 432 図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	図版
1	石製品	磨石	[3.4]	3.6	[2.3]	11.7	角閃石安山岩	SK 405	多孔質 自然面遺存 使用面 2	
2	石製品	磨石	5.7	4.5	2.6	44.9	角閃石安山岩	SK 405	多孔質 自然面遺存 使用面 2	141-1
3	石製品	磨石	5.8	4.9	3.3	23.6	軽石	SK 405	自然面遺存 使用面 3	141-1
4	石製品	磨石	5.6	4.5	2.8	33.8	角閃石安山岩	SK 407	多孔質 自然面遺存 削痕あり 刃物傷跡多数	
5	石製品	切石材	[9.4]	[4.9]	[2.4]	102.1	凝灰岩	SK 407	上面ツルハシ状工具痕 側面削痕	
6	石製品	凹石	6.7	6.6	2.0	122.8	安山岩	SK 407	表面凹み 1 裏面削痕	
7	石製品	磨石	5.1	4.0	1.8	23.0	角閃石安山岩	SK 481	多孔質 自然面遺存 使用面 1	
8	石製品	砥石	[5.5]	4.8	3.5	165.3	流紋岩	SK 485	表裏面ノコギリ痕 2 側面幅広工具痕 2 (1 箇所被熱剥落著しい) 側面溝状使用痕 裏面削痕 砥面 2	

## ②区画ABの土壌 (第433～482図)

区画ABは『絵図』にみえる「青物屋/要右衛門」の区画で、36基の土壌が検出された。

調査区西部に中・小型の土壌が密集し、中央、東部には3基の大型土壌が分布する。平面が隅丸長方形を呈するものが多く、長軸方向は日光道中に直交・平行の2種がみられる。

第122表に位置・規模等の基本的な情報を示した。

本区画で抽出した土壌は、第335・343・368号

土壌で、先行して第433・434図に遺構図、第435～455図に遺物図を図示した。

非抽出となった土壌は、第456～461図に遺構図、第462～482図に遺物図を示し、特徴的な土壌・遺物について記述した。

## 第335号土壌 (第433・435・436図)

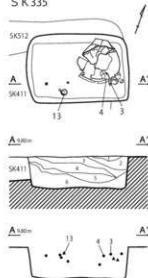
F7-B5・6グリッドに位置する。第411号土壌より新しく、第512号土壌と重複する。平面形は隅丸長方形で、長軸1.6m、短軸1.1m、深さ0.5mを測る。長軸方位はN-70°-Eを指

第122表 第二区画AB土壌一覧表

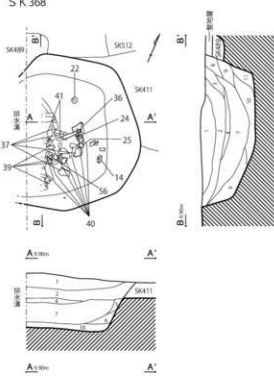
単位: m

番号	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	方位	備考	種別
332	F7-C5・6	隅丸長方形	1.80	1.36	0.35	N-17°-W	SK345・372・404と重複	456
333	F7-C6	不整形	1.52	1.32	0.35	N-18°-W	SK345・404・P22より新	456
334	F7-B・C5・6	長楕円形	1.62	0.75	0.15	N-15°-W		456
335	F7-B5・6	隅丸長方形	1.6	1.10	0.50	N-70°-E	SK411より新 SK512と重複	433
336	F7-B5・6	長楕円形	2.43	1.00	0.15	N-73°-E		456
337	F7-B・C6	隅丸長方形	0.80	0.60	0.15	N-13°-W		456
338	F7-B6	隅丸長方形	1.60	0.57	0.10	N-15°-W	SK458より新	456
339	F7-B7	不明	0.85	0.70	0.15	N-46°-E	SK340より古	456
340	F7-B7	不整形	0.70	0.70	0.15	N-88°-E	SK339・341より新	456
341	F7-B7	不明	(0.80)	0.70	0.10	N-15°-W	SK340より古	456
343	F7-B7	隅丸長方形	5.65	4.00	0.45	N-20°-W	SK476より新 SD13と重複	433
345	F7-C5・6	楕円形	1.70	1.05	0.30	N-87°-E	SK333・404より古 SK332と重複	456
346	F7-B6・7	隅丸長方形	1.95	0.90	0.50	N-10°-W	SK347より新	459
347	F7-B6	隅丸長方形	2.20	1.60	0.20	N-40°-W	SK346より古	459
349	F7-B6	円形	0.60	0.55	0.13	N-30°-E	SK350より新	459
350	F7-B6	楕円形	0.75	0.60	0.13	N-55°-W	SK349より古	459
351	F7-C6	隅丸長方形	1.10	0.70	0.32	N-70°-E	SD13より新 SK365・SE6と重複	459
352	F7-B6	不整形	2.40	1.15	0.15	N-65°-E	SK359・458より新 SK384と重複	459
355	F7-B・C6	不整形	1.05	0.95	0.13	N-7°-E	SK365・383・458・SE6より新	459
359	F7-B6	不明	1.15	(0.85)	0.10	N-65°-E	SK352より古 SK458より新	459
365	F7-C6	楕円形	(2.30)	1.90	0.20	N-65°-E	SK355より古 SK458・SE6より新 SK351と重複	459
367	F7-B6	隅丸長方形	0.90	0.35	0.05	N-65°-E		459
368	F7-B・C5	不明	2.50	(1.80)	0.85	N-28°-W	SK411・489より新	433
372	F7-C5	不整形	1.15	(0.65)	0.30	N-8°-W	SK332と重複	459
378	F7-B7	不整形	1.40	0.40	0.10	N-82°-E		460
383	F7-B・C6	隅丸長方形	(1.80)	0.90	0.25	N-70°-E	SK355より古 SK384・458より新	459
384	F7-B6	円形	1.05		0.15	N-68°-E	SK383より古 SK458より新 SK352と重複	459
404	F7-C5・6	円形	[0.60]	(0.45)	0.25	-	SK333より古 SK345より新 SK332と重複	460
411	F7-B・C5	不明	(2.30)	(1.05)	0.30	N-65°-E	SK335・368より古 SK512と重複	460
442	F7-C6	不整形	0.50	0.40	0.15	N-62°-E		460
458	F7-B・C6	長方形	5.50	3.50	0.80	N-73°-E	SK338・352・355・359・383・384・365・SE6より古	460
476	F7-B7	隅丸長方形	2.90	2.00	0.90	N-25°-W	SK343より古 SK477と重複	460
477	F7-B7・8	隅丸長方形	(4.95)	2.30	0.09	N-20°-W	SK476と重複	461
486	F7-B6	楕円形	0.60	0.45	0.20	N-20°-W		461
489	F7-B5	不明	(0.60)	(0.30)	0.30	N-20°-W	SK368より古	461
512	F7-B5	不明	1.95	(0.50)	0.40	N-68°-E	SK335・411・506・SD14と重複	461

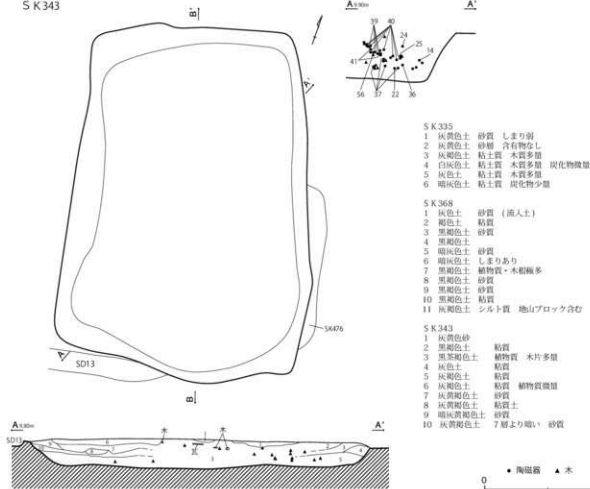
S K 335



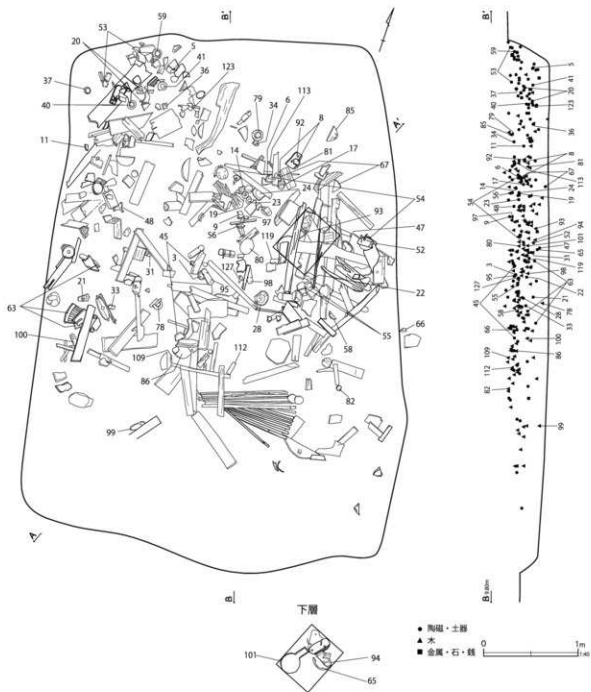
S K 368



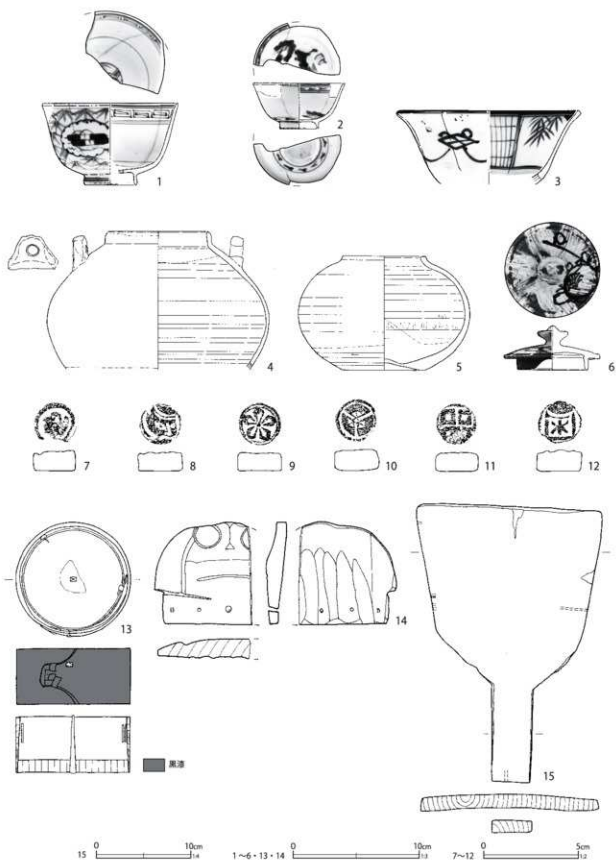
S K 343



第 433 図 区画 AB 土壌 (1)

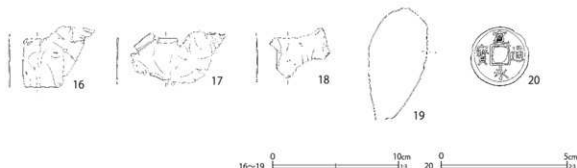


第 434 图 第 343 号土壙遺物出土状况



第 435 图 第 335 号土壙出土遗物 (1)





第436図 第335号土坑出土遺物(2)

第123表 第335号土坑出土遺物観察表(第435・436図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	磁器	碗	(10.6)	6.5	(4.0)	—	25	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
2	磁器	坏	(7.2)	3.6	(3.0)	K	40	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
3	磁器	鉢	(14.2)	[5.8]	—	—	40	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 欠失部漆継痕 No.1	
4	陶器	土瓶	(7.8)	[10.9]	—	K	30	普通	灰白	外面青緑釉 No.2	
5	陶器	土瓶	(5.8)	9.0	(6.6)	IK	45	普通	にぶい橙	外面鉄釉 底部・外面下位煤付着	
6	陶器	蓋	—	3.5	5.5	EIK	95	良好	灰黄褐	上面施釉・白土刷毛塗状・鉄絵 最大径7.7cm	
7	土製品	泥面子	径2.2	厚さ1.1	重さ6.1	AHK	—	普通	橙	江戸在地系 型成形 雲母付着 被熱	122-12
8	土製品	泥面子	径2.3	厚さ1.0	重さ6.4	AK	—	普通	橙	江戸在地系 型成形 雲母付着 弱く被熱 No.7	122-12
9	土製品	泥面子	径2.3	厚さ0.9	重さ6.5	AIK	—	良好	明赤褐	江戸在地系 型成形 雲母付着 No.8	122-12
10	土製品	泥面子	径2.3	厚さ1.1	重さ7.2	AHK	—	普通	にぶい橙	江戸在地系 型成形 雲母付着	122-12
11	土製品	泥面子	径2.3	厚さ1.0	重さ6.4	AHK	—	普通	にぶい橙	型成形 胎土黒色粒子多量	122-12
12	土製品	泥面子	径2.4	厚さ1.1	重さ7.2	AHK	—	良好	橙	江戸在地系 型成形 雲母付着	122-12
13	木製品	提灯	口径9.0	高さ4.4						経目 側板二重 側板外面・底板外面黒漆 鉄芯残存 鉄釘3 No.6	
14	木製品	獅子頭	長さ8.1	幅[7.7]	厚さ1.4					板目 裏面赤色塗料 金属1 孔3	
15	木製品	不明品	長さ29.6	幅18.6	厚さ1.4					板目 孔2 鉄釘残4 木釘残1	
16	銅製品	不明	縦[4.9]	横[5.8]	厚さ0.03	重さ2.1				薄板	
17	銅製品	不明	縦[4.4]	横[7.5]	厚さ0.03	重さ2.5				薄板	
18	銅製品	不明	縦[4.4]	横[4.7]	厚さ0.03	重さ1.2				薄板 以上同一個体	
19	銅製品	針金	縦8.9	横4.7	厚さ0.08	重さ0.8					
20	鉄製品	銭貨	径23.2	厚さ1.5	重さ2.5					寛永通寶(新)	

す。

覆土の大部分は、粘土質で多量の木質が含まれている。上層は一部が砂と砂質土に覆われている。

出土遺物は多量で、陶磁器は瀬戸美濃系磁器の端反形碗、肥前系磁器の八角鉢、陶器の青土瓶が最新である。推定廃絶期は19世紀中葉である。

第435・436図に出土遺物を図示した。第435図1は瀬戸美濃系磁器の端反形碗である。薄手で、口縁部の反りは弱い。2は瀬戸美濃系磁器の端反形坏である。3は肥前系磁器の八角鉢である。欠

失部に漆状の付着物がみられる。

4は産地不詳陶器の青土瓶である。外面に青緑釉が施釉され、把手は型成形である。5は産地不詳陶器の鉄釉土瓶である。外面に鉄釉が施釉される。露胎部には使用痕と考えられる煤が付着する。

7～12は江戸在地系の泥面子である。多くは型成形時に雕刻の役割を果たす雲母が付着する。モチーフは多様である。

13は木製の提灯で、側・底板の外面に黒漆が塗布されている。内面中央に先端が尖る鉄芯が遺

存している。側板は二重となっており、丈夫な作りである。15は木製の不明品である。鉄釘が4箇所、木釘1箇所遺存している。

第436図16～18は薄板状銅製品、19は銅製針金、20は鉄製の新寛永通寶である。

#### 第343号土壙 (第433・434・437～448図)

F7-B7グリッドに位置し、第476号土壙より新しく、第13号溝跡と重複する。平面形は隅丸長方形で、長軸5.65m、短軸4.0m、深さ0.45mを測る大型の土壙である。長軸方位はN-20°-Wを指す。

覆土は粘質土を主体とし、木片等の有機物が多量に含まれている。出土遺物は遺構の中層を中心に出土している。土層は多量の出土遺物があったため、中央部の分層を行うことができなかった。

出土遺物は極めて多い。陶磁器は湯呑形碗を主体とし、瀬戸美濃系磁器の小碗(第437図13・14)と卵殻手坏(同15)を組成する。碗、皿、鉢、土瓶が多いが、セットになる同文製品はみられない。

灯明皿は瀬戸美濃系と京都信楽系が同程度の出土量である。最新期の陶磁器は、瀬戸美濃系磁器の江戸絵付け卵殻手坏、三田系青磁鉢(第440図31)である。非掲載遺物の酸化コバルト染付筒形坏は混入である。推定廃絶期は19世紀中葉の中でも新しい段階、具体的には1850～1860年代頃であろう。

第437～448図に出土遺物を図示した。第437図2・3は肥前系、4は瀬戸美濃系磁器の端反形碗である。5～12は瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗である。7・8・10は外面に陰刻文染付がみられる。12は内面に透明釉、外面に瑠璃釉が施軸される。13・14は瀬戸美濃系磁器の小碗である。13は内外面に染付がみられる。14は高台が高い。15は瀬戸美濃系磁器の卵殻手坏である。輪高台で、内面に江戸絵付けで文字「魚忠」、「命」、「魚屋」がみえる。

第439図25～27は肥前系磁器の中皿である。いずれも浅手で、口縁部が反る。25は内面に墨弾き染付がみられる。

28～30は肥前系磁器の八角鉢である。いずれも底部は蛇ノ目凹形高台で、28・30は同文である。

第440図31は兵庫県三田市で生産された三田焼青磁の八角鉢である。型成形で、内面は陽刻文、高台は貼り付けである。三田市の三輪明神窯跡では型が出土しており、31と同文の型は内型A-1類八角形(三田市1999)である。

39は大堀相馬系陶器の灯明皿である。外面上位から内面にかけて褐釉気味の鉄釉が施軸される。

40～42は瀬戸美濃系陶器の柿釉油受皿である。外面下位から底部にかけて釉が拭き取られている。40・41の外面に輪軸重ね焼き痕がみられる。受け口の切込み形状は、40・41が「U」字状、42は角形を呈する。43・44は京都信楽系陶器で、43は油受皿、44は灯火具である。43は被熱し、煤が付着する。

第441図48は備前系陶器の徳利である。胎土器質で、外面に赤目がみられる。

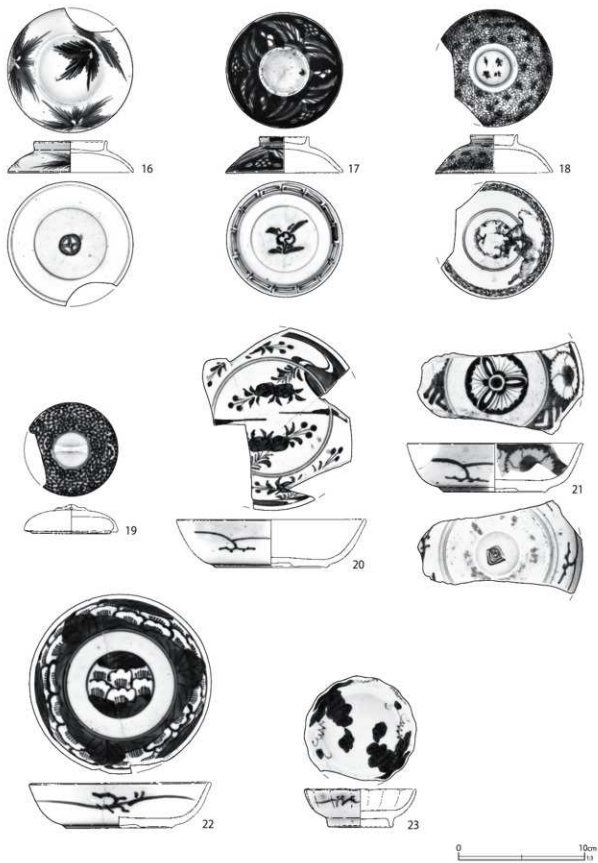
53～55は現在の茨城県域で19世紀前半の短い期間に生産された松岡系陶器の土瓶である。大堀相馬系陶器と同様に、栗橋宿では19世紀前・中葉頃の遺構から一定量出土する。胎土は粗密のザラメ状で、外面に海鼠釉が施軸される。55は瓜形を呈する。53は外面上位に段が付く。なお、挿図では接点のない3片から図上復元した。把手は型成形で、54は角形、55は山形を呈する。

第442図56・57は松岡系土瓶の蓋である。胎土は粗密なザラメ状で、上面に海鼠釉が施軸される。56のつまみは菊花状である。

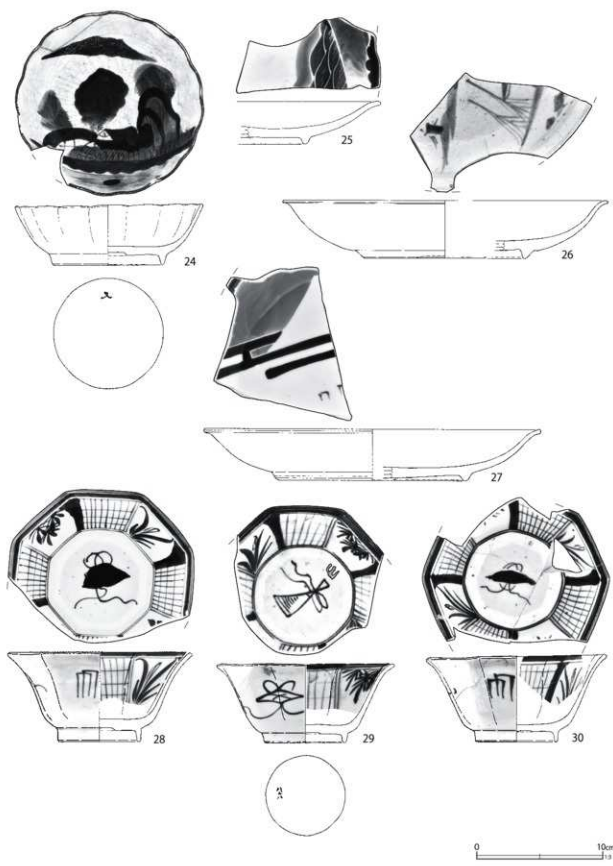
59は上面に貫入がみられる糠白釉が施軸されている土瓶の蓋で、大堀相馬系陶器の可能性が考えられる。つまみは菊花状である。



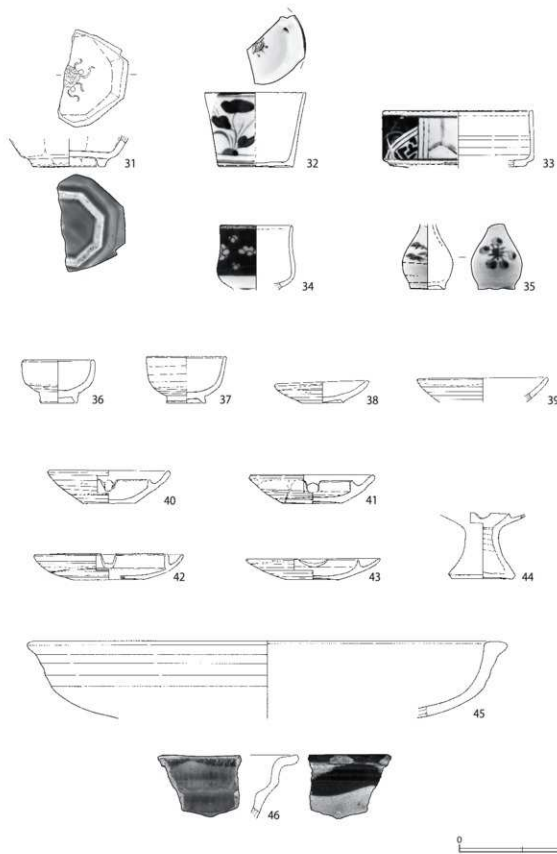
第 437 图 第 343 号土坑出土遗物 (1)



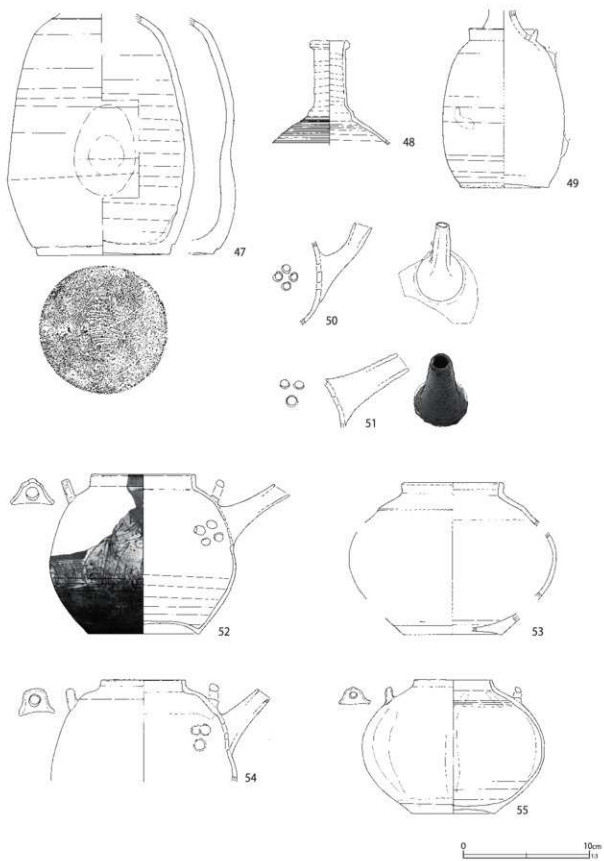
第438图 第343号土坑出土遗物(2)



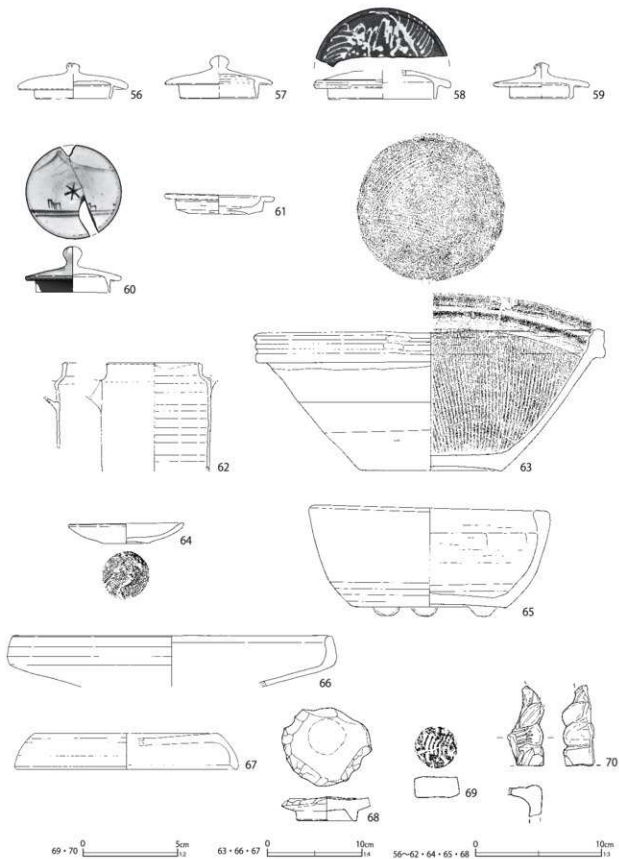
第 439 图 第 343 号土城出土文物 (3)



第440图 第343号土壙出土遗物(4)

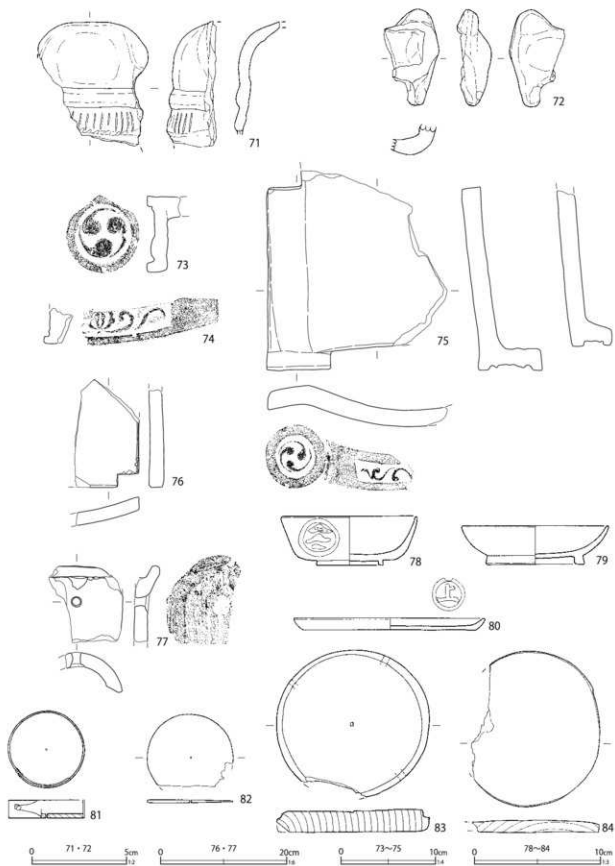


第441图 第343号土坑出土文物(5)

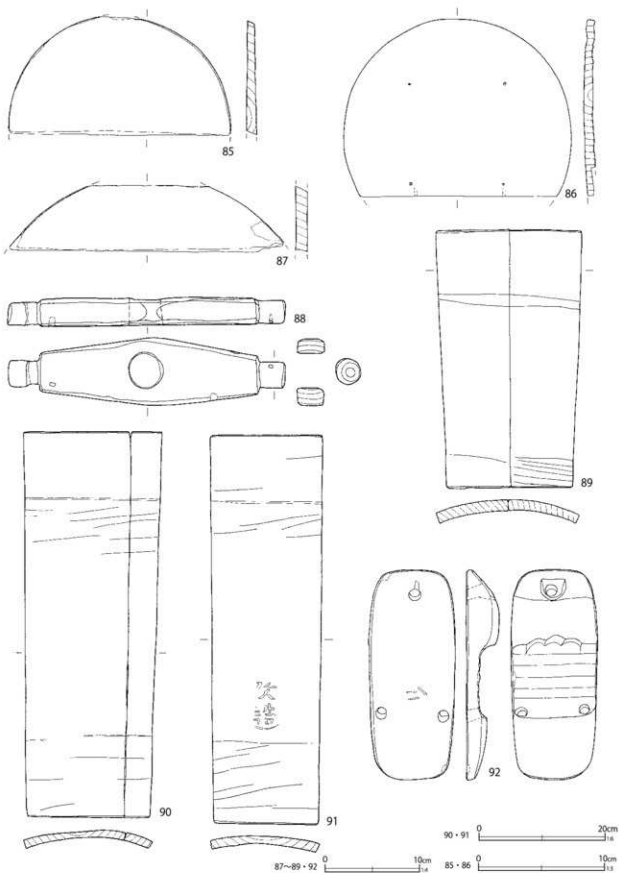


第 442 图 第 343 号土壙出土遗物 (6)

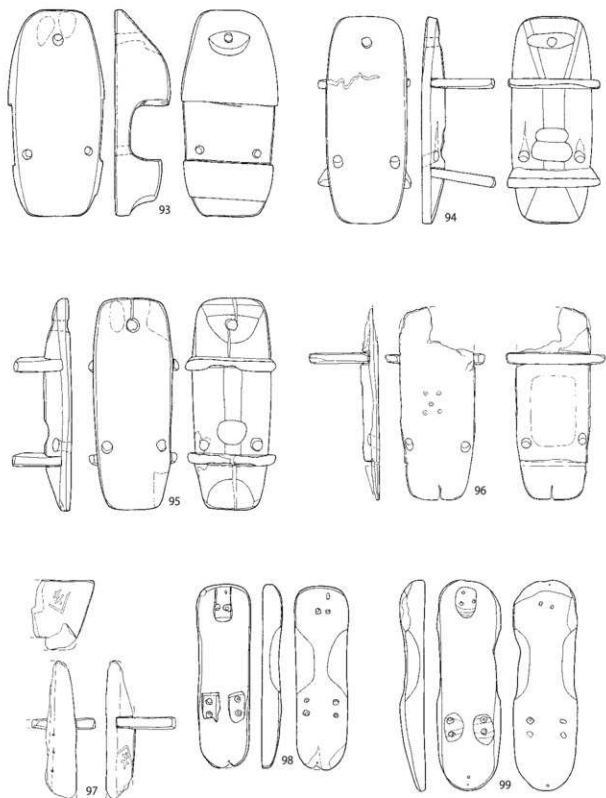




第443图 第343号土坑出土文物(7)

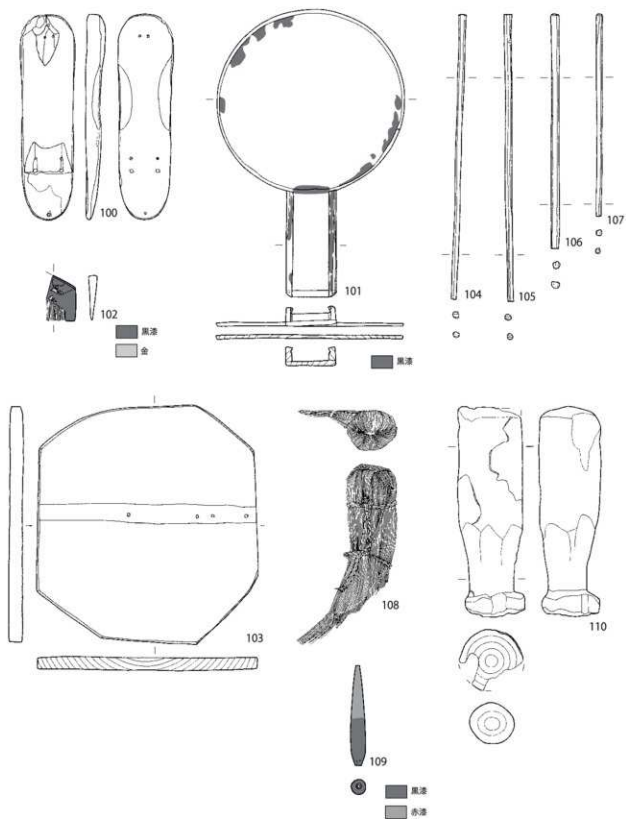


第444图 第343号土壙出土遗物(8)

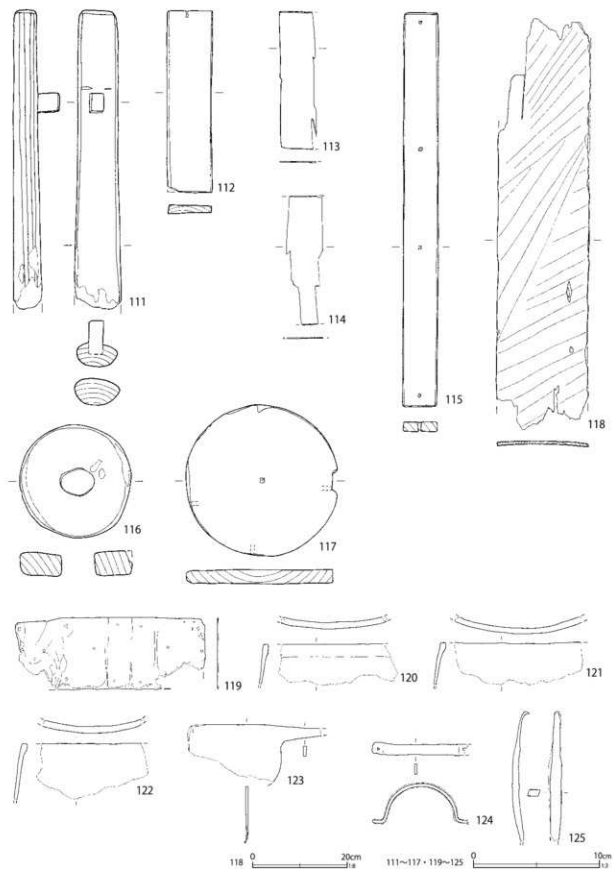


0 10cm  
1/4

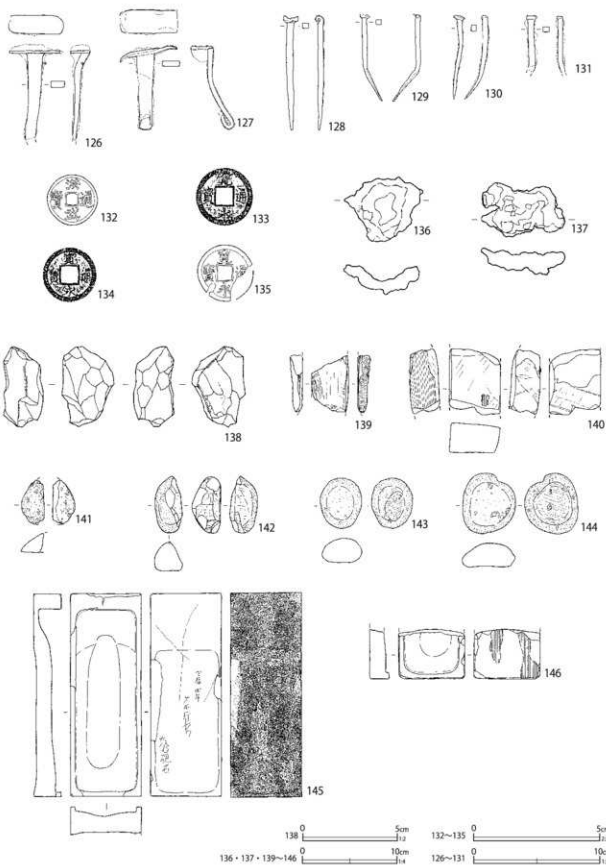
第445图 第343号土坑出土文物(9)



第 446 图 第 343 号土壙出土文物 (10)



第447图 第343号土坑出土文物(11)



第 448 图 第 343 号土坑出土遗物 (12)

第124表 第343号土壙出土遺物観察表 (第437～448図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	磁器	碗	(9.0)	4.4	(3.6)	—	45	良好	灰白	肥前系 内外面施軸 外面染付	
2	磁器	碗	12.4	7.4	5.0	—	90	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付	
3	磁器	碗	(10.6)	6.1	4.1	—	60	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 No.61	
4	磁器	碗	(11.0)	6.4	4.0	—	60	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付	
5	磁器	碗	8.6	7.5	4.1	—	75	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 外面瑠璃軸 焼継痕あり 焼継印(赤) No.39	81-11
6	磁器	碗	7.1	6.6	3.5	—	95	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 No.46	81-12
7	磁器	碗	(7.0)	6.1	(3.6)	—	25	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面陰刻文・染付	
8	磁器	碗	6.9	6.1	3.6	—	80	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面陰刻文・染付 No.42・45	
9	磁器	碗	6.5	5.7	3.3	—	60	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 No.54	
10	磁器	碗	(7.4)	6.1	(3.8)	—	30	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面陰刻文・染付	
11	磁器	碗	(7.2)	[5.3]	—	—	45	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 No.14	
12	磁器	碗	(7.2)	[5.6]	—	—	40	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面瑠璃軸	
13	磁器	碗	(6.7)	4.5	(2.8)	—	35	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付	
14	磁器	碗	6.4	4.8	3.2	—	50	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 No.50	82-1
15	磁器	坏	(6.0)	2.8	2.5	—	80	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 内面上給付(青)「魚患」 「令」 「魚胎」	82-2
16	磁器	蓋	5.7	2.5	9.9	—	80	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付	
17	磁器	蓋	3.8	2.9	9.2	—	100	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 No.44	
18	磁器	蓋	3.7	3.0	9.3	—	80	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 煤付着	
19	磁器	蓋	—	2.3	6.2	—	90	良好	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 最大径7.3cm No.51	
20	磁器	皿	(14.8)	3.8	8.7	—	60	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇ノ目凹形高台 No.24・34	
21	磁器	皿	(13.7)	3.9	8.0	—	40	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇ノ目凹形高台 被熱 No.3	
22	磁器	皿	14.3	3.6	8.4	—	95	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇ノ目凹形高台 No.108	82-3
23	磁器	皿	8.8	3.1	4.9	—	95	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 No.49	
24	磁器	皿	14.5	4.8	8.7	—	95	良好	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 口紅 蛇ノ目凹形高台 焼継痕あり 高台内焼継印(赤) 被熱(強) No.48	82-4
25	磁器	皿	(24.4)	3.4	(12.8)	—	5	良好	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 高台内ハリ支脚1遺存	
26	磁器	皿	(25.4)	4.6	(12.6)	—	15	良好	白	肥前系 内外面施軸 内面染付	
27	磁器	皿	(26.6)	4.1	(14.8)	—	15	良好	白	肥前系 内外面施軸 内面染付	
28	磁器	鉢	14.2	7.1	6.4	K	60	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇ノ目凹形高台 No.59	
29	磁器	鉢	(13.6)	6.2	6.3	—	65	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇ノ目凹形高台 内面釘書 焼継痕あり 高台内焼継印(赤)	86-12
30	磁器	鉢	14.0	6.9	6.3	K	60	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇ノ目凹形高台	
31	磁器	鉢	—	[2.5]	(5.7)	—	20	良好	白	三田焼 型成形 内面陽刻文 内型A-1類八角形 No.9	82-5
32	磁器	猪口	(7.8)	5.9	(5.7)	—	25	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 口紅 蛇ノ目凹形高台	
33	磁器	段重	(11.8)	4.5	—	—	15	良好	白	肥前系 内外面施軸 外面染付・上給付(赤・金) 上 給付熱変(黒化) No.4	
34	磁器	蓋物	(5.6)	[5.1]	—	—	35	良好	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 焼継痕あり No.41	
35	磁器	徳利	—	[5.1]	2.6	—	90	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付	
36	陶器	坏	5.4	3.4	2.8	EIK	100	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面施軸 No.17	
37	陶器	坏	6.2	3.7	3.0	IK	95	良好	黄灰	瀬戸美濃系 内外面施軸 No.18	
38	陶器	皿	7.2	1.7	3.2	IK	100	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面施軸	82-6
39	陶器	灯明皿	(1.9)	[1.9]	—	K	15	良好	灰白	大塚相馬系 内外面施軸	82-7
40	陶器	灯明皿	9.4	2.6	4.2	IK	100	良好	以赤・黄物	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面下位・底部軸拭き取り 輪状重焼痕(径6.2cm) No.35	
41	陶器	灯明皿	9.7	2.3	4.6	IK	90	普通	黄灰	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面下位・底部軸拭き取り 輪状重焼痕(径6.0cm) No.37	
42	陶器	灯明皿	(11.6)	2.1	(5.6)	IK	35	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面下位・底部軸拭き取り	
43	陶器	灯明皿	10.6	1.7	4.1	K	80	良好	灰白	京都信楽系 内外面施軸 被熱・煤付着	
44	陶器	灯火具	—	[5.2]	4.8	IK	85	良好	灰白	京都信楽系 内外面施軸	
45	陶器	皿	(36.0)	[6.1]	—	DEHK	40	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面施軸 No.60・63	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
46	陶器	鉢	—	[5.0]	—	EIK	5	普通	灰白	瀬戸美濃系 外面下位灰軸・上位鉄軸・白軸流し掛け 内面青緑軸・上位鉄・白軸流し掛け 瀬戸美濃系 内外面柿軸 底部軸拭き取り・糸切痕わずかに遺存 №.109	
47	陶器	徳利	—	[19.0]	10.2	IK	80	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面柿軸 底部軸拭き取り・糸切痕わずかに遺存 №.109	
48	陶器	徳利	2.6	[8.3]	—	I	20	良好	灰褐	備前系 胎土拓器質 外面施釉 №.12	82-8
49	陶器	油徳利	—	[14.0]	6.9	IK	90	良好	灰白	瀬戸美濃系 外面鉄軸 底部軸拭き取り 被熱 煤付着	
50	陶器	土瓶	—	[8.0]	—	K	5	良好	灰白	外面青緑軸	
51	陶器	土瓶	—	[5.8]	—	IK	10	良好	にぶい橙	注口部強いクロコナダ 胎土粗密	
52	陶器	土瓶	(8.0)	12.6	8.8	IK	70	良好	にぶい橙	内外面施釉 外面白土・緑軸・鉄絵 体部下位煤付着 №.111	
53	陶器	土瓶	(7.5)	(12.0)	(7.8)	EIK	10	普通	にぶい黄	松岡系 外面施釉 (海鼠軸欠味) 胎土粗密 接点のない3点から復元 外面下位露胎 №.19-27	
54	陶器	土瓶	(6.3)	[8.0]	—	EIK	45	良好	褐灰	松岡系 胎土粗密 外面海鼠軸 №.47・75	82-9
55	陶器	土瓶	(6.0)	10.6	6.6	EIK	65	普通	にぶい橙	松岡系 胎土粗密 内外面海鼠軸 破損後被熱 (黒化) №.68	82-10
56	陶器	蓋	—	2.8	(5.9)	EIK	45	良好	褐灰	松岡系 胎土粗密 上面海鼠軸 最大径 (8.7) cm №.55	82-11
57	陶器	蓋	—	3.4	(6.0)	EK	55	良好	褐灰	松岡系 胎土粗密 上面海鼠軸 最大径 8.5 cm	83-1
58	陶器	蓋	—	[2.3]	(8.4)	EIK	35	普通	にぶい黄	胎土粗密 上面施釉・イッチン描き文 最大径 (10.9) cm №.64	
59	陶器	蓋	—	2.8	4.8	K	100	普通	灰白	大塚相馬系 ♪ 上面白軸 被熱 最大径 7.6 cm №.28	83-2
60	陶器	蓋	—	3.6	5.7	K	80	良好	黄灰	上面施釉・白土染付・鉄絵 最大径 7.6 cm	
61	陶器	蓋	8.5	1.5	4.7	I	95	普通	にぶい橙	吉見焼 胎土器質 上面黒軸	83-3
62	陶器	水注	7.0	[8.6]	—	K	40	普通	灰白	京都信楽系 胎土磁質 内外面柿軸	
63	陶器	搦鉢	35.7	15.0	14.6	EIKM	75	良好	赤	堺明石系 外面・底部ヘラケズリ 内面襷目9条 / 単位 №.2・101・116	
64	施軸土器	灯明皿	9.0	1.6	3.6	AI	70	良好	明赤褐	江戸在地系 底部糸切痕 (左) 胎土粉質 内外面施釉	
65	瓦質土器	火鉢	(17.0)	8.7	12.0	CHK	60	良好	にぶい黄	底部ヘラケナダ 被熱 (体部下半・底部・内面一部黒化) №.119	
66	土質瓦器	塔塔	(33.4)	[5.4]	—	CIK	35	良好	灰白	砂目底 体部煤付着 やや還元焼成 №.78	
67	瓦質土器	蓋	—	[3.8]	23.2	CHK	35	普通	灰黄	上面襷目 焼す 火消盡の蓋 №.45-76	
68	磁器	皿	—	[1.9]	4.5	—	—	普通	白	肥前系 内外面施釉 円盤状製品転用 (底部) 縦 6.1 cm 横 6.9 cm 雲母付着 江戸在地系 型成形	
69	土製品	泥面子	径 2.4 高さ 1.1 重さ 6.4			AHK	—	良好	橙		122-12
70	土製品	人形	縦 [1.7] 横 [1.9] 高さ [4.3] 重さ 6.5			AHK	—	良好	橙	江戸在地系 前後合二枚型成形 開口	121-4
71	土製品	人形	縦 [2.6] 横 [5.8] 高さ [6.6] 重さ 25.2			AHK	—	良好	橙	江戸在地系 前後合二枚型成形 中空	121-5
72	土製品	人形	長さ [5.1] 幅 [2.9] 高さ 0.9 重さ 13.3			AIK	—	良好	橙	江戸在地系 胴 ♪ 前後合二枚型成形 中空	
73	瓦	軒棧瓦	長さ [4.3] 幅 [8.3] 高さ [8.0]			AIK	—	普通	灰白	左巻三巴文 焼す	125-6
74	瓦	軒棧瓦	長さ [2.3] 幅 [16.2] 高さ [3.8]			AIK	—	普通	灰白	焼す 弱く銀化	125-7
75	瓦	軒棧瓦	長さ [21.1] 幅 [19.1] 厚さ 2.1 高さ [8.5] 径 6.6			AK	—	普通	灰白	江戸式 右巻三巴文 焼す 雲母付着 煤付着	125-8
76	瓦	棧瓦	長さ [17.1] 幅 [10.2] 厚さ [2.3] 高さ [5.2]			AIK	—	普通	灰白	焼す 雲母付着 胎土中心灰色	125-9
77	瓦	丸瓦	長さ [12.2] 幅 [11.8] 厚さ 2.2 高さ [6.3]			AK	—	普通	灰	焼す 焼成前穿孔 1あり 弱く銀化	125-10
78	木製品	漆椀	口径 10.8 高さ 3.8 底径 (5.3)							横木取り 内面赤漆 外面黒漆 金で家紋 高台潰れ №.86	
79	木製品	漆椀	口径 11.4 高さ 3.0 底径 7.6							横木取り 内外面赤漆 高台内口縁黒漆 №.83	
80	木製品	漆皿	口径 (15.0) 高さ 0.9							横木取り 内外面黒漆 内面に金で ㊦ №.84	
81	木製品	曲物	口径 6.0 高さ 1.4							板目 底板孔 1 №.115	
82	木製品	曲物	厚さ 0.3 径 6.8							板目 表面文字	149-4
83	木製品	曲物	長さ 12.2 厚さ 1.8							板目 底板中孔 1 側面木釘穴 3 裏面に一部灰化	
84	木製品	曲物	厚さ 1.0 径 12.3							板目	
85	木製品	樽	厚さ 0.8 径 17.6							板目 表面墨書	149-6



番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
86	木製品	樽	厚さ0.7	口径18.0						板目 蓋 表面墨書 木釘残存	
87	木製品	樽	長さ[7.0]	幅[29.0]	厚さ1.3					板目 蓋 表面墨書	149-11
88	木製品	井戸樽	長さ7.2	幅29.5	厚さ2.9					芯持材 中心に孔 表面孔2	
89	木製品	樽	長さ27.3	幅15.5	厚さ1.2					板目 側板表面墨書「金」	149-9
90	木製品	樽	長さ60.8	幅21.8	厚さ1.3					板目 側板 タガ痕2 墨書 91と同一個体	152-13
91	木製品	樽	長さ61.4	幅17.8	厚さ1.6					板目 側板 タガ痕2 焼印 90と同一個体	
92	木製品	下駄	長さ22.2	幅9.2	高さ3.5					板目 焼印 刺り下駄	
93	木製品	下駄	長さ21.8	幅10.2	高さ5.9					板目 刺り下駄 №117	
94	木製品	下駄	長さ21.9	幅9.8	高さ7.8					板目 陰卵下駄 №118	
95	木製品	下駄	長さ22.4	幅8.4	高さ6.4					板目 陰卵下駄 №92	
96	木製品	下駄	長さ[20.3]	幅10.1	高さ7.3					板目 陰卵下駄 表面に円の刻み	
97	木製品	下駄	長さ[14.6]	幅[6.8]	高さ7.4					板目 陰卵下駄 焼印2 木釘の孔3	
98	木製品	下駄	長さ19.4	幅5.5	高さ2.0					板目 無限下駄 №120	
99	木製品	下駄	長さ22.4	幅6.0	高さ2.7					板目 無限下駄 №125	
100	木製品	下駄	長さ20.8	幅5.2	高さ[2.0]					板目 無限下駄 木釘残3 №102	
101	木製品	鏡箱	長さ30.4	幅19.8	厚さ2.0					板目 裏表黒漆 孔1 木釘残・側板に鏡を入れる溝 №121	
102	木製品	櫛	長さ[2.3]	幅[3.6]	厚さ[0.6]					板目	
103	木製品	蓋	長さ23.5	幅25.3	厚さ1.4					板目 表面釘穴4 把手の痕跡	
104	木製品	箸	長さ22.6	幅0.5	厚さ0.5					削出し	
105	木製品	箸	長さ22.6	幅0.6	厚さ0.5					削出し	
106	木製品	箸	長さ18.5	幅0.7	厚さ0.6					削出し	
107	木製品	箸	長さ16.0	幅0.5	厚さ0.5					削出し	
108	木製品	箸	長さ11.8	幅3.9	厚さ3.2					紐付き シュロ	
109	木製品	浮子	長さ7.9	幅1.2	厚さ1.3					上半赤漆 下半黒漆 下面に穴 №79	
110	木製品	ツルリボウ	長さ16.3	幅5.0	厚さ4.7					芯持材 根 握りに加工痕 根皮残存	
111	木製品	天秤棒	長さ[31.6]	幅4.9	厚さ2.8					板目	
112	木製品	板	長さ14.3	幅3.5	厚さ0.8					板目 表面墨書 孔1	149-5
113	木製品	経木	長さ10.8	幅[2.8]	厚さ0.09					板目 表裏面墨書	149-8
114	木製品	経木	長さ9.6	幅[2.9]	厚さ0.05					板目 表裏面墨書	149-10
115	木製品	板	長さ31.1	幅2.7	厚さ0.8					板目 木釘4	
116	木製品	不明品	厚さ1.9	径9.0						板目 中央に楕円形の孔	
117	木製品	不明品	長さ12.0	厚さ1.1						板目 切込み1箇所 中央に木釘1 側面孔3	
118	木製品	板	長さ[87.0]	幅19.4	厚さ0.6					板目 表面墨書 鉄釘残存 刺痕	152-12
119	銅製品	飾金具	縦5.6	横15.1	厚さ0.1	重さ15.2				№58 周縁と中央に小孔 上下端部折れ曲がる	
120	鉄製品	鍋	縦[3.3]	横[9.6]	厚さ最大0.4	重さ38.7				口縁内面肥厚	
121	鉄製品	鍋	縦[3.3]	横[10.2]	厚さ最大0.5	重さ37.4				口縁内面肥厚	
122	鉄製品	鍋	縦[4.4]	横[8.9]	厚さ最大0.5	重さ38.3				口縁内面肥厚 以上同一個体か	
123	鉄製品	包丁	長さ[10.6]	刃長[7.4]	刀幅[4.2]	背幅0.2	重さ31.0			№14	
124	鉄製品	把手	縦1.0	横[7.7]	高さ3.2	厚さ0.2	重さ9.5				
125	鉄製品	不明	長さ[10.3]	幅1.0	厚さ0.5	重さ17.3				端部鉤爪状	
126	鉄製品	釘	長さ[7.0]	幅1.1	厚さ0.5	重さ28.9					
127	鉄製品	釘	長さ[6.6]	幅1.4	厚さ0.4	重さ29.2				№57	
128	鉄製品	釘	長さ9.1	幅0.5	厚さ0.4	重さ11.2					
129	鉄製品	釘	長さ[6.9]	幅0.4	厚さ0.4	重さ3.8					
130	鉄製品	釘	長さ[6.5]	幅0.4	厚さ0.5	重さ4.6					
131	鉄製品	釘	長さ[4.5]	幅0.5	厚さ0.4	重さ4.8					
132	銅製品	銭貨	径20.0	厚さ0.9	重さ1.8					洪武通寶	
133	銅製品	銭貨	径23.1	厚さ1.4	重さ2.7					寛永通寶(新)	
134	銅製品	銭貨	径21.7	厚さ0.7	重さ1.2					寛永通寶(新)	
135	銅製品	銭貨	径22.0	厚さ0.8	重さ1.1					№69 寛永通寶(新)	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	使成	色調	備考	図版
136	鉄滓	楕形滓	長さ8.4	幅6.7	厚さ1.8	重さ83.7				平面不整形円形 上面に製造割片多い 磁着やや強い	136-15
137	鉄滓	楕形滓	長さ8.8	幅5.7	厚さ2.8	重さ102.3				平面不整形 上面炭化物あり 磁着弱い	136-15
138	石製品	火打石	長さ4.2	幅2.8	厚さ2.1	重さ26.0				玉軸 使用痕あり	
139	石製品	砥石	長さ[5.9]	幅3.9	厚さ[1.3]	重さ30.7				粘板岩 砥面2 側面V字刀物傷・線条痕 No.26	
140	石製品	砥石	長さ[6.9]	幅5.4	厚さ3.2	重さ181.0				流紋岩 裏・側面幅広い工具痕2 側面ノコギリ痕・使用痕 表面ノコギリ痕わずかに残る 砥面3 角閃石安山岩 多孔質 自然面遺存 使用面1	
141	石製品	磨石	長さ4.6	幅2.4	厚さ2.0	重さ6.9				角閃石安山岩 多孔質 自然面遺存 使用面2	
142	石製品	磨石	長さ6.0	幅2.9	厚さ3.0	重さ26.4				角閃石安山岩 多孔質 自然面遺存 使用面1	141-1
143	石製品	磨石	長さ5.3	幅4.4	厚さ2.6	重さ37.1				角閃石安山岩 多孔質 自然面遺存 使用面1	141-1
144	石製品	磨石	長さ6.4	幅5.6	厚さ2.5	重さ49.9				角閃石安山岩 多孔質 自然面遺存 使用面1	141-1
145	石製品	硯	長さ21.5	幅7.5	器高[2.9]	重さ839.8				粘板岩 器高[2.9]cm 下面挟り・短書「宝曆四年/ [ ]/大[ ]硯石」内面凹み墨付着 被熱(割落) No.66	141-3 87-13
146	石製品	硯	長さ[5.2]	幅7.0	器高[2.1]	重さ119.3				流紋岩 器高[2.1]cm 裏面ノコギリ状工具痕遺存 内面凹み墨付着 No.23	

61は胎土、釉調の特徴から、現在の埼玉県吉見町で19世紀に生産された吉見焼である可能性が推定される。土瓶の落とし蓋で、吉見焼の主力生産品の一つである。胎土は土器質で、上面に黒釉が施軸される。栗橋宿では松岡系陶器や大塚相馬系陶器より出土量が少ないが、飯能焼より多く出土する。

64は江戸在地系施軸土器の灯明皿である。全面に透明釉が施軸される。底部は左回転の糸切痕が遺存し、胎土は細粒の雲母を含む粉質である。

65は瓦質土器の丸火鉢である。底部はヘラナゲ調整で、丸形の脚が3箇所につく。胎土に角閃石が一定量含まれ、在地産と推定される。被熱しており、一部黒色化している。

66は土師質土器の丸底焙烙である。底部は無調整の砂目底で、丸みが強く、器高が高い。やや瓦質気味な胎質で、胎土に角閃石が一定量含まれる。在地産と推定される。

68は底部周囲を打ち欠いて円盤状に二次加工を施した肥前系磁器の皿で、いわゆる円盤状製品である。底部は無軸で、見込みは蛇ノ目軸剥ぎを施す。栗橋宿では18世紀の遺構で多量に出土しており、19世紀の遺構での出土は極めて少ない。

第443図71は江戸在地系の土製人形である。前後合わせの二枚成型形で、中空である。人物像の

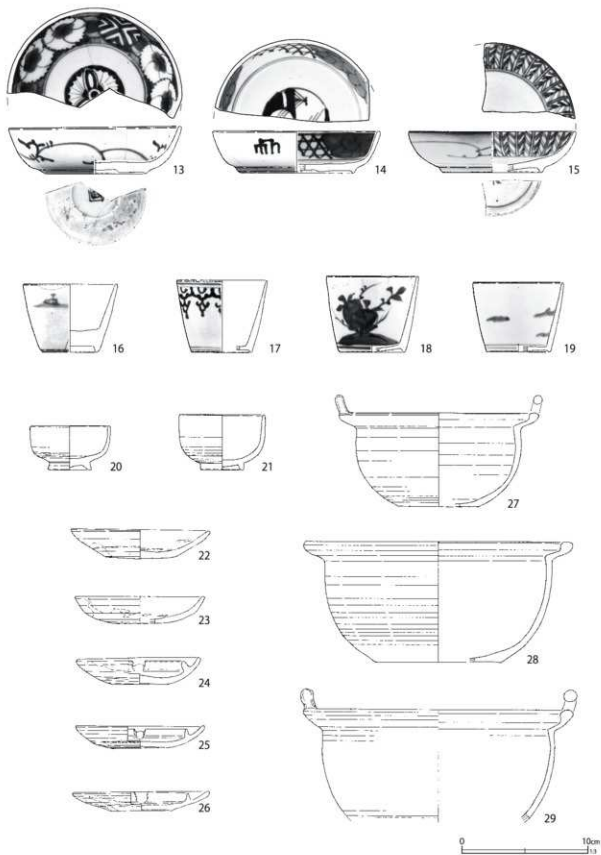
背面側と考えられる。

73・74は軒棧瓦である。栗橋宿では類別が少ない文様で、第3地点(『栗橋宿跡1』)で出土事例がある。73は通常より大きな三巴文を特徴とし、74の文様の瓦に伴う。75は軒棧瓦である。右巻きの三巴文で、江戸式の唐草文様がみられる。77は丸瓦で、焼成前穿孔が1箇所遺存する。

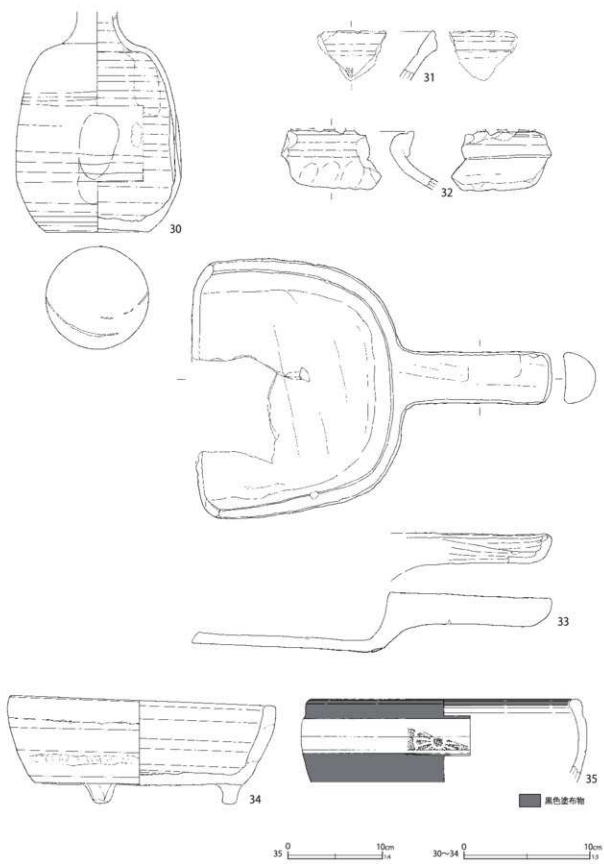
78は漆椀で、外面に家紋が描かれる。腰の位置が低く、張る器形である。79は漆椀で、浅い器形である。80は漆塗りの皿である。内外面黒漆塗り、内面に金で「㊦」の文字が書かれる。81・82は小形の曲物である。83は曲物の底板である。外周に側板を留める段があり、側板固定の木釘穴が3箇所残る。一部炭化している。86は樽の蓋である。蓋板をつなぐ木釘が残る。88は釣瓶桶の部材である。89～91は樽の側板である。91は「改詰」の焼印が見られる。92～100は下駄である。92・93は剃り下駄である。92の表面には「二」の焼印が見られる。裏面には横方向の加工痕が残る。93の台幅は10.2cmと幅広である。94～97は陰卯下駄で、後穴を後歯の前に開けている。94・95の裏面中央には縦方向の平坦面があり、楕円形の窪みが作られる。96の表面には5つの円が刻まれる。97の台と歯には「令」の焼印が見られる。98～100は無眼下駄



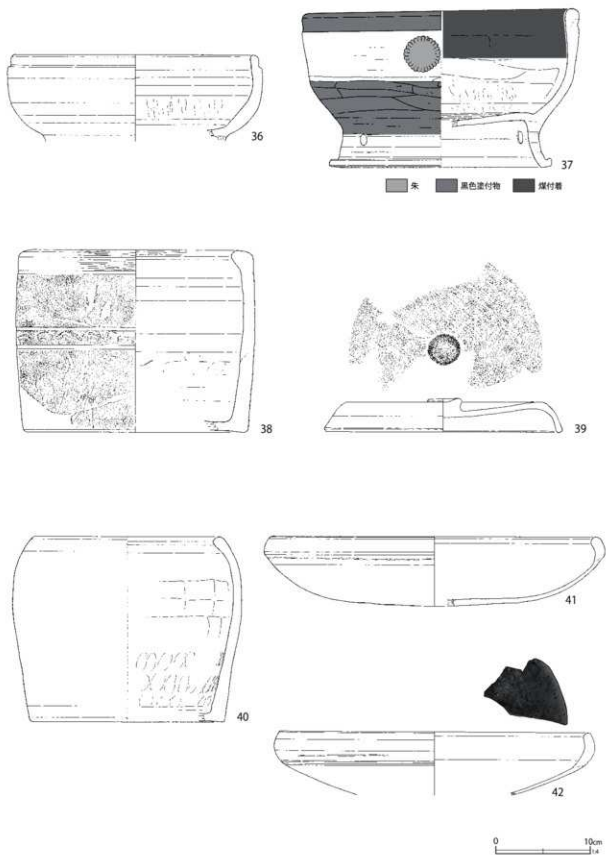
第449图 第368号土城出土文物(1)



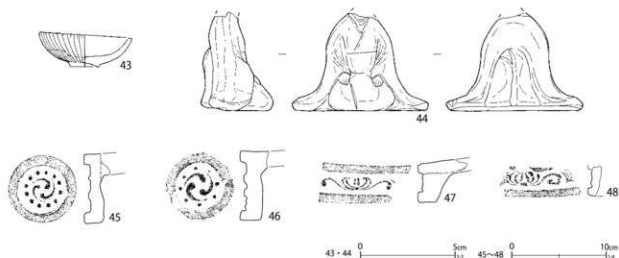
第 450 图 第 368 号土壙出土遗物 (2)



第 451 図 第 368 号土坑出土遺物 (3)



第 452 図 第 368 号土壙出土遺物 (4)



第453図 第368号土壌出土遺物(5)

である。表面の前後にそれぞれ異なる形の窪みが作られる。101は鏡箱で、黒漆塗りである。柄のみ側板が残存する。103は蓋である。平面形は丸くなく、八角形を呈する。111は天秤棒で端部のみ残存する。材の断面形は楕円形である。

第447図120～122は鉄製の鍋で、同一個体の可能性がある。栗橋宿では鉄鍋が一定量出土するが、器形を把握できるものは稀である。

第448図132は渡来銭で、明朝の洪武通寶である。初鋳年は1368年である。

136・137は碗形滓である。136は上面に鍛造剥片が多く、磁着が強めである。137は上面に炭化物がみられ、磁着が弱い。

139は粘板岩製の砥石で、表面の一部と側面に細密な線条痕がみられる。143・144は多孔質の角閃石安山岩転石製磨石である。143は大部分に自然面が遺存し、使用面には線条痕がみられる。144は裏面中央が凹み、線条痕がみられる。145は粘板岩製硯である。下面の抉りに刻書がみられ、「宝暦四年/[ ]/大口硯石」とみえる。第6地点第179号土壌(『栗橋宿跡Ⅲ』)出土の硯には「宝暦十一歳」の刻書がみられ、近い年代である。「大口硯石」は硯のブランドを示していると考えられ、生産地を示すと思われるが、特定

することはできなかった。146は流紋岩製の硯である。裏面にノコギリ状工具痕が遺存している。流紋岩製硯は稀である。

#### 第368号土壌(第433・449～455図)

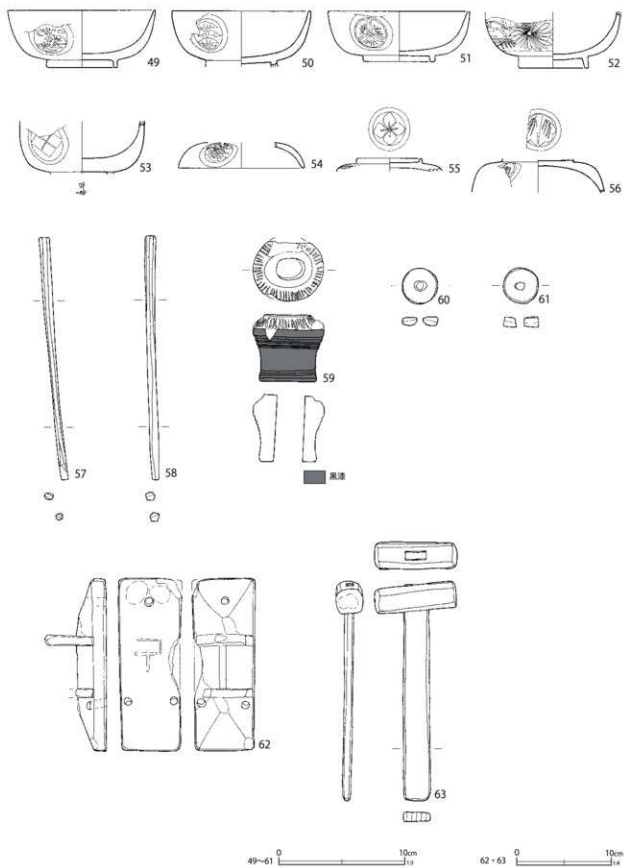
F7-B・C5グリッドに位置し、第411・489号土壌より新しい。西側は調査区外だが、平面形は円形と推定される。検出長軸は2.5m、短軸1.8m、深さ0.85mを測り、長軸方位はN-28°-Wを指す。

覆土は中層に植物質を多量に含む土層が堆積し、砂質土、粘質土を主体とする。

出土遺物は多量である。陶磁器は肥前系磁器の朝顔形に開く碗(第449図5)、陶器の鉄軸両手鍋(第450図27～29)、非掲載遺物に瀬戸美濃系陶器の石皿を最新期とする。18世紀後葉の中でも古い段階の陶磁器組成を示す。

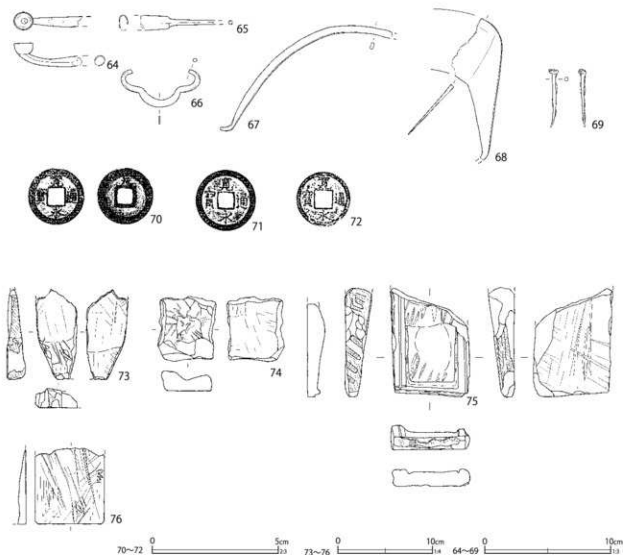
第368号土壌は基本土層西壁(第5～7図)にみられ、天明三年(1783)の浅間山噴火時の生活面を掘り込んで形成されている。したがって、推定廃絶年代は天明三年前後にあたる1770～1780年代頃と考えられる。

第449～455図に出土遺物を図示した。第449図1～19は肥前系磁器である。1は口径13cmを越える肥前系磁器の大碗である。外面に梅樹文の染



第 454 图 第 368 号土壕出土遗物 (6)





第455図 第368号土城出土遺物(7)

付がみられる。高台欠失部には漆状の塗布物が付着する。4は筒形碗である。内面上位に四方禰文、内底面に崩れた五弁花文の染付がみられる。5は朝顔形に開口する碗である。最新期の陶磁器の一つである。外面は淡い瑠璃釉気味で、内面に染付がみられる。6は小広東碗である。7は色絵金欄手の坏である。外面に赤と金で上絵付が施される。口縁部は端反形である。

第449図12、第450図13・14は蛇ノ目凹形高台の皿である。高台高は低い。

22～26は瀬戸美濃系陶器の柿軸灯明皿である。22・23は油皿、24～26は油受皿である。受

け口の切込みは、24は角形、25・26は「U」字状を呈する。いずれも外面下位から底部にかけて釉が拭き取られ、重ね焼き痕がみられる。特に22は輪状重ね焼き痕が内面に2箇所、外面に1箇所みられる。

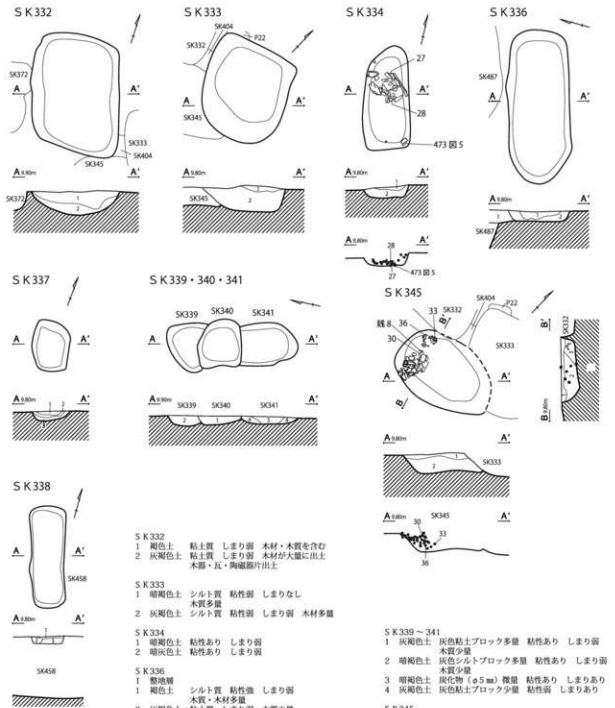
27～29は産地不詳陶器の両手鍋である。鉄軸が施軸され、いずれも被熱している。28は把手が欠失し、27・29は紐状把手である。28は接点のない2片から図上復した。

第451図30は瀬戸美濃系陶器のべこかん徳利である。外面は柿軸が施軸され、体部は2箇所凹ませている。底部は軸を拭き取られており、弧状の

第125表 第368号土壙出土遺物観察表 (第449～455図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	磁器	碗	13.7	7.2	(5.6)	—	85	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 高台欠失部疎織痕カ	
2	磁器	碗	(12.0)	5.6	(5.0)	—	25	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付	
3	磁器	碗	(7.9)	4.2	(3.5)	—	45	良好	白	肥前系 内外面施軸 外面染付	
4	磁器	碗	(7.0)	6.0	3.5	—	75	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付	
5	磁器	碗	—	[6.0]	4.1	—	20	良好	灰白	肥前系 外面珪磷釉 内面施軸・染付	
6	磁器	碗	(8.7)	[2.9]	—	—	5	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付	
7	磁器	坏	—	[2.9]	—	—	5	良好	白	肥前系 内外面施軸 外面上絵付(赤・金)	
8	磁器	坏	6.3	2.9	2.2	—	80	普通	白	肥前系 内外面施軸	
9	磁器	皿	—	[1.5]	5.0	—	15	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 被熱(強)	
10	磁器	皿	(13.5)	4.4	8.2	—	40	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付	
11	磁器	皿	13.9	4.7	7.8	—	90	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付	
12	磁器	皿	14.2	4.6	8.1	—	90	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付	
13	磁器	皿	13.4	3.7	8.0	—	40	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付	84-4
14	磁器	皿	(13.0)	3.2	(9.0)	—	40	普通	灰白	肥前系 内外面施軸・染付 №1	
15	磁器	皿	(13.1)	3.3	(7.8)	—	20	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 口紅	
16	磁器	猪口	(7.2)	5.4	4.2	—	75	普通	白	肥前系 内外面施軸 外面染付	
17	磁器	猪口	(7.1)	5.7	(4.6)	—	30	普通	白	肥前系 内外面施軸 外面染付	
18	磁器	猪口	(7.2)	6.0	(5.0)	—	50	普通	白	肥前系 内外面施軸 外面染付	
19	磁器	猪口	(7.0)	5.5	(4.8)	—	40	普通	白	肥前系 内外面施軸 外面染付	
20	陶器	坏	6.1	3.5	3.1	EK	90	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面灰軸	
21	陶器	坏	(6.6)	4.4	3.3	IK	55	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面灰軸	
22	陶器	灯明皿	10.8	2.3	5.5	K	95	良好	灰黄褐	瀬戸美濃系 内外面柿輪 体部下位・底部軸拭き取り 内外面輪状重焼痕(内2外1) 内面降灰 №27	
23	陶器	灯明皿	(10.0)	2.1	(4.0)	K	40	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面柿輪 体部下位・底部軸拭き取り 体部中位重焼痕 №3	
24	陶器	灯明皿	9.5	2.1	4.3	K	95	普通	褐灰	瀬戸美濃系 内外面柿輪 体部下位・底部軸拭き取り 内面底重焼痕	
25	陶器	灯明皿	10.1	1.8	4.3	K	85	良好	褐灰	瀬戸美濃系 内外面柿輪 体部下位・底部軸拭き取り 体部中位輪状重焼痕(径7.8cm) №4	
26	陶器	灯明皿	(10.7)	1.5	4.9	IK	50	普通	黄灰	瀬戸美濃系 内外面柿輪 体部下位・底部軸拭き取り 体部中位輪状重焼痕	
27	陶器	鍋	(15.3)	8.8	(6.4)	IK	40	良好	褐灰	内外面鉄軸 露胎部煤付着 被熱(粘土層・橙色化)	
28	陶器	鍋	(21.0)	(9.5)	(10.0)	I	15	良好	褐灰	内外面鉄軸 露胎部煤付着 被熱(胎土黒・橙色化) 接点のない2片から復元	
29	陶器	鍋	(21.0)	[10.4]	—	EIK	15	良好	褐灰	内外面鉄軸 体部下位重焼痕 被熱(弱)	
30	陶器	徳利	—	[17.5]	8.1	IK	70	普通	灰白	瀬戸美濃系 外面柿輪 底部軸拭き取り・重焼痕2あり 体部・肩部に溶着痕 体部囲み2箇所	
31	陶器	搦鉢	—	[3.9]	—	DEHK	5	良好	灰褐	丹波系 内面搦目 胎土粗粒砂	
32	陶器	壺	—	[4.6]	—	EI	5	普通	灰	常滑焼 7型式 14c 前半 口縁端部摩耗 被熱(弱)	
33	瓦質土器	十能	長軸 28.3	4.7	短軸 20.3	CIK	70	普通	灰白	下・側面砂目 把手側下面ヘラナデ 燒す 胎土中心部 灰色	
34	瓦質土器	火鉢	(20.0)	8.2	16.5	CHK	80	普通	にぶい・黄褐	砂目底 やや酸化焙焼成 胎土中心部褐灰 外面下位ケズリ 脚1遺存	
35	瓦質土器	火鉢	(28.0)	[8.8]	—	HIK	10	普通	にぶい・黄褐	体部菊花スタンプ後一部ナゲ消し 胎土中心黄灰 外面上位・下位黒色絵付物	
36	瓦質土器	火鉢	(25.3)	[9.1]	—	FHK	20	普通	にぶい・橙	ほぼ酸化焙焼成 内面上位煤付着 №30	
37	瓦質土器	火鉢	27.5	16.8	21.4	HIK	90	普通	灰黄	砂目底 体部下位ケズリ 脚部焼成前穿孔2 体部上・下位彩色(黒) 菊化スタンプに彩色(朱) 内面上位煤付着・下位火箸痕 被熱 胎土輝石含む 胎土中心黒褐 №21・26・29・31	84-5
38	瓦質土器	火鉢	(21.4)	19.3	(23.2)	AHK	30	普通	褐灰	江戸在地系 口縁・体部ミガキ 体部スタンプ施文 胎土粉質 燒す 胎土中心黒褐	
39	土質土器	蓋	—	3.6	(24.6)	ACHK	45	普通	にぶい・橙	江戸在地系 上面圧痕 胎土粉質 №18・19・20・24	
40	土質土器	火酒壺	(19.4)	19.6	20.5	AHK	70	普通	にぶい・黄褐	江戸在地系 砂目底 胎土粉質 胎土中心褐灰色 №5・6・8・13・14・15・16・25	
41	土質土器	焙烙	(34.4)	[7.3]	(34.6)	HIK	20	普通	にぶい・橙	江戸在地系 底部シワ状痕 胎土粉質 体部・内底部煤付着 接点のない2片から復元 №10・11	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版	
42	土師系土器	埴埴	(32.7)	[6.7]	—	AH1K	15	普通	にぶい橙	江戸在地系 砂目底 胎土粉質 内底面斑状の煤付着		
43	磁器	坏	4.9	1.8	1.4	—	95	普通	灰白	肥前系 型成形 内外面施釉		
44	土製品	人形	長さ [5.2]	幅 7.2	厚さ 3.8	重さ 41.3	ACHIK	—	良好	姉様 前後合二枚型成形 中空	121-7	
45	瓦	軒椀瓦	長さ [2.8]	幅 [7.6]	高さ [7.6]	径 7.0	AIK	—	普通	灰	上面平部へラナゲ 燻十 弱く銀化	126-6
46	瓦	軒椀瓦	長さ [3.0]	幅 [7.8]	高さ [7.3]	径 7.0	AK	—	普通	灰白	右巻八連珠三巴文 燻十 雲母付着	
47	瓦	軒椀瓦	長さ [5.4]	幅 [10.1]	厚さ 1.4	高さ [4.9]	AIK	—	普通	灰	江戸式 燻十 弱く銀化	126-7
48	瓦	軒椀瓦	長さ [0.9]	幅 [8.7]	高さ [3.3]	—	AK	—	普通	灰白	燻十 銀化 雲母付着	126-8
49	木製品	漆椀	口径 (11.6)	高さ 4.4	底径 5.6	—	—	—	—	横木取り 内面赤漆 外面黒漆 赤で家紋		
50	木製品	漆椀	口径 11.0	高さ [4.4]	—	—	—	—	—	横木取り 内面赤漆 外面黒漆 金で家紋		
51	木製品	漆椀	口径 (11.1)	高さ 4.0	底径 5.6	—	—	—	—	横木取り 内面赤漆 外面黒漆 赤で家紋		
52	木製品	漆椀	高さ [4.5]	底径 5.6	—	—	—	—	—	横木取り 内面赤漆 外面黒漆 赤で文様		
53	木製品	漆椀	高さ [4.1]	—	—	—	—	—	—	横木取り 内面赤漆 外面黒漆 赤で家紋 高台内赤で文字		
54	木製品	漆椀蓋	口径 (9.8)	高さ [2.0]	—	—	—	—	—	横木取り 内面赤漆 外面黒漆 赤で家紋		
55	木製品	漆椀蓋	つまみ径 (5.1)	高さ [1.0]	—	—	—	—	—	横木取り 内面赤漆 外面黒漆 つまみ縁黒漆 つまみ内赤で家紋 No.32		
56	木製品	漆椀蓋	高さ [2.6]	—	—	—	—	—	—	横木取り 外面黒漆 内面赤漆 赤で家紋 No.33		
57	木製品	箸	長さ 19.2	幅 0.8	厚さ 0.5	—	—	—	—	削出し		
58	木製品	箸	長さ 19.2	幅 0.8	厚さ 0.7	—	—	—	—	削出し		
59	木製品	傘	長さ [4.7]	幅 5.6	高さ 5.3	—	—	—	—	証目 手元クロク 黒漆		
60	木製品	不明品	厚さ 0.7	径 2.8	—	—	—	—	—	板目 中央に孔		
61	木製品	不明品	厚さ 0.7	径 1.4	—	—	—	—	—	板目 中央に孔		
62	木製品	下駄	長さ 18.3	幅 7.0	高さ 6.5	—	—	—	—	板目 陰卵下駄 焼印		
63	木製品	木樋	長さ 23.2	幅 8.7	厚さ 2.9	—	—	—	—	板目		
64	銅製品	煙管	長さ [5.4]	火皿径 1.5	小口径 0.8	重さ 4.7	—	—	—	No.7 雁首	133-1	
65	銅製品	煙管	長さ [6.0]	小口径 1.2	× 0.7	口径径 0.3	重さ 4.3	—	—	吸口	133-1	
66	銅製品	把手	縦 3.0	横 6.3	幅 0.6	厚さ 0.1	重さ 4.9	—	—	引出の把手 鍍金あり	134-1	
67	鉄製品	把手	長さ [13.7]	高さ 8.4	幅 0.5	厚さ 0.3	重さ 13.7	—	—	鋳の把手		
68	鉄製品	鎌	長さ [11.3]	刃長 [4.0]	刃幅 5.2	背幅 0.3	重さ 27.0	—	—	—		
69	鉄製品	釘	長さ [4.4]	幅 0.3	厚さ 0.3	重さ 1.1	—	—	—	—		
70	銅製品	銭貨	径 22.6	厚さ 1.1	重さ 2.2	—	—	—	—	寛永通寶 (新) 背元		
71	銅製品	銭貨	径 24.5	厚さ 1.2	重さ 3.5	—	—	—	—	寛永通寶 (新)		
72	銅製品	銭貨	径 22.1	厚さ 1.0	重さ 1.9	—	—	—	—	寛永通寶 (新)		
73	石製品	砥石	長さ [9.5]	幅 [4.4]	厚さ 2.0	重さ 75.3	—	—	—	ホルンフェルス 刃物痕多数あり 紙面 2		
74	石製品	硯	長さ 6.9	幅 6.2	厚さ 2.0	重さ 115.7	—	—	—	凝灰岩 表面は再加工 硯を何かに転用 削痕あり		
75	石製品	砥石	長さ 5.8	幅 4.2	厚さ 0.7	重さ 32.1	—	—	—	粘板岩 側面平ノミ痕 (刃幅 0.3 cm)・線条底 紙面 4 遺存 表面面刃物痕 表面にケガキ線残る 硯に転用 内面黒付着		
76	石製品	硯	長さ [8.0]	幅 7.3	厚さ [0.6]	重さ 82.9	—	—	—	粘板岩 外面黒色塗付 裏面刃物痕多数 砥具転用		



S K 332  
 1 褐色土 粘土質 しまり面 木材・木質を含む  
 2 灰褐色土 シルト質 しまり面 木材が大量に出土  
 木函・瓦・陶磁器片出土

S K 333  
 1 暗褐色土 シルト質 粘性弱 しまりなし  
 木質多量  
 2 灰褐色土 シルト質 粘性弱 しまり弱 木材多量

S K 334  
 1 暗褐色土 粘性あり しまり弱  
 2 暗灰色土 粘性あり しまり弱

S K 336  
 1 第2地層  
 1 褐色土 シルト質 粘性強 しまり弱  
 木質・木材多量  
 2 灰褐色土 粘土質 しまり弱 木質少量

S K 337  
 1 灰色土 粘性あり しまり非常に弱  
 2 暗褐色土 粘性あり しまり非常に弱  
 3 暗褐色土 粘性あり しまり非常に弱

S K 338  
 1 暗灰色土 粘性あり しまり面 木質多量  
 2 灰色土 砂質 粘性なし しまり弱  
 3 暗褐色土 粘性あり しまり弱 木質多量

S K 339 ~ 341  
 1 灰褐色土 灰色粘土ブロック多量 粘性あり しまり弱  
 木質少量  
 2 暗褐色土 灰色シルトブロック多量 粘性あり しまり弱  
 木質少量

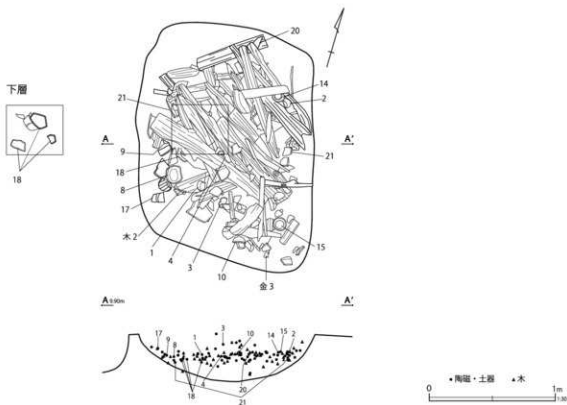
3 暗褐色土 炭化物 (0.5 mm) 微量 粘性あり しまりあり  
 4 灰褐色土 灰色粘土ブロック少量 粘性弱 しまりあり

S K 345  
 1 褐色土 シルト質 粘性強 しまり弱 木質微量  
 2 灰色土 粘土質 炭化物少量 しまり弱 木質微量  
 陶磁器片出土  
 3 暗褐色土 炭化粒子・褐色粒子少量

●陶磁・土器 ●金属・石・瓦  
 ●木 ●瓦・骨・貝

0 2m 100

第 456 図 区画 AB 土壇 (2)



第457図 第332号土壌遺物出土状況

重ね焼き痕が2箇所みられる。

32は常滑7型式の甕である。口縁端部は摩耗している。14世紀前半の所産である。

33は瓦質土器の十能である。側・下面は無調整の砂目である。把手の側・下面はヘラナデ調整である。

34は瓦質土器の火鉢である。表面はやや酸化焙焼成で橙色気味である。外面下位はケズリ調整が施される。柱状の脚部は3箇所のうち1箇所が遺存している。

35は瓦質土器の脚付火鉢である。輪高台状の脚部が付くと考えられる。外面上位、下位に薄い黒色塗布物がみられ、彩色されていたと考えられる。体部中位に菊花スタンプ文を施文後に一部ナデ消している。

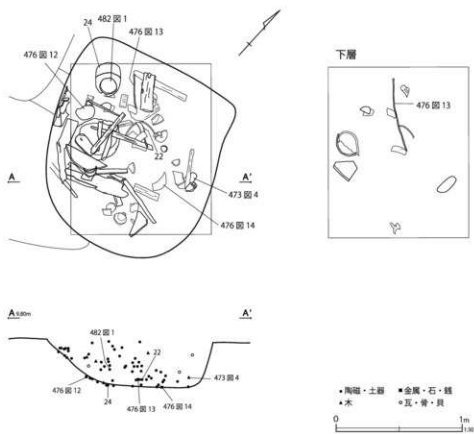
第452図37は瓦質土器の脚付火鉢である。輪高台状の脚部が付く、脚端部は反る。焼成前穿孔が2箇所みられる。体部下位はケズリ調整である。

体部上位、下位には薄い黒色塗布物がみられ、彩色されていたと考えられる。体部中位には赤彩が施された菊花状スタンプ文がみられる。内面に火箸傷、上位に煤が付着する。

38～42は江戸在地系土器である。いずれも胎土は粉質である。38は瓦質土器の筒形火鉢である。表面は燻しにより灰～黒色を呈する。口縁部、体部はミガキ調整で、スタンプ状の施文がみられる。39・40は土師質土器の火消臺の蓋と身である。39は上面に圧痕がみられる。40は無調整の砂目底で、内面下位に指頭痕、上位にナデ調整がみられる。41・42は土師質土器の丸底焙烙である。41は底部無調整のシワ状痕、42は砂目底である。42の内底面には斑状の煤が付着している。

第453図43は肥前系磁器の紅環である。型成形で、外面上位から内面にかけて施軸されている。

44は土製品の人形である。前後合わせの



第458図 第333号土壌遺物出土状況

二枚型成形で、中空である。

49～53は漆碗である。外面に家紋が描かれ、52のみ外面全周に文様が描かれる。54～56は漆碗蓋である。49・50の漆碗と54の蓋は同じ家紋が描かれる。59は傘の手元ロクロである。上下に線状の装飾が刻まれ、黒漆が塗られる。60・61は不明品だが、栗橋宿跡で一定数出土している。直径2.8cmで小形である。62は陰卵下駄である。台の表面には「卍」の焼印が見られる。63は木槌である。柄に対して頭部が傾いて付けられている。柄は厚さ1.0cmと薄い。断面形は長方形である。頭部の右側面は平坦で、左側面はやや丸みを帯びる。

第455図64・65は銅製煙管で、64は雁首、65は吸口である。66は引出の銅製把手である。67は鉄製把手で、鍋の釣り手状把手の可能性もある。

75は粘板岩製の砥石である。左側面に彫刻刀

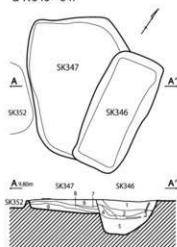
と推定される刃幅0.3cmの深い工具痕がみられる。工具痕の底面にはキャタピラ状の僅かな凹凸がみられる。表面側にはケガキ線がみられ、砥石を硯に転用するために、二次加工を施したと推定される。側面には線条痕がみられる。

**第332号土壌** (第456・457・462・463・472・473・476・478・480・481図)

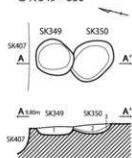
F7-C5・6グリッドに位置する。第345・372・404号土壌と重複する。平面形は隅丸長方形で、長軸1.8m、短軸1.36m、深さ0.35mを測る。長軸方位はN-17°-Wを指す。

覆土は粘土質で、木材等の木質を多量に含む。出土遺物は一定量みられる。陶磁器類は肥前系磁器を主体とし、瀬戸美濃系磁器がみられない。肥前系磁器の大振りの八角鉢(第462図8)、景德鎮窯系磁器碗(同6)が最新期である。推定廃絶期は19世紀前葉、具体的には19世紀第1四半期

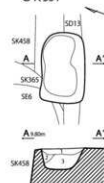
S K 346・347



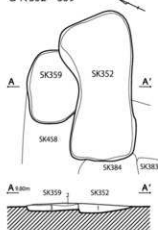
S K 349・350



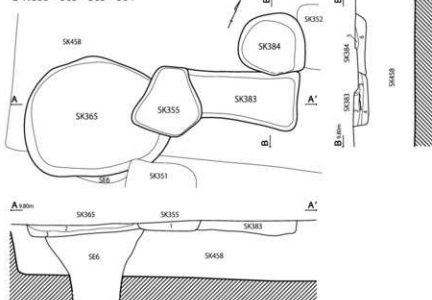
S K 351



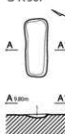
S K 352・359



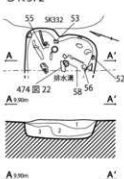
S K 355・365・383・384



S K 367



S K 372



S K 346・347

- 1 灰色土 シルト質 粘性あり 木材を含む
- 2 灰褐色土 シルト質 粘性あり 木質・粘粒多量
- 3 暗灰色土 粘土質 木片・木質多量
- 4 黄灰色土 粘土質 木質微量
- 5 暗灰色土 粘土質 木質多量(葉や茎が多い)
- 6 灰黄褐色土 灰褐色砂質土含む
- 7 黒褐色土 粘物質多量
- 8 灰褐色土 砂質 しまり強
- 9 灰黄褐色土 粘土質

S K 349・350

- 1 暗褐色土 粘性あり しまり弱
- 2 暗灰色土 粘性あり しまりやや弱
- 3 暗褐色土 粘性あり しまり弱

S K 351

- 1 褐色土 砂質 しまり弱 木質を含む
- 2 灰色土 粘質土微量 しまりあり
- 3 木質層 木材・木質で構成されている

S K 352・359

- 1 木質層 木質・木製品で構成された層
- 2 褐色土 粘土質 しまりなし 木質多量
- 3 灰黄色土 シルト質 粘性強 しまり弱

S K 355・365

- 1 灰褐色土 砂質 しまり弱 木材を多量に含み、ほぼ木材・木質で構成されている
- 2 灰色土 砂質 しまり弱 含有物なし
- 3 暗灰色土 シルト質 粘性強

S K 383・384

- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子微量 やや砂質
- 2 灰黄褐色土 シルト質
- 3 灰色土 シルト質
- 4 灰褐色土 シルト質 粘性強 しまり弱 木質微量
- 5 灰褐色土 やや砂質
- 6 暗灰色土 砂質

S K 367

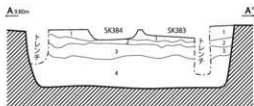
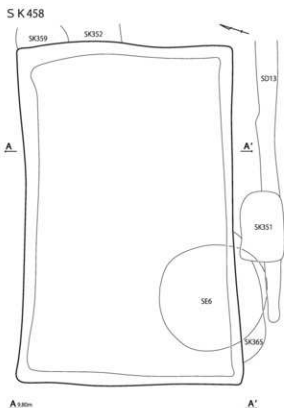
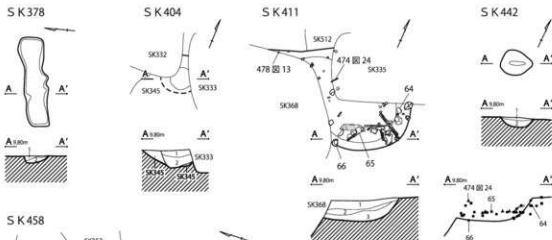
- 1 暗褐色土 シルト質 粘性弱 しまり弱

S K 372

- 1 黒色土 シルト質 粘性弱 しまり弱 木質・木片多量
- 2 黒灰色土 シルト質 粘性弱 しまり弱 木片を含む
- 3 暗褐色土 シルト質 粘性あり



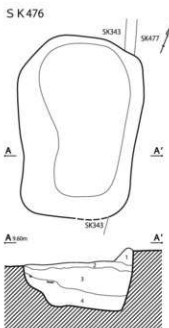
第459図 区画AB土壌(3)



S K 378  
1 灰褐色土 砂質  
2 黒褐色土 植物質多量

S K 404  
1 褐色土 砂質 粘性なし しまりやや弱 炭化物粒子・木質微量  
瓦・陶磁器片出土  
2 灰褐色土 シルト質 粘性強 しまりやや弱 炭化物粒子微量  
瓦・陶磁器片出土

S K 411  
1 灰褐色土 砂質 パウダー状 粘性弱 しまりあり 木質微量  
2 褐色土 粘土質 粘性強 しまり弱 木質主体層  
3 灰褐色土 シルト質 粘性強 しまり弱 木質・炭化物粒子  
陶磁器片出土



S K 442  
1 黒褐色砂 黒褐色土・褐色砂粒子少量  
2 黒褐色土 黒褐色砂粒・暗褐色土少量

S K 458  
1 暗褐色土 粘土質 褐色粒子・白色粒子少量  
2 暗褐色土 砂質 黒褐色土ブロック多量  
3 暗褐色砂 褐色粒子少量 白色粒子多量 ラミナ構造  
4 暗褐色砂 褐色粒子・白色粒子少量

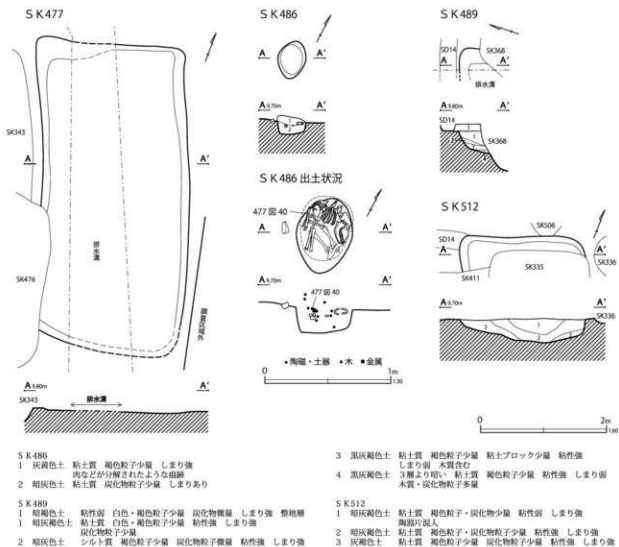
S K 476  
1 暗褐色粘土 褐色粒子少量 しまり強  
2 暗褐色砂 褐色粒子・白色粒子少量 粘土ブロック(小)多量  
3 暗褐色土 褐色粒子・白色粒子 粘土ブロック少量  
4 黒褐色粘土 褐色粒子・白色粒子少量 有機物多量  
中〜弱食し臭気あり

●陶磁・土器 ●金属・石・鉄  
▲木



第 460 図 区画 AB 土壇 (4)





第461図 区画AB土壌(5)

と考えられる。

第462図、第463図19～21に陶磁器類、第472図1・2に瓦、第473図1・2に木製品、第476図1～4に金属製品、第478図1～7に銭貨、第480図1・2に石製品、第481図1に硝子製品を图示した。

第462図5は肥前系磁器の筒形碗である。体部中位に鉄軸が帯状に施軸され、上・下位に楕歯状工具による糸目が施される。底部は欠失しているが、蛇ノ目高台と考えられる。栗橋宿では18世紀末～19世紀初頭の遺構を中心にみられる。

6は清朝景德鎮窯系磁器の碗である。細い線で丁寧な染付が施されている。高台内の銘鑑は

「嘉慶年製」である。嘉慶帝の在位期間は1796～1820年である。口縁部は薄作りで、体部から口縁部にかけて直線的に立ち上がる。

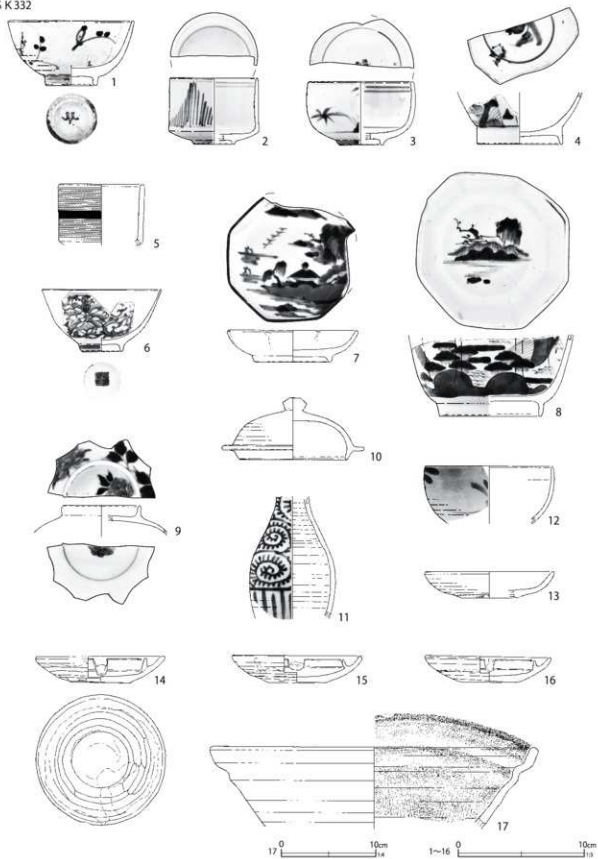
8は肥前系磁器の八角鉢である。底部は輪高台で、大振りである。19世紀前葉の所産で、最新期の陶磁器である。

11は肥前系磁器の鶴首形御神酒徳利である。外面は蛸唐草文染付がみられる。

14は瀬戸美濃系陶器の灯明皿である。柿軸が施軸された油受皿で、外面下位から底部にかけて軸が拭き取られている。体部下位は灯明皿では稀な手持ちヘラケズリによる調整が施される。

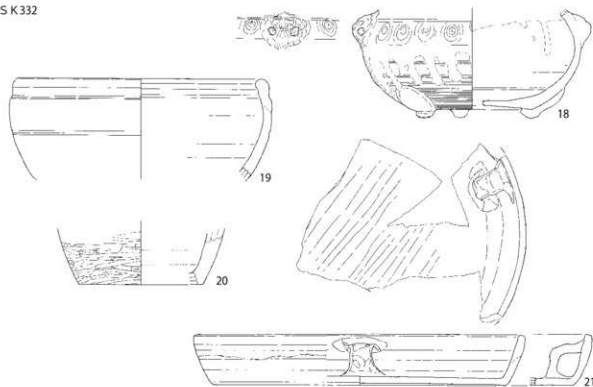
第463図18は瀬戸美濃系陶器の瓶掛である。外

S K 332

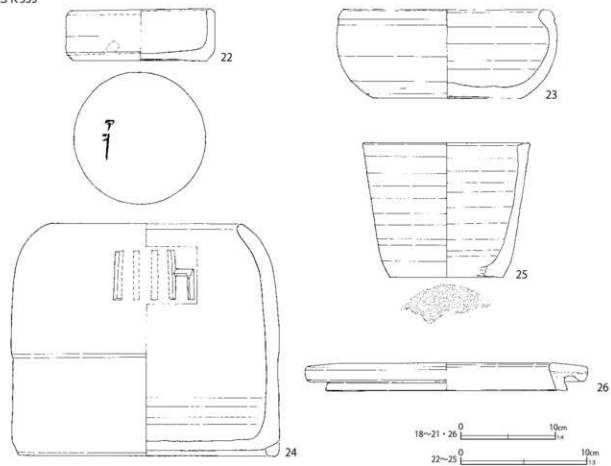


第 462 图 区画 AB 土坑出土器物 (1)

SK332

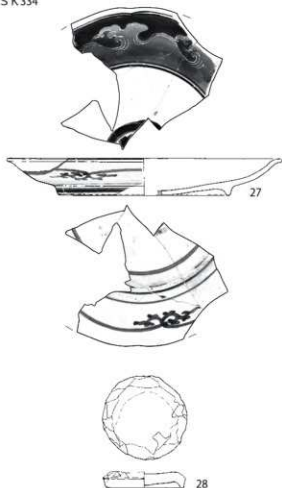


SK333

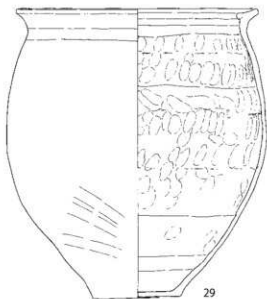


第463图 区画AB土坑出土遗物(2)

SK334



SK337



第464図 区画AB土壇出土遺物(3)

面上位はスタンプ文が施文され、2箇所に獣面が付く。緑軸が流し掛けられている。外面下位には糸目状沈線がみられ、柿軸が施軸される。内面上位には使用痕と考えられる煤が付着する。底部には二次穿孔が施され、植木鉢に転用したと考えられる。

20は瓦質土器の火消壺である。外面はケズリ調整後に、ミガキを行っている。

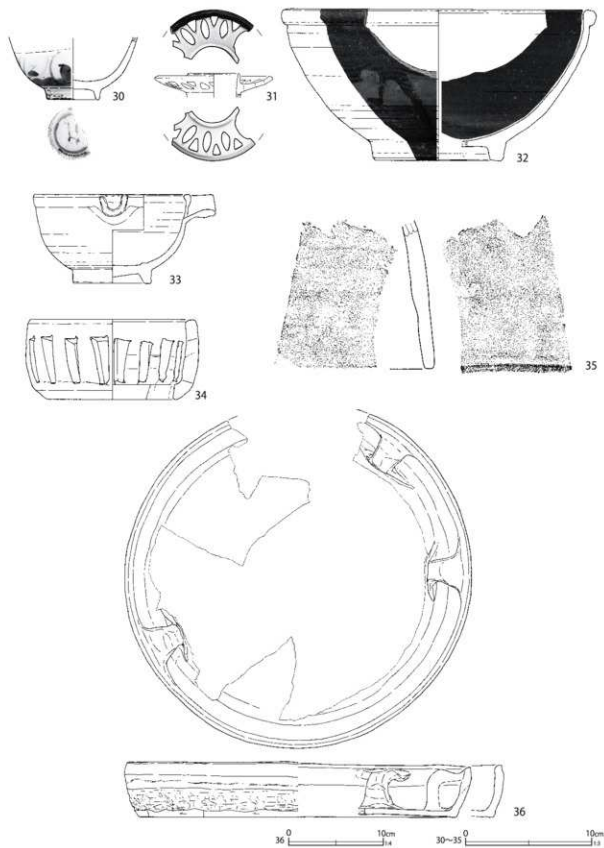
21は瓦質土器の平底焙烙である。底部は無調整の砂目底で、体部下位はケズリ調整が施される。内底面には、同一方向に平行するナデがみられ、ミガキ状の光沢がみえる。内耳は1箇所遺存し、逆「L」字状に付く。

第472図1は軒棧瓦である。渦巻唐草文で、中心弁は七枚である。胎土は緻密且つ極めて硬質で、瓦当面の裏に指頭痕がみられる。2は鬼瓦である。強く銀化し、光沢がみられる。内面は工具ナデがみられ、焼成前穿孔が1箇所遺存する。

第473図1は漆椀の蓋である。赤漆が塗布され、つまみは端部は黒漆である。つまみ内に墨書「万」がみえる。2は墨書が書かれた木製板で、「一口御こんれ(い)/[中丁 回堀]/[扱右]」と読める。意味するところは不明である。

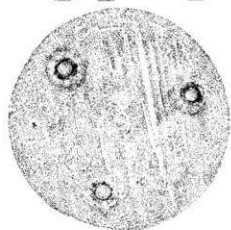
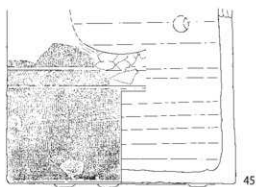
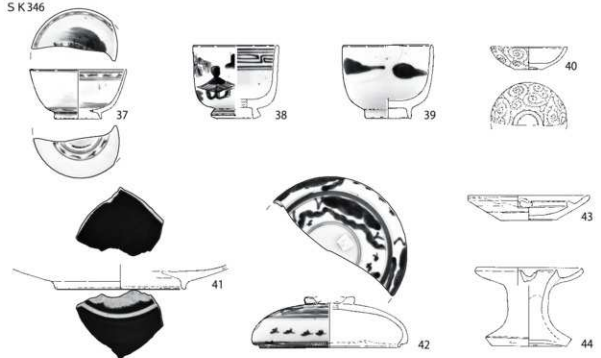
第476図1は銅製煙管の吸口、2は孔がみられる薄い銅板である。何らかの金具と思われる。3・4は鉄製の火格子である。

S K 345



第 465 图 区画 AB 土坑出土遗物 (4)

S K 346



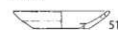
S K 347



S K 352

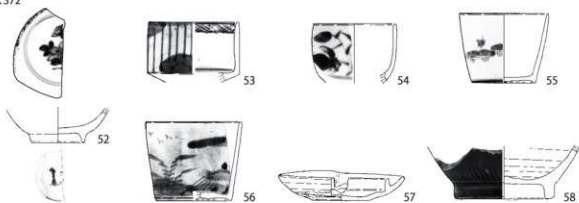


S K 365

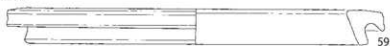


第 486 图 区画 AB 土坑出土遗物 (5)

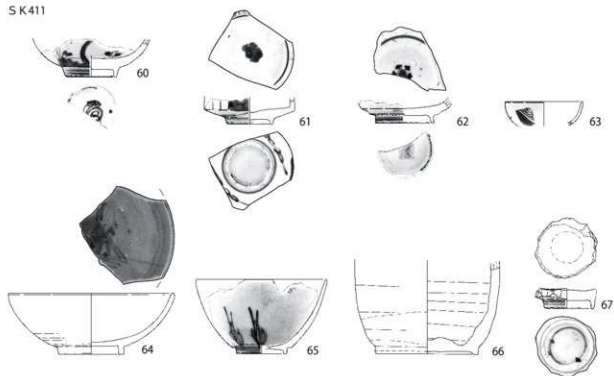
S K 372



S K 383



S K 411



S K 458



59 0 10cm 1:4

52~58・60~69 0 10cm 1:1

第 467 图 区画 AB 土坑出土遗物 (6)

S K 476



70



71



72



73



74



75



S K 477



76



77



78



79



80



81



第468図 区画AB土壇出土遺物(7)

第478図1～6は銅製、7は鉄製の新寛永通寶である。1は背面11波の四文銭である。

第480図1はホルンフェルス製の砥石である。裏面に線条痕がみられ、側面に工具による削り痕がみられる。2はホルンフェルス製の砥石である。大型の置砥石で、側面に密なノコギリ状工具痕が遺存する。側面には刃幅の広い工具による成形痕がみられる。

第481図1は硝子製の筭と推定される。螺旋状に成形されており、透明で中実である。

第411号土壇(第460・467・474・478・480図)

F7-B・C5グリッドに位置する。第335・368号土壇より古く、第512号土壇と重複する。

平面形は重複で壊されているため、不明である。検出長軸2.3m、短軸1.05m、深さ0.3mを測り、長軸方位はN-65°-Eを指す。

先に述べた第368号土壇より古いため、天明三年以前の遺構である。覆土は下層は木質と炭化物を含むシルト質土で、中層は木質層である。上層はパウダー状の砂質土である。出土遺物は一定量みられ、京都信楽系陶器の小杉碗(第467図65)、朝顔形に開口する碗(同62)が最新期の陶磁器である。推定廃絶期は18世紀後葉である。

第467図60～67に陶磁器、第474図24に木製品、第478図12・13に銭貨、第480図11に石製品

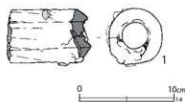


第126表 区画AB土壇出土遺物観察表(1) (第462~468図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	(9.8)	5.1	4.0	—	50	良好	白	SK332	肥前系 内外面施釉 外面染付 No.6	
2	磁器	碗	(6.8)	5.2	(3.2)	—	30	良好	白	SK332	肥前系 内外面施釉・染付 No.3	
3	磁器	碗	(8.1)	5.0	(3.3)	—	30	良好	白	SK332	肥前系 内外面施釉・染付 No.8	
4	磁器	碗	—	[4.1]	(6.6)	—	10	良好	白	SK332	肥前系 内外面施釉・染付 No.16	
5	磁器	碗	(6.6)	[4.8]	—	—	10	良好	白	SK332	肥前系 内外面施釉 口紅 体部中位鉄輪帯状	
6	磁器	碗	(9.7)	4.9	3.1	—	30	良好	白	SK332	清朝景德鎮窯系 内外面施釉・染付	81-9
7	磁器	皿	10.0	2.5	5.9	—	90	良好	白	SK332	肥前系 内外面施釉 内面染付 口紅	
8	磁器	鉢	—	[6.4]	7.8	—	10	良好	白	SK332	肥前系 内外面施釉・染付 No.4	
9	磁器	蓋	(6.0)	[2.3]	—	—	15	良好	白	SK332	肥前系 内外面施釉・染付 No.22	
10	磁器	蓋	—	4.9	8.4	—	40	良好	白	SK332	肥前系 内外面施釉 No.11 最大径 11.2 cm	
11	磁器	徳利	—	[9.7]	—	—	20	良好	白	SK332	肥前系 内外面施釉・染付	
12	陶器	碗	(10.0)	[4.5]	—	—	5	良好	灰白	SK332	京都信楽系 胎土磁質 内外面施釉 外面色絵(緑)	
13	陶器	灯明皿	(10.0)	2.1	(4.4)	IK	20	良好	灰白	SK332	瀬戸美濃系 内外面施釉 底部・内面重焼痕	
14	陶器	灯明皿	10.0	2.1	4.6	K	95	良好	灰白	SK332	瀬戸美濃系内外面施釉 体部下位・底部拭き取り No.2	
15	陶器	灯明皿	10.0	2.1	4.6	IK	95	良好	黄灰	SK332	瀬戸美濃系内外面施釉 体部下位・底部拭き取り 体部下位輪状重焼痕(径6.9 cm) No.12	
16	陶器	灯明皿	9.8	2.0	4.3	IK	95	良好	黄灰	SK332	瀬戸美濃系内外面施釉 体部下位・底部拭き取り 体部下位輪状重焼痕(径7.3 cm)	
17	陶器	播鉢	(34.0)	[8.6]	—	EIK	20	良好	灰白	SK332	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面黒目 12条ノ単位 No.5 SK404と接合	
18	陶器	瓶掛	—	[11.5]	12.6	EIK	70	普通	灰白	SK332	瀬戸美濃系 外面上位スタンプ伏座文 緑釉施し 掛け 外面下位施釉 内面上位煤付着 底部二次穿孔 No.20・21・31・32	81-8
19	瓦質土器	火鉢	(25.0)	[10.8]	—	CHIK	20	普通	灰白	SK332	やや酸化焼成	
20	瓦質土器	火消壺	—	[6.7]	(13.0)	CIK	5	普通	灰白	SK332	体部ケズリ後ミガキ 燻す 胎土中心灰色 No.30	
21	瓦質土器	焙烙	(33.9)	5.4	(30.5)	CHIK	25	普通	にぶい・黄褐色	SK332	砂目底 体部下位ケズリ 内底面同一方向のナゲ(ミガキ状形状) 被熱 No.25・28	
22	陶器	蓋物	10.8	4.1	10.4	IK	90	普通	灰白	SK333	内外面施釉 底部墨書 No.10 SK332 No.3と接合	86-9
23	瓦質土器	火鉢	15.5	[7.0]	11.6	CHI	80	普通	灰白	SK333	体部下位ケズリ 燻す 脚欠失3(欠失部二次加工) 被熱(剥落著しい) 口縁部敲打痕	
24	瓦質土器	火鉢	(15.0)	18.3	20.5	AI	95	良好	黄灰	SK333	胎土煤質 外面上位ミガキ 高台挟り2あり スリットは推定 口縁部一部敲打痕 No.16	81-10
25	瓦質土器	植木鉢	(13.0)	10.6	(9.0)	AEIK	30	普通	褐色	SK333	江戸在地系 底部糸切痕 燻す	
26	瓦質土器	甕罍	(22.4)	2.9	25.6	I	20	普通	にぶい・黄褐色	SK333	被熱・煤付着 欠失部に切断痕あり	
27	磁器	皿	(21.3)	2.9	(13.4)	—	20	普通	白	SK334	肥前系 内外面施釉・染付 No.8	
28	陶器	皿	縦 6.6 横 6.7	1.5	6.1	EK	—	普通	灰白	SK334	瀬戸美濃系 内面灰釉 円盤状製品転用 No.4 重さ 53.2g	
29	陶器	甕	50.6	61.7	18.7	DEHIK	70	普通	にぶい・黄褐色	SK337	常滑系	
30	磁器	碗	—	[4.9]	4.0	—	30	普通	白	SK345	肥前系 内外面施釉 外面染付 No.7	
31	磁器	坏台	(4.0)	[1.9]	—	—	25	良好	白	SK345	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付・透影り	
32	陶器	片口鉢	(23.4)	11.9	(10.0)	EIK	20	普通	にぶい・黄褐色	SK345	肥前系 内外面刷毛目軸 外面下位鉄輪	
33	陶器	片口鉢	12.2	7.0	6.0	IK	70	普通	灰白	SK345	瀬戸美濃系 内外面灰釉 内面目跡3あり 被熱 No.1	
34	瓦質土器	器台	(12.6)	6.3	(10.0)	CHIK	20	普通	灰白	SK345	やや酸化焼成 透影り 5遺存	
35	土質土器	瓦甕	—	[11.7]	—	AHIK	5	普通	にぶい・黄褐色	SK345	江戸在地系 胎土粉質 中心部褐色	
36	瓦質土器	焙烙	36.1	5.8	33.4	CIK	50	普通	灰白	SK345	底部シワ状痕 体部下位ケズリ 胎土中心黒褐色 体部煤付着 No.4	
37	磁器	坏	(7.7)	3.9	(3.6)	—	40	良好	白	SK346	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
38	磁器	碗	(6.6)	5.8	(3.0)	—	40	普通	白	SK346	肥前系 内外面施釉・染付	
39	磁器	碗	(6.9)	5.8	3.4	—	70	良好	白	SK346	瀬戸美濃系 内外面灰釉 外面陰刻文・染付	
40	磁器	紅皿	(6.0)	1.8	2.0	—	50	良好	白	SK346	肥前系 型成形 外面陽刻文 内外面施釉	
41	磁器	皿	—	[1.9]	(10.0)	—	10	良好	白	SK346	肥前系 内外面瑠璃輪 底部二次利用(打欠)	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
42	磁器	蓋	—	4.0	(11.0)	—	50	良好	白	SK346	肥前系 内外面施釉 外面染付 最大径 12.2 cm	
43	陶器	灯明皿	9.4	2.0	4.5	IK	100	普通	黄灰	SK346	瀬戸美濃系 内外面施釉 体部下位・底部軸拭き取り 体部中位輪状重燒痕(径 6.6 cm)	
44	陶器	灯火具	(8.3)	6.2	5.9	I	90	良好	灰白	SK346	京都信楽系 内外面施釉	
45	瓦質土器	火鉢	—	[14.1]	17.8	AI	60	普通	灰白	SK346	江戸在地区 底部状圧痕 窓部・体部中位ミガキ 外面トピカンナ状傷痕 雄子 焼成前穿孔 2遺存 胎土中心暗灰色	
46	陶器	皿か	縦 3.7 横 4.2	[1.2]	3.0	K	—	普通	白	SK346	胎土微塵・積質 内外面施釉 内面呉須絵 円盤状製品転用(底部) 重さ 17.2g	
47	磁器	段重	—	[1.9]	6.5	—	20	良好	白	SK347	肥前系 内外面施釉 外面染付・色絵(赤)	
48	陶器	土瓶	—	[7.7]	(6.4)	K	10	普通	灰白	SK347	大塚相馬系 外面輪白釉 内面下位施釉(薄掛け) 外面露胎部黒化	84-3
49	磁器	蓋	(4.6)	3.6	(10.8)	—	50	良好	白	SK352	肥前系 内外面施釉・染付	
50	陶器	碗	(8.6)	4.7	2.5	K	50	良好	灰白	SK352	京都信楽系 胎土微質 内外面施釉 SK352と接合	
51	かわらけ	小皿	(7.5)	1.4	(4.4)	AHK	15	普通	にぶ・黄	SK365	江戸在地区 胎土粉質 体部二次穿孔 1あり	
52	磁器	碗	—	[2.7]	(4.0)	—	15	良好	白	SK372	肥前系 外面青磁釉 内面・高台内施釉・染付 破断面に付着物 No.4	
53	磁器	碗	(7.0)	[4.7]	—	—	20	普通	白	SK372	肥前系 内外面施釉・染付 No.8	
54	磁器	碗	(6.4)	[4.7]	—	—	10	良好	白	SK372	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付	
55	磁器	窪口	6.9	5.5	4.8	—	60	良好	白	SK372	肥前系 内外面施釉 外面染付 No.9	
56	磁器	窪口	(7.4)	6.2	(5.9)	—	30	普通	白	SK372	肥前系 内外面施釉・染付 口紅 蛇ノ目目形高台 煤付着 No.1	
57	陶器	灯明皿	9.8	2.4	4.4	K	95	良好	にぶ・黄	SK372	瀬戸美濃系 内外面施釉 体部下位・底部軸拭き取り 体部中位輪状重燒痕(径 6.9 cm)	
58	陶器	瓶類	—	[4.2]	7.5	K	15	良好	灰白	SK372	大塚相馬系 内面化白釉 外面鉄釉 カンナケズリ痕 内面輪白釉 外面鉄釉 畳付胎土付着 被熱・煤付着 No.5	
59	瓦質土器	壺罎	34.0	3.8	35.0	OHK	95	普通	浅澄	SK383	雄子 煤付着 SK355と接合	
60	磁器	碗	—	[3.0]	(4.0)	—	10	良好	白	SK411	肥前系 内外面施釉 外面染付	
61	磁器	碗	—	[2.2]	3.5	—	10	普通	白	SK411	肥前系 内外面施釉・染付	
62	磁器	碗	—	[2.0]	4.5	—	10	良好	白	SK411	肥前系 内外面施釉(外面青磁釉気味)・染付	
63	磁器	坏	(6.1)	[1.9]	—	—	10	良好	白	SK411	肥前系 内外面施釉 外面色絵(赤)	
64	陶器	碗	(12.8)	4.8	(4.4)	I	20	良好	灰白	SK411	京都信楽系 胎土微質・光沢 内外面施釉 内面鉄絵 No.1	
65	陶器	碗	(10.3)	5.9	(3.9)	K	35	良好	灰白	SK411	京都信楽系 胎土光沢 内外面施釉 外面鉄・呉須絵 No.6	
66	陶器	德利	—	[7.4]	7.8	EK	10	普通	灰白	SK411	瀬戸美濃系 外面尾呂輪 体部下位・高台内軸拭き取り No.8	
67	磁器	碗	縦 4.7 横 4.8	1.6	3.8	—	—	普通	白	SK411	肥前系 内外面施釉 外面染付 円盤状製品転用(底部) 重さ 34.7g	
68	磁器	碗	9.6	5.2	3.8	—	50	良好	白	SK458	肥前系 内外面施釉 外面コンニャク印判染付	
69	陶器	碗	9.7	6.8	4.8	IK	70	良好	灰白	SK458	瀬戸美濃系 内外面灰輪 外面呉須絵	
70	磁器	碗	(10.0)	[4.9]	—	—	10	普通	白	SK476	肥前系 内外面施釉 外面染付	
71	磁器	碗	(10.4)	[4.4]	—	—	5	普通	白	SK476	肥前系 内外面施釉 口紅	
72	陶器	坏	7.2	2.9	3.8	I	80	普通	灰白	SK476	瀬戸美濃系 内外面・高台内鉄輪 被熱	
73	かわらけ	小皿	(7.8)	1.2	4.0	AHK	50	普通	灰黄	SK476	江戸在地区 底部糸切痕(左) 胎土粉質 底部墨痕	87-9
74	かわらけ	小皿	—	[1.1]	4.5	AH	20	普通	にぶ・黄	SK476	江戸在地区 底部糸切痕(左) 胎土粉質 内外面墨書	87-11
75	かわらけ	小皿	—	[0.5]	(4.6)	AIK	15	普通	灰白	SK476	江戸在地区 底部糸切痕(左) 胎土粉質 底部墨痕	87-10
76	磁器	碗	6.8	6.3	3.5	—	95	普通	白	SK477	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付	
77	磁器	碗	6.9	6.2	3.6	—	95	良好	白	SK477	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付	
78	磁器	坏	—	[1.3]	(2.8)	—	15	良好	白	SK477	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面上絵付(青)	
79	陶器	灯明皿	—	[1.6]	5.4	K	5	良好	灰白	SK477	大塚相馬系 内面鉄輪 体部下位重燒痕	
80	陶器	蓋	—	2.3	5.2	EK	100	普通	にぶ・黄	SK477	松岡系 上面海鼠輪 最大径 7.5 cm	86-4
81	陶器	蓋	7.5	1.7	2.4	K	60	普通	灰白	SK477	底部難し糸切痕 上面灰輪(一部白土染付)	

S K 345



第 469 図 区画 AB 土壇出土遺物 (8)

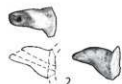
第 127 表 区画 AB 土壇出土遺物観察表 (2) (第 469 図)

番号	種別	器種	長さ	口側径		輪側径		重量	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
				外径	内径	外径	内径							
1	土製品	羽口	8.8	—	2.7	—	2.9	231.3	HI	普通	灰白	SK345	瓦質 ナデ状調整	

S K 346



S K 334



S K 336



S K 346



第 470 図 区画 AB 土壇出土遺物 (9)

第 128 表 区画 AB 土壇出土遺物観察表 (3) (第 470 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	重量	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	紅环	2.0	1.1	0.9	3.6	—	良好	白	SK346	肥前系 型成形 内外面施軸	
2	土製品	ミニチュア	—	[1.7]	—	2.8	K	普通	灰白	SK334	京都系 土甌注口部 手捻り 外面施軸・縁軸	
3	磁器	ミニチュア	2.2	1.4	0.6	4.0	—	普通	白	SK336	肥前系 碗 型成形カ 内外面施軸	
4	土製品	ミニチュア	—	0.7	—	4.3	AIM	良好	白・黄緑	SK346	型成形 内面陰刻文 雲母付着	

S K 334



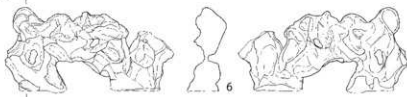
S K 337



S K 346



S K 359



第 471 図 区画 AB 土壇出土遺物 (10)

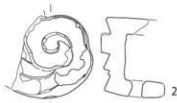
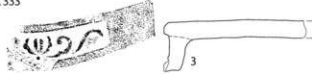
第129表 区画AB土壌出土遺物観察表(4)(第471図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	土製品	泥面子	径2.3	1.0	6.7	AIK	普通	にぶい橙	SK334	江戸在地系 型成形 雲母付着	122-12	
2	土製品	泥面子	径2.3	0.9	5.5	AHK	普通	橙	SK334	江戸在地系 型成形 雲母付着	122-12	
3	土製品	泥面子	径2.4	1.1	7.0	ACHK	普通	にぶい橙	SK337	型成形 雲母付着 No.11	122-12	
4	土製品	泥面子	径2.4	1.0	6.6	AHK	良好	橙	SK337	江戸在地系 型成形 雲母付着 No.10	122-12	
5	土製品	泥面子	径2.3	1.0	6.5	AK	良好	橙	SK346	江戸在地系 型成形 雲母付着	122-12	
6	瓦質土器	箱庭道具	幅13.1 高さ[6.6]		143.8	CIK	普通	灰白	SK359	手捻り成形 燻す 仕切り盤の仕切り		

S K 332



S K 333



S K 383



第472図 区画AB土壌出土遺物(11)

第130表 区画AB土壌出土遺物観察表(5)(第472図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	瓦	軒棧瓦	[5.8]	[14.4]	[1.8]	[6.6]	-	AI	普通	灰	SK332	胎土極硬質 瓦当裏面指頭痕 燻す	125-3
2	瓦	鬼瓦	[13.1]	[12.9]	3.8	10.1	-	AIK	普通	灰	SK332	内面工具ナゲ 焼成前穿孔1あり 燻す 強く銀化	125-4
3	瓦	軒棧瓦	[15.1]	[16.1]	[1.9]	[7.4]	-	ACIK	普通	灰	SK333	燻す 雲母付着	125-5
4	瓦	軒棧瓦	[2.9]	[9.7]	-	[3.4]	-	ACIK	普通	灰白	SK345	胎土砂質 燻す 摩耗	
5	瓦	軒棧瓦	[3.4]	[7.3]	-	[6.9]	-	AIK	普通	灰	SK346	八連珠右巻三巴文 燻す 強く銀化	
6	瓦	軒棧瓦	[5.2]	[9.2]	[1.8]	[5.3]	-	EK	普通	灰白	SK383	江戸式カ 燻す 強く銀化	
7	瓦	棧瓦	[10.8]	[11.4]	1.8	[2.2]	-	AK	普通	灰白	SK477	燻す 雲母付着	

を図示した。

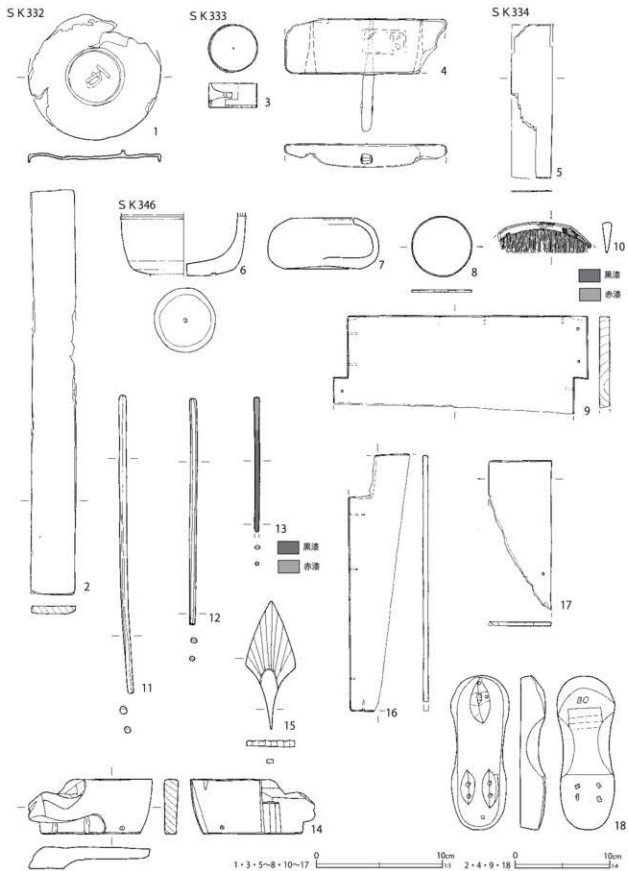
第467図611は肥前系磁器の筒形碗である。内底面の五弁花文染付は崩れてはつきりしない。62は肥前系磁器の朝顔形に開口する碗である。外面は青磁釉気味で、内底面の五弁花文染付がみられる。

65は京都信楽系陶器の小杉碗である。大振りで、外面に鉄・貝須絵がみられる。胎土は磁質で光沢がみられる。初現期の製品と考えられる。

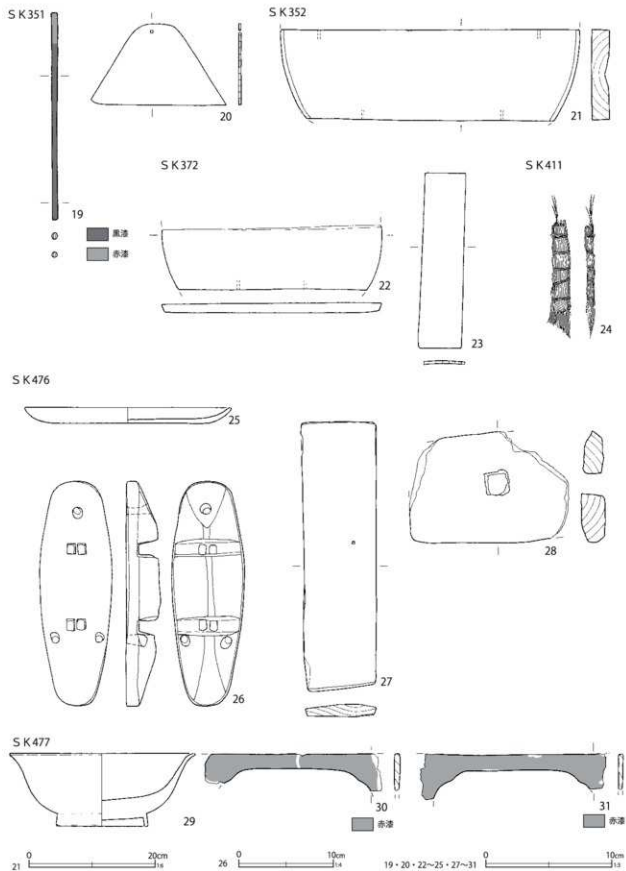
67は底部周囲を打ち欠いて円盤状に二次加工を施した肥前系磁器の碗で、いわゆる円盤状製品である。内底面に見込み蛇ノ目軸刺ぎがみられ、外面は染付が施される。栗橋宿では18世紀の遺構を中心に出土する傾向にある。

第478図12は銅製の古寛永通寶、13は銅製の新寛永通寶である。

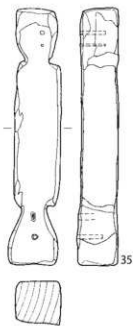
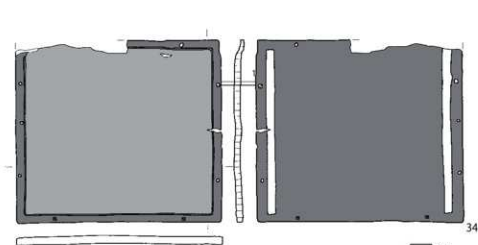
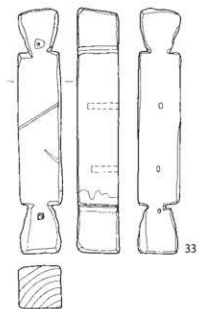
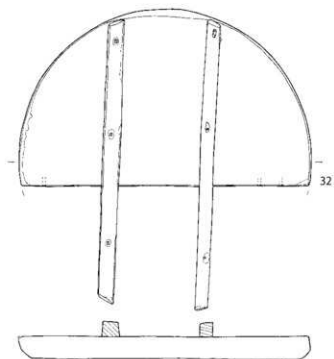
第480図11は白色の流紋岩製砥石である。表面、左側面にノコギリ状工具痕がみられ、裏面に



第473图 区画AB土坑出土遗物(12)



第474图 区画AB土坑出土遗物(13)



0 10cm  
33~35 1/3

0 10cm  
32 1/4

第 475 图 区画 AB 土坑出土遗物 (14)

第131表 区画AB土壌出土遺物観察表(6)(第473~475図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	木取り	遺構	備考	図版
1	木製品	漆桶蓋	[13.3]	14.0	—	—	[1.3]	—	横木取り	SK332	内外面赤漆 つまみ縁黒漆 つまみ内「万」 蓋み大	
2	木製品	板	42.8	4.7	0.8	—	—	—	板目	SK332	表面黒書 №23	
3	木製品	曲物	—	—	0.2	3.8	2.1	—	板目	SK333	底面・側面に黒書 底板中央に木釘	149-2
4	木製品	馬鍔	—	17.2	[2.5]	—	—	—	板目	SK333	焼印 鉄刀 №29	
5	木製品	経木	12.1	3.2	0.1	—	—	—	経目	SK334	表面黒書 №9	149-3
6	木製品	漆筒	—	—	—	—	[5.0]	—	横木取り	SK346	内外面黒漆 高台内に赤漆で文字	
7	木製品	葦筒	—	—	—	5.0	4.0	5.8	横木取り	SK346		130-13
8	木製品	曲物	—	—	0.2	4.7	—	—	経目	SK346	表面黒書	150-4
9	木製品	箆	[10.3]	27.0	1.1	—	—	—	板目	SK346	側板 表面黒書 木釘10	150-1
10	木製品	櫛	[7.3]	2.4	0.7	—	—	—	板目	SK346	表・側面赤漆 黒漆で文様(裏面漆剥がれ)	
11	木製品	箸	23.6	0.6	0.6	—	—	—	削出し	SK346		
12	木製品	箸	17.9	0.5	0.4	—	—	—	削出し	SK346		
13	木製品	漆箸	[10.6]	0.4	0.3	—	—	—	削出丸棒	SK346	上部赤漆 下部黒漆	
14	木製品	獅子頭	4.3	9.8	1.7	—	—	—	板目	SK346	孔1 裏面釘痕跡	
15	木製品	神酒口	10.1	3.9	0.5	—	—	—	経目	SK346		
16	木製品	板	20.2	[5.1]	0.4	—	—	—	板目	SK346	表面黒書 釘孔3	150-2
17	木製品	木札	[11.7]	4.9	0.3	—	—	—	経目	SK346	表面黒書 孔1	150-3
18	木製品	下駄	16.3	6.1	—	—	2.5	—	板目	SK346	無眼下駄	
19	木製品	漆箸	16.3	0.5	0.5	—	—	—	削出丸棒	SK351	上部赤漆 下部黒漆	
20	木製品	板	6.4	10.7	2.0	—	—	—	経目	SK351	釘穴1 赤色塗料	
21	木製品	櫛	14.5	48.2	2.9	—	—	—	板目	SK352	表面黒書 木釘残存	152-14
22	木製品	曲物	—	—	—	17.4	0.8	—	板目	SK372	裏面黒書 木釘2 №12	150-8
23	木製品	木札	13.9	3.5	0.2	—	—	—	経目	SK372	表面黒書	150-9
24	木製品	刷毛	9.4	1.7	0.7	—	—	—	—	SK411	シユロ 銅線5段 №22	
25	木製品	漆皿	—	—	—	(16.4)	1.2	—	横木取り	SK476	内外面黒漆	132-1
26	木製品	下駄	23.8	7.7	—	—	[3.7]	—	板目	SK476	露明下駄	
27	木製品	木札	21.0	5.8	0.9	—	—	—	板目	SK476	表面黒書 [□]	151-10
28	木製品	不明品	8.8	12.6	1.9	—	—	—	板目	SK476	炭化	
29	木製品	漆鉢	—	—	—	14.4	5.7	7.2	横木取り	SK477	内外面赤漆 口縁・高台縁・高台内黒漆	132-2
30	木製品	不明品	[3.0]	[14.0]	0.4	—	—	—	板目	SK477	表面赤漆 裏面黒漆	
31	木製品	不明品	[14.8]	[3.7]	0.3	—	—	—	板目	SK477	表面赤漆 裏面黒漆	
32	木製品	蓋	—	—	—	31.1	4.0	—	柄板目 蓋板目	SK477	表面黒書 鉄釘 木釘	152-17
33	木製品	不明品	19.5	3.7	3.4	—	—	—	板目	SK477	釘穴3	
34	木製品	膳	14.5	16.4	0.5	—	—	—	経目	SK477	表面赤漆 表面外周・側面・裏面黒漆	
35	木製品	不明品	20.5	4.0	3.3	—	—	—	板目	SK477	孔4	

は刃幅の広い工具痕が遺存する。

#### 第458号土壌(第460・467・480図)

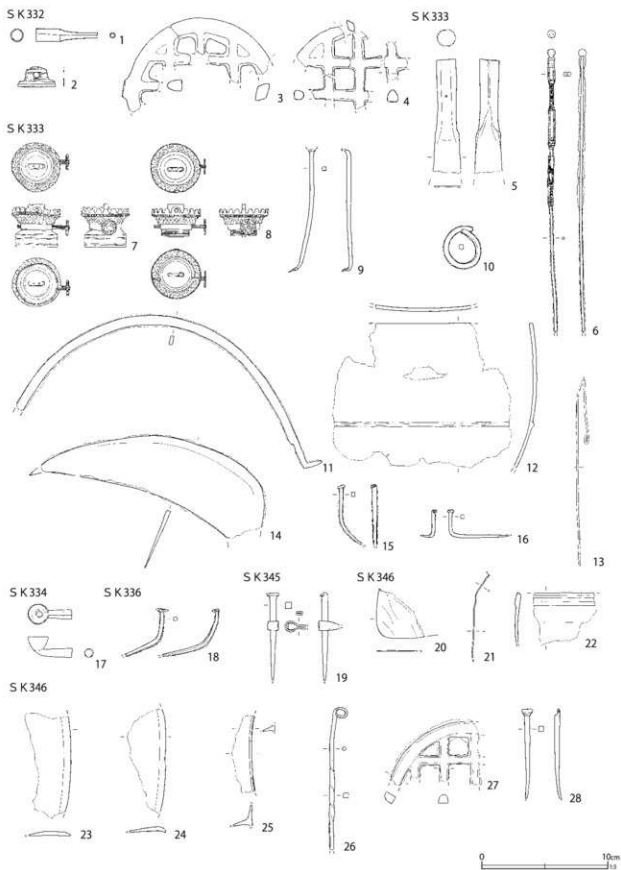
F7-B・C6グリッドに位置する。第6号井戸跡、第338・352・355・359・365・383・384号土壌より古い。平面形は長方形で、長軸5.5m、短軸3.5m、深さ0.8mを測る大型の土壌である。長軸方位はN-73°-Eを指す。

覆土の下層は褐色・白色粒子を含む砂が厚く堆積している。上層は砂質土と粘土質土である。

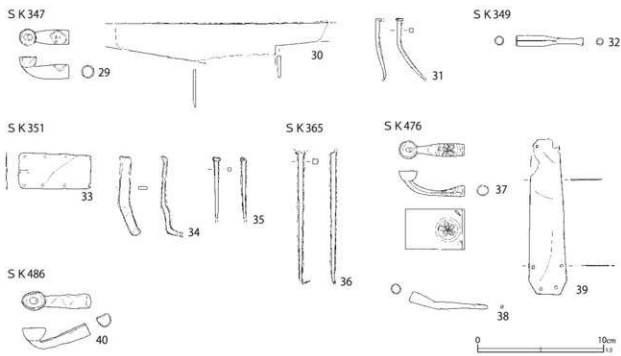
砂層には多孔質の角閃石安山岩転石が多く含まれていた。栗橋宿で多く出土する磨石との関連性を考慮して、全て回収したうえで、長軸・短軸を計測した。第742図に散布図を示した。

出土遺物は少ない。上層では酸化コバルト染付磁器をはじめとする近代遺物が出土しており、上層遺構からの混入である。砂層からは、波佐見系磁器のくらわんか手腕、瀬戸美濃系陶器の御室碗がみられ18世紀前半の遺物を主体とする。陶器





第476图 区画AB土坑出土遗物(15)



第477図 区画AB土壌出土遺物(16)

の青土瓶や瀬戸美濃系磁器の型皿は上層遺構からの混入である。推定廃絶期は18世紀前半である。

第467図68・69に陶磁器、第480図12・13に石製品を図示した。第467図68は肥前系磁器の碗で、外面にコンニャク印判染付が施される。69は瀬戸美濃系陶器の御室碗である。灰軸が施軸され、外面に呉須絵が施されている。

第480図12・13は多孔質の角閃石安山岩転石製磨石である。12は4面使用しており、自然面は遺存している。側面には凹み状の使用痕がみられる。13は全面に使用痕がみられ、自然面が残っていない。側面には溝状の使用痕と細かな線条痕がみられる。

#### 第486号土壌 (第461・477図)

F7-B6グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長軸0.6m、短軸0.45m、深さ0.2mを測る。長軸方位はN-20°-Wを指す。

イヌ科と推定される1体分の哺乳類動物遺存体が出土している。ほぼ完全な形で遺存しているこ

とから、埋葬されたと考えられる。骨にはカットマーク等の痕跡はみられないが、歯の大部分が黒ずんでいる。出土動物遺存体一覧表(第250表)では、重量と数のカウントのみを行った。

覆土の上層は肉質が分解されたことによるものか、有機質な土である。

出土遺物は極めて少ない。第477図40に煙管の雁首を示した。

以上に取り上げた土壌の他にも特徴的な遺物が出土しているので、以下に記述していく。

第463図24は硬質瓦質土器の火鉢と推定される。胎土は硬質で、細粒の雲母が含まれるため、江戸在地系の可能性がある。正面には透かし彫りのスリットが遺存しており、挿図では推定復元した。側面には段がみられ、段より上位には強い光沢のミガキが施される。高台には挟りが2箇所あり、口縁部には敲打痕がみられる。

第465図31は瀬戸美濃系磁器の坏台である。口縁部に染付、鏝には透かし彫りが施される。栗橋宿での出土は稀である。

第132表 区画AB土壌出土遺物観察表(7)(第476・477図)

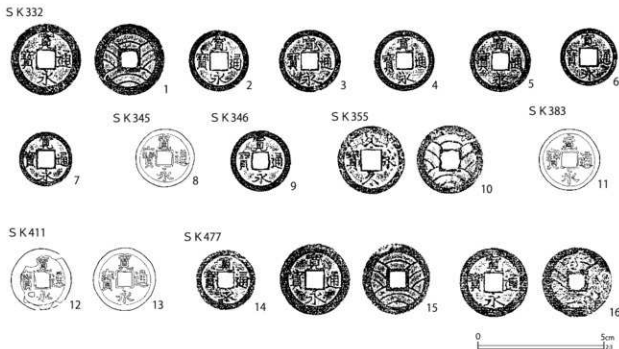
番号	種別	器種	法量	遺構名	備考	図版
1	銅製品	煙管	長さ4.9 小口径1.0 口付径0.4 重さ4.5	SK332	吸口	133-1
2	銅製品	不明	縦1.6 横3.0 厚さ0.03 重さ1.5	SK332	孔(径0.5cm)あり	
3	鉄製品	火格子	縦[7.5] 横[11.7] 厚さ1.0 重さ134.7	SK332	No.18	134-1
4	鉄製品	火格子	縦[6.6] 横[8.8] 厚さ1.0 重さ68.3	SK332	破片接点なし	134-1
5	銅製品	柄	長さ[9.1] 最大幅2.2 最大厚0.1 重さ22.6	SK333		
6	銅鉄製品	火箸	長さ[22.5] 幅0.6 厚さ0.3 重さ22.7	SK333	本体は鉄製 箸頭へ持ち代を銅で被覆	134-1
7	銅製品	ランプ	縦3.9 横4.6 高さ3.4 重さ15.3	SK333	ノブ付きバーナー	
8	銅製品	ランプ	縦3.9 横4.4 高さ2.6 重さ11.4	SK333	ノブ付きバーナー	
9	銅製品	釘	長さ[9.7] 幅0.3 厚さ0.3 重さ7.3	SK333		
10	鉄製品	鍍金具	縦[3.3] 横[2.9] 厚さ0.4 重さ5.8	SK333		
11	鉄製品	把手	縦[10.7] 横[24.6] 厚さ0.3 重さ42.6	SK333	No.24 鍋の把手	
12	鉄製品	鍋	縦[11.5] 横[14.3] 厚さ0.4 重さ157.8	SK333	No.27	
13	鉄製品	火箸	長さ[44.1] 厚さ0.4 重さ56.4	SK333	No.25	
14	鉄製品	鎌	刃長[17.8] 刃幅4.9 背幅0.3 重さ81.4	SK333	No.32	
15	鉄製品	釘	長さ[4.8] 幅0.25 厚さ0.35 重さ2.5	SK333		
16	鉄製品	釘	長さ[2.2] 幅0.25 厚さ0.3 重さ3.3	SK333		
17	銅製品	煙管	長さ3.5 火皿径1.6 小口径0.7 重さ3.0	SK334	雁首	133-1
18	鉄製品	釘	長さ[3.8] 幅0.3 厚さ0.25 重さ3.6	SK336		
19	鉄製品	釘	長さ[7.0] 幅0.5 厚さ0.5	SK345	鍍金の環内に釘が挿入	133-3
		鍍釘	長さ[1.7] 幅0.1 厚さ0.5 重さ計10.3			
20	銅製品	不明	縦[3.9] 横[3.8] 厚さ0.03 重さ6.4	SK346		
21	銅製品	針金	長さ[6.6] 幅0.1 重さ0.6	SK346		
22	鉄製品	釜	縦[4.2] 横[6.0] 厚さ0.4 重さ21.7	SK346	口縁	
23	鉄製品	釜	縦[8.4] 横[3.7] 厚さ0.3 重さ28.3	SK346	踵	
24	鉄製品	釜	縦[8.3] 横[3.0] 厚さ0.3 重さ24.7	SK346	踵	
25	鉄製品	釜	縦[6.1] 横[1.8] 厚さ0.4 重さ14.7	SK346	踵	
26	鉄製品	火箸	長さ[11.3] 幅0.4 厚さ0.4 重さ7.2	SK346	箸頭環状 持ち代に捻りあり	
27	鉄製品	火格子	縦[5.2] 横[7.2] 厚さ0.7 重さ73.2	SK346		134-1
28	鉄製品	釘	長さ[7.1] 幅0.4 厚さ0.4 重さ4.5	SK346		
29	銅製品	煙管	長さ3.9 火皿径1.3 小口径1.0 重さ7.6	SK347	雁首 花文	133-1
30	鉄製品	包丁	長さ[16.9] 刃長[12.9] 刃幅3.0 背幅0.2 重さ48.2	SK347		134-1
31	鉄製品	釘	長さ[4.8] 幅0.3 厚さ0.3 重さ2.6	SK347		
32	銅製品	煙管	長さ5.3 小口径0.7 口付径0.6 重さ4.8	SK349	吸口	
33	銅製品	鍍金具	縦2.9 横5.7 厚さ0.03 重さ5.0	SK351	周縁に小孔	
34	鉄製品	釘	長さ[6.3] 幅0.7 厚さ0.2 重さ6.1	SK351		
35	鉄製品	釘	長さ[4.8] 幅0.3 厚さ0.3 重さ2.0	SK351		
36	鉄製品	釘	長さ[10.6] 幅0.4 厚さ0.4 重さ8.2	SK365		
37	銅製品	煙管	長さ5.2 火皿径1.4 小口径0.9×0.8 重さ5.6	SK476	雁首 丸に花文陰刻 鍍金あり	133-1
38	銅製品	煙管	長さ6.3 小口径0.8 口付径0.2 重さ2.7	SK476	吸口 折れ曲がる	
39	銅製品	不明	長さ[12.3] 幅最大3.0 厚さ0.03 重さ12.1	SK476	両端に小孔配置	
40	銅製品	煙管	長さ5.5 火皿径1.9×1.5 小口径1.1×1.0 重さ10.2	SK486	No.1 雁首 折れ・歪みあり	

34は焔炉の部材やオプションパーツの一種である瓦質土器の器台である。やや酸化焙焼成で表面は橙色気味である。正面には透かし彫りのスリットが5箇所遺存する。

36は瓦質土器の平底焙烙である。底部は無調整のシワ状痕が遺存する。体部下位にはケズリ調

整が施され、中位はシワ状痕がナデ消されている。内耳は逆「L」字状で、底面に対して垂直につく。口縁部の形状は、端部がやや丸みを帯びる角形である。

第466図40は肥前系磁器の紅皿である。型成形で、外面は陽刻蛸草文である。内外面は施釉さ



第478図 区画AB土壌出土遺物(17)

第133表 区画AB土壌出土遺物観察表(8)(第478図)

番号	種別	器種	質量	遺構名	備考	図版
1	銅製品	銭貨	径28.4 厚さ1.2 重さ4.9	SK332	寛永通寶(新) 11波	
2	銅製品	銭貨	径24.2 厚さ1.1 重さ2.3	SK332	寛永通寶(新)	
3	銅製品	銭貨	径24.7 厚さ1.0 重さ2.7	SK332	寛永通寶(新)	
4	銅製品	銭貨	径24.3 厚さ1.1 重さ2.9	SK332	寛永通寶(新)	
5	銅製品	銭貨	径24.6 厚さ0.9 重さ2.4	SK332	寛永通寶(新)	
6	銅製品	銭貨	径23.0 厚さ1.3 重さ2.9	SK332	寛永通寶(新)	
7	鉄製品	銭貨	径21.6 厚さ1.2 重さ2.0	SK332	寛永通寶(新)	
8	銅製品	銭貨	径23.0 厚さ1.6 重さ3.1	SK345	No.17 寛永通寶(古)	
9	銅製品	銭貨	径24.4 厚さ1.1 重さ2.9	SK346	寛永通寶(新)	
10	銅製品	銭貨	径27.0 厚さ1.5 重さ4.4	SK355	文久永寶	
11	銅製品	銭貨	径24.0 厚さ0.8 重さ2.4	SK383	寛永通寶(新)	
12	銅製品	銭貨	径(24.0) 厚さ0.9 重さ0.9	SK411	寛永通寶(古)	
13	銅製品	銭貨	径25.0 厚さ1.4 重さ3.2	SK411	No.23 寛永通寶(新)	
14	銅製品	銭貨	径24.2 厚さ1.3 重さ3.1	SK477	寛永通寶(新)	
15	鉄製品	銭貨	径28.7 厚さ1.5 重さ4.0	SK477	寛永通寶(新) 11波	
16	鉄製品	銭貨	径28.0 厚さ1.6 重さ6.3	SK477	寛永通寶(新) 11波	

れ、墨付は露胎である。

48は外面に糠白釉が施軸される土瓶で、大塚相馬系陶器の可能性が高い。露胎部は黒色化しており、使用痕と思われる。

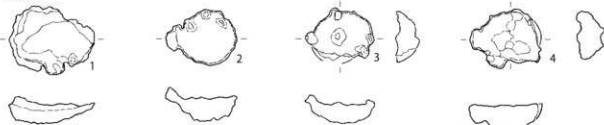
79は大塚相馬系陶器の灯明皿である。鉄軸が施軸され、体部下位に重ね焼き痕がみられる。

80は松岡系土瓶の蓋である。上面に海鼠釉が施軸され、胎土は粗密である。

第469図1は土製品の輪の羽口である。瓦質で、外面はナデ調整である。

第470図1は肥前系磁器の極小紅杯である。型成形で、外面上位から内面にかけて施軸されている。

SK334



SK346



第479図 区画AB土壌出土遺物(18)

第134表 区画AB土壌出土遺物観察表(9)(第479図)

番号	種別	器種	平面形	法量	遺構名	備考	図版
1	鉄洋	椀形洋	不整楕円形	長さ9.0 幅7.2 厚さ2.5 重さ151.5	SK334	2回使用 磁着やや弱い	136-15
2	鉄洋	椀形洋	円形	長さ7.5 幅6.8 厚さ2.5 重さ117.2	SK334	直径約6cm ほぼ完形 磁着弱い	136-15
3	鉄洋	椀形洋	楕円形	長さ7.4 幅5.5 厚さ2.5 重さ104.2	SK334	上面一部酸化 磁着弱い	136-15
4	鉄洋	椀形洋	不整楕円形	長さ7.1 幅5.6 厚さ2.6 重さ136.1	SK334	上面一部酸化土砂あり 上面磁着やや強い	136-15
5	鉄洋	椀形洋	不整楕円形	長さ12.8 幅6.8 厚さ2.3 重さ188.1	SK346	上面に多量の木炭 上面磁着強い	136-15

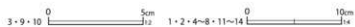
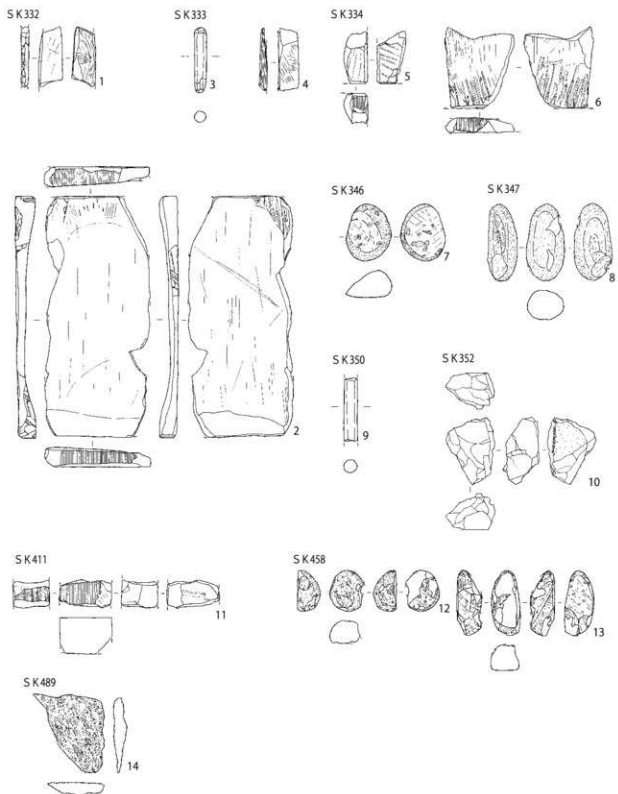
る。外面は縦縞の施文がみられる。3は肥前系磁器のミニチュアである。碗のミニチュアで、内外面は施釉されている。

第471図1～5は泥面子で、1・2・4・5は江戸在地系である。型成形で、雕剤の役割を果たす雲母が付着している。モチーフにはパリエーションがある。1はひよっとこ、5は菊文である。6は瓦質土器の仕切盤である。18世紀末頃に出現する箱庭道具を飾るための専用容器である(中野2019)。仕切の部分で、手捻りでアーチ状に成形している。胎土に角閃石が一定量含まれているため、在地産と推定される。

第472図3は軒棧瓦である。瓦当面の文様は第8地点で多くみられる形態で、欠失しているが大型の三巴文が伴う。胎土に角閃石が含まれており、在地産の可能性が高い。

4は江戸式に類似する軒棧瓦で、唐草文と六枚の中心弁がみられる。胎土は砂質で、角閃石を含んでいるため在地産の可能性が高い。

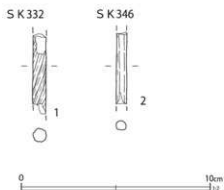
第473図2の木札には墨書で「□御こんれい」の文字が見られる。4は馬鍔で、鉄製の歯が残る。柄穴がないことから右側面が欠損している可能性がある。6は漆椀で、高台内に穴がつけられている。外面に線状の装飾が施される。7は碁石を収納する碁筒である。蓋は出土していない。14は獅子頭で、着色は見られない。22は曲物の蓋である。墨書で「極上新」の文字が見られる。26は露卯下駄である。台の爪先と踵の幅が狭い楕円形を呈する。27は木札で、表面に「武州栗橋□/□板屋忠□□□中」、裏面に「船中□□」の文字が見られる。29は漆塗りの鉢で、口縁が外側に開く。34は膳である。表面には、赤漆の



第480图 区画AB土坑出土遗物(19)

第135表 区画AB土壌出土遺物観察表(10)(第480図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	図版
1	石製品	砥石	[6.3]	[2.5]	0.9	21.3	ホルンフェルス	SK332	側面幅広工具痕カ 裏面線条痕 砥面2	140-1
2	石製品	砥石	25.6	11.2	2.1	601.6	ホルンフェルス	SK332	側面幅広工具痕2 側面ノコギリ痕2 砥面2	
3	石製品	石筆	3.4	0.6	—	2.4	滑石(白色)	SK333	両端使用	
4	石製品	砥石	[6.6]	[2.4]	[0.8]	11.3	粘板岩	SK333	側面ノコギリ痕 砥面1	
5	石製品	砥石	[5.5]	[2.5]	[3.1]	54.9	頁岩	SK334	裏面幅広工具痕 側面ノコギリ痕 砥面1	
6	石製品	砥石	8.6	7.4	1.6	111.5	ホルンフェルス	SK334	側面ノコギリ痕・擦痕 表裏面刃ならし痕 砥面2	
7	石製品	磨石	6.0	4.8	3.0	26.5	軽石	SK346	自然面遺存 使用面2	139-1
8	石製品	磨石	8.1	4.1	3.1	64.0	角閃石安山岩	SK347	多孔質 自然面遺存 使用面2	
9	石製品	石筆	[3.3]	0.7	—	2.8	滑石(白色)	SK350		
10	石製品	火打石	3.5	2.6	1.9	16.3	チャート	SK352	青色 太田井産カ 使用痕あり	
11	石製品	砥石	[3.0]	5.6	3.8	94.2	流紋岩	SK411	表・側面ノコギリ痕2 裏面幅広工具痕 側面削痕 砥面4	
12	石製品	磨石	4.3	[3.6]	2.4	20.6	角閃石安山岩	SK458	上層 多孔質 自然面遺存 使用面4	
13	石製品	磨石	6.9	3.1	2.7	26.3	角閃石安山岩	SK458	上層 多孔質 全面使用面 溝状使用痕あり 線条痕あり 使用面4	
14	石製品	石材	8.3	7.5	1.4	84.4	緑泥片岩	SK489	板碑カ 被熱(強・煤全面付着)	



第481図 区画AB土壌出土遺物(20)

第136表 区画AB土壌出土遺物観察表(11)(第481図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	遺構	備考	図版
1	硝子製品	筭	[4.2]	0.7	0.7	5.3	SK332	透明 中実 螺旋状	142-4
2	硝子製品	筭	[3.8]	0.6	0.5	3.0	SK346	透明 中実 被熱	142-8

外周に黒漆が塗られる。側板を固定した痕跡が見られる。

第476図6は銅・鉄製の火箸である。本体は鉄製で、箸頭から持ち代にかけて銅で覆っている。栗橋宿では稀な作りである。

19は鉄製の頭巻釘と環釘である。環釘の環内に釘が挿入されており、環釘の使用方法を示唆するものである。

第477図29・37は銅製煙管の雁首である。29は花文がみられる。37は丸に花文の陰刻と鍍金が

施される。

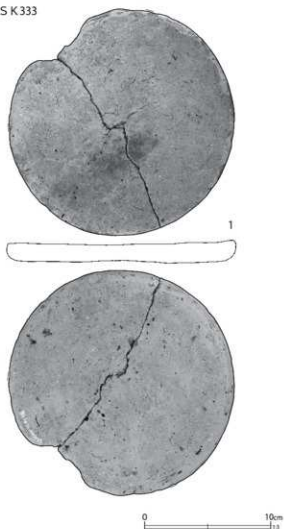
第478図10は銅製の文久永寶である。初铸年は1863年である。

第479図1～5は椀形洋である。1は2回の使用が考えられ、磁着はやや弱い。2は直径6cm程のほぼ完形で磁着が弱い。3は上面の一部が銀化しており、磁着が弱い。4は上面の一部に酸化した土砂が付着しており、磁着が強めである。5は上面に多量の木炭がみられ、磁着が強い。

鉄滓はいずれも19世紀中葉頃の土壌から出土しており、羽口の出土がみられないが、19世紀半ばまで、周辺で鍛冶を行っていた可能性が示唆される。

第480図5は頁岩製の砥石である。側面に刃幅の広い工具痕と密なノコギリ状工具痕がみられる。6はホルンフェルス製の砥石である。側面に密なノコギリ状工具痕が遺存し、両面に刃ならし状の刃物痕が多数みられる。

SK333



第482図 区画AB土壌出土遺物(21)

7は軽石製、8は多孔質の角閃石安山岩転石製磨石である。7は両面に使用による平坦面が形成されており、自然面が一部遺存している。8は長楕円形の転石を素材とし、部分的に使用痕が認められる。

10は青色チャート製の火打石である。その特徴から、徳島県阿南市太田井町松岡で産出される太田井産の火打石と推定される。使用痕は認められるものの、あまり使用されずに廃棄されたようである。太田井産の火打石は大坂や堺などの消費地では、17世紀後半から18世紀前半頃に流通が開始される(船築2020)。日本列島広範囲に出土事例がみられ(船築2020)、江戸遺跡でも出土が確認されている。本例はその流通を明らかにする上で重要な資料となろう。

第482図1は円盤状の漆喰製品である。用途は不明だが、建物等に使用された可能性がある。

### ③区画ACの土壌 (第483～514図)

区画ACは『絵図』にみえる「明地/清吉」の区画である。土壌は18基検出された。

調査区東西に土壌が集中し、中央は空白地である。大型の土壌が多い。

第138表に位置・規模等の基本的な情報を示した。

本区画で抽出した土壌は、第344号土壌で、先行して第483・484・485図に遺構図、第486～505図に遺物図を図示した。

非抽出となった土壌は、第506・507図に遺構図、第508～514図に遺物図を示し、特徴的な土壌・遺物について記述した。

### 第344号土壌 (第483～505図)

F7-B・C7・8グリッドに位置する。第

第137表 区画AB土壌出土遺物観察表(12)(第482図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	漆喰	不明	17.8	1.7	16.9	IK	90	普通	灰白	SK333	No.17	



474・520号土壌より新しい。平面形は隅丸方形と推定され、長軸6.4m、短軸5.9m、深さ0.6mを測る。長軸方位はN-18°-Wを指す。

遺構南部角には、旧第480号土壌が重複しており、第344号土壌が新しい。第三面でも第480号土壌（第599図）が検出されているが、現地調査時に遺構番号が重複した結果であるため、他遺構である。なお、第344号土壌と重複する旧第480号土壌については、第344号土壌下層（砂層・焼土層）として扱った。実態は二基の土壌であることに留意したい。

掲載遺物については、一部を第三面の第480号土壌（第602図1・4・6・7・11）に掲載している。また、第344号土壌第10層砂層、第11層焼土層から出土した被熱遺物は、第497号土壌焼土層（第608図）と接合関係にある。焼土層が18世紀前葉の火災層の一部であることを考慮して、第497号土壌焼土層出土遺物として掲載した。非掲載遺物については、第344号土壌下層（砂層・焼土層）として扱い、重量・数量を計測した。

覆土は植物質を多量に含む土を主体とする。南部角の長方形土壌は第10層の砂層を主体とす

る。最下層の第11層は0.1~0.15mの厚さで、極めて多量の焼土を含んでいる。この層から出土する被熱遺物は第497号土壌焼土層出土遺物と接合関係にあり、同文製品や同一個体製品が認められる。18世紀前葉に比定される焼土層の一部が検出されている可能性が疑われる。詳細は第497号焼土層、「VI.調査のまとめ」を参照されたい。

遺物は木製品を中心に多量に出土しており、ほぼ第9層からの出土である。陶磁器類は、瀬戸美濃系磁器の端反形碗とその蓋、陶器の土瓶を主体とする。最新期の陶磁器である瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗や小碗が少量みられる。推定廃絶期は19世紀中葉、具体的には1830~40年代頃と考えられる。

第486~505図に出土遺物を図示した。第486図1は口径15cm、2は口径13.8cmを測る肥前系磁器の大碗である。いずれも内面上位に四方禪文の染付がみられる。

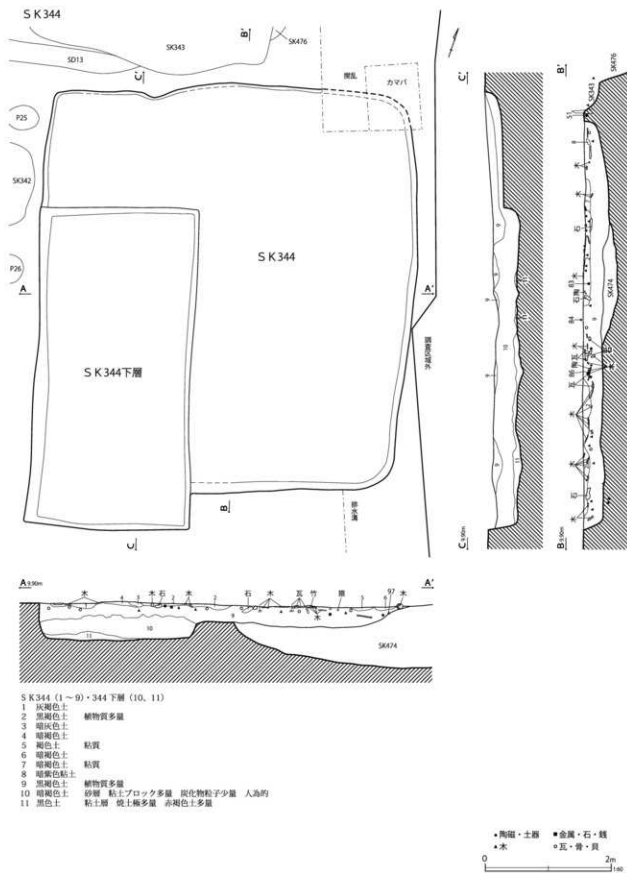
7は肥前系磁器の高台が「ハ」字状に開く碗で、内面上位に四方禪文がみられる。

第486図8~10、第487図11は肥前系磁器の広東碗である。11は瑠璃釉が施軸される上質な製

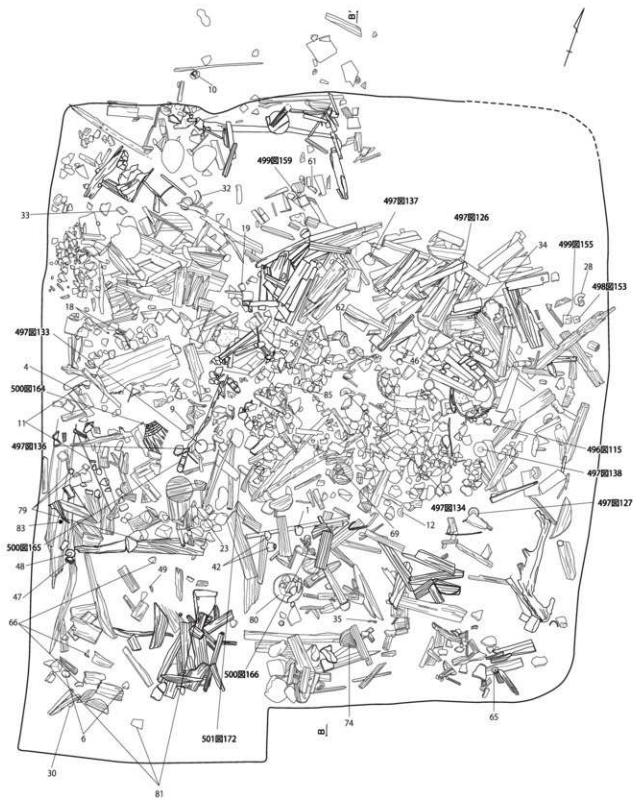
第138表 第二面区画AC土壌一覧表

単位：m

番号	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	方位	備考	採回
342	F7-C7	不整形	1.50	1.40	0.17	N-80°-E		506
344	F7-B・C7・8	不整形	6.40	5.90	0.60	N-18°-W	SK474・520より新	483
348	F7-C6	不整形	0.95	0.80	0.15	N-70°-E	SK353・360より新	506
353	F7-C6	不明	0.35	(0.30)	0.03	N-62°-E	SK348より古 SK360より新	506
354	F7-C6	槽円形	0.65	0.60	0.05	N-55°-W	SK356より新	506
356	F7-C5・6	不整形	3.20	1.95	0.35	N-60°-E	SK354・SK358より古い	506
357	F7-C6	槽円形	0.50	0.45	0.15	N-33°-W		506
358	F7-C5・6	隅丸長方形	3.55	1.70	0.20	N-75°-E	SK356より古	506
360	F7-C6	隅丸方形	2.05	2.05	0.15	N-68°-E	SK348・353・P21より古 SK505より新	506
364	F7-C6	不整形	1.20	0.95	0.10	N-85°-E		506
377	F7-C7	隅丸長方形	1.10	0.65	0.15	N-68°-E		506
441	F7-C6	不整形	0.70	0.65	0.25	N-13°-W		507
443	F7-C6	不整形	1.15	0.60	0.25	N-64°-E		507
444	F7-C6	不整形	1.45	0.85	0.25	N-23°-W		507
445	F7-C6	不整形	0.50	0.45	0.20	N-70°-E		507
474	F7-B7, C7・8	不明	(3.35)	(3.30)	1.00	N-71°-E	SK344より古 SK520より新	507
505	F7-C6	槽円形	1.95	0.85	0.35	N-70°-E	SK360より古	507
520	F7-B7	隅丸長方形	(1.45)	0.45	0.15	N-16°-W	SK344・474より古	507

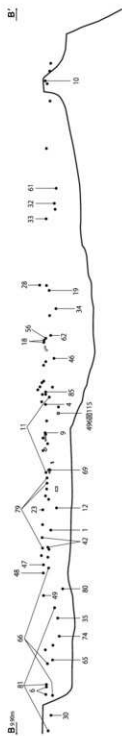


第483図 区画AC土壌(1)

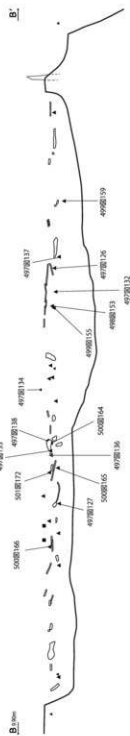


第 484 圖 第 344 号土壤遺物出土狀況 (1)

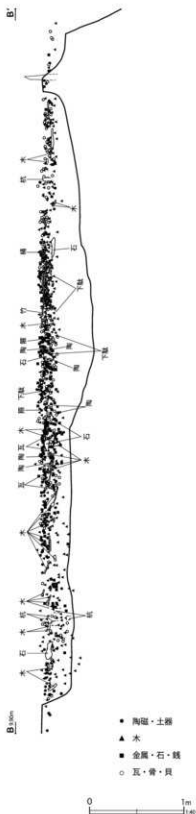
遺物出土状況 陶磁器・瓦



遺物出土状況 木製品・石製品・その他



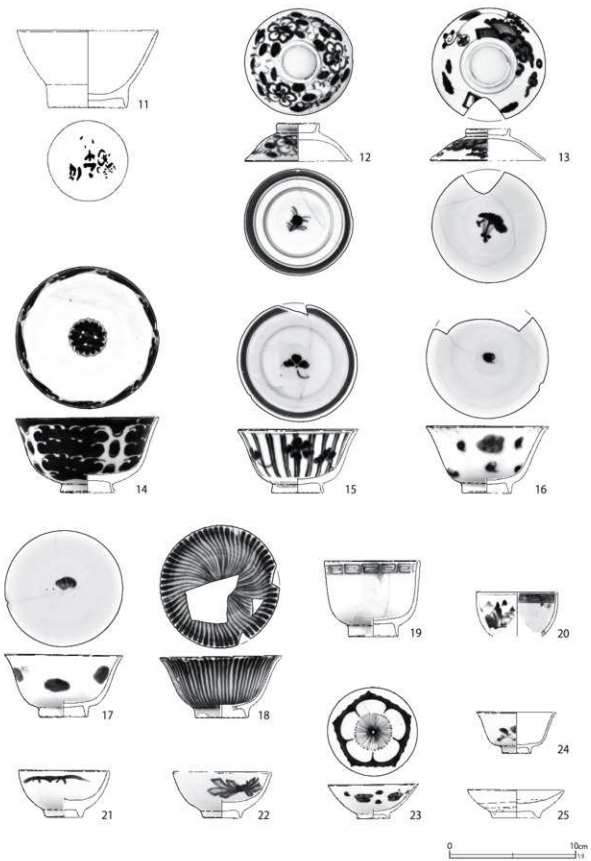
遺物出土状況



第 485 図 第 344 号土壌遺物出土状況 (2)



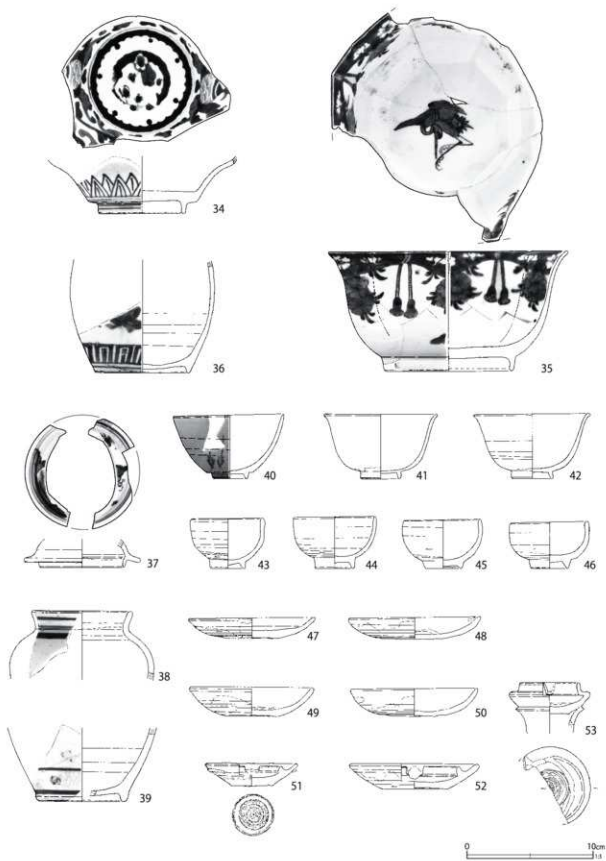
第 486 图 第 344 号土坑出土遗物 (1)



第 487 图 第 344 号土壙出土遗物 (2)

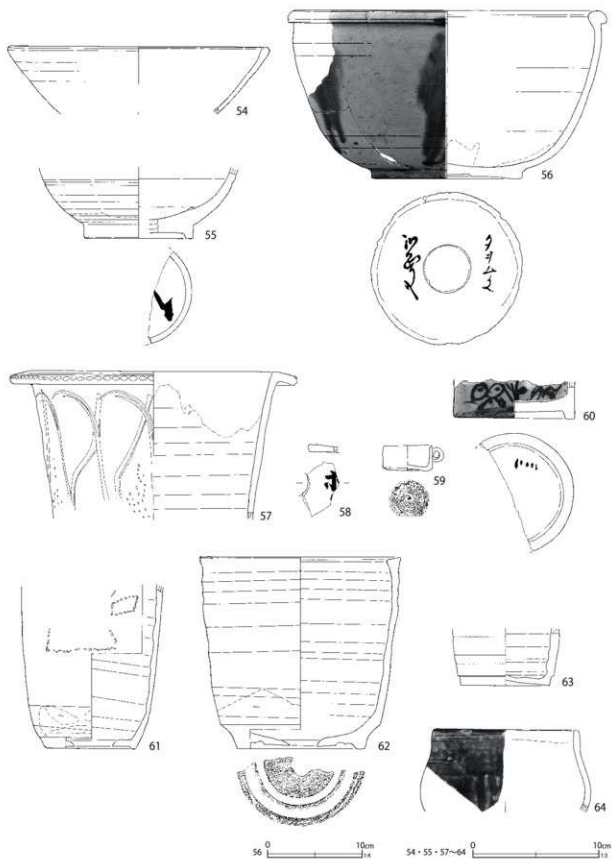


第 488 图 第 344 号土坑出土遗物 (3)

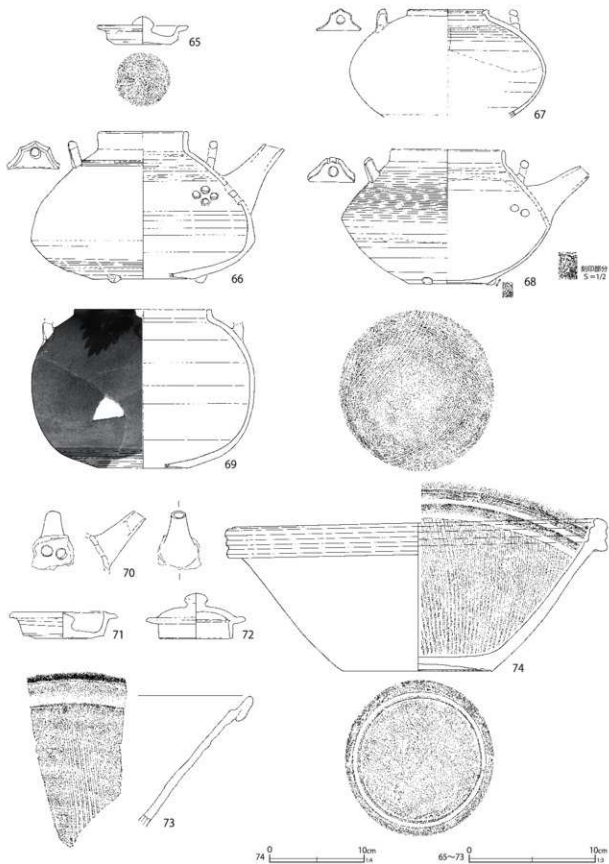


第 489 图 第 344 号土坑出土遗物 (4)

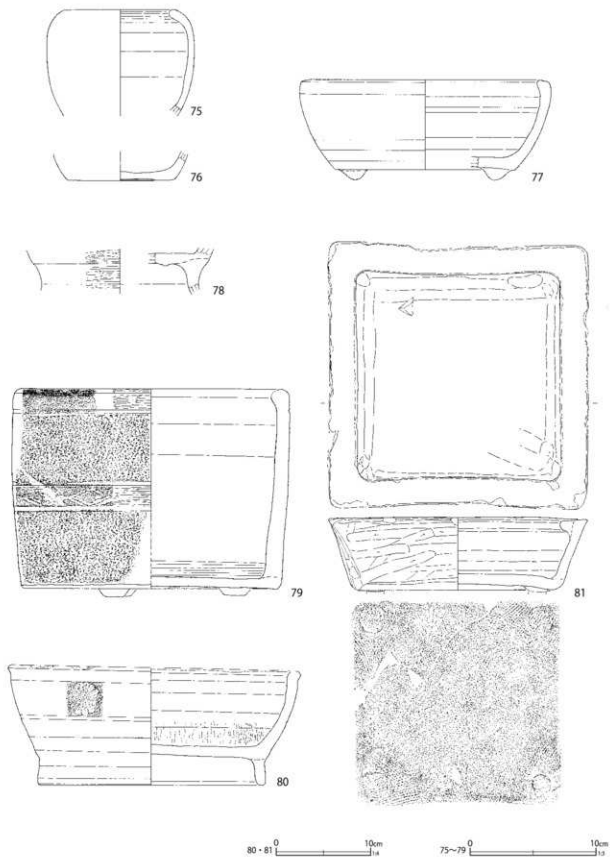




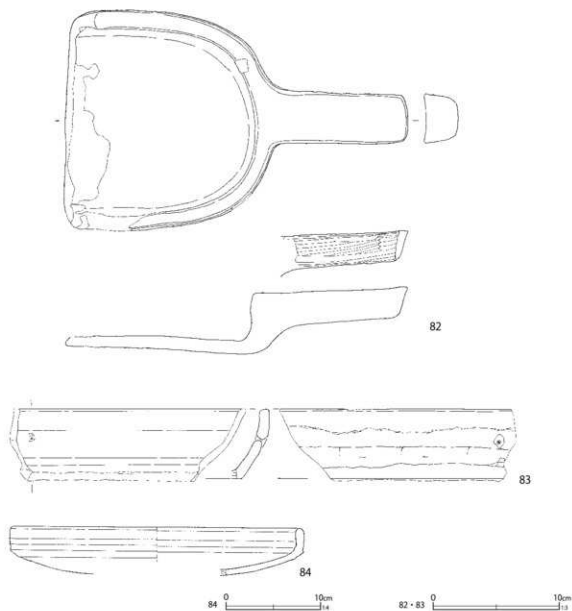
第490図 第344号土城出土遺物(5)



第 491 图 第 344 号土壙出土遗物 (6)



第 492 图 第 344 号土坑出土遗物 (7)



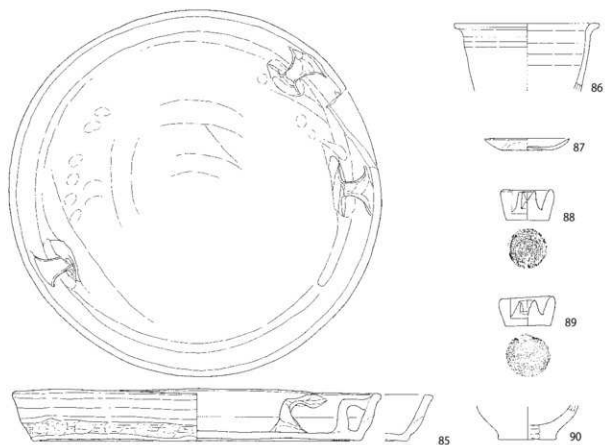
第493図 第344号土壙出土遺物(8)

品である。焼継痕と高台内に複数の焼継印がみられる。

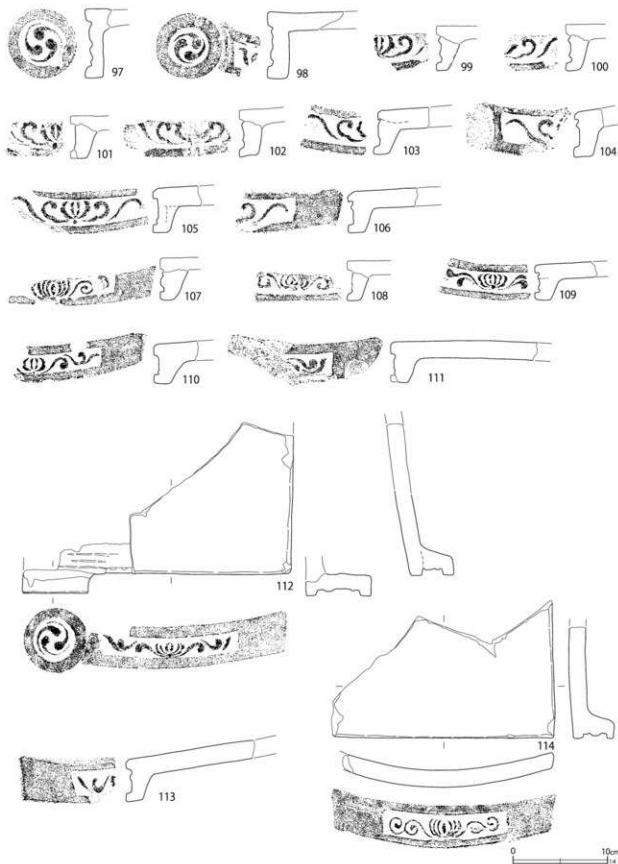
12・15～18は瀬戸美濃系磁器で、15～18は端反形碗、12は端反形碗の蓋である。17は陰刻文染付で、非掲載遺物に同文の別個体が2個体みられる。18は口縁部が僅かに波打つ。いずれも口縁部の反りが強い。13・14は肥前系磁器で、14は端反形碗、13は端反形碗の蓋である。19は瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗で、20は小碗である。最新期の陶磁器である。

26・28・29は波佐見系磁器の皿で、いわゆるくらわんか手である。26は見込み蛇ノ目釉剥ぎで、梅花繁ぎ文染付がみられる。内面の五弁花文は崩れており、コンニャク印判染付の可能性もある。28は内面の五弁花文染付が明瞭である。29は内面の五弁花文がやや崩れている。口縁部は輪花状である。28・29の高台内には渦福の染付がみられる。

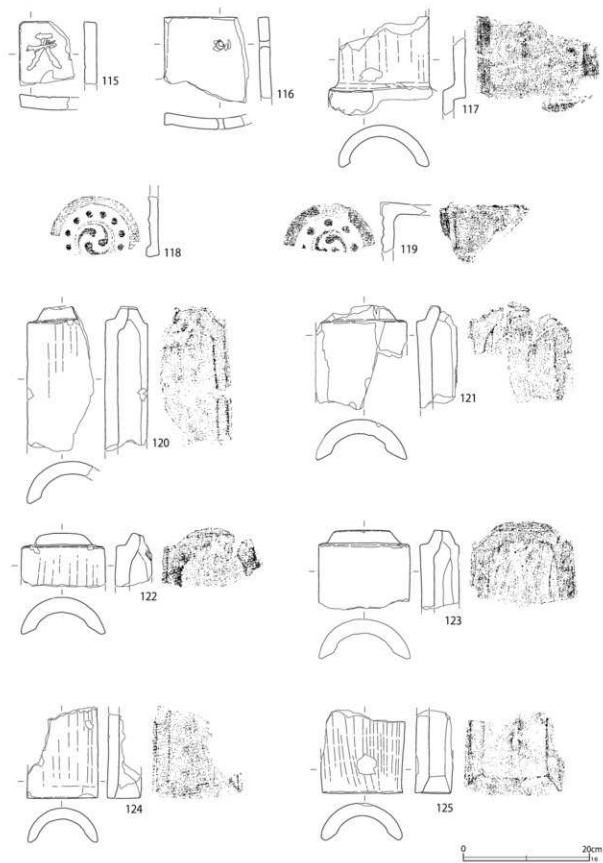
32は肥前系磁器の鉢である。丁寧な染付で、高台内には「宣徳年製」の銘がみえる。17世紀



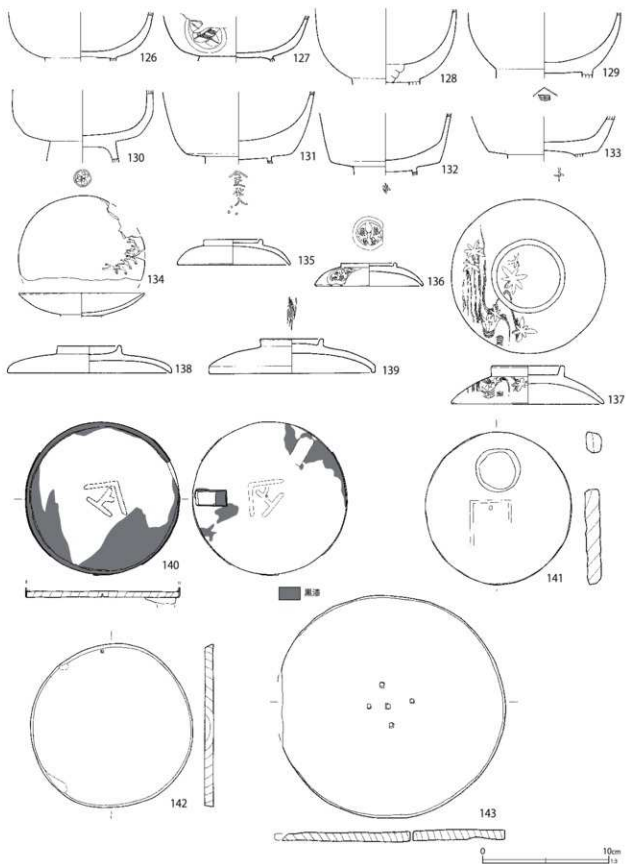
第 494 图 第 344 号土城出土遺物 (9)



第 495 图 第 344 号土壙出土遗物 (10)

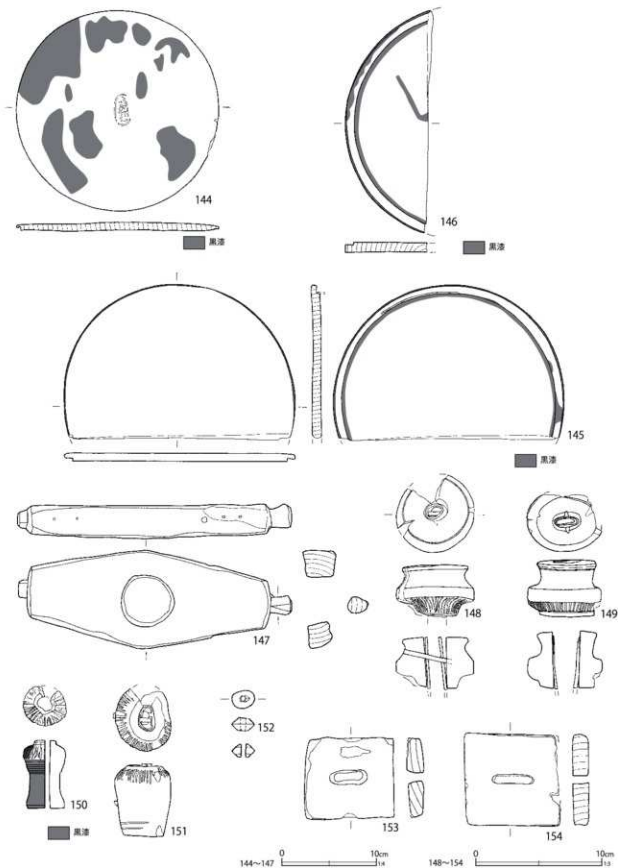


第 496 図 第 344 号土坑出土遺物 (11)

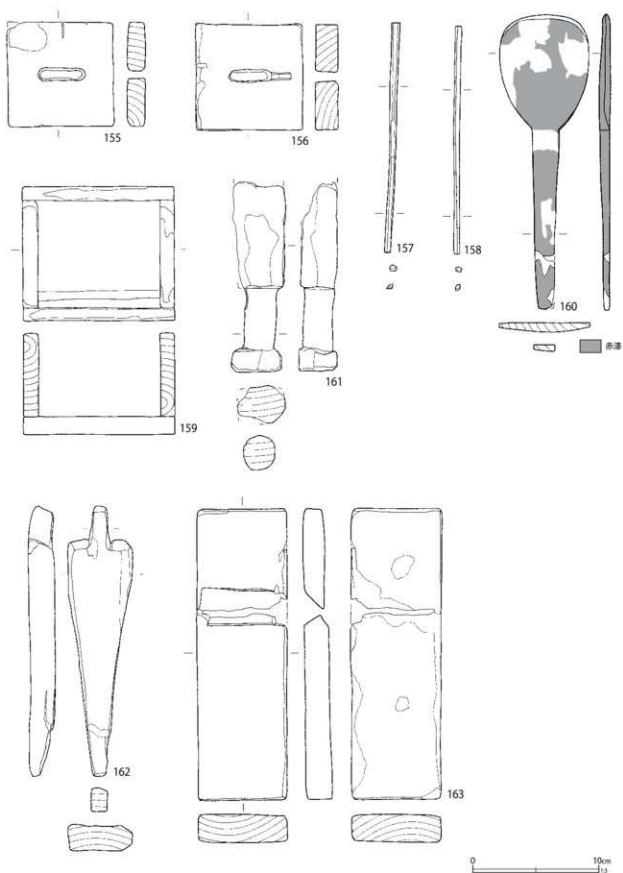


第 497 图 第 344 号土坑出土文物 (12)

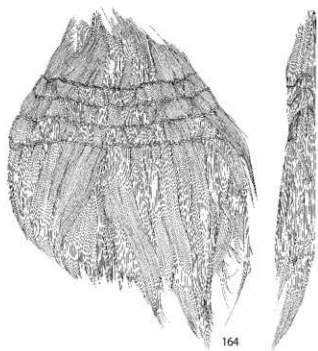




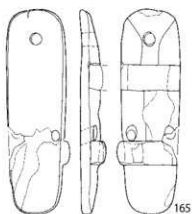
第 498 図 第 344 号土壙出土遺物 (13)



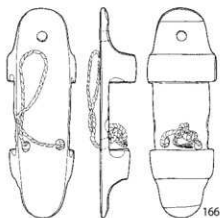
第 499 図 第 344 号土壙出土遺物 (14)



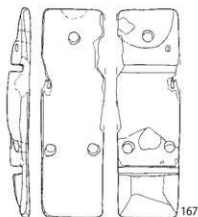
164



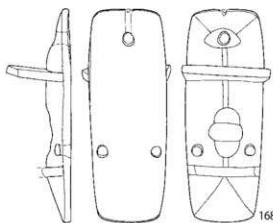
165



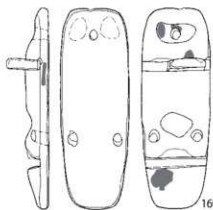
166



167



168



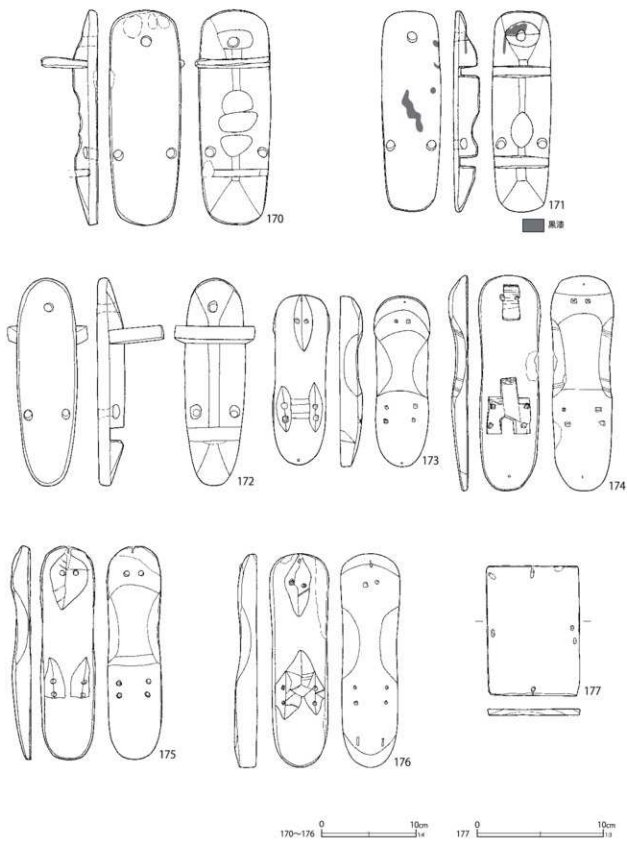
169



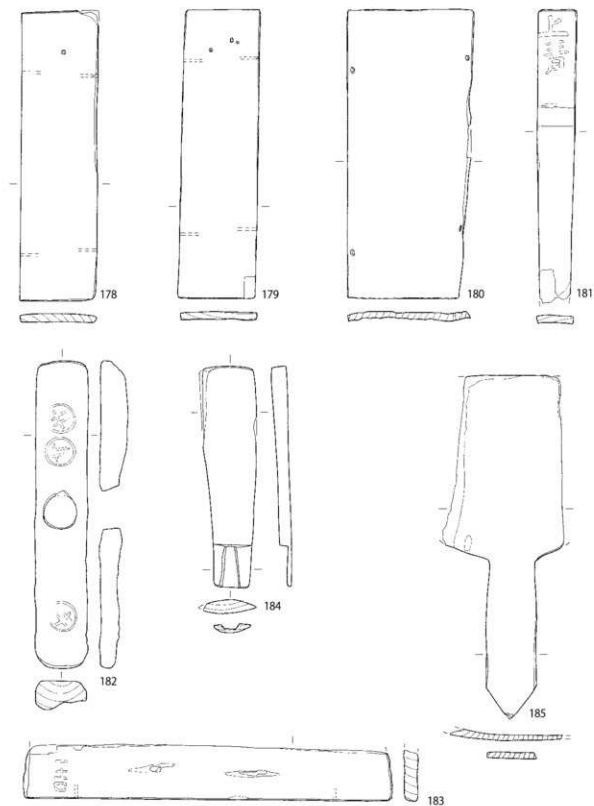
0 10cm  
165~169

0 10cm  
164

第500图 第344号土坑出土遗物(15)

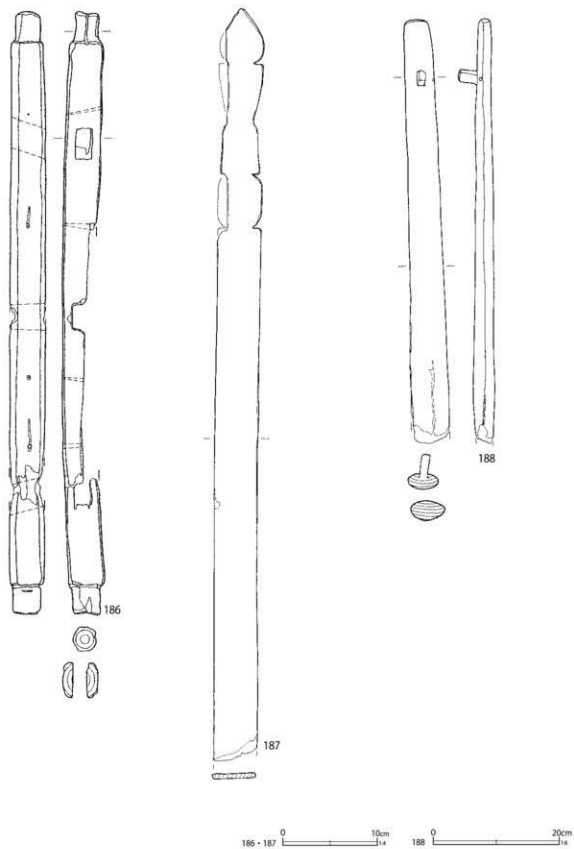


第 501 図 第 344 号土壙出土遺物 (16)

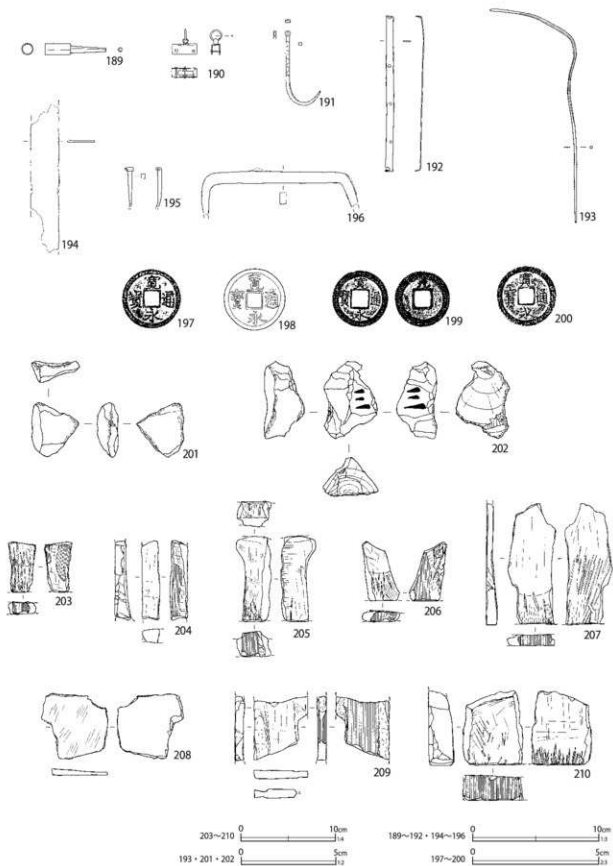


181~185 0 10cm 1/4 178~180 0 10cm 1/3

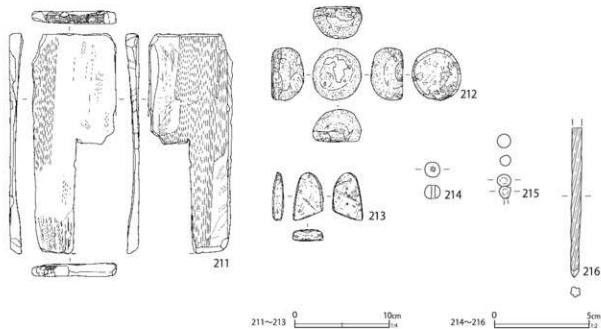
第 502 图 第 344 号土坑出土文物 (17)



第 503 図 第 344 号土壙出土遺物 (18)



第 504 图 第 344 号土城出土文物 (19)



第505図 第344号土壙出土遺物(20)

後半の所産であろう。焼継痕と高台内に焼継印がみられる。35は肥前系磁器の大型八角鉢である。底部は輪高台である。19世紀前葉の所産であろう。

53は産地不詳陶器の灯火具である。鉄軸が施軸され、上下は別作りである。上部構造の底部は糸切痕が遺存している。軸は糸切痕までかかる。

56は瀬戸美濃系陶器のこね鉢である。灰軸が施軸され体部に緑釉が流し掛けられている。内面には重ね焼き痕と考えられる軸の拭き取りがみられる。底部は蛇ノ目状で、墨書がみえる。

61は容量五合半と考えられる瀬戸美濃系陶器の灰軸徳利である。体部下位から底部にかけて軸が拭き取られている。底部に二次穿孔がみられる。植木鉢に転用されたと考えられる。体部に点刻状の釘書がみえる。

第491図65・66は黒軸が施軸される胎土が土器質の土瓶と落し蓋である。胎土、釉調、施軸方法等から現埼玉県吉見町で19世紀に生産された吉見焼と考えられる。土瓶は吉見焼の主力生産品の一つである。65は底部糸切後にケズリ調整を

行っている。上面は黒軸である。66は型成形の山形を呈する把手が付き、外面上位に糸目状沈線がみられる。体部下位を最大幅とする。内面上位に筋状のナデがみられる。底部を含む外面全面に黒軸が施軸される。

68は京都信楽系陶器の土瓶である。外面上位に糸目が施され、下位に刻印がみえる。把手は山形の型成形である。露胎部には使用痕と考えられる煤が付着する。

70は松岡系陶器の土瓶である。外面に海鼠釉が施軸され、胎土は粗密である。

第492図75・76は江戸在地系硬質瓦質土器の香炉と考えられる。胎土は細粒な雲母を含む粉質で、外面はミガキ調整である。燻しにより表面は黒色を呈する。同一個体の可能性がある。

79は江戸在地系硬質瓦質土器の筒形火鉢である。口縁部、体部中位にミガキが施される。体部にはスタンプ文が施文される。胎土は細粒な雲母を含む粉質である。

第494図85は瓦質土器の平底焙烙である。底部は無調整のシワ状痕が残り、体部下位にケズリ調



第139表 第344号土壙出土遺物観察表 (第486～505図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	磁器	碗	15.0	6.9	5.4	—	50	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 No.68	
2	磁器	碗 (13.8)	[4.9]	—	—	10	良好	白	肥前系 内外面施軸		
3	磁器	碗	9.7	5.5	3.8	—	80	普通	灰白	肥前系 内外面施軸 外面コンニャク印判染付	
4	磁器	碗	6.9	5.2	3.5	—	60	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 No.30	
5	磁器	碗	8.4	5.1	3.4	—	95	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付	
6	磁器	碗	8.1	5.7	3.6	—	80	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 No.2・6	
7	磁器	碗	11.0	6.4	4.2	—	95	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付	
8	磁器	碗	11.5	6.3	6.1	—	90	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付	
9	磁器	碗	11.4	6.5	6.4	—	95	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 No.35	
10	磁器	碗	(10.1)	6.2	5.0	—	65	良好	白	肥前系 内外面施軸 (白濁)・染付 No.48	
11	磁器	碗	11.1	6.2	6.1	—	95	良好	白	肥前系 内外面施軸 焼継痕あり 高台内焼継印 (赤) No.21・40	83-4 86-10
12	磁器	蓋	3.3	3.0	8.5	—	95	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 No.85	83-5
13	磁器	蓋	3.4	2.5	9.1	—	90	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付	
14	磁器	碗	11.3	6.0	4.2	—	95	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付	
15	磁器	碗	9.4	5.0	4.0	—	95	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付	83-6
16	磁器	碗	9.5	5.3	3.8	—	70	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付	
17	磁器	碗	9.3	5.0	3.7	—	95	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・除刻文・染付 同文別個体2あり	
18	磁器	碗	9.5	4.9	4.1	—	80	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 口縁端部わずかに波打つ No.42・43	83-7
19	磁器	碗	7.4	6.0	3.8	—	80	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 No.59	83-8
20	磁器	碗	(6.4)	[3.4]	—	5	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付		
21	磁器	坏	7.0	3.7	2.7	—	90	良好	白	肥前系 内外面施軸 外面染付	
22	磁器	坏	(7.6)	3.7	3.0	—	65	良好	白	肥前系 内外面施軸 外面染付	
23	磁器	坏	7.1	2.7	2.5	—	100	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 No.23	
24	磁器	坏	(6.1)	3.3	2.2	—	50	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付	
25	磁器	皿	7.6	2.2	3.7	—	95	良好	灰白	肥前系 内外面施軸 見込蛇ノ目輪割ぎ	
26	磁器	皿	13.8	3.3	7.8	—	90	良好	白	肥前系 内外面施軸 内面染付・コンニャク印判染付 見込蛇ノ目輪割ぎ No.98	
27	磁器	皿	(13.4)	3.9	7.5	—	70	良好	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 高台内ハリ支脚1遺存	
28	磁器	皿	(14.0)	3.6	(8.4)	—	50	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 No.89	
29	磁器	皿	(14.2)	4.0	7.9	—	50	良好	灰白	肥前系 内外面施軸・染付	
30	磁器	皿	(14.4)	3.5	(8.4)	—	40	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇ノ目凹形高台 No.8	
31	磁器	皿	—	[3.2]	8.0	—	50	良好	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 蛇ノ目凹形高台 SK480上接合	
32	磁器	鉢	(15.9)	8.7	6.2	—	60	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 口紅 No.52	
33	磁器	鉢	16.6	4.8	8.6	—	60	良好	白	肥前系 外面青磁軸 内面施軸・染付 蛇ノ目凹形高台 No.45	
34	磁器	鉢	—	[4.5]	6.6	—	40	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 No.88	
35	磁器	鉢	(18.8)	9.5	10.0	—	60	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 No.74	
36	磁器	徳利	—	[8.9]	7.3	—	15	良好	白	肥前系 外面施軸・染付	
37	磁器	蓋	—	[2.2]	(6.6)	—	10	良好	白	肥前系 内外面施軸 上面染付 被熱(弱) 最大径 9.2 cm	
38	磁器	壺	(7.8)	[5.4]	—	5	良好	白	肥前系 外面施軸・染付 被熱(強)		
39	磁器	密壺類	—	[5.9]	(6.6)	—	10	良好	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 被熱(強)	
40	陶器	碗	8.7	5.1	2.5	K	95	普通	灰白	京都信楽系 内外面施軸 外面鉄絵	
41	陶器	碗	(8.8)	5.1	(2.8)	K	50	良好	灰白	京都信楽系 胎土磁質 内外面灰軸	
42	陶器	碗	8.9	5.1	3.0	K	85	良好	灰白	京都信楽系 内外面施軸 No.66・67	
43	陶器	坏	5.5	4.0	2.7	IK	100	普通	灰白	瀬戸美濃系 内外面灰軸	
44	陶器	坏	6.4	4.1	3.0	IK	90	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面灰軸	
45	陶器	坏	5.9	3.8	2.8	EK	95	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面灰軸	
46	陶器	坏	6.0	3.7	2.8	EK	95	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面灰軸 露胎部煤付着(少) No.90	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
47	陶器	灯明皿	9.9	1.7	4.2	EIK	100	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面柿輪 外面下位・底部軸拭き取り 内面輪状重燒痕 №.10	
48	陶器	灯明皿	10.3	1.8	4.7	I	100	良好	にぶい橙	瀬戸美濃系 内外面柿輪 外面下位・底部軸拭き取り 内面輪状重燒痕(径4.4cm) 2箇所 №.11	
49	陶器	灯明皿	(9.6)	2.3	4.2	DIK	35	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面柿輪 外面下位拭き取り 内面・ 底部輪状重燒痕 №.9	
50	陶器	灯明皿	10.0	2.3	3.6	IK	95	普通	灰黄褐	瀬戸美濃系 内外面柿輪 外面下位・底部軸拭き取り 内面輪状重燒痕2箇所	
51	陶器	灯明皿	7.0	1.8	3.3	K	95	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面柿輪 外部輪状重燒痕(径4.8cm) 体部上位重燒痕 体部下位拭き取り	
52	陶器	灯明皿	10.0	2.0	5.2	IK	90	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面柿輪 体部下位・底部軸拭き取り 体部中位重燒痕	
53	陶器	灯火具	(4.5)	[4.0]	—	IK	15	普通	にぶい橙	内外面鉄軸 上下別作り 上部個体底部系切痕 切込 みは推定復元	
54	陶器	鉢	(20.3)	[5.4]	—	EIK	10	普通	灰白	瀬戸美濃系 内外面灰軸	
55	陶器	片口鉢	—	[5.6]	8.4	EIK	10	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面灰軸 底部墨痕 内面目跡2遺存	86-13
56	陶器	こね鉢	(32.0)	17.7	16.0	DEK	50	普通	灰白	瀬戸美濃系 内外面灰軸 外面緑軸流しかけ №.60	87-1
57	陶器	楕木鉢	(19.0)	[11.7]	—	EIK	30	良好	灰白	瀬戸美濃系 外面緑軸 内面柿輪拭き取り 被熱	
58	陶器	楕木鉢	—	[6.6]	—	EIK	5	良好	灰白	瀬戸美濃系 底部墨書	87-2
59	陶器	舞入れ	3.7	2.0	3.0	K	60	良好	灰白	瀬戸美濃系 底部系切痕(中心・右) 内外面灰軸 把 手手捻り貼付	
60	陶器	香炉	—	[3.0]	9.0	DEK	10	良好	灰白	瀬戸美濃系 外面施軸・鉄銚 高台内墨書	87-3
61	陶器	德利	—	[13.1]	6.9	IK	80	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面灰軸 体部下位・底部軸拭き取り 底部二次穿孔(楕木鉢転用) 外面釘書 №.57	
62	陶器	半銅壺	(15.8)	15.2	(10.0)	E	30	良好	淡黄	瀬戸美濃系 内外面柿輪 底部二次穿孔 楕木鉢転用 №.83	
63	陶器	油德利	—	[4.5]	(7.0)	IK	10	良好	灰白	瀬戸美濃系 外面柿輪 底部軸拭き取り 被熱・煤付 着	
64	陶器	蓋物	(11.0)	[6.5]	—	K	10	良好	灰白	外面灰軸 内面鉄軸 被熱	
65	陶器	蓋	—	2.2	4.4	EIK	75	良好	灰白	吉見焼 底部系切後へラケズリ 上面黒軸 被熱・煤 付着 最大径7.2cm №.77	
66	陶器	土瓶	(6.8)	[11.9]	(8.0)	EIK	35	普通	にぶい橙	吉見焼 内面上位筋状ナゲ 外面・底部全面黒軸 接 点のない5片から復元 65の身 被熱(弱) №.3・7・15	
67	陶器	土瓶	(6.2)	[8.5]	—	K	30	良好	灰白	外面青緑軸 内面施軸	83-9
68	陶器	土瓶	8.7	10.6	6.2	K	95	良好	灰白	京都信楽系 内外面施軸 外面上位糸目 外面下位刻 印 外面露胎部煤付着	83-10 87-14
69	陶器	土瓶	(10.8)	12.5	(7.0)	IK	40	良好	灰白	京都信楽系 外面施軸・染付 №.86	
70	陶器	土瓶	—	[7.2]	—	EK	5	良好	灰白	松岡系 外面南鼠軸	
71	陶器	蓋	6.4	2.1	4.4	I	100	良好	灰黄	上面鉄軸・白軸散らし・灰軸流しかけ 最大径8.6cm	
72	陶器	蓋	—	3.6	5.6	HK	100	良好	灰白	京都信楽系 上面施軸 最大径7.9cm	
73	陶器	擂鉢	—	[10.3]	—	EIK	5	良好	浅黄橙	瀬戸美濃系 内外面柿輪(外面下位拭き取り) 内面 襷目9条/単位	
74	陶器	擂鉢	38.3	16.2	15.7	BHM	70	良好	暗赤灰	明石系 内面襷目9条/単位 胎土中心赤色 №.75	
75	瓦質土器	香炉	(8.2)	[8.4]	—	AI	20	普通	灰黄	江戸在地系 胎土粉質 外面ミガキ 燻す 胎土中心黄 灰	
76	瓦質土器	香炉	—	[2.3]	8.5	AI	15	良好	黄灰	江戸在地系 胎土粉質 外面ミガキ 燻す 底部中心弱 クミガキ	
77	瓦質土器	火鉢	(18.0)	7.9	(14.2)	CHK	40	普通	にぶい橙	底部へラナゲ 体部下位ケズリ 胎土中心灰 被熱 により色調橙化	
78	瓦質土器	火鉢	—	[3.7]	—	CIK	10	普通	灰白	外面ミガキ 燻す 胎土中心灰 被熱	
79	瓦質土器	火鉢	20.3	16.4	20.0	AHK	80	普通	にぶい橙	江戸在地系 胎土粉質 底部シワ状痕 口縁部・体部 中位ミガキ 体部スタンプ施文 燻す 体部赤色塗付 物 内面上位酸化焼成 胎土中心黄灰 №.13・19・ 20	83-14
80	瓦質土器	火鉢	—	[12.6]	23.8	CHK	95	普通	橙	砂目底 ほぼ酸化焼成 胎土赤色粒子多量 口縁部 敲打痕 内面下位火箸痕・上位煤付着 被熱(刺傷) 胎土中心褐灰 №.72	83-11
81	瓦質土器	火鉢	27.2	[7.7]	21.2	CFIK	95	普通	灰白	砂目底 体部ケズリ(ミガキ状光沢) 脚4欠失 口縁 部煤付着 胎土中心灰 №.1・5・65	83-12

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
82	瓦質土器	十能	長軸27.0 高さ5.3	短軸[17.4]		CHIK	90	普通	灰白	下面砂目 把手側・下面ケズリ後ミガキ 胎土中心灰灰	83-13
83	瓦質土器	焙烙	—	5.5	—	CIK	10	普通	明黄橙	底部シワ状痕 外面下位ケズリ 補修痕1遺存 SK480 No.2	
84	土師質土器	焙烙	(30.2)	[5.1]	(29.3)	CHIK	10	普通	赤	砂目底 体部下位ケズリ 体部煤付着 接点のない3 片から復元	
85	瓦質土器	焙烙	38.4	5.5	34.8	CIK	70	普通	にぶい橙	底部シワ状痕 やや酸化焼成 体部下位ケズリ No.82	84-1
86	土師質土器	榎木鉢	(11.4)	[5.3]	—	AHK	5	普通	にぶい橙	江戸在地系 胎土粉質	
87	かわらけ	小皿	(6.6)	0.9	(4.0)	EIK	20	普通	灰白	手づくね成形 内外面・欠面部黒色塗付物付着	83-15
88	土師質土器	乗燭	2.5	1.6	2.0	AHK	100	普通	浅黄橙	江戸在地系 底部糸切痕(左) 胎土粉質	84-2
89	土師質土器	乗燭	2.7	1.6	2.4	AHK	100	普通	にぶい橙	江戸在地系 底部糸切痕(左) 胎土粉質	84-2
90	土師器	蓋	—	[2.7]	(4.6)	CEG	5	普通	褐灰	古墳時代 底部木葉痕 胎土中心黒 SK344下層	
91	土製品	羽口	長さ33.0 伊内径1.6 輪内径3.0 高さ65.7			CI	—	良好	灰白	瓦質 ナゲ状調整	114-1
92	磁器	紅坯	2.1	1.0	0.7	—	100	良好	白	瀬戸美濃系 型成形 内外面施釉 量付露胎 高さ3.0 g	
93	土製品	泥面子	径2.3 厚さ0.8 高さ5.2			ACK	—	普通	にぶい橙	型成形 雲母付着	122-12
94	土製品	人形	長さ1.8 幅1.5 厚さ0.7 高さ1.3			AK	—	良好	橙	江戸在地系 一枚型成形	
95	土製品	人形	縦[0.7] 横[1.4] 高さ[1.1] 高さ1.1			A	—	良好	にぶい橙	江戸在地系 一枚型成形 雲母付着	121-6
96	土製品	人形	長軸[15.5] 短軸[4.8] 高さ[3.7] 高さ88.6			AHK	—	普通	橙	胎土粉質・部分的還元焼成 左右合二枚型成形 中空	
97	瓦	軒椼瓦	長さ[3.8] 幅[8.1] 高さ[7.4]			AK	—	普通	灰	左巻三巴文 燻す 雲母付着	
98	瓦	軒椼瓦	長さ[8.1] 幅[11.5] 高さ1.8			IK	—	普通	灰白	燻す	
99	瓦	軒椼瓦	長さ[2.5] 幅[6.0]			EIK	—	普通	灰白	燻す 弱く銀化	
100	瓦	軒椼瓦	長さ[2.2] 幅[6.0] 高さ[4.2]			IK	—	普通	灰白	燻す	
101	瓦	軒椼瓦	長さ[2.2] 幅[6.0] 高さ[4.2]			EIK	—	普通	灰白	燻す	
102	瓦	軒椼瓦	長さ[2.5] 幅[11.9] 高さ[3.9]			CIK	—	普通	灰白	燻す	125-11
103	瓦	軒椼瓦	長さ[3.5] 幅[7.3] 厚さ2.1 高さ[5.3]			IK	—	普通	灰白	燻す 胎土中心灰色 瓦当面上部摩耗	
104	瓦	軒椼瓦	長さ[3.3] 幅[11.2] 高さ[6.1]			I	—	普通	灰白	燻す 銀化	
105	瓦	軒椼瓦	長さ[5.6] 幅[14.6] 厚さ[2.1] 高さ[6.0]			I	—	普通	灰白	燻す 弱く銀化	125-12
106	瓦	軒椼瓦	長さ[7.3] 幅[11.8] 厚さ1.9 高さ[6.4]			IK	—	普通	灰白	燻す 銀化 被熱(黒化)	
107	瓦	軒椼瓦	長さ[2.8] 幅[16.3] 高さ[4.7]			EIK	—	普通	灰白	燻す 弱く銀化	125-13
108	瓦	軒椼瓦	長さ[1.9] 幅[9.5] 高さ[3.4]			IK	—	普通	灰白	燻す 瓦当面摩耗	
109	瓦	軒椼瓦	長さ[6.1] 幅[9.8] 高さ[4.3]			EK	—	良好	灰白	江戸式 燻す 銀化	125-14
110	瓦	軒椼瓦	長さ[7.0] 幅[14.6] 厚さ[2.1] 高さ[6.1]			AK	—	普通	灰白	燻す	125-15
111	瓦	軒椼瓦	長さ[18.6] 幅[17.5] 厚さ1.9 高さ[6.5]			IK	—	普通	灰白	江戸式 燻す 弱く銀化	
112	瓦	軒椼瓦	長さ[18.2] 幅[28.6] 厚さ[1.8] 径6.8			AIK	—	普通	灰白	江戸式 右巻三巴文 燻す 弱く銀化 胎土中心灰色	125-16
113	瓦	軒平瓦	長さ[13.6] 幅[13.8] 厚さ1.9 高さ[7.6]			EI	—	普通	灰白	江戸式 燻す	
114	瓦	軒平瓦	長さ[14.6] 幅[23.7] 厚さ1.8 高さ[4.9]			AK	—	普通	灰白	燻す 煤付着 雲母付着	125-17
115	瓦	平瓦	長さ[10.2] 幅[8.8] 厚さ2.0 高さ2.0			A	—	普通	灰白	凹面刻書「天」 燻す 雲母付着 No.93	125-18
116	瓦	椼瓦	長さ[13.5] 幅[13.4] 厚さ[1.8] 高さ[2.6]			AK	—	普通	灰白	隅切遺存 二次穿孔1あり 燻す 雲母付着 一部強く 被熱	126-1

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
117	瓦	道具瓦	長さ[15.7] 幅[16.5] 厚さ1.9 高さ6.6			IK	—	普通	灰白	上面ヘラナゲ 燻す 強く銀化	126-2
118	瓦	軒丸瓦	長さ[2.7] 幅[14.4] 高さ[9.6]			EIK	—	普通	灰白	右巻十四連珠三巴文 胎土中心灰色 燻す 弱く銀化	126-3
119	瓦	軒丸瓦	長さ[7.2] 幅[14.3] 厚さ1.8 高さ[7.9] 径[14.2]			AIK	—	普通	灰白	左巻三巴文 上面ヘラナゲ 燻す 弱く銀化	
120	瓦	丸瓦	長さ[22.9] 幅[10.5] 厚さ2.0 高さ[6.7]			K	—	普通	灰白	上面ヘラナゲ 燻す 銀化 被熱(剥落) 胎土中心灰色	126-4
121	瓦	丸瓦	長さ[16.4] 幅14.5 厚さ2.3 高さ6.4			K	—	普通	灰白	燻す 銀化 被熱(剥落) 胎土中心灰色	
122	瓦	丸瓦	長さ[8.5] 幅13.3 厚さ2.3 高さ5.8			K	—	普通	灰白	上面ヘラナゲ 燻す 弱く被熱	
123	瓦	丸瓦	長さ[12.6] 幅14.4 厚さ2.3 高さ6.2			K	—	普通	灰白	燻す 銀化	
124	瓦	丸瓦	長さ[14.4] 幅[11.3] 厚さ1.7 高さ5.4			K	—	普通	灰	上面ヘラナゲ 燻す	
125	瓦	丸瓦	長さ[13.2] 幅[13.3] 厚さ2.1 高さ6.0			K	—	普通	灰白	上面ヘラナゲ 燻す	
126	木製品	漆椀	高さ[3.8]							横木取り 内面赤漆 外面黒漆 No.101	
127	木製品	漆椀	高さ[3.0]							横木取り 内面赤漆 外面黒漆 金で家紋 被熱 No.100	
128	木製品	漆椀	高さ[6.0]							横木取り 内面赤漆 外面黒漆	
129	木製品	漆椀	高さ[5.2]							横木取り 高台内金で「雷」	
130	木製品	漆椀	高さ[5.7]							横木取り 内外面赤漆 高台内黒で文様 玉み大	
131	木製品	漆椀	高さ[5.7]							横木取り 内外面赤漆 高台内金で「金」「仕入」被熱 No.91	
132	木製品	漆椀	高さ[4.9]							横木取り 内外面黒漆 高台内赤で「本」No.96	
133	木製品	漆椀	高さ[3.2]							横木取り 内外面黒漆 高台内赤で「千」被熱 No.80	
134	木製品	杯	口径9.8 高さ[1.8]							横木取り 内外面赤漆 内面金で文様 No.84	
135	木製品	漆椀蓋	つまみ径4.7 口径8.9 高さ2.0							横木取り 内面赤漆 外面黒漆	
136	木製品	漆椀蓋	つまみ径4.4 口径8.6 高さ1.8							横木取り 内外面赤漆 外面 つまみ内黒で家紋 No.81	
137	木製品	漆椀蓋	つまみ径5.5 口径12.0 高さ3.0							横木取り 内面赤漆 外面黒漆 外面金で文様 No.87	
138	木製品	漆椀蓋	つまみ径5.1 口径(13.0) 高さ2.1							横木取り 内外面赤漆 口径・つまみ縁黒漆 No.99	
139	木製品	漆椀蓋	つまみ径(4.9) 口径(13.0) 高さ2.7							横木取り 内外面赤漆 つまみ縁黒漆 高台内黒で文様	
140	木製品	湯桶	径12.2 高さ[1.3]							板目 底板 表裏面焼印 表裏面黒漆 脚1残 側板一部残存 底板中央に孔	
141	木製品	樽	厚さ1.2 径12.0							板目 蓋 焼印 端に径3cmの穴	
142	木製品	曲物	厚さ0.7 径12.8							板目 底板 表面墨書	149-12
143	木製品	蓋	厚さ0.7 径17.5							板目 中央に孔5	
144	木製品	曲物	厚さ0.9 径21.4							板目 蓋「上州屋」の焼印 黒漆	
145	木製品	曲物	厚さ1.0 径24.4							板目 蓋 黒漆	
146	木製品	曲物	長さ[23.5] 幅[8.8] 厚さ1.1							板目 底板 表裏・側面黒漆 側板接着の漆残存	
147	木製品	井戸桶	長さ10.4 幅29.0 厚さ3.5							板目 中央 孔側面鉄釘5	
148	木製品	傘	長さ[5.9] 幅6.1 高さ4.1							板目 頭口口 木軸残存	
149	木製品	傘	幅[6.0] 高さ4.6							板目 柄残存	
150	木製品	傘	径3.4 高さ5.3							削出し 外面黒漆	
151	木製品	傘	長さ5.7 幅4.4 高さ[4.6]							削出し 軸留めの横木残存 竹の柄残存	
152	木製品	算盤王	厚さ1.0 径1.8							削出し	
153	木製品	鐙	長さ7.1 幅6.5 厚さ1.4							板目	
154	木製品	鐙	長さ7.2 幅[7.9] 厚さ1.2							板目	
155	木製品	鐙	長さ8.3 幅8.5 厚さ1.4							板目	
156	木製品	鐙	長さ8.4 幅8.5 厚さ1.9							板目	
157	木製品	箸	長さ18.1 幅0.7 厚さ0.5							削出し	
158	木製品	箸	長さ18.0 幅0.5 厚さ0.4							削出し	
159	木製品	箱	長さ10.6 幅12.0 高さ8.0							底板板目 側板板目 鉄釘8 釘穴4 No.102	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
160	木製品	杓子	長さ22.9	幅6.9	厚さ0.7					板目 全面赤漆 №79	
161	木製品	ケリゴウ	長さ[15.0]	幅4.3	厚さ3.0					板目	
162	木製品	不明品	長さ21.2	幅5.2	厚さ2.1					板目	
163	木製品	台座	長さ23.0	幅7.0	厚さ2.1					板目	
164	木製品	箒	長さ36.2	幅25.8	厚さ4.1					シヨロ 調固定4列 №64	
165	木製品	下駄	長さ21.6	幅6.4	高さ2.7					板目 連歯下駄 №103	
166	木製品	下駄	長さ22.2	幅6.0	高さ3.8					板目 連歯下駄 鼻緒の芯残存 №70	
167	木製品	下駄	長さ22.0	幅6.5	高さ[2.3]					板目 陰卵下駄	
168	木製品	下駄	長さ22.4	幅8.2	高さ6.8					板目 陰卵下駄	
169	木製品	下駄	長さ20.7	幅7.0	高さ4.5					板目 側面・裏面黒漆 陰卵下駄	
170	木製品	下駄	長さ22.7	幅7.6	高さ5.9					板目 陰卵下駄	
171	木製品	下駄	長さ21.2	幅6.2	高さ2.8					板目 陰卵下駄 表裏面黒漆	
172	木製品	下駄	長さ22.0	幅8.5	高さ7.0					板目 陰卵下駄 №78	
173	木製品	下駄	長さ18.0	幅5.9	高さ2.4					板目 無眼下駄 №54	
174	木製品	下駄	長さ22.8	幅6.6	高さ2.1					板目 無眼下駄	
175	木製品	下駄	長さ22.3	幅5.5	高さ2.0					板目 無眼下駄	
176	木製品	下駄	長さ22.5	幅6.1	高さ2.9					板目 無眼下駄 裏面腫に金属	
177	木製品	木札	長さ10.2	幅7.3	厚さ0.5					板目 表面墨書 孔6	149-14
178	木製品	木札	長さ22.9	幅6.1	厚さ0.7					板目 表裏面墨書 鉄釘残存	149-13
179	木製品	木札	長さ22.8	幅6.1	厚さ0.6					板目 表面墨書 木釘	149-15
180	木製品	木札	長さ22.8	幅10.6	厚さ0.6					板目 表面墨書「百観音 福壽 [院々]」釘穴4	149-16
181	木製品	桶	長さ[31.1]	幅4.0	厚さ0.8					板目 側板 タガ敷 焼印	
182	木製品	板	長さ31.5	幅5.6	厚さ3.1					板目 焼印 中央に孔 裏面はがれている	
183	木製品	板	長さ38.0	幅[5.6]	厚さ1.6					板目 焼印 木釘2	
184	木製品	不明品	長さ23.4	幅5.7	厚さ1.4					板目	
185	木製品	不明品	長さ35.9	幅[12.8]	厚さ0.8					板目 先端が尖っている	
186	木製品	建築部材	長さ63.5	幅3.8	厚さ3.7					芯材材 両端に断面円形の出槽	
187	木製品	卒塔婆	長さ[79.5]	幅4.6	厚さ0.6					板目 陽刻の文字	
188	木製品	天伴棒	長さ[68.0]	幅6.1	厚さ5.2					板目	
189	銅製品	煙管	長さ4.8	小口径0.9	口径0.3	重さ4.3				吸口 下層	133-1
190	銅製品	煙草入れの金具	縦0.9	横2.0	高さ2.0	重さ2.6				連結環は鍍金あり	134-3
191	銅製品	鉤金具	長さ5.9	幅0.3	厚さ0.2	重さ4.5				刻み文様あり 鍍金あり	134-1
192	銅製品	不明	長さ12.3	幅0.6	厚さ0.03	重さ3.8				両端折れ曲がる 小孔5	
193	銅製品	管	長さ11.3	厚さ0.1	重さ2.9					大きく変形	
194	鉄製品	不明	長さ[11.8]	幅2.2	厚さ0.1	重さ14.8					
195	鉄製品	釘	長さ[3.1]	幅0.3	厚さ0.4	重さ1.1					
196	鉄製品	錠	長さ[12.4]	幅0.9	厚さ0.5	重さ28.4					134-1
197	銅製品	銭貨	径23.6	厚さ1.2	重さ3.3					寛永通寶(古)	
198	銅製品	銭貨	径24.0	厚さ1.3	重さ3.0					下層 寛永通寶(古)	
199	銅製品	銭貨	径22.5	厚さ0.9	重さ1.7					寛永通寶(新) 背元	
200	銅製品	銭貨	径24.2	厚さ1.1	重さ2.3					寛永通寶(新)	
201	石製品	火打石	長さ2.9	幅2.5	厚さ1.2	重さ7.3				石英 使用痕あり	
202	石製品	火打石	長さ4.1	幅2.9	厚さ2.0	重さ19.0				玉軸 稜の潰れ著しい 墨書「三」	
203	石製品	砥石	長さ[5.3]	幅[2.9]	厚さ1.3	重さ29.5				ホルンフェルス 裏・側面ノコギリ痕2 表面刃物傷多数 砥面1	
204	石製品	砥石	長さ[8.4]	幅[2.0]	厚さ1.8	重さ34.2				ホルンフェルス 側面幅広工具痕 裏面ノコギリ痕 砥面2	
205	石製品	砥石	長さ9.0	幅[3.7]	厚さ2.7	重さ115.6				ホルンフェルス 側面ノコギリ痕 表面刃物痕 砥面3	
206	石製品	砥石	長さ[6.2]	幅[4.0]	厚さ1.2	重さ30.0				ホルンフェルス 裏・側面ノコギリ痕2 表裏面刃物痕・線状痕 砥面1	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
207	石製品	砥石	長さ12.8	幅5.1	厚さ1.2	重さ85.6				ホルンフェルス 側面ノコギリ痕・削痕 裏面刃物痕多数 表面線条痕 砥面2	
208	石製品	砥石	長さ[6.9]	幅[7.0]	厚さ0.7	重さ37.5				ホルンフェルス 裏面ノコギリ痕カ・線条痕(使用痕多数)あり 砥面1	
209	石製品	砥石	長さ[6.7]	幅5.7	厚さ1.0	重さ46.9				流紋岩 裏面ノコギリ痕 砥面1	
210	石製品	砥石	長さ[7.8]	幅[6.4]	厚さ2.7	重さ216.4				ホルンフェルス 側面ノコギリ痕・幅広工具痕 表面刃物痕(V字)多数あり 砥面2	
211	石製品	砥石	長さ23.4	幅8.9	厚さ1.4	重さ293.3				ホルンフェルス 裏・側面ノコギリ痕3 側面幅広工具痕2 刃物痕・線条痕あり 砥面2 No.12	140-1
212	石製品	磨石	長さ5.5	幅5.1	厚さ3.4	重さ112.2				角閃石安山岩 多孔質 自然面遺存 使用面5	141-1
213	石製品	磨石	長さ5.0	幅3.2	厚さ1.2	重さ10.3				角閃石安山岩 多孔質 自然面遺存 使用面4	
214	硝子製品	碧玉	径0.8cm	孔径0.2cm	厚さ0.7	重さ0.9				白色	142-5
215	硝子製品	筭	長さ[1.3]	幅0.7	厚さ0.7	重さ1.4				青色 透明 中実	142-6
216	硝子製品	筭	長さ[7.9]	幅0.5	厚さ0.5	重さ5.1				透明 中実 螺旋状	142-7

整が施される。内底面にはランダムなナデ、指頭状の凹みがみられる。やや酸化焙焼成で、表面は橙色気味である。内耳は屈曲する部分がやや細身である。

87は手づくね成形のかわらけ小皿である。内外面と欠失部に黒色の付着物がみられる。

91は土製品の輪の羽口である。胎質は瓦質で、外面はナデ調整である。輪側径は炉側径のおよそ2倍である。胎土に角閃石が一定量含まれ、在地産の可能性がある。

92は瀬戸美濃系磁器の極小紅坯である。型成形で、外面に縦縞の施文が施される。

96は鳩を模した大型の土製人形である。左右合わせの二枚型成形で、中空である。胎土は細粒な雲母を含む粉質である。

第495図99～106は同文の軒棧瓦である。第8地点で19世紀前半頃に多くみられる瓦当文様である。大型の三巴文が伴う文様である。

第496図115は平瓦で、凹面に刻書「天」がみえる。

第497図126～133は漆椀である。127のみ外面に家紋が描かれる。129に「奮」、131に「企」「仕入」、132に「本」、133には「千」の文字が書かれる。134は漆塗りの坏である。内外面赤漆塗りで、内面に金で鶴の文様が描かれる。140は湯桶の底板で、黒漆塗りである。裏面に脚部が

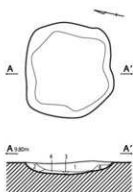
残存する。「企」の焼印が見られる。144は曲物の蓋で、黒漆塗りである。表面に「上州屋」の焼印が見られる。148・149は傘の頭口クロである。上部にくびれが作られる。150は手元口クロで、黒漆塗りである。径3.4cmと細身である。151は手元口クロで、柄の一部と、柄を固定する木釘が残存する。152は算盤玉である。153～156は木刀の鐔で、方形の板材に楕円形の穴が穿たれる。163は台鉦である。165・166は連歯下駄。167～172は陰陽下駄、173～176は無眼下駄である。187は卒塔婆である。墨書は見られないが、陽刻の文字が見られる。

第504図190は銅製の煙草入れ金具である。連結する環に鍍金がみられる。191は銅製の鉤金具で、鍍金と施文が施される。197・198は古寛永通寶である。199は銅製の新寛永通寶で、背元である。

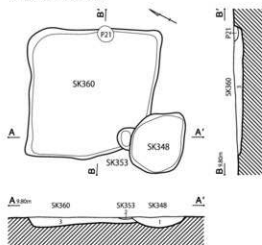
202は玉髓製の火打石である。剥片を素材としており、主要剥離面と打面が遺存する。打面縁辺と剥片末端部、左側縁に著しい使用痕が認められる。剥片剥離を行った後に、さらに腹面側から打ち割りを行っており、下面にネガティブ面が遺存している。背面には「三」と思われる墨書がみられる。値段を示すものであろうか。

第504図203～208・210、第505図211はホルンフェルス製、209は流紋岩製の砥石である。いず

S K 342



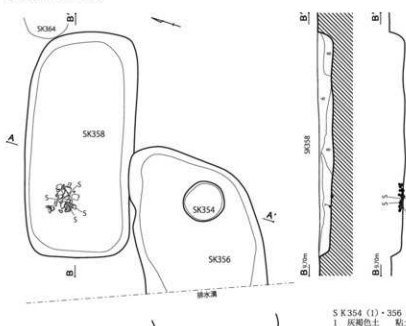
S K 348・353・360



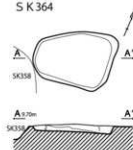
S K 357



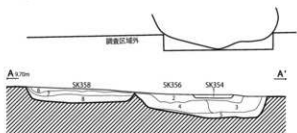
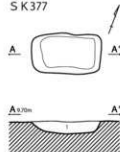
S K 354・356・358



S K 364



S K 377



S K 342

- 1 黄灰色土 シルト質 粘性弱 しまり弱 炭分微量
- 2 黄灰色土 シルト質 粘性強 しまり弱
- 3 黄灰色土 粘土質 しまり弱 炭分を含む
- 4 灰色土 粘土質 しまり弱

S K 348・353・360

- 1 褐色土 砂質 しまり強 炭化物微量
- 2 褐色土 砂質
- 3 黄褐色砂  $\phi 0.1 \sim 0.5$  mm程の砂 均質 壁際は赤色に変色 層下部に粘土質の土が混入

S K 354 (1)・356 (2~5)・358 (6~8)

- 1 灰褐色土 粘土質 砂礫混入 木質微量 しまり弱
- 2 灰褐色土 砂質 白色の砂 ( $\phi 0.5 \sim 1$  mm) 混入 しまりなし 粘性弱
- 3 灰色土 シルト質 粘性強 しまり弱 2層と同様の砂が混入
- 4 白灰色土 粘土質 しまり弱
- 5 灰色土 粘土質 しまり弱 (地山成分)
- 6 黄褐色土 砂質 粘性なし しまり強 炭分・炭化物微量
- 7 灰色土 粘土質 しまり弱 炭化物を含む
- 8 褐色土 シルト質 粘性強 しまりあり 木質を含む

S K 357

- 1 褐色土 シルト質 粘性弱 しまり強
- 2 褐色土 シルト質 粘性弱 しまりあり
- 3 青灰色土 シルト質 粘性あり しまりあり

S K 364

- 1 暗灰色土 シルト質 粘性強 しまり弱 酸化鉄を含む
- 2 灰色土 粘土質 しまり弱 上層から酸化鉄微量混入

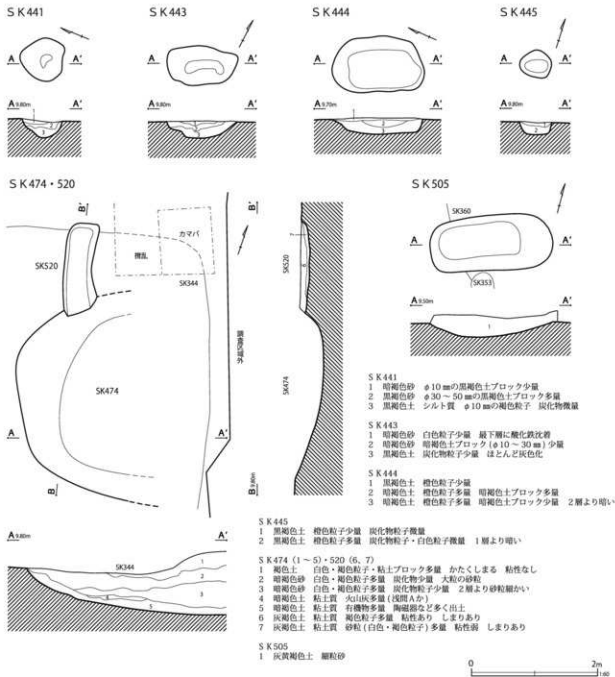
S K 377

- 1 暗灰色土 シルト質 粘性弱 しまり強 層の上位には灰色粘土ブロック ( $\phi 10$  mm) を含む

- 陶磁・土器
- ▲ 金属・石・瓦
- 木



第 506 図 区画 AC 土壇 (2)



第507図 区画AC土壌(3)

れも密なノコギリ状工具痕が遺存しており、209は段がみられる。同一石材であることから、いくつかは同一個体と考えられるが接合はみられず、破損後に使用を続けたり、再加工を施している可能性も疑われる。

第505図212は多孔質の角閃石安山岩転石製磨石である。他の磨石より重量感がある。自然面が

遺存しており、側面に明瞭な線条痕がみられる。

### 第356号土壌 (第506・510図)

F7-C5・6グリッドに位置する。第354・358号土壌より古い。平面形は不整形で、長軸3.2m、短軸1.95m、深さ0.35mを測る。長軸方位はN-60°-Eを指す。下層は白色の砂が混じる粘土質、シルト質土である。上層は白色の砂





第508図 区画AC土壌出土遺物(1)

を含む砂質土である。最下層の第5層は地山の可能性がある。

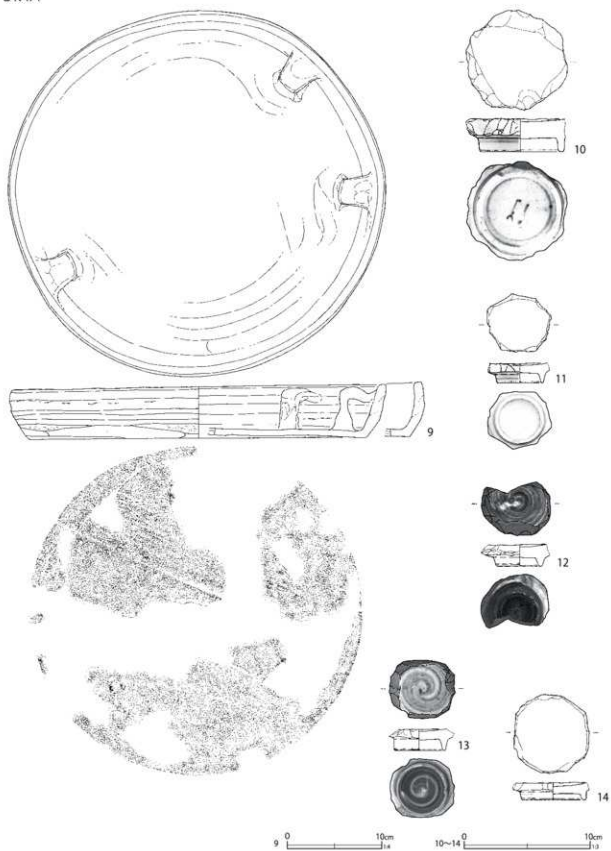
出土遺物は極めて少なく、図示しなかったが非掲載遺物にみられる肥前系磁器の広東碗が最新期の陶磁器である。推定廃絶期は18世紀後半である。第510図1に土製品の轆の羽口を図示した。胎質は瓦質で、外面はナデ状調整である。轆側の

内面上位に擦痕がみられ、轆口使用と推定される。

#### 第360号土壌 (第506・508図)

F7-C6グリッドに位置する。第348・353・ピット21より古く、第505号土壌より新しい。平面形は隅丸方形で、長軸2.05m、短軸2.05m、深さ0.15mを測る。長軸方位はN-68°

SK474



第 509 图 区画 AC 土坑出土遗物 (2)

第140表 区画AC土壌出土遺物観察表(1)(第508・509図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	縦5.4 横6.0	1.8	4.2	—	—	普通	白	SK360	肥前系 内外面施釉 外面染付 円盤状製品転用(底部) 重さ56.1g	86-3
2	磁器	皿	(8.4)	1.8	(5.0)	—	5	良好	白	SK474	肥前系 内外面施釉・染付 強く被熱	
3	陶器	碗	—	[3.0]	(5.0)	IK	10	普通	灰白	SK474	肥前系 内外面刷毛目釉 疊付胎土付着 強く被熱	
4	陶器	皿	(13.6)	3.4	5.4	IK	60	良好	灰白	SK474	瀬戸美濃系 型成形 内外面灰釉 内面布目痕あり	
5	陶器	甕	—	[5.8]	—	DEK	5	普通	褐灰	SK474	外面タタキ目 欠大部一辺砥具転用 胎土極硬質	
6	かわらけ	小皿	8.2	1.8	(3.8)	AHK	25	普通	白	SK474	江戸在地系 底部糸切痕・墨痕 胎土粉質	
7	かわらけ	小皿	(8.8)	1.5	(4.0)	AHM	30	普通	明褐色	SK474	底部糸切痕 胎土粗雑 被熱(黒化)	
8	瓦質土器	焙烙	37.5	5.6	34.0	CIK	70	普通	灰白	SK474	底部シワ状痕 体部下位ケズリ 糠す 胎土中心 黒褐色 被熱(剥落)	
9	瓦質土器	焙烙	(39.0)	5.8	35.6	CIK	60	普通	灰白	SK474	底部シワ状痕・板状圧痕 体部下位ケズリ(ミガキ状光沢) 糠す	
10	磁器	碗	—	[2.6]	6.5	—	—	普通	白	SK474	肥前系 内外面施釉 外面染付 円盤状製品転用(底部) 縦7.9cm 横7.9cm	
11	磁器	碗	—	[1.6]	3.6	—	—	普通	白	SK474	肥前系 内外面施釉 外面染付 円盤状製品転用(底部) 縦4.6cm 横5.0cm	
12	陶器	碗	—	[1.8]	3.6	IK	—	普通	赤褐	SK474	肥前系 内外面刷毛目釉(渦巻) 円盤状製品転用(底部) 縦4.2cm 横5.5cm	
13	陶器	碗	—	[1.8]	3.9	K	—	普通	褐灰	SK474	肥前系 内外面刷毛目釉(渦巻) 円盤状製品転用(底部) 縦4.6cm 横5.1cm	
14	陶器	碗	—	[1.3]	5.0	EIK	—	普通	灰白	SK474	瀬戸美濃系 内外面灰釉 底部黒化 円盤状製品転用(底部) 縦6.2cm 横6.0cm	

SK356

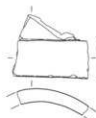


第510図 区画AC土壌出土遺物(3)

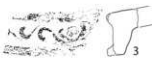
第141表 区画AC土壌出土遺物観察表(2)(第510図)

番号	種別	器種	長さ	炉側径		輪側径		重量	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
				外径	内径	外径	内径							
1	土製品	羽口	19.7	—	2.8	—	3.1	637.4	CI	良好	灰白	SK356	瓦質 ナゲ状調整 輪側内面上方に断痕あり 胴口使用か	

SK358



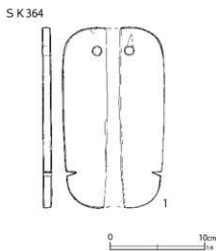
SK364



第511図 区画AC土壌出土遺物(4)

第142表 区画AC土壌出土遺物観察表(3) (第511図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	瓦	軒棧瓦	[5.0]	[17.2]	—	[7.4]	—	AIK	普通	灰白	SK358	東海式 右巻三巴文 横す 銀化	126-5
2	瓦	道具瓦	[10.0]	[12.0]	1.9	[5.4]	—	K	普通	灰白	SK358	横す	
3	瓦	軒棧瓦	[3.4]	[11.3]	—	[4.9]	—	AIK	普通	灰白	SK364	江戸式 横す 瓦当面欠失部摩耗	



第512図 区画AC土壌出土遺物(5)

一Eを指す。

覆土は砂層で、下部に粘土質の土が混入している。出土遺物は極めて少なく、第508図1に波佐見系磁器の碗を打ち欠いて二次加工を施した円盤状製品を図示した。推定廃絶期は18世紀以降である。

第474号土壌 (第507～509・513・514図)

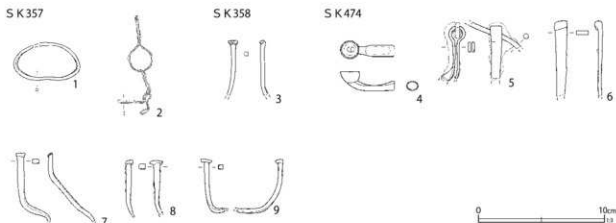
F7-B7、C7・8グリッドに位置する。第344号土壌より古く、第520号土壌より新しい。平面形は不明である。検出長軸は3.35m、短軸3.3m、深さ1.0mを測り、長軸方位はN-71°

一Eを指す

覆土下層は粘土質土、中・上層は砂層に覆われ

第143表 区画AC土壌出土遺物観察表(4) (第512図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	木取り	遺構	備考	図版
1	木製品	下駄	19.1	(7.4)	—	—	0.9	—	板目	SK364	側面に切りこみ 表裏面墨書	150-7



第513図 区画AC土壌出土遺物(6)

第144表 区画AC土壌出土遺物観察表(5)(第513図)

番号	種別	器種	法量	遺構名	備考	図版
1	銅製品	不明	縦2.9 横5.3 厚さ0.2 重さ7.0	SK357		
2	銅製品	針金	縦8.0 横2.7 厚さ0.1 重さ3.5	SK357	径約1.5cmの棒状品に括り付けられていた形状を残す	
3	鉄製品	釘	長さ[4.4] 幅0.3 厚さ0.3 重さ3.3	SK358		
4	銅製品	煙管	長さ4.3 火皿径1.4 小口径0.9×0.7 重さ4.4	SK474	雁首 回む	133-1
5	鉄製品	環釘	長さ[4.4] 幅0.2 厚さ0.8 重さ10.4	SK474	環内に鉄棒挿入	
6	鉄製品	釘	長さ[6.0] 幅1.0 厚さ0.3 重さ7.1	SK474		
7	鉄製品	釘	長さ[5.5] 幅0.5 厚さ0.3 重さ5.7	SK474		
8	鉄製品	釘	長さ[4.4] 幅0.5 厚さ0.4 重さ2.6	SK474		
9	鉄製品	釘	長さ[4.3] 幅0.4 厚さ0.3 重さ2.7	SK474		

ている。第4層にはAS-Aと推定される火山灰が多量に含まれており、陶磁器などの遺物はその直下から出土している。

出土遺物は多量で、陶磁器類は土器を主体としている。図示しなかったが、波佐見系磁器の碗を主体に、瀬戸美濃系陶器の太白手筒形碗や、せんじ碗等がみられる。推定廃絶期は18世紀中葉である。

第508図2～8、第509図に陶磁器類、第514図に石製品を図示した。第508図2は肥前系磁器の

そり皿である。強く被熱しており、同じく被熱した同文製品が第497号焼土層にみられ、18世紀前葉の焼土層の広がりが示唆される。

3は肥前系陶器の刷毛目軸碗である。強く被熱しており、焼土層に伴う可能性がある。

4は瀬戸美濃系陶器の木瓜形輪高台型皿である。型成形で、輪高台を貼り付けている。内面に布目痕がみられ、灰釉が施軸されている。

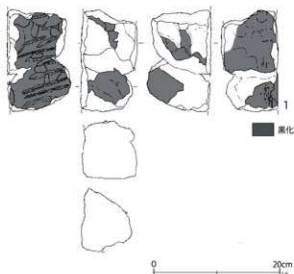
6・7はかわかけ小皿である。6は江戸在地系で、胎土は細粒な雲母を含む粉質である。底部に糸切痕と墨痕がみられる。7は細粒な雲母を含むが粗雑な胎土を呈している。被熱により黒色化している。

8・9は瓦質土器の平底焙烙である。8は底部にシワ状痕が遺存し、体部下位はケズリ調整である。被熱により著しく剥落している。胎土に角閃石が一定量含まれ、在地産と推定される。9は底部にシワ状痕と平行する線状の圧痕がみられる。体部下位にケズリ調整が施される。

10～14は陶磁器の底部を打ち欠いて二次加工を施した円盤状製品である。10・11は波佐見系磁器の碗、12・13は肥前系陶器の刷毛目軸碗、14は瀬戸美濃系陶器の碗を素材にしている。

第514図1は軟質凝灰岩製の切石材である。左側面にツルハシ状工具痕、右側面、裏面に削り痕

SK474



第514図 区画AC土壌出土遺物(7)

第145表 区画AC土壌出土遺物観察表(6)(第514図)

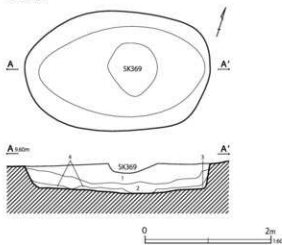
番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	図版
1	石製品	切石材	[16.3]	9.2	10.3	883.5	凝灰岩	SK474	軟質 ツルハシ状工具痕 削痕 被熱(黒化・一部赤化)	139-2

第146表 第二面区画AD土壌一覧表

単位: m

番号	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	方位	備考	採回
361	F7-D7	隅丸方形	1.20	1.20	0.20	N-22°-W	SK422より新	517
362	F7-D7	楕円形	1.10	0.85	0.15	N-70°-E	SD21より新	517
369	F7-D7	不整形	0.85	0.75	0.10	N-30°-W	SK403より新	517
370	F7-D6	円形	1.00	—	0.45	—	—	517
376	F7-C7	不整形	2.20	1.30	0.30	N-70°-E	—	517
403	F7-D6・7	楕円形	2.95	1.90	0.45	N-72°-E	SK369より古	515
409	F7-D6	隅丸長方形	(1.10)	1.30	0.75	N-70°-E	—	517
422	F7-D7	円形	0.45	(0.25)	0.05	—	SK361より古	517
424	F7-C・D7	楕円形	0.65	[0.50]	0.10	N-18°-W	—	517
509	F7-C・D6	隅丸長方形	1.70	0.75	0.50	N-26°-W	SK510より新	517
510	F7-C6	楕円形	1.45	0.70	0.25	N-26°-W	SK509より古	517

SK403



SK403

- 1 灰褐色土 砂質 粘性なし しまり強 角の取れた灰黄色の粘土ブロック (φ10～50mm) 含む 炭化物粒子微量  
 2 灰褐色土 シルト質 粘性やや弱 しまり弱 黄色の泥砂を多量  
 3 黒色砂 粗粒砂 角の取れた灰黄色の粘土ブロック (10～30mm) 含む  
 4 黒褐色土 シルト質 粘性強 しまり弱 炭化物粒子・木炭残量

第515図 区画AD土壌(1)

がみられる。被熱により黒化している。

#### ④区画ADの土壌(第515～522図)

区画ADは『絵図』にみえる「煮賣屋/兵藏」の区画である。土壌は11基検出された。土壌は調査区中央に集中し、東西部は空白地である。

第146表に位置・規模等の基本的な情報を示した。

本区画で抽出した土壌は、第403号土壌で、先行して第515図に遺構図、第516図に遺物図を示した。

非抽出となった土壌は、第517図に遺構図、第

518～522図に遺物図を示し、特徴的な土壌・遺物について記述した。

#### 第403号土壌(第515・516図)

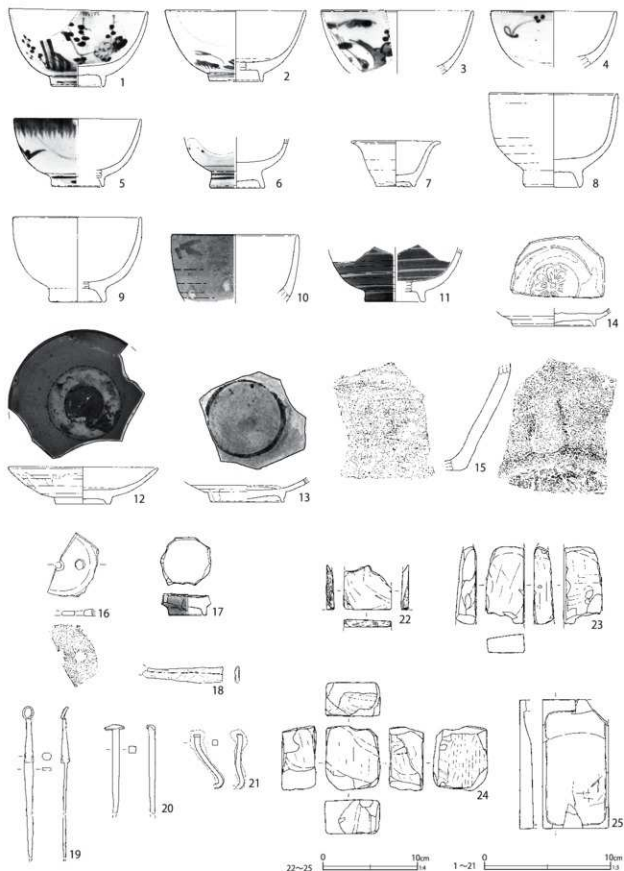
F7-D6・7グリッドに位置し、第369号土壌より古い。平面形は楕円形で、長軸2.95m、短軸1.9m、深さ0.45を測る。長軸方位はN-72°-Eを指す。

覆土は下層がシルト質、上層は砂質土である。遺構東部には黒色の粗粒砂が最下部に堆積している。出土遺物は多量で、陶磁器類は波佐見系磁器の雪輪草花文碗等を主体とし、17世紀後半に比定される肥前系や瀬戸美濃系陶器が多い。播鉢は丹波系のみである。瀬戸美濃系陶器の腰鉢碗の破片1点が最新の陶磁器である。第三面の第497号土壌と陶磁器組成に類似性があり、同時期の可能性が考えられる。推定廃絶期は18世紀初頭頃である。

第516図に出土遺物を図示した。1～7は肥前系磁器で、1は肥前系磁器の梅樹文染付、2は見込み蛇ノ目軸剥ぎの粗製碗である。3・4は波佐見系の雪輪草花文染付碗である。5は雨降らし文染付の碗である。6は高台高が高い粗製の小碗で、底部が極めて厚い。被熱により一部赤色化している。

7は肥前系磁器の端反形環である。口縁部の反りが極めて強い。

8・9は肥前系陶器の呉器手碗である。10は



第 516 图 第 403 号土坑出土遗物

第147表 第403号土壇出土遺物観察表 (第516図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版	
1	磁器	碗	10.9	6.1	4.1	—	60	普通	白	肥前系 内外面施釉 外面染付	85-5	
2	磁器	碗	(11.0)	5.6	(4.0)	—	20	普通	白	肥前系 内外面施釉 外面染付 見込蛇ノ目軸刺		
3	磁器	碗	(12.0)	[5.0]	—	—	5	普通	白	肥前系 内外面施釉 外面染付		
4	磁器	碗	(9.8)	[4.5]	—	—	15	普通	白	肥前系 内外面施釉 外面染付		
5	磁器	碗	(10.0)	[5.4]	(4.0)	—	30	普通	白	肥前系 内外面施釉 外面染付		
6	磁器	碗	—	[3.9]	4.0	—	10	普通	白	肥前系 内外面施釉 外面染付 被熱a(一部赤化)		
7	磁器	坏	(6.7)	3.6	(3.0)	—	35	普通	白	肥前系 内外面施釉		
8	陶器	碗	(10.0)	7.4	4.2	IK	60	普通	灰白	肥前系 内外面施釉		
9	陶器	碗	(9.9)	6.7	(4.2)	K	50	良好	灰白	肥前系 内外面施釉		
10	陶器	碗	(9.8)	[5.3]	—	K	30	普通	灰白	瀬戸美濃系 内外面灰釉 外面呉須絵 被熱		
11	陶器	碗	—	[4.3]	(4.6)	I	25	普通	灰赤	肥前系 内外面刷毛目軸		
12	陶器	皿	(11.6)	2.9	4.3	I	70	普通	にぶい橙	肥前系 内面青緑釉 見込蛇ノ目軸刺ぎ 被熱・煤付着		85-6
13	陶器	皿	—	[1.9]	5.6	IK	20	普通	灰白	瀬戸美濃系 内外面灰釉 内面輪状重焼痕(径5.5cm) 被熱・露胎部煤付着		85-7
14	陶器	皿	—	[1.4]	6.4	IK	15	普通	灰白	瀬戸美濃系 内面灰釉・輪状き取り・型押施文・輪状重焼痕		85-8
15	陶器	甕	—	[8.4]	—	DEI	5	普通	褐灰	常滑焼 中世		
16	かわらけ	小皿	—	[6.0]	(5.2)	AIK	15	普通	にぶい黄	江戸在地系 底部糸切痕(左)・二次穿孔2 胎土粉質		
17	磁器	碗	—	[1.7]	2.9	—	—	普通	灰白	肥前系 内外面施釉 外面染付 円盤状製品転用(底部)縦3.8cm 横4.0cm 雁首 火欠欠 履につぶれる 鍍金あり 先端欠失	135-4	
18	銅製品	煙管	長さ	[6.4]	小口径	1.2×0.3	重さ	6.4				
19	鉄製品	鍵	長さ	[12.0]	径	0.7×0.6	重さ	10.4				
20	鉄製品	釘	長さ	[7.1]	幅	0.6	厚さ	0.5	重さ	8.7		
21	鉄製品	釘	長さ	[4.4]	幅	(0.4)	厚さ	(0.4)	重さ	6.5		
22	石製品	砥石	長さ	[4.7]	幅	5.1	厚さ	[0.8]	重さ	26.5	粘板岩 側面ノコギリ痕 砥面1	
23	石製品	砥石	長さ	8.1	幅	4.1	厚さ	2.1	重さ	96.5	流紋岩 表・側面削り痕2 砥面3	
24	石製品	砥石	長さ	6.8	幅	5.8	厚さ	3.6	重さ	228.1	流紋岩 裏面幅広工具痕・ノコギリ痕(摩滅)・墨痕 砥面4 被熱(剥落)	
25	石製品	硯	長さ	13.6	幅	7.0	器高	[1.2]	重さ	245.2	粘板岩 器高 [1.2]cm 裏・側面黒色塗付 内面墨付着 被熱(剥落) SK497と接合	

瀬戸美濃系陶器の御室碗で、灰釉が施釉され、外面に呉須絵がみられる。被熱している。11は肥前系陶器の刷毛目碗で、渦巻状の刷毛目軸が施釉される。

12は肥前系陶器の青緑釉輪軸皿である。内面は青緑釉で、外面上位は透明釉である。内面は蛇ノ目軸刺ぎが施される。被熱し、煤が付着する。13は瀬戸美濃系陶器の灰釉丸皿で、内面に直径5.5cmの輪状重焼痕がみられる。高台端部には重ね焼き時の釉が付着している。被熱しており、露胎部には煤が付着する。14は瀬戸美濃系陶器の灰釉丸皿である。内面に花文の型押陰刻が施され、軸は一部拭き取られている。輪状重焼痕がみられる。

15は中世常滑焼の甕である。栗橋宿では稀に

出土する。

16は江戸在地系のかわらけ小皿である。胎土は細粒の雲母を含む粉質である。底部は左回転の糸切痕が遺存し、二次穿孔が2箇所みられる。

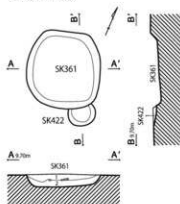
17は肥前系磁器の粗製小碗の底部は打ち欠いて、二次加工を施した円盤状製品である。

18は銅製煙管の雁首である。銅板を曲げて作られており、中央に銅板の端部が遺存する。19は鉄製の鍵である。20・21は鉄製の頭巻釘である。

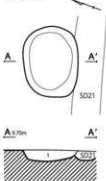
22は粘板岩製、23・24は流紋岩製の砥石である。22は側面に密なノコギリ状工具痕が遺存する。23は表、側面に工具による削り痕がみられる。24は裏面にノコギリ状工具痕が遺存するが、摩耗しているため不明瞭である。裏面に刃傷



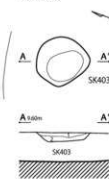
S K 361・422



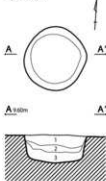
S K 362



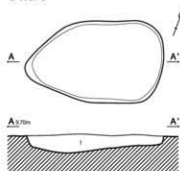
S K 369



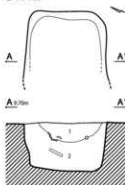
S K 370



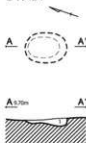
S K 376



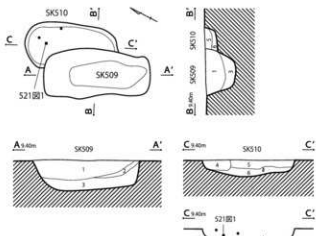
S K 409



S K 424



S K 509・510



S K 370

- 1 暗褐色土 細粒砂少量混入
- 2 暗褐色粘質土 粘質土上に細粒砂多量に混ざる 下部に黒色の腐植物が堆積
- 3 オリーブ灰色土 砂質 粘性あり 暗褐色土小ブロック少量 池土上に近接

S K 376

- 1 暗灰色土 砂質 シルト質 粘性弱 しまり強 白色粒子少量  $\phi 10 \sim 20$  mmの灰白色粘土ブロック多量 炭化物少量 角閃石粒少量 人為堆積

S K 409

- 1 灰色土 シルト質 粘性強 しまりあり 木質・木片微量
- 2 灰褐色土 シルト質 粘性強 しまりあり 木質・木片多量 木製品が多く出土

S K 424

- 1 黄褐色土 砂質 粘性なし しまり弱 円形粘土結土ブロック ( $\phi 10 \sim 30$  mm) を含む

S K 509 (1~3)・510 (4~6)

- 1 灰白色土 細粒砂 小円礫微量 褐色粘質土少ブロック少量
- 2 暗褐色土 粘質土 細粒砂微量 流入土
- 3 灰白色土 細粒砂
- 4 灰褐色シルト 均一 池山の灰褐色シルト由来 灰色粘土ブロック ( $\phi 5 \sim 20$  mm) 多量 炭化物 ( $\phi 2 \sim 5$  mm)・焼土 ( $\phi 5 \sim 10$  mm) 少量 池山下部の灰色シルト由来 灰色粘土ブロック ( $\phi 5 \sim 10$  mm)・炭化物 ( $5 \sim 20$  mm)・焼土 ( $\phi 5 \sim 30$  mm) 多量
- 5 灰色シルト 均一 5層と同じ 炭化物・焼土少量
- 6 灰色シルト

S K 361

- 1 褐色土 シルト質 粘性あり しまりなし 木質微量
- 2 灰褐色土 シルト質 粘性弱 しまりあり 炭化物・木質微量

S K 422

- 1 灰黄色土 砂質 粘性弱 しまり強 炭化物粒子・焼土粒微量

S K 362

- 1 灰色土 粘土質 しまりなし 黄色の砂 ( $\phi 0.1$  mm程) 多量

S K 369

- 1 褐色土 シルト質 粘性弱 しまりあり 炭化物微量
- 2 灰褐色土 シルト質 粘性強 しまりあり 陶磁器片出土

●陶磁・土器 ●金属・石・瓦



第 517 図 区画AD土壇 (2)

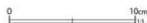
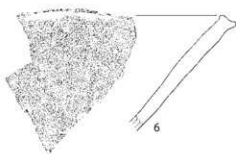
SK361



SK409



SK510



第518図 区画AD土壌出土遺物(1)

第148表 区画AD出土遺物観察表(1)(第518図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	瓦質土器	火酒壺	縦[3.6] 横[5.3] 厚さ[3.3]			CHK	5	普通	灰白	SK361	把手 燻す	
2	磁器	碗	(9.0)	4.4	3.2	—	20	良好	白	SK409	肥前系 内外面施軸 外面染付	
3	磁器	碗	(8.2)	[2.9]	—	—	10	良好	白	SK409	肥前系 内外面施軸・染付	
4	陶器	碗	—	[3.1]	(4.2)	K	15	普通	灰	SK409	肥前系 内外面渦巻状刷毛目軸	
5	陶器	片口鉢	(12.4)	5.9	6.2	DEI	40	良好	灰白	SK409	瀬戸美濃系 内外面施軸 内面目跡3あり 高台 内黒書カ「O」	
6	陶器	片口鉢	—	[9.1]	—	DEHK	5	良好	にぶい青	SK510	常滑10型式 15c 後半 内面下位摩耗 外面指頭痕	
7	かわらけ	小皿	(10.8)	2.1	5.6	AHK	30	普通	にぶい橙	SK510	江戸在地系 底部糸切痕(左) 胎土粉質 底部・体部二次穿孔4遺存 内底面煤付着	

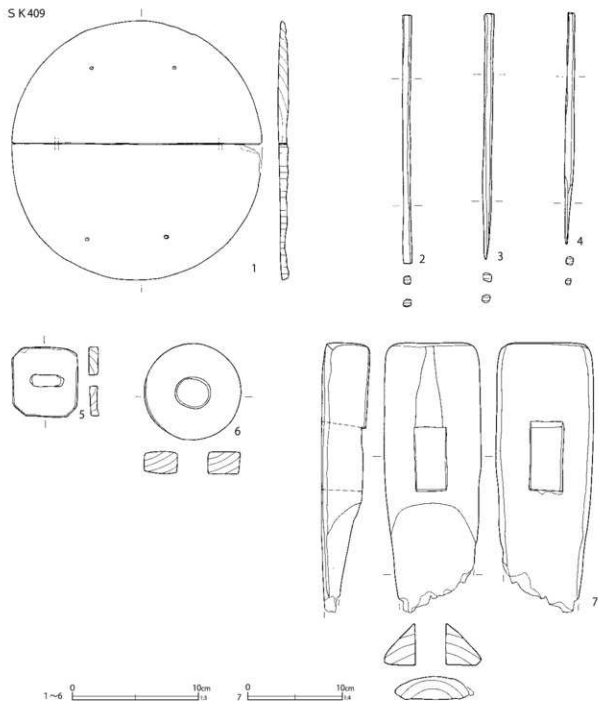
の広い工具痕と思われる削り痕がみられる。25は粘板岩製の硯である。裏、側面に黒色塗布物がみられ、内面に墨が付着する。第497号土壌出土破片と接合関係にある。

### 第376号土壌(第517図)

F7-C7グリッドに位置する。平面形は不

整形で、長軸2.2m、短軸1.3m、深さ0.3mを測る。長軸方位はN-70°-Eを指す。覆土は単層の砂質土で、白色粒子や角閃石粒が含まれる。人為堆積である。

出土遺物は少量で、図示し得るものがなかったが、波佐見系磁器碗をはじめとする18世紀の陶



第519図 区画AD土壌出土遺物(2)

磁器が出土している。推定廃絶期は18世紀前半以降である。

**第409号土壌** (第517～519・522図)

F7-D6グリッドに位置する。平面形は隅丸長方形で、検出長軸1.1m、短軸1.3m、深さ0.75mを測る。覆土はシルト質土で、下層では

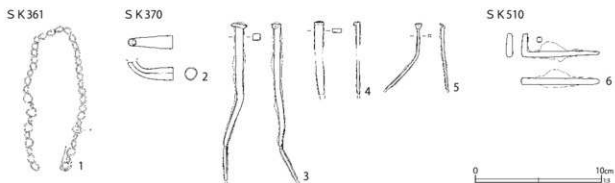
木片が多量に出土している。

出土遺物は木製品を主体に、陶磁器が少量出土している。肥前系磁器の筒形碗(第518図3)が最新期の陶磁器である。推定廃絶期は18世紀中葉である。

第518図2～5に陶磁器、第519図に木製品、

第149表 区画AD出土遺物観察表(2)(第519図)

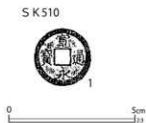
番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	木取り	遺構	備考	図版
1	木製品	樽	—	—	0.8	20.0	—	—	椀目、板目	SK409	蓋 表面黒書 木釘4	151-3
2	木製品	箸	19.3	0.7	0.7	—	—	—	削出し	SK409	端部加工	
3	木製品	箸	19.5	0.8	0.7	—	—	—	削出し	SK409		
4	木製品	箸	17.4	0.5	0.6	—	—	—	削出し	SK409		
5	木製品	鐏	5.4	5.1	0.8	—	—	—	板目	SK409		
6	木製品	不明品	7.6	7.6	1.7	—	—	—	板目	SK409		
7	木製品	埴輪部材	[28.5]	10.4	4.4	—	—	—	板目	SK409		



第520図 区画AD土壌出土遺物(3)

第150表 区画AD土壌出土遺物観察表(3)(第520図)

番号	種別	器種	法量	遺構名	備考	図版
1	銅製品	針金	縦11.4 横5.1 厚さ0.1 重さ4.1	SK361	鎖状	
2	銅製品	煙管	長さ[3.6] 小口径1.0 重さ4.4	SK370	雁首 火皿欠失	
3	鉄製品	釘	長さ[12.6] 幅0.6 厚さ0.5 重さ16.6	SK370		
4	鉄製品	釘	長さ[5.8] 幅0.7 厚さ0.3 重さ6.5	SK370		
5	鉄製品	釘	長さ[5.3] 幅0.2 厚さ0.2 重さ2.5	SK370		
6	鉄製品	額受金具	縦1.9 横6.2 幅0.5 厚さ0.4 重さ10.2	SK510		

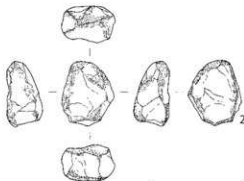
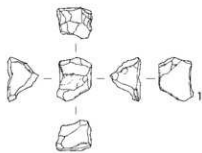


第521図 区画AD土壌出土遺物(4)

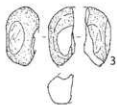
第151表 区画AD出土遺物観察表(4)(第521図)

番号	種別	器種	法量	遺構名	備考	図版
1	銅製品	錢貨	径22.9 厚さ1.4 重さ3.0	SK510	寛永通寶(新)	

SK370



SK409



0 5cm 10cm  
1-2 3 14

第522図 区画AD土壌出土遺物(5)

第152表 区画AD土壌出土遺物観察表(5)(第522図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	図版
1	石製品	火打石	2.3	1.8	1.6	7.2	玉髓	SK370	使用痕あり	
2	石製品	火打石	3.4	2.8	1.9	23.4	石英	SK370	標の潰れ著しい	
3	石製品	磨石	6.2	3.5	2.8	26.9	角閃石安山岩	SK409	多孔質 自然面遺存 使用面2	

第522図3に石製品を図示した。

第518図2は波佐見系磁器のくらわんか手碗である。外面に二重網目文染付がみられる。3は肥前系磁器の筒形碗である。大振りで、内面に四方樺文染付が施される。4は肥前系陶器の刷毛目軸碗である。内外面に渦巻状の刷毛目軸が施軸される。5は瀬戸美濃系陶器の丸碗形片口鉢である。灰軸が施軸され、内面に目跡が3箇所みられる。高台内に墨書「〇」がみえる。

第519図1は樽の蓋である。二枚の板を合釘で接合し、4箇所にも釘が遺存する。表面に墨書「全吉」、「上/念願梅干/五千入」がみえる。本体の樽には梅干が入っていたと思われる。2~4は箸である。3・4は端部を尖らせるように加工している。5は玩具と思われる木刀の鐙である。6は環状の木製品で、用途は不明である。7は建築部材で、長方形のホゾ穴がみられる。

第522図3は多孔質の角閃石安山岩転石製磨石である。自然面が大きく遺存し、左側面と裏面に著しく使用痕がみられる。

#### 第509号土壌(第517図)

F7-C・D6グリッドに位置し、第510号土

壌より新しい。平面形は隅丸長方形で、長軸1.7m、短軸0.75m、深さ0.5mを測る。長軸方位はN-26°-Wを指す。

覆土は細粒砂を主体とし、上層には小円礫が僅かに含まれる。出土遺物は極めて少なく、時期を特定できるような陶磁器はみられなかった。

#### 第510号土壌(第517・518・520・521図)

F7-C6グリッドに位置し、第509号土壌より古い。平面形は楕円形で、長軸1.45m、短軸0.7m、深さ0.25mを測る。長軸方位はN-26°-Wを指す。

覆土の上層は多量の焼土・炭化物が含まれ、下層は焼土・炭化物の量が少ない。

遺物は極めて少なく、17世紀後半の遺物がみられるが18世紀の遺物が認められない。推定廃絶期は17世紀後半以降である。

第518図6・7に陶磁器類、第520図6に金属製品、第521図1に銭貨を図示した。

第518図6は常滑10型式の片口鉢である。内面下位が摩耗しており、外面には指頭痕がみられる。15世紀後半の所産である。栗橋宿では稀に中世段階の遺物が出土する。

7は江戸在地系のかわらけ小皿である。胎土は細粒な雲母を含む粉質で、底部は左回転の糸切痕が遺存する。底部に2箇所、体部に2箇所の二次穿孔がみられる。内底面には煤が付着する。

第520図6は鉄製の額受金具である。第521図1は銅製の新寛永通寶である。

#### ⑤区画AEの土壌 (第523～545図)

区画AEは『絵図』にみえる「旅籠屋/吉田屋/太左衛門」の区画である。土壌は34基検出された。土壌は他の区画より多く、調査区中央から西

部にかけて集中して分布する。東部は空白地である。覆土を砂のみとする遺物の少ない土壌が多い。第153表に位置・規模等の基本的な情報を示した。

本区画で抽出した土壌は、第388・415号土壌で、先行して第523図に遺構図、第524～529図に遺物図を図示した。

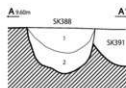
非抽出となった土壌は、第530～535図に遺構図、第536～545図に遺物図を示し、特徴的な土壌・遺物について記述した。

第153表 第二面区画AE土壌一覧表

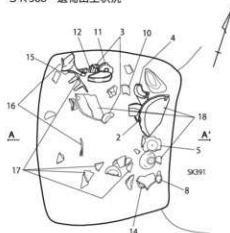
単位: m

番号	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	方位	備考	種別
371	F7-D7	隅丸長方形	1.90	0.70	0.10	N-13°-W	SK507より新	530
373	F7-D6	隅丸長方形	3.90	1.15	0.40	N-75°-E	SK374より新	530
374	F7-D6	不明	0.80	(0.60)	0.20	N-70°-E	SK373より古 SK507より新	530
375	F7-D6	隅丸長方形	2.00	1.00	0.10	N-75°-E		530
379	F7-D7	楕円形	2.85	1.00	0.20	N-13°-W	SK412・414より新	530
381	F7-D・E7	隅丸長方形	1.20	0.95	0.70	N-72°-E		530
382	F7-E6	隅丸長方形	1.90	0.70	0.15	N-60°-E		530
385	F7-D・E7	円形	1.35	1.33	0.45	N-20°-W		530
386	F7-E6	隅丸長方形	0.80	0.70	0.20	N-73°-E	SK387より新	530
387	F7-E6	隅丸長方形	2.30	0.90	0.55	N-68°-E	SK386より古 SE7より新	531
388	F7-E7	隅丸長方形	1.35	1.10	0.70	N-20°-W	SK391より新	523
391	F7-E7	隅丸長方形	2.40	1.80	0.55	N-73°-E	SK388より古 SE3より新	531
392	F7-D・E7	隅丸長方形	1.90	1.50	0.85	N-30°-W		531
394	F7-E7	円形	0.55	0.50	0.15	N-33°-W	SK471・472より新	531
408	F7-D6	不整形	1.80	(1.15)	0.45	N-25°-W		531
410	F7-E6・7	楕円形	1.55	0.80	0.10	N-70°-E	SK440より新	531
412	F7-D7	隅丸長方形	3.80	2.20	0.85	N-75°-E	SK379より古 SK413・414と隣接	533
413	F7-D7	不整形	2.10	0.60	0.55	N-67°-W	SK412と隣接	533
414	F7-D7	隅丸長方形	2.65	1.75	0.50	N-13°-W	SK379より古 SK412と隣接	530
415	F7-D7・8	不整形	4.30	1.20	0.60	N-16°-W	SK434より新	523
426	F7-E7・8	不整形	3.20	1.60	0.40	N-71°-E	SD18より新 SD17と隣接	533
428	F7-E7	隅丸長方形	2.05	(1.75)	0.65	N-75°-E	SE2より古 SK436と重複	533
429	F7-E7	隅丸長方形	(2.50)	1.20	1.05	N-20°-W	SE2より古 SK436と重複	533
434	F7-D・E7・8	不整形	3.55	1.05	0.90	N-20°-W	SK415より古 SD17と重複	533
436	F7-E7	隅丸長方形	2.10	(1.10)	1.05	N-70°-E	SK428・429と重複	534
437	F7-D8	隅丸長方形	3.00	2.10	0.85	N-11°-W	SK438より新 SE4と重複	535
438	F7-D・E8	隅丸長方形	9.45	1.80	1.35	N-15°-W	SK437より古 SE4と重複	535
440	F7-E6	円形	1.05	1.00	0.22	N-65°-W	SK410より古	531
463	F7-E7	隅丸長方形	1.35	0.35	0.10	N-18°-W	SK472より新	534
471	F7-E7	不整形	4.30	0.90	0.50	N-74°-E	SK394より古 SK472より新 SE3と重複 SE2・SD16と隣接	534
472	F7-E7	不整形	(1.50)	1.25	0.35	N-72°-E	SK394・463・471より古 SD18と重複	534
498	F7-E6	隅丸長方形	1.20	1.15	0.05	N-20°-W		534
507	F7-D6・7, E6	隅丸長方形	(4.75)	1.10	0.24	N-72°-E	SK371・374より古	534
513	F7-D7	不整形	1.25	0.95	0.10	N-25°-W	P29と重複	534

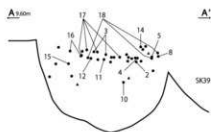
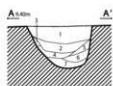
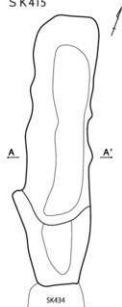
S K 388



S K 388 遺物出土状況



S K 415



- 陶磁・土器
- ▲ 木
- 金属・石・瓦

0 1m 1:50

S K 388

- 1 黒褐色土 シルト質 粘性弱 しまりや中弱  
灰色粘土ブロック少量 空隙多い
- 2 黒褐色土 麻紐・藁皮等の有機物含む 砂少量  
シルト質 粘性中や強 しまり弱  
砂・水くみ少量

S K 415

- 1 暗赤褐色砂
- 2 灰黄褐色砂
- 3 灰褐色土 褐色土粒子多量
- 4 暗灰色土 シルト質 炭化物微量
- 5 灰色土 シルト質 褐色土(鉄分)微量
- 6 褐色砂 灰色砂含む
- 7 灰色土 シルト質 褐色土砂微量

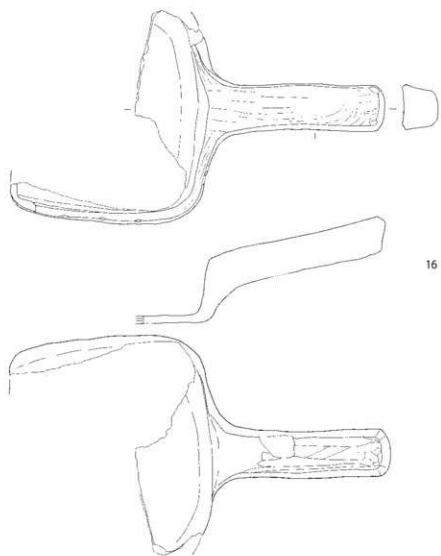
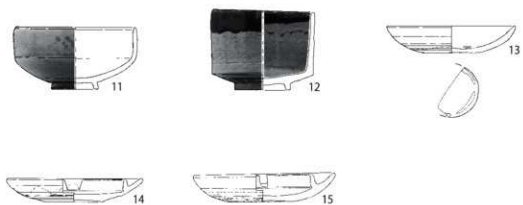
0 2m 1:50

第 523 図 区画 AE 土壇 (1)

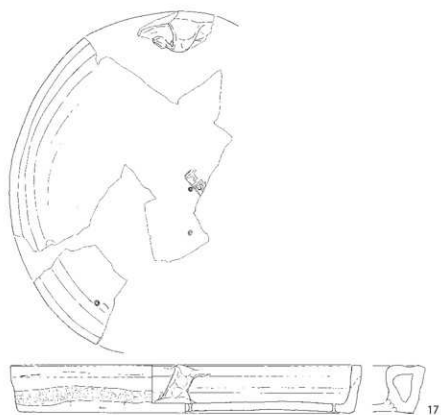


第 524 图 第 388 号土壙出土遗物 (1)



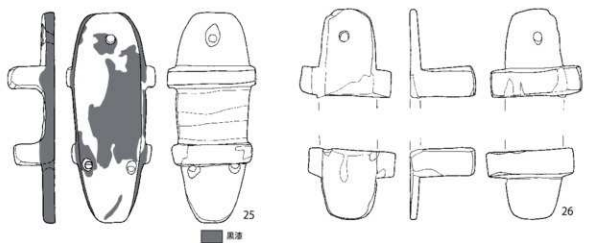
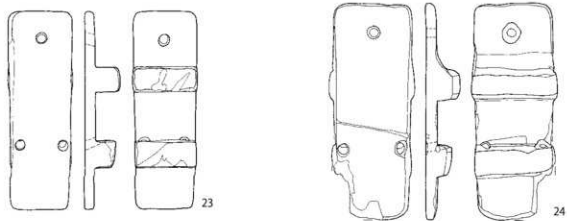
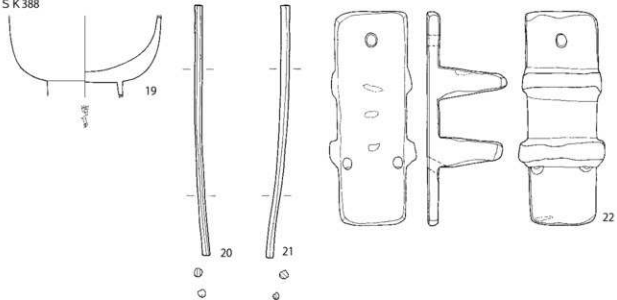


第 525 図 第 388 号土坑出土遺物 (2)



第 526 図 第 388 号土壙出土遺物 (3)

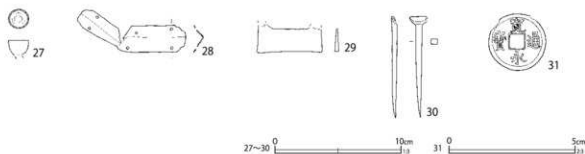
S K 388



0 10cm  
22~26

0 10cm  
19~21

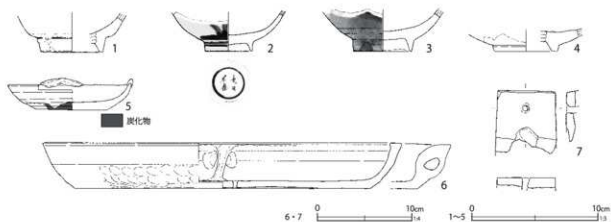
第 527 図 第 388 号土坑出土遺物 (4)



第 528 図 第 388 号土壙出土遺物 (5)

第 154 表 第 388 号土壙出土遺物観察表 (第 524 ~ 528 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	磁器	碗	—	1.6	3.9	—	10	普通	白	肥前系 外面青磁軸 内面施軸 染付	
2	磁器	皿	9.8	2.2	5.2	—	90	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 口縁欠失部に煤付着 No.12	
3	磁器	皿	9.8	2.5	4.8	—	95	普通	灰白	肥前系 内外面施軸・染付 被熱・煤付着 No.21・26	84-7
4	磁器	皿	13.0	3.9	7.3	—	100	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 No.9	84-8
5	磁器	皿	13.8	3.3	7.4	—	80	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 見込蛇ノ目軸刺ぎ No.8	
6	磁器	皿	(13.6)	3.3	6.5	—	40	普通	灰白	肥前系 内外面施軸 内面染付 見込蛇ノ目軸刺ぎ	
7	磁器	皿	13.8	3.0	7.0	—	95	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 見込蛇ノ目軸刺ぎ	84-9
8	磁器	猪口	(7.4)	5.9	4.4	—	30	良好	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 No.5	
9	磁器	猪口	(7.4)	5.6	4.4	—	70	良好	白	肥前系 内外面施軸 外面染付	
10	磁器	猪口	7.5	5.7	4.3	—	95	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 No.33	
11	陶器	碗	9.4	4.9	3.6	EIK	90	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面灰軸 外面一部鉄軸散らし No.27	84-10
12	陶器	碗	7.9	6.4	4.0	IK	60	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面漆黒軸・踏軸上下掛け付 No.25	84-11
13	陶器	灯明皿	(10.6)	2.1	(4.2)	EK	30	普通	褐灰	瀬戸美濃系 内外面粘軸 底部軸抜き取り 輪状重燒痕 内面上位煤付着	
14	陶器	灯明皿	10.6	1.9	4.6	IK	95	良好	灰	瀬戸美濃系 内外面粘軸 体部下部・底部軸抜き取り 輪状重燒痕 (径 9cm) No.4	
15	陶器	灯明皿	11.1	2.2	5.0	K	100	普通	灰黄	瀬戸美濃系 内外面粘軸 体部下部・底部軸抜き取り 輪状重燒痕 (径 7.1cm) No.36	
16	瓦質土器	十能	長軸 29.6 短軸 [8.5]	[8.5]	短軸 [17.1]	CIK	50	普通	灰白	下面側面砂目 把手下・側面へラナゲ (一部ミガキ状) 煤す 胎土中心黄灰 No.20・29	
17	瓦質土器	焙烙	(36.8)	5.1	(34.5)	CIK	30	普通	灰黄	底部シワ状痕 体部下部クズリ・中位シワ状痕 煤す 補修痕 3 あり (脚縁付) 内底面刻印「(大) 權上」 胎土中心黒褐 No.14・17・18・30	87-15
18	瓦質土器	焙烙	(36.6)	5.0	(33.8)	CHK	80	普通	明褐色	砂目底 煤す 内底面ミガキ状光沢 体部下部弱いクズリ 胎土中心褐灰 No.6・11・22 横木取り 内面赤漆 外面黒漆 高台内赤で文字 No.1	85-1
19	木製品	漆桶	高さ [6.5]							削出し	
20	木製品	箸	長さ 19.7 幅 0.7 厚さ 0.6							削出し	
21	木製品	箸	長さ 19.9 幅 0.6 厚さ 0.7							削出し	
22	木製品	下駄	長さ 22.7 幅 7.7 高さ 8.5							板目 透歯下駄 No.35	
23	木製品	下駄	長さ 20.9 幅 6.9 高さ 3.7							板目 透歯下駄	
24	木製品	下駄	長さ [22.9] 幅 7.9 高さ [4.6]							板目 透歯下駄	
25	木製品	下駄	長さ 22.0 幅 9.5 高さ 5.0							板目 透歯下駄 表・側面黒漆	
26	木製品	下駄	長さ [22.2] 幅 6.2 高さ 6.9							板目 透歯下駄 側面に赤色塗料	
27	銅製品	煙管	火皿径 1.6 × 1.5 重さ 2.0							雁首火皿 鍍金あり	
28	銅製品	飾金具	縦 3.4 横 8.6 厚さ 0.1 重さ 5.1							角用 周縁に小孔	
29	鉄製品	火打金	縦 [2.3] 横 5.2 厚さ 0.3 重さ 14.2								134-5
30	鉄製品	釘	長さ 8.1 幅 0.5 厚さ 0.4 重さ 7.0								
31	鉄製品	錢貨	径 22.8 厚さ 1.2 重さ 1.6							寛永通寶 (新)	



第529図 第415号土壌出土遺物

第156表 第415号土壌出土遺物観察表 (第529図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版	
1	陶器	碗	—	[3.1]	(4.8)	IK	5	不良	灰白	肥前系 内面施軸 外面青磁軸		
2	磁器	碗	—	[3.2]	3.6	—	30	良好	白	肥前系 内外面施軸 外面染付		
3	陶器	碗	—	[3.4]	4.5	IK	20	普通	灰白	肥前系 内外面施軸 (白濁) 外面染付		
4	磁器	皿	—	[1.8]	(5.0)	HK	5	良好	白	肥前系 内外面施軸 (青磁軸灰味) 見込み蛇ノ目軸 剥ぎ・重燒痕 欠失部打欠状		
5	陶器	灯明皿	9.5	2.5	5.7	K	100	良好	灰	瀬戸美濃系 内外面鉄軸 露胎部煤付着		
6	土師質土器	焙烙	(36.2)	4.9	(31.4)	ADKH	20	普通	にぶい赤褐	底部無調整 内底面ランダムなナゲ 外面・内底面煤付着		
7	石製品	磁石	長さ [6.6] 幅 6.5 厚さ [1.0] 重さ 84.6								片角 穿孔1 崩痕あり	141-4

### 第388号土壌 (第523～528図)

F7-E7グリッドに位置し、第391号土壌より新しい。平面形は隅丸長方形で、長軸1.35m、短軸1.1m、深さ0.7mを測る。長軸方位はN-20°-Wを指す。

覆土はシルト質土で、下層は砂や木質が含まれ、上層も同じく砂や木質（麻紐や樹皮）を含んでいる。出土遺物はほとんどが上層からの出土である。

出土遺物は陶磁器が多く、肥前系磁器の外面青磁筒形碗 (第524図1) が最新期の陶磁器である。推定廃絶期は18世紀後葉の中でも古い段階であり、具体的には18世紀第3四半期である。

第524～528図に出土遺物を図示した。第524図1は肥前系磁器の外面青磁筒形碗である。内面に五弁花文と思われる染付がみられるが、崩れており不明瞭である。

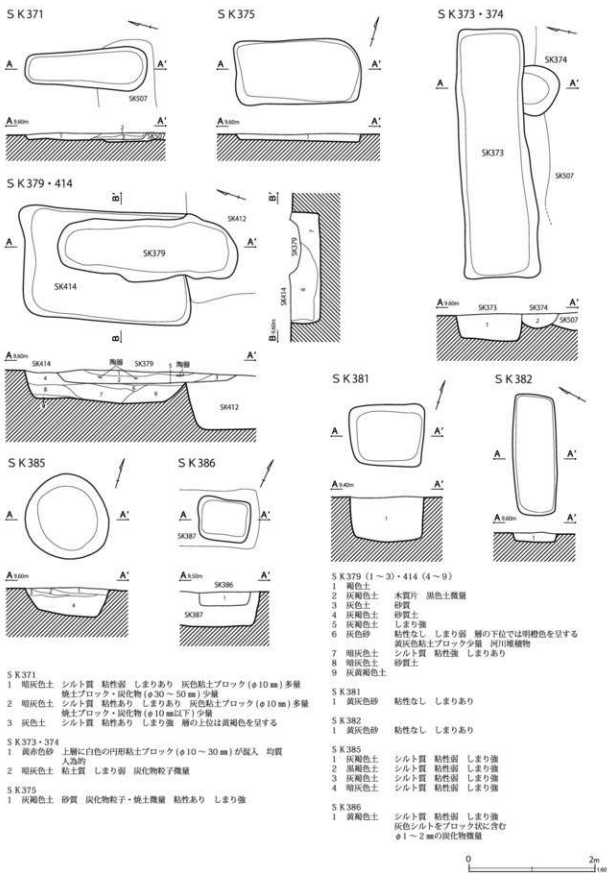
2・3は肥前系磁器の手皿である。内面に一枚絵の染付がみられ、2は欠失部に煤が付着し、3は被熱し煤が付着する。

4～7は佐佐見系磁器の粗製皿で、いわゆるくらわんか手である。4は内面に五弁花文染付、高台内に渦福がみられる。5～7は見込み蛇ノ目軸剥ぎで、五弁花文染付と梅花繁ぎ文染付が施される。5・6の五弁花は不明瞭だが、7は明瞭である。

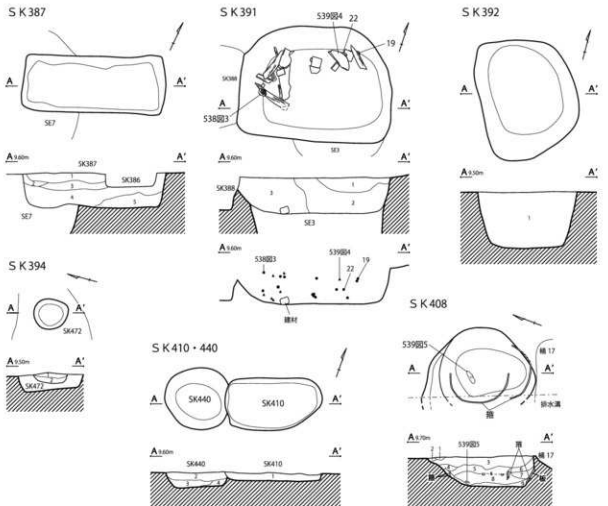
8～10は肥前系磁器の蕎麦猪口である。高台は輪高台である。

第525図11は瀬戸美濃系陶器のせんじ碗である。灰軸が施軸され、外面の一部に鉄軸が散っている。12は瀬戸美濃系陶器の筒形碗である。内外面上位に黒軸、下位に錆軸を掛け分けている。1と同じく最新期の陶磁器である。

13～15は瀬戸美濃系陶器の柿軸灯明皿であ



第 530 図 区画 AE 土壇 (2)



- SK 387**
- 1 黒褐色土 シルト質 粘性弱 しまり強 炭化物(φ5~10mm)少量
  - 2 灰褐色土 シルト質 粘性弱 しまりあり
  - 3 暗灰色土 シルト質 粘性弱 しまりあり 瓦片や木質含む
  - 4 黒褐色土 シルト質 粘性弱 しまりあり
  - 5 黄灰色粘土 炭化物(φ5~10mm)少量 竪溝や木質含む 粘性強 しまりあり

- SK 391**
- 1 暗灰色土 シルト質 粘性弱 しまり強 炭化物(φ1mm)少量
  - 2 暗灰黄色土 シルト質 粘性弱 しまり強 砂少量
  - 3 暗灰色土 シルト質 粘性弱 しまり非常に強 炭化物(φ10mm)少量

- SK 392**
- 1 灰褐色砂 粘性なし しまり弱 遺物なし

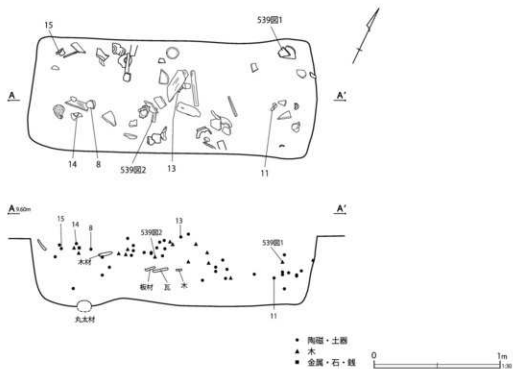
- SK 394**
- 1 黒褐色土 シルト質 粘性弱 しまり弱
  - 2 黒褐色土 シルト質 粘性強 しまり弱

- SK 408**
- 1 褐色土 砂質 炭化物・焼土少量 粘性なし しまり強
  - 2 褐色土 砂質 粘性なし しまり強
  - 3 灰褐色土 シルト質 粘性あり しまり強 炭化物粒子・焼土・円形の白色粘土ブロック(φ10~30mm)を含む
  - 4 黒褐色土 シルト質 粘性強 しまりあり 炭化物粒子・焼土微量
  - 5 黒色土 シルト質 粘性強 しまりあり 炭化物・焼土主体層
  - 6 黒色土 シルト質 粘性強 しまり弱 炭化物・焼土主体層(特に焼土の割合が高い)
  - 7 褐色土 砂質 粘性なし しまり強 炭化物粒子・焼土微量
  - 8 褐色土 砂質 粘性なし しまり強
  - 9 暗褐色土 粘質土主体に砂質土層混ざる 流入土か

- SK 410 (1)・440 (2~4)**
- 1 灰褐色土 シルト質 粘性強 しまり弱 炭化物粒子・木質微量
  - 2 黒褐色土 灰褐色ブロック(φ1~5mm)多量 白色粒子少量
  - 3 暗褐色土 黒色粒子多量 白色粒子少量
  - 4 暗褐色土 黒色粒子多量 白色粒子微量



第531図 区画AE土壌(3)



第532図 第387号土壇遺物出土状況

る。13は油皿で、底部の軸は抜き取られていて、底部と内底面に輪状重ね焼き痕がみられる。14・15は油受皿で、受け口の切込みは角形を呈する。体部下位から底部にかけて軸が抜き取られており、輪状重ね焼き痕がみられる。

16は瓦質土器の十能である。下面・側面は無調整の砂目で、把手の下面、側面はヘラナデ調整である。把手の一部はミガキ状の調整がみられる。

17・18は瓦質土器の平底焙烙である。17は底部に無調整のシワ状痕がみられ、体部下位にケズリ調整が施される。体部中位にはシワ状痕が遺存する。上位はヨコナデ調整である。内耳の下部は内壁面に極めて近い位置に付く。口縁部の断面形状は角形である。内底面に刻印「(大)極上」がみえる。補修痕である二次穿孔が3箇所みられ、うち1箇所には銅線が付く。18は底部が無調整の砂目で、体部下位には工具ナデのような弱いケズリが施される。上位はヨコナデ調整である。内底面にはミガキ状の光沢がみられる。内耳は逆

「L」字上下端部が内底面に付く。口縁部の断面形状は角形である。いずれも胎土に角閃石が一定量含まれ、在地産と推定される。

第527図19は漆碗である。内面に赤漆、外面に黒漆が塗布される。高台内に赤で文字が書かれているが、判読できない。22～26は連歯下駄である。25は表と側面に黒漆が塗布される。

第528図27は銅製煙管の雁首である。鍍金が施された火皿のみ遺存している。28は角に使われる銅製の飾金具である。29は鉄製の火打金である。30は鉄製の頭巻釘である。31は鉄製の新寛永通寶である。

#### 第415号土壇 (第523・529図)

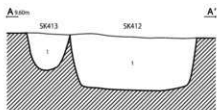
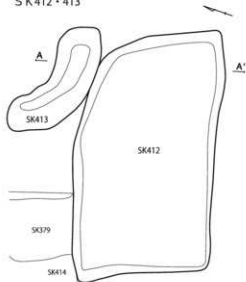
F7-D7・8グリッドに位置し、第434号土壇より新しい。平面形は不整形で、長軸4.3m、短軸1.2m、深さ0.6mを測る。長軸方位はN-16°-1Wを指す。

覆土は下層がシルト質土、上層が砂層である。シルト質土の間には砂層が一枚挟む。

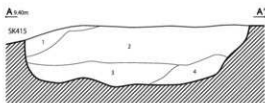
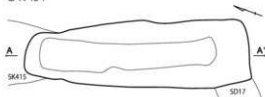
陶磁器の出土が一定量みられ、17世紀後半か



SK412・413



SK434



SK412

1 橙褐色砂 粘性なし しまり強 粘土ブロック微量

SK413

1 橙褐色砂 粘性なし しまり非常に強(層の下部はとくに強固) 粘土ブロック(φ5mm程度)多量

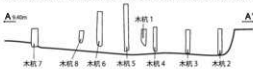
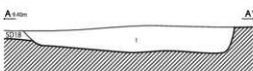
SK426

1 白色砂 白色の粗粒砂 しまり強 石英・チャートを含む 川砂 人為的

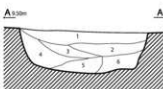
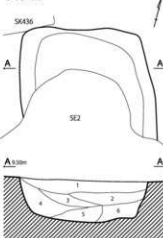
SK428

1 暗黄褐色砂 しまりなし  
2 黒褐色砂 しまりなし  
3 橙褐色砂 しまりなし  
4 灰黄褐色砂 しまりなし  
5 暗褐色砂 しまりなし  
6 黒褐色砂 しまりなし

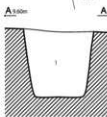
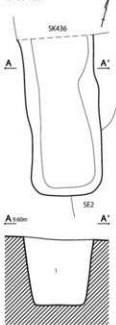
SK426



SK428



SK429



SK429

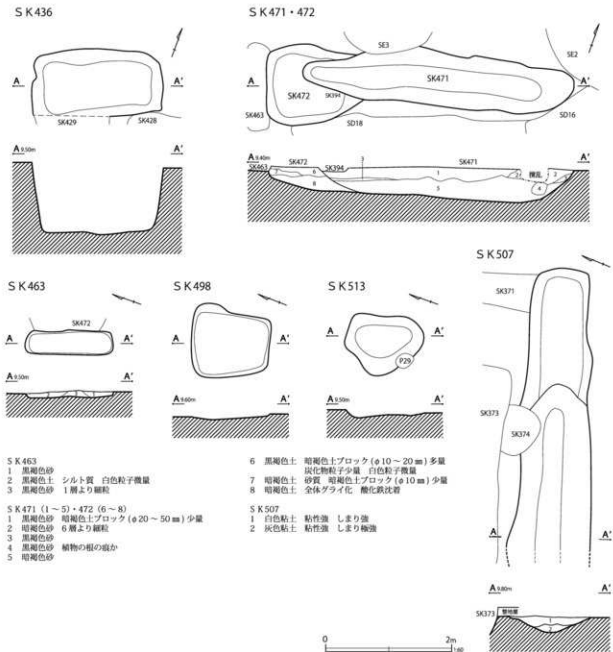
1 褐色砂 暗黄褐色土ブロック(φ30mm)微量 しまりなし

SK434

1 シルト質 粘性強 しまり強 炭化物粒子微量  
2 白色砂 1層と類似する川砂  
3 灰褐色砂 円形灰色粘土ブロック(φ10mm)層かに混入 灰色の粗粒砂 2・4層の砂よりも粒子が粗い  
4 白色砂 2層と同様の砂 角形黄土色粘土ブロック(φ30~50mm)多量



第533図 区画AE土壇(4)



第534図 区画AE土壌(5)

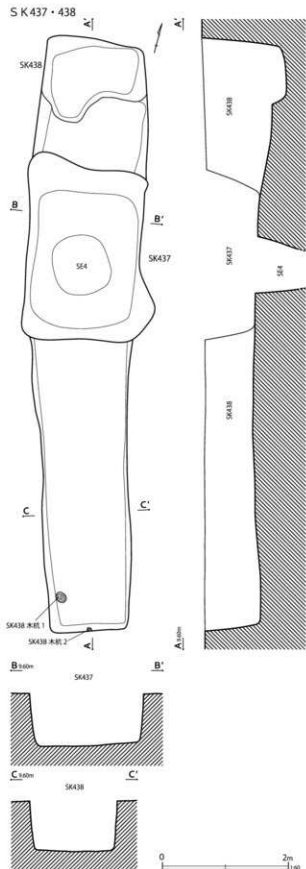
ら18世紀前葉頃の陶磁器で占められる。波佐見系磁器碗を主体とする。推定廃絶期は18世紀前葉である。

第529図に出土遺物を図示した。1は肥前系磁器の青磁碗である。底部露胎で、内面は透明釉、外面は青磁釉である。高台豊付けは幅広である。2は肥前系磁器の染付碗である。3は肥前系磁器の粗製碗である。釉が白濁しており、外面に染付

がみられる。4は肥前系磁器の皿である。底部露胎で、見込み蛇ノ目釉剥ぎである。

5は瀬戸美濃陶器の把取付灯明皿である。鉄軸が施軸され、露胎部に煤が付着する。

6は胎土に金雲母が多量に含まれる常陸系土師質土器の平底焙烙である。底部無調整で、体部下位に指頭状圧痕がみられる。上位はヨコナデ調整である。内底面にランダムなナデが施される。体



第535図 区画AE土壌(6)

部と内底面に煤が付着する。

7は片岩製の温石である。穿孔が1箇所みられ、欠失部に削り状痕がみえる。

**第387号土壇** (第531・532・536～539・541～543図)

F7-E6グリッドに位置する。第7号井戸跡より新しく、第386号土壇より古い。平面形は隅丸長方形で、長軸2.3m、短軸0.9m、深さ0.55mを有する。長軸方位はN-68°-Eを指す。

覆土はシルト質土を主体とし、炭化物や木質が含まれる。遺物は中・上層を中心に出土している。

遺物は一定量出土しており、肥前系磁器の広東碗と小丸碗を主体とし、広東碗が最新期の陶磁器である。推定廃絶期は18世紀後葉である。

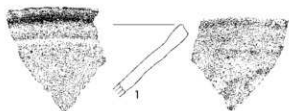
第536図7～13、第537図14～18に陶磁器類、第538図1・2に瓦、第539図1～3に木製品、第541図1に銭貨、第542図2に石製品、第543図1に硝子製品を図示した。

第536図7～13、第537図14・15は肥前系磁器である。7・8は小丸碗、9・10は広東碗である。10は蛤唐草文染付である。11は初期伊万里の皿で、栗橋宿では例が少ない。12は蛇ノ目凹形高台の鉢である。内底面に松竹梅環状文染付がみられ、口縁部は輪花状である。13は蛇ノ目凹形高台の蕎麦猪口である。内面に四方樺文の染付がみられ、底部に墨痕がみえる。14・15は広東碗の蓋である。

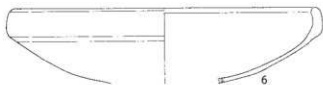
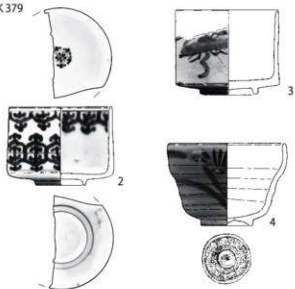
第537図16・17は瀬戸美濃系陶器の柿釉灯明皿である。16は内面に目跡が3箇所遺存する。柿釉灯明皿に残される重ね焼き痕は、輪状がほとんどであり、目跡は稀である。外面下位から底部にかけて釉が拭き取られている。17は油受皿で、受け口の切込みは角形を呈する。外面下位から底部にかけて釉が拭き取られており、輪状重ね焼き痕がみられる。

第537図18は瓦質土器の脚付火鉢である。欠失

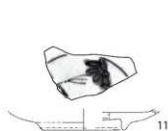
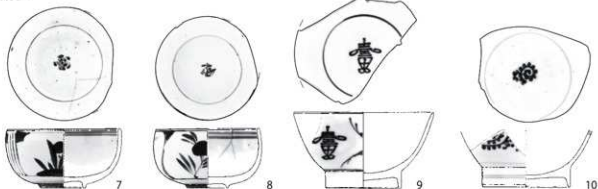
SK374



SK379



SK387

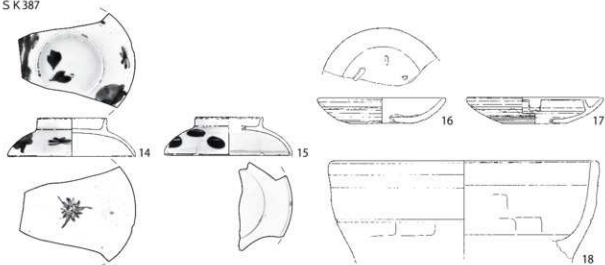


0 10cm

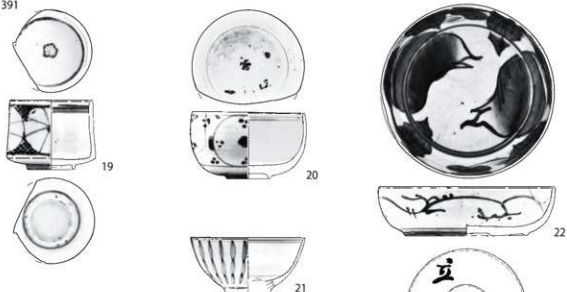
1~5·7~13 0 10cm

第536图 区画AE土壇出土遺物(1)

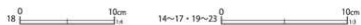
S K 387



S K 391



S K 471



第537図 区画AE土壇出土遺物(2)

しているが、輪高台状の脚部が付く。口縁部に敲打痕がみられる。

第539図1は経木である。墨書は部分的にしか判読できない。2は墨書が書かれた板で、1と同じく文意がとれない。3は木製の砥石台である。はめ込み部の長さ・幅が極めて広く、大型の置砥

石を設置するものと考えられる。なお、栗橋宿では20cmを超える大型砥石の出土は稀である。

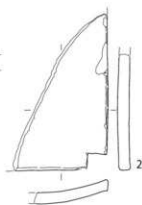
第541図1は鉄製の新寛永通寶である。

第542図2は粘板岩製の砥石である。側面に密なノコギリ状工具痕がみられる。裏面には刃幅0.3cmの彫刻刀状工具による深い削り痕が遺存す

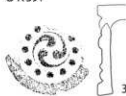
第156表 区画AE土壇出土遺物観察表(1) (第536・537図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	陶器	擂鉢	—	[5.7]	—	EI	5	普通	にがい黄緑	SK374	丹波系 内面擂目 外面下位指頭痕(右上がり) 胎土中心褐斑	
2	磁器	碗	(8.0)	6.2	(3.8)	—	30	良好	白	SK379	肥前系 内外面施軸・染付	
3	陶器	碗	(8.0)	6.7	4.0	IK	65	良好	灰白	SK379	瀬戸美濃系 内外面灰軸 外面鉄絵	
4	陶器	皿	9.1	6.5	4.0	K	70	良好	灰	SK379	京都信楽系 内外面灰軸 外面色絵(赤い縁)	
5	陶器	皿	(11.8)	3.7	5.1	IK	75	良好	灰黄	SK379	瀬戸美濃系 内外面灰軸 内面擂絵(呉須)	
6	土師質土器	焙烙	(32.0)	(8.0)	(33.0)	ACHK	20	普通	にがい橙	SK379	砂目底 胎土粉質 内面凹刷状ナデ 体部保付着	
7	磁器	碗	8.8	4.7	3.4	—	70	良好	白	SK387	肥前系 内外面施軸・染付	
8	磁器	碗	8.1	4.7	3.1	—	70	良好	白	SK387	肥前系 内外面施軸・染付 No.17	
9	磁器	碗	(11.0)	6.0	5.8	—	20	良好	白	SK387	肥前系 内外面施軸・染付 No.10	
10	磁器	碗	—	[4.5]	6.9	—	20	良好	白	SK387	肥前系 内外面施軸・染付	
11	磁器	皿	—	[1.7]	(6.4)	—	5	良好	白	SK387	肥前系 初期伊万里 内外面施軸・内面染付 No.5	84-6
12	磁器	鉢	(15.0)	6.6	8.6	—	40	良好	白	SK387	肥前系 内外面施軸・染付 蛇ノ目回形高台 捺線痕あり	
13	磁器	猪口	(7.2)	5.8	(5.8)	—	40	良好	白	SK387	肥前系 内外面施軸・染付 蛇ノ目回形高台・墨痕 No.16	87-4
14	磁器	蓋	5.4	3.0	(10.0)	K	30	良好	白	SK387	肥前系 内外面施軸・染付 No.18	
15	磁器	蓋	(5.2)	3.0	(10.0)	—	20	良好	白	SK387	肥前系 内外面施軸・染付 No.20	
16	陶器	灯明皿	(9.8)	2.0	(5.0)	K	35	良好	灰白	SK387	瀬戸美濃系 内外面稀軸 外面・底部軸拭き取り 内面目跡3遺存	
17	陶器	灯明皿	(10.7)	2.1	(5.1)	IK	35	良好	灰白	SK387	瀬戸美濃系 内外面稀軸 外面下位・底部軸拭き取り 輪状重燒痕	
18	瓦質土器	火鉢	(27.9)	[10.4]	—	CFHK	5	普通	灰褐	SK387	備中 外面中位ケズリ 内面中位煤付着 口縁部敲打痕	
19	磁器	碗	(6.4)	5.5	(3.6)	—	30	良好	白	SK391	肥前系 内外面施軸・染付	
20	磁器	碗	8.8	5.3	3.3	—	60	良好	白	SK391	肥前系 内外面施軸・染付	
21	磁器	碗	(9.0)	[4.3]	—	—	20	良好	白	SK391	肥前系 内外面施軸・染付	
22	磁器	皿	13.8	3.9	9.6	—	95	良好	白	SK391	肥前系 内外面施軸・染付 燒線痕あり 蛇ノ目回形高台 燒線印(赤)2あり No.6	85-2 87-5
23	陶器	皿	—	[2.0]	7.8	EHK	40	良好	灰白	SK471	瀬戸美濃系 内外面灰軸 内面ピン痕3 底部目跡3	

SK387



SK391

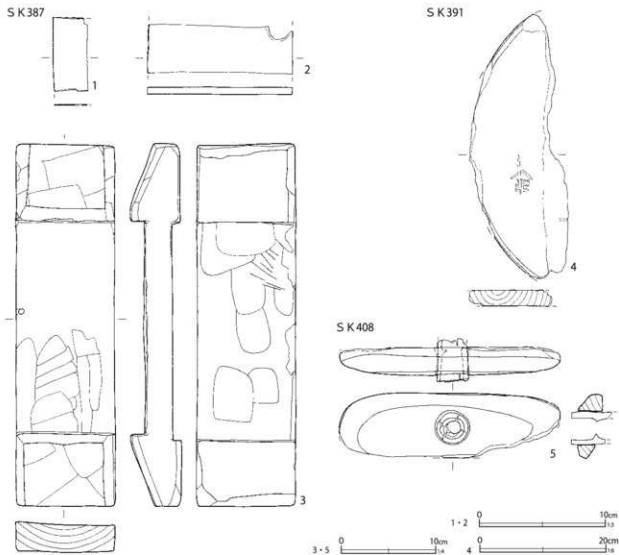


0 10cm 0 20cm  
1 1/4 2 3 1/4

第538図 区画AE土壇出土遺物(3)

第 157 表 区画 AE 土壌出土遺物観察表 (2) (第 538 図)

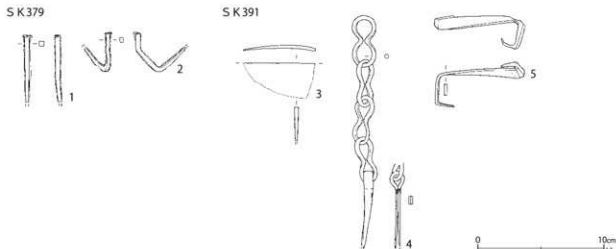
番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	瓦	軒棧瓦	[8.6]	[13.7]	1.7	[7.7]	—	K	普通	灰白	SK387	江戸式 焼寸 銀化	126-9
2	瓦	棧瓦	[24.8]	[16.0]	1.8	[3.8]	—	K	普通	灰白	SK387	焼寸 雲母付着 弱く被熱	
3	瓦	軒丸瓦	[2.6]	[14.1]	—	[11.5]	—	ACIK	普通	灰白	SK391	右巻十二連珠三巴文 焼寸 強く銀化	126-11



第 539 図 区画 AE 土壌出土遺物 (4)

第 158 表 区画 AE 土壌出土遺物観察表 (3) (第 539 図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	木取り	遺構	備考	図版
1	木製品	経木	[5.8]	[2.7]	0.04	—	—	—	板目	SK387	表裏面墨書 №.1	150-10
2	木製品	板	[4.8]	7.5	0.6	—	—	—	板目	SK387	表裏面墨書 №.14	150-11
3	木製品	砥石台	28.6	7.8	4.0	—	—	—	板目	SK387		130-14
4	木製品	槽	[42.4]	[13.5]	2.6	—	—	—	板目	SK391	蓋 焼印 木釘 №.3	
5	木製品	不明品	6.8	(23.5)	—	—	[4.6]	—	板目	SK408	竹の柄残存 裏面炭化	130-15



第540図 区画AE土壌出土遺物(5)

第159表 区画AE土壌出土遺物観察表(4)(第540図)

番号	種別	器種	法量	遺構名	備考	図版
1	鉄製品	釘	長さ[5.3] 幅0.4 厚さ0.4 重さ4.0	SK379	環釘に鎖4連結	
2	鉄製品	釘	長さ[3.1] 幅0.3 厚さ0.4 重さ4.2	SK379		
3	鉄製品	不明	縦[2.7] 横[5.7] 厚さ0.3 重さ13.0	SK391		
4	鉄製品	鎖	長さ13.3 厚さ0.3	SK391		
5	鉄製品	環釘	長さ6.2 幅0.3 厚さ0.15 全長18.5 重さ計28.1	SK391		
		錠	長さ7.2 幅0.9 厚さ0.2 重さ14.1	SK391		

る。工具痕の底面にはキャタピラ状の細かな凹凸がみられる。再加工と考えられ、加工後に砥面としている。

第543図1は硝子製筭である。透明、中実で被熱によるものか、煤が付着する。18世紀の遺構

からの出土は稀である。

以上に取り上げた土壌の他にも特徴的な遺物が出土しているため以下に記述していく。

第539図4は樽鏡で、焼印「畚」がみえる。第8地点で多くみられる屋号である。

第540図1・2は鉄製の頭巻釘である。4は鉄製の鎖と環釘である。環釘に4連の鎖が連結している。環釘の利用法を示唆する資料である。

第542図1・5は多孔質の角閃石安山岩転石製磨石である。1の片面は全面に自然面が残り、使用面は平坦である。5は使用面に明瞭な線条痕がみられる。3は白色の流紋岩製砥石である。全面を砥面としており、角がとれて丸みを帯びている。通常の砥石とは異なる特殊な使用法であった

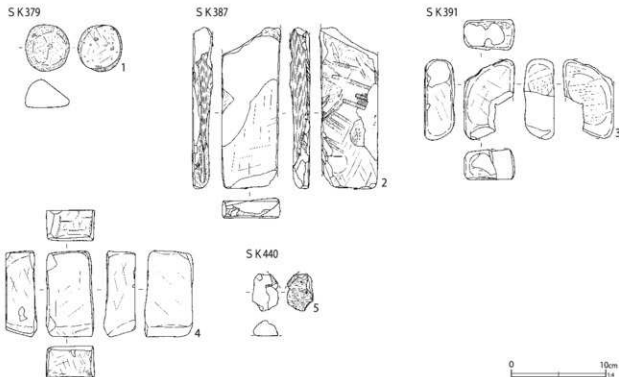


第541図 区画AE土壌出土遺物(6)

第160表 区画AE土壌出土遺物観察表(5)(第541図)

番号	種別	器種	法量	遺構名	備考	図版
1	鉄製品	銭貨	径23.0 厚さ1.7 重さ3.0	SK387	寛永通寶(新)か	
2	鉄製品	銭貨	径23.0 厚さ1.9 重さ3.6	SK391	寛永通寶(新)か	

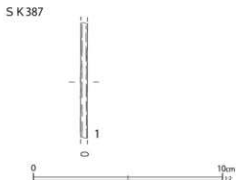




第542図 区画AE土壌出土遺物(7)

第161表 区画AE土壌出土遺物観察表(6)(第542図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	図版
1	石製品	磨石	4.9	4.6	2.9	31.5	角閃石安山岩	SK379	多孔質 自然面遺存 使用面1	141-1
2	石製品	砥石	[17.0]	6.2	2.1	301.9	粘板岩	SK387	側面ノコギリ痕2(段あり カーブある)裏面刃幅0.3cm平ノミ状工具(彫刻刀)によるハツリのためらい傷が複数あり(製砥師がよく使う削痕) 砥面2 No.21	140-1
3	石製品	砥石	8.5	5.3	3.2	181.5	流紋岩	SK391	裏・側面線条痕3 側面削り痕 砥面6 被熱(黒色化)	
4	石製品	砥石	9.1	5.1	3.3	287.9	流紋岩	SK391	側面刃物痕2 砥面6 No.4	140-1
5	石製品	磨石	[3.9]	[2.7]	[1.6]	7.8	角閃石安山岩	SK440	多孔質 自然面遺存 使用面1 線条痕あり	



第543図 区画AE土壌出土遺物(8)

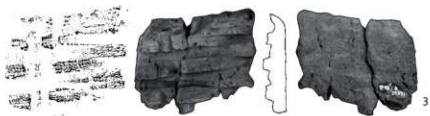
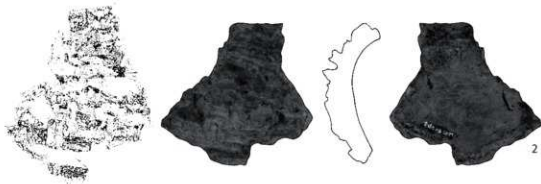
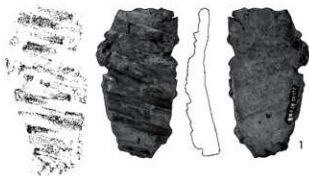
ことが示唆される。4は流紋岩製砥石である。砥面は6面である。

第544・545図は建物に伴うと考えられる壁材である。陶磁器の出土が少ない特定の土壌から集中して出土している。形状は端部が丸いもの(第544図3)、外反するもの(第544図2・4、第545図5)、直線的なもの(第544図1、第545図6・7・8)の大きく3種に分けられる。また、内部の材圧痕は細状、扁平な角材状、竹筒状の3

第162表 区画AE土壌出土遺物観察表(7)(第543図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	遺構	備考	図版
1	硝子製品	筭	[6.1]	0.3	0.2	1.5	SK387	透明 中実 煤付着	142-9

SK371

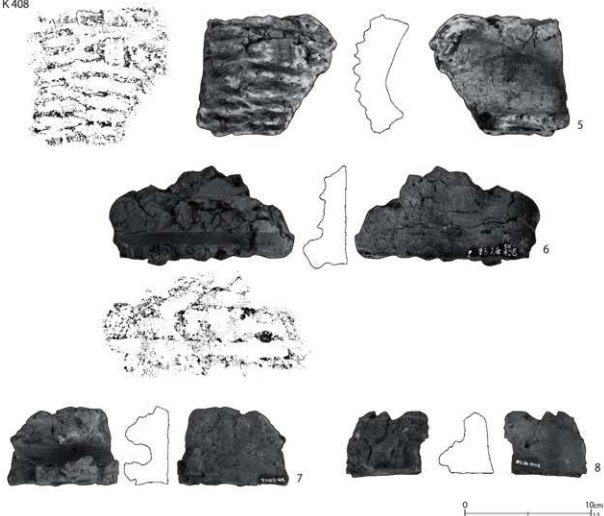


SK408



第544图 区画AE土壙出土遗物(9)

S K 408



第 545 図 区画 AE 土壌出土遺物 (10)

第 163 表 区画 AE 土壌出土遺物観察表 (8) (第 544・545 図)

番号	種別	器種	縦	横	厚さ	胎土	残存状況	色調	遺構	備考	図版
1	壁材	—	11.7	6.4	2.0	EIK	—	灰白	SK371	材圧痕 被熱 (圧痕面黒化)	142-15
2	壁材	—	11.0	11.2	2.2	EK	—	灰黄褐色	SK371	材圧痕 (2種類) 胎土硬質 (被熱?)	142-15
3	壁材	—	7.9	9.6	1.6	CEK	—	明褐色	SK371	材圧痕 (2種類)	142-15
4	壁材	—	10.0	13.9	2.8	EIK	—	浅黄褐色	SK408	材圧痕 (2種類)	142-15
5	壁材	—	9.4	10.4	3.0	EIK	—	褐色	SK408	材圧痕 (2種類) 被熱 (一部黒化・赤化)	142-15
6	壁材	—	8.2	14.7	3.3	AEK	—	浅黄褐色	SK408	材圧痕 混和材あり 被熱 (強・発泡・赤化・硬質化)	142-15
7	壁材	—	6.2	3.5	—	AGR	—	褐色	SK408	材圧痕 被熱 (一部赤化・硬質化) 混和材あり	142-15
8	壁材	—	4.8	5.9	4.1	EGIK	—	にぶい赤褐色	SK408	材圧痕 混和材あり 被熱 (黒赤化・硬質化)	142-15

種がみられる。材は2種を上下に分けて組み合わせるものが多い。多くは被熱している。

#### ⑥区画AFの土壌 (第546～556図)

区画AFは『絵図』にみえる「餅菓子屋/内蔵之丞」、「旅籠屋/惣右衛門」の区画である。土壌は30基検出された。区画AEと同様に砂のみを覆土とする遺物の少ない土壌が目立つ。土壌は区画内に偏りなく分布する。

第164表に位置・規模等の基本的な情報を示した。

本区画で抽出した土壌はなく、第546～549図に遺構図、第550～556図に遺物図を示し、特徴的な土壌・遺物について記述した。

#### 第396号土壌 (第546・550・552図)

F7-F7グリッドに位置する。平面形は不整形形で、長軸1.4m、短軸0.9m、深さ0.2mを測る。長軸方位はN-60° - Eを指す。

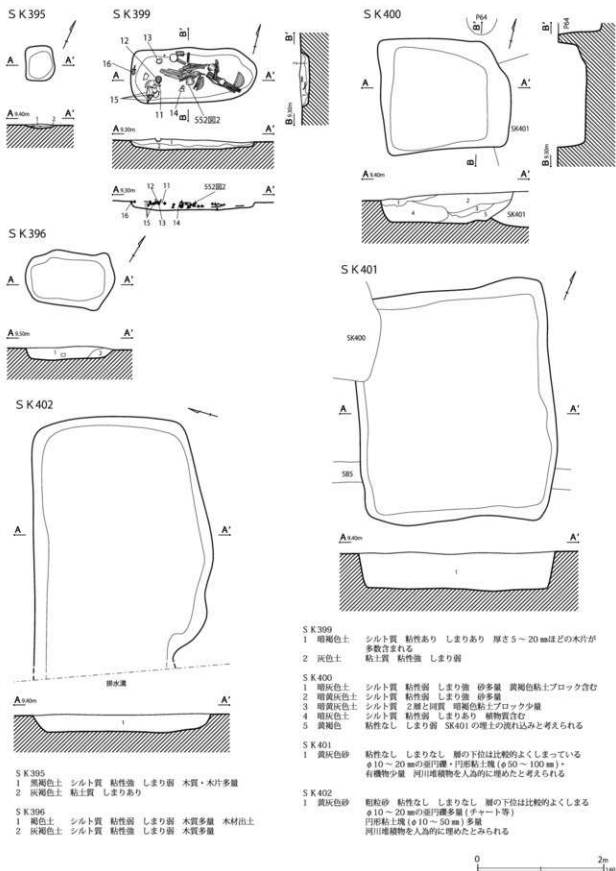
覆土はシルト質土を主体とし、多量の本質が含まれる。浅い小規模な土壌だが、遺物は一定量出土している。陶磁器は肥前系磁器の小広東碗(第550図4)、瀬戸美濃系陶器の鏡茶碗(同6)が最新期である。推定廃絶期は18世紀後葉である。

第550図に陶磁器類、第552図1に木製品を図示した。第550図1・2は肥前系磁器の筒形碗である。1は菊花状の染付が施され、高台内には透

第164表 第二面区画AF土壌一覧表

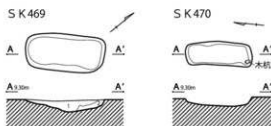
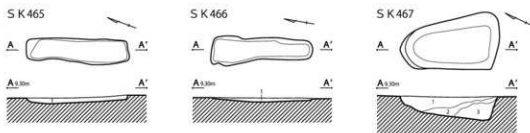
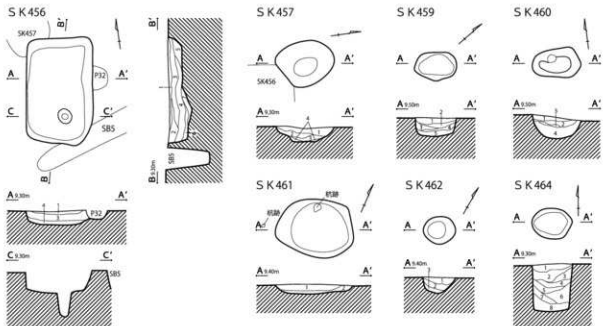
単位: m

番号	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	方位	備考	採図
395	F7-E7	隅丸方形	0.50	0.45	0.05	N-25° -W		546
396	F7-F7	不整形	1.40	0.90	0.20	N-60° -E		546
399	F7-F7・8	楕円形	2.00	0.85	0.15	N-74° -E		546
400	F7-F7	隅丸長方形	2.05	1.85	0.45	N-75° -E	SK401より新	546
401	F7-F7・8	隅丸長方形	3.75	3.10	0.55	N-28° -W	SK400より古 SB5より新	546
402	F7-F7	隅丸長方形	(4.00)	2.85	0.20	N-70° -E		546
416	F7-F7	不整形	0.70	0.60	0.12	N-90° -E		547
420	F7-F7・8	不整形	0.95	0.60	0.10	N-85° -E		547
421	F7-F8	不整形	1.05	0.90	0.10	N-90°	SB5より新	547
425	F7-F8・9	隅丸長方形	2.10	1.30	0.75	N-0°		547
427	F7-F8	隅丸長方形	2.75	2.10	1.00	N-15° -W		547
430	F7-E8	隅丸長方形	2.70	0.85	0.12	N-23° -W	SE5より新	547
431	F7-F8	不整形	3.20	2.95	0.35	N-15° -W	SB5より新 SK432と隣接	547
432	F7-F8	不整形	1.10	0.50	0.10	N-53° -W	SK431と隣接	547
451	F7-F8	不整形	0.80	0.65	0.15	N-4° -E		547
452	F7-F8	隅丸長方形	2.25	0.90	(0.80)	N-18° -W		547
456	F7-F・G7	隅丸長方形	1.70	1.05	0.35	N-10° -E	P32より古 SB5より新 SK457と重複	548
457	F7-F7	楕円形	0.85	0.70	0.20	N-20° -W	SK456と重複	548
459	F7-E7, F6・7	楕円形	0.65	0.40	0.30	N-41° -E		548
460	F7-E・F7	不整形	0.80	0.50	0.35	N-85° -W		548
461	F7-F7	不整形	1.25	0.90	0.15	N-82° -E		548
462	F7-F7	楕円形	0.50	0.45	0.25	N-60° -E		548
464	F7-E・F7	楕円形	0.65	0.45	0.75	N-90°		548
465	F7-F8	隅丸長方形	1.60	0.40	0.08	N-20° -W		548
466	F7-E・F8	不整形	1.60	0.50	0.05	N-10° -W		548
467	F7-E8	不整形	1.60	0.90	0.35	N-30° -W		548
468	F7-E・F8	隅丸長方形	3.00	1.00	0.80	N-80° -E		549
469	F7-E8	隅丸長方形	1.25	0.55	0.15	N-42° -E		548
470	F7-F8	隅丸長方形	1.05	0.35	0.15	N-3° -E		548
479	F7-F8	楕円形	0.60	0.50	0.30	N-62° -E		549



第546図 区画AF土壇(1)





- S K 456  
 1 暗褐色土 しまり強 白色粒子微量  
 2 暗褐色土 白色粒子微量  
 3 暗褐色土 炭化物少量 白色粒子微量  
 4 黒褐色土 細粒砂微量混在 炭化物少量  
 5 暗褐色土 細粒砂少量混在 炭化物微量  
 6 黒褐色粘質土 粘性強  
 7 黒褐色粘質土 粘性強 黒色粒子少量 細粒砂(地山)中量混在  
 ※1~7層 グライ化の影響著しい

- S K 457  
 1 黒褐色土 白色粒子・炭化物粒子少量  
 2 黒褐色土 炭化物粒子少量  
 3 暗褐色土 黒色粒子少量  
 4 暗褐色土 砂質

- S K 459  
 1 黒褐色土 白色粒子・炭化物粒子少量  
 2 黒褐色土 白色粒子若干  
 3 暗褐色土 炭化物粒子微量  
 4 暗褐色土 炭化物粒子微量  
 5 暗褐色土 炭化物粒子微量 4層よりしまり弱

- S K 460  
 1 黒褐色土 白色粒子・炭化物少量 しまり極強  
 2 黒褐色土 白色粒子少量 木の成分含む

- 3 黒褐色土 砂質  
 4 黒褐色土 白色粒子微量

- S K 461  
 1 暗褐色土 白色粒子少量 一部グライ化  
 2 暗褐色土 白色粒子微量 一部グライ化

- S K 462  
 1 暗褐色土 白色粒子少量  
 2 暗褐色土 白色粒子微量 黒褐色ブロック(φ50mm大)少量 しまり極強  
 3 暗褐色土 白色粒子微量 しまりなし

- S K 464  
 1 暗褐色土 粘性あり 粘質  
 2 褐色土 シルト質 粘性あり  
 3 暗褐色土 シルト質 炭化物微量  
 4 暗褐色土 炭化物少量  
 5 暗褐色土 粘土 炭化物少量  
 6 暗褐色~黒褐色粘土 炭化物少量  
 7 暗褐色土 シルト質 炭化物少量 細粒砂微量  
 8 黒褐色土 シルト質 炭化物微量 細粒砂微量

- S K 465  
 1 暗褐色砂 黒褐色土ブロック(φ30mm大)少量

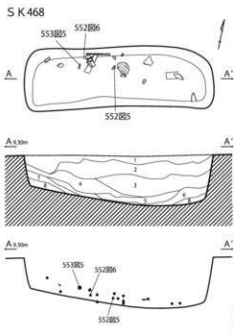
- S K 466  
 1 暗褐色砂 黒褐色土ブロック(φ30mm大)少量

- S K 467  
 1 暗褐色砂  
 2 黒褐色土 砂質 白色粒子少量  
 3 暗褐色土 シルト質 白色粒子微量

- S K 469  
 1 褐色土 砂質 炭褐色ブロック(φ10mm大)少量  
 2 明褐色土 炭褐色ブロック(φ10mm大)多量 白色粒子少量 硬くガリガリ



第 548 図 区画 AF 土 壤 ( 3 )



- S K 468  
 1 暗褐色土 粘土質 白色粒子多量  
 2 暗褐色土 白色粒子少量  
 3 黒褐色土 白色粒子少量  
 4 黒褐色土 シルト質 白色粒子・炭化物粒子少量  
 5 黒褐色土 炭化物粒子少量  
 6 暗褐色土 褐色粒子・炭化物粒子少量  
 7 黒褐色土 シルト質 白色粒子・炭化物粒子微量  
 8 黒褐色砂 炭化物粒子微量
- S K 479  
 1 黒褐色土 白色粒子少量 炭化物粒子微量 褐色粒子多量

第549図 区画AF土壌(4)

明の焼継印がみられる。2は外面青磁軸で、内底面に崩れた五弁花文染付がみられる。3・4は肥前系磁器の小広東碗である。

5は肥前系磁器の高台高が低い蛇ノ目圓形高台の皿である。

6は瀬戸美濃系陶器の鐘茶碗である。内面は鉄軸、外面は錆軸である。外面にはトビガンナ状の押形文が施文される。器形は腰部が丸みを帯びた筒形状である。7は瀬戸美濃系陶器の小杉碗である。外面に鉄絵が施される。栗橋宿で出土する小杉碗はほぼ京都信楽系であり、瀬戸美濃系は稀である。

8は瀬戸美濃系陶器の坏である。灰軸が施軸され、ナゲ高台である。9は皿である。内面に呉須絵、鉄絵が施され、目跡が3箇所遺存している。高台内には墨痕がみられる。

10は江戸在地系土師質土器焙烙の把手である。胎土は粉質である。型成形によるものか、雲母が付着する。

第552図1は漆碗である。内外面に黒漆が塗布されている。

### 第399号土壌 (第546・551・552図)

F7-F7・8グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長軸2.0m、短軸0.85m、深さ0.15mを測る。長軸方位はN-74°-Eを指す。

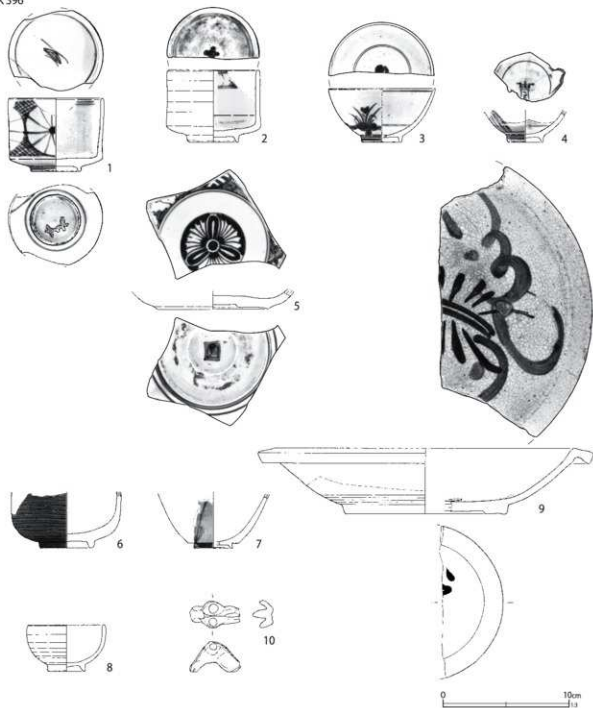
覆土は下層が粘土質土、上層がシルト質土で、木片が多く含まれる。浅い小規模な土壌であるが、遺物は一定量出土している。陶磁器類は土器が主体で、鉄軸・灰軸を左右に掛け分けるせんじ碗が最新期の陶磁器である。推定廃絶期は18世紀中葉である。

第551図11~16に陶磁器類、第552図2に木製品を图示した。第551図11は肥前系磁器の皿で、見込み蛇ノ目軸刺ぎが施されている。底部は露胎である。

12~14は瀬戸美濃系陶器である。12は鉄軸と灰軸が左右に掛け分けて施軸されるせんじ碗である。栗橋宿では18世紀中葉頃の遺構に多くみられる。13は坏である。灰軸が施軸され、外面上位の一部に呉須が散っている。14は水注で、内外面に褐軸が施軸される。環状把手と注口部は欠失している。



S K 396



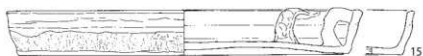
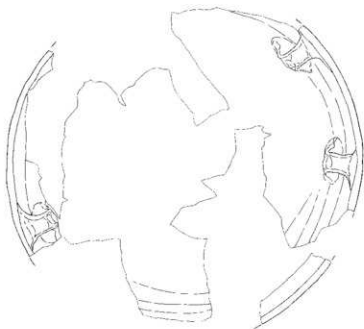
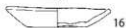
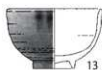
第550図 区画AF土壇出土遺物(1)

16は江戸在り地系かわらけの小皿である。胎土は細粒な雲母が含まれる粉質で、底部に離し糸切痕がみられる。内底面と外面の一部が黒化している。15は瓦質土器の平底焙烙である。底部に無調整のシワ状痕がみられ、体部下端部はケズリ調整が施される。体部中位にはシワ状痕が明瞭に遺

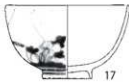
存する。上位はヨコナデ調整である。内耳は下端部が内壁面に近い位置に付いている。口縁部の断面形状は角形を呈する。胎土に一定量の角閃石が含まれており、在地産と推定される。

第552図2は漆椀である。内外面に赤漆が塗布され、高台内には黒で「七源」と書かれている。

SK399



SK431



第551图 区画AF土壇出土遺物(2)

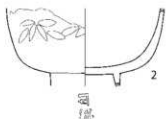
第 165 表 区画 AF 土壌出土遺物観察表 (1) (第 550・551 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	(7.2)	[5.8]	3.7	—	30	良好	白	SK396	肥前系 内外面施釉・染付 高台内焼継印(透明)	87-7
2	磁器	碗	(7.1)	5.7	3.8	—	30	良好	灰白	SK396	肥前系 外面青磁釉 内面施釉・染付 煤付着	
3	磁器	碗	(8.4)	4.2	(3.0)	—	45	良好	白	SK396	肥前系 内外面施釉・染付 底部煤付着	
4	磁器	碗	—	[2.6]	2.7	—	15	良好	白	SK396	肥前系 内外面施釉・染付 被熱(弱) 煤付着	
5	磁器	碗	—	[1.6]	8.7	—	10	良好	白	SK396	肥前系 内外面施釉・染付 蛇ノ目凹形高台	
6	陶器	瓶	—	[4.4]	4.2	EIK	40	普通	黄灰	SK396	瀬戸美濃系 内面鉄釉 外面精釉・トヒガンナ状押形文	
7	陶器	碗	—	[4.3]	(3.0)	EK	20	普通	灰白	SK396	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面鉄絵	
8	陶器	坏	(5.9)	3.7	2.9	EIK	50	良好	灰白	SK396	瀬戸美濃系 内外面灰釉	
9	陶器	皿	(23.6)	5.2	12.4	EIK	35	良好	灰白	SK396	瀬戸美濃系 内外面灰釉 内面鉄・呉須絵・目跡3 遺存 高台内墨痕	87-6
10	灰質土器	焙烙	縦 2.4 横 3.9 厚さ 1.5			ACI	95	普通	灰黄褐	SK396	江戸在地系 把手部 雲母付着 胎土粉質	
11	磁器	皿	—	[2.1]	4.2	—	15	良好	白	SK399	肥前系 内外面施釉 見込蛇ノ目輪割 №12	
12	陶器	碗	10.0	5.0	3.4	IK	95	良好	灰白	SK399	瀬戸美濃系 内外面鉄・灰釉左右摺分け №11	85-4
13	陶器	坏	(7.2)	4.7	3.2	EIK	70	良好	灰白	SK399	瀬戸美濃系 内外面灰釉 外面呉須絵 №13	
14	陶器	水注	4.4	10.5	7.0	K	80	良好	灰白	SK399	瀬戸美濃系 内外面褐釉 №14	
15	瓦質土器	焙烙	36.8	4.9	34.8	IK	60	普通	灰白	SK399	底部シワ状痕 体部下位ケズリ 横寸 №5・6・9	85-3
16	かわらけ	小皿	8.0	1.6	4.6	AHI	70	普通	灰黄褐	SK399	江戸在地系 底部彫し糸切痕 胎土粉質 内底面・外面一部黒化 №2	
17	磁器	碗	(9.6)	5.8	3.8	—	40	良好	白	SK431	肥前系 内外面施釉 外面染付	
18	磁器	皿	(13.6)	3.8	4.6	—	30	良好	白	SK431	肥前系 内外面青磁釉 見込蛇ノ目輪割 SK473 と接合	
19	陶器	碗	—	[2.4]	4.6	IK	10	普通	灰白	SK431	肥前系 内外面施釉	
20	陶器	甕罎	5.9	5.1	(4.4)	K	80	良好	灰白	SK431	瀬戸美濃系 内外面灰釉 被熱	
21	磁器	碗	縦 1.7 横 1.9 重さ 1.5			—	—	普通	白	SK431	肥前系 内外面施釉 外面色絵(赤・緑・黒) 円盤状製品転用	

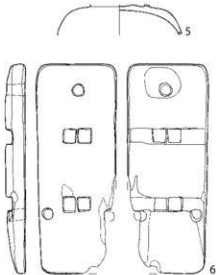
SK396



SK399



SK468



SK432

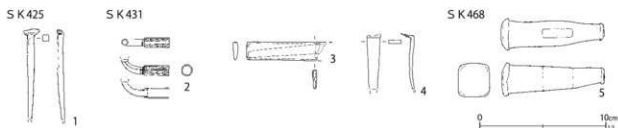


1~5 0 10cm 6 0 10cm

第 552 図 区画 AF 土壌出土遺物 (3)

第166表 区画AF 土壌出土遺物観察表(2) (第552図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	木取り	遺構	備考	図版
1	木製品	漆碗	—	—	—	—	[6.1]	—	横木取り	SK396	内外面黒漆	131-2
2	木製品	漆碗	—	—	—	—	[6.1]	—	横木取り	SK399	内外面赤漆 高台内黒で「七源」黒漆で文様 No.28	
3	木製品	漆碗蓋	つまみ径 5.2			—	[3.6]	—	横木取り	SK432	内外面赤漆 つまみ縁黒漆 つまみ内金で文	
4	木製品	漆碗	—	—	—	10.8	4.3	4.8	横木取り	SK432	内外面赤漆 高台縁・口縁黒漆	
5	木製品	漆碗蓋	—	—	—	—	[2.3]	—	横木取り	SK468	内外面赤漆 被熱 No.7	
6	木製品	下駄	22.2	8.5	—	—	[2.1]	—	板目	SK468	露卯下駄No.6	



第553図 区画AF 土壌出土遺物(4)

第167表 区画AF 土壌出土遺物観察表(3) (第553図)

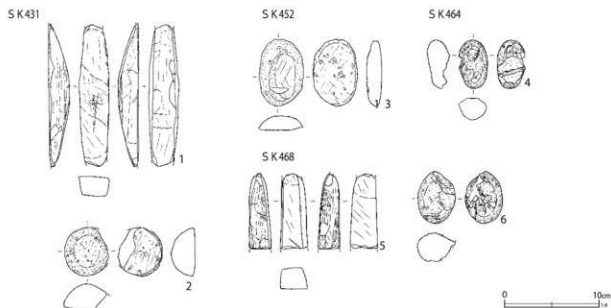
番号	種別	器種	法量	遺構名	備考	図版
1	鉄製品	釘	長さ [7.2] 幅 0.5 厚さ 0.5 重さ 3.3	SK425		133-1
2	銅製品	煙管	長さ [3.8] 小口径 0.9 重さ 4.7	SK431	雁首 火皿欠夫 首部と別造り 勾玉状文除刻	
3	銅鉄製品	小柄	長さ [6.3] 幅 1.4 厚さ 0.4 重さ 10.4	SK431	内部に茎(鉄製)残存	
4	鉄製品	不明	長さ [4.4] 幅 1.0 厚さ 0.3 重さ 5.9	SK431		
5	鉄製品	金鎧	長さ 8.2 幅 2.7 重さ 175.9	SK468		



第554図 区画AF 土壌出土遺物(5)

第168表 区画AF 土壌出土遺物観察表(4) (第554図)

番号	種別	器種	法量	遺構名	備考	図版
1	銅製品	銭貨	径 25.0 厚さ 1.3 重さ 4.3	SK431	寛永通寶(新) 背文	
2	鉄製品	銭貨	径 22.5 厚さ 1.5 重さ 1.9	SK432	寛永通寶(新)	



第555図 区画AF土壌出土遺物(6)

第169表 区画AF土壌出土遺物観察表(5)(第555図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	図版
1	石製品	砥石	[15.0]	3.2	2.2	133.7	流紋岩(緑色)	SK431	表面刃物傷 裏面削傷 側面線条痕・刃物傷削痕 砥面4	140-1
2	石製品	磨石	5.1	[4.7]	2.5	30.5	角閃石安山岩	SK431	多孔質 自然面遺存 使用面1	140-1
3	石製品	磨石	7.1	4.7	1.5	29.5	角閃石安山岩	SK452	多孔質 自然面遺存 使用面2	140-1
4	石製品	磨石	5.1	3.0	2.4	20.0	角閃石安山岩	SK464	多孔質 自然面遺存 使用面2	
5	石製品	砥石	[7.9]	3.0	2.2	78.4	流紋岩(緑色)	SK468	側面櫛歯状工具痕2 表・側面刃物傷2 砥面4	
6	石製品	磨石	5.5	4.0	3.0	33.2	角閃石安山岩	SK468	多孔質 自然面遺存 使用面1 削痕・刃物痕複数あり	

外面は黒漆で文様が描かれている。

#### 第431号土壌(第547・551・553～555図)

F7-F8グリッドに位置し、第5号建物跡より新しい。平面形は不整形で、長軸3.2m、短軸2.95m、深さ0.35mを測る。長軸方位はN-15°-Wを指す。

覆土は大部分が河川由来と思われる粗砂である。砂には総数224点、1267.9gの自然礫の多孔質角閃石安山岩転石が含まれている。転石は全て回収し、長軸・短軸の計測を行ったうえで、第742図に散布図を示した。転石の大きさは1.5～3.0cm前後に集中しており、栗橋周辺ではこの程度の大きさまで、削られているものが主体と推定される。なお、利根川流域で採取される転石の規格は、行田～加須低地で10～20cm、下流域で

10cm以下である(秋池2000)。

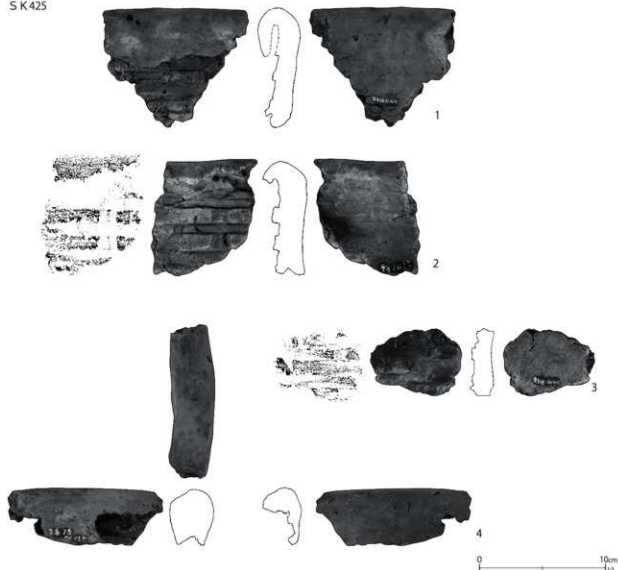
出土遺物は少量だが、陶磁器類は17世紀後葉～18世紀初頭に比定される製品に占められる。

第551図17～21に陶磁器、第553図2～4に金属製品、第554図1に銭貨、第555図1・2に石製品を示した。

第551図17は肥前系磁器の碗である。高台断面の形状はシャープな「U」字状を呈し、高台高が低い。外面に染付が施される。18は肥前系磁器の皿である。見込み蛇ノ目軸剥ぎで、底部露胎である。内外面は青磁釉である。第473号土壌出土破片と接合関係にある。

19は肥前系陶器の呉器手碗である。20は瀬戸美濃系陶器の脚付乗燗である。底部に右回転の糸切痕がみられる。灰釉が施釉され、被熱してい

SK425



第556図 区画AF土壌出土遺物(7)

第170表 区画AF土壌出土遺物観察表(6)(第556図)

番号	種別	器種	縦	横	厚さ	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	壁材	—	9.5	11.2	3.4	EI	—	—	にぶい橙	SK425	材圧痕上端部曲面 被熱(赤・黒化) 内部に縄状の有機質遺存	142-15
2	壁材	—	9.0	8.0	3.4	AI	—	—	淡黄	SK425	材圧痕(2種類) 被熱(黒化)	142-15
3	壁材	—	5.3	7.2	1.8	AI	—	—	にぶい黄橙	SK425	材圧痕(2種類) 被熱(内部黒化)	142-15
4	壁材	—	4.5	12.1	3.4	ACI	—	—	浅黄橙	SK425	材圧痕(2種類) 被熱(一部黒化)	142-15

る。

21は肥前系磁器の色絵碗で、体部破片を打ち欠いて、円盤状に二次加工が施されている。

第553図2は銅製煙管の雁首である。首部は別作りで、勾玉状文が陰刻されている。3は銅・鉄製の小柄である。内部に鉄製茎が遺存している。

4はさっぱ釘に類似するような扁平鉄製品である。第554図1は銅製の新寛永通寶で、背文である。

第555図1は緑色を呈する流紋岩製砥石である。右側面、裏面に削り痕がみられ、左側面には線條痕が認められる。砥面は4面である。2は多

孔質の角閃石安山岩転石製磨石である。表面は自然面で、裏面は使用により平坦であるが、僅かに凸面状を呈する。

以上に取り上げた土壌の他にも、特徴的な遺物が出土しているため、以下に記述していく。

第555図5は緑色を呈する流紋岩製砥石である。両側面に櫛歯状工具痕が遺存している。表裏面は砥面である。

第556図1～4は建物の一部と思われる壁材である。全て第425号土壌から出土している。1・2・4は端部が丸く、上面が緩やかなカーブを呈する。材圧痕は下部に扁平な角材状圧痕と、上部に縄状の圧痕の2種がみられる。

#### ⑦区画AGの土壌（第557～563図）

区画AGは『絵図』にみえる「明地/平八持」の区画である。土壌は11基検出された。土壌は区画内に偏りなく分布している。

第171表に位置・規模等の基本的な情報を示した。

本区画で抽出した土壌はなく、第557・558図に遺構図、第559～563図に遺物図を示し、特徴的な土壌・遺物について記述した。

#### 第417号土壌（第557・559・561～563図）

F7-G7グリッドに位置し、第447号土壌より新しい。平面形は不整形で、長軸1.15m、幅1.0m、深さ0.25mを測る。長軸方位はN-75°-Eを指す。

覆土は下層に朽殻、樹皮、木片等が多量に含まれる黒色土で、上層はシルト・砂質土である。小規模土壌だが、出土遺物は一定量みられる。陶磁器類は肥前系磁器の筒形碗を主体とし、最新期である広東碗の蓋（第559図1）が1点みられる。非掲載遺物には京都信楽系陶器の端反形碗がみられる。推定廃絶期は18世紀後葉の中でも古い段階で、天明三年（1783）以前の可能性がある。

第559図1・2に陶磁器類、第561図1に瓦、第562図1～6に木製品、第563図1・2に銭貨を図示した。

第559図1は肥前系磁器の広東碗蓋である。外面に染付が施される。2は胎土に金雲母が多量に含まれる常陸系土師質土器の大型壺・甕類である。関東地方では類例が非常に少なく、現時点では茨城県内、東京都内、埼玉県内で僅か数例である。近年では第6地点（『栗橋宿跡Ⅲ』）で出土している。本製品は壺・甕類の体部から頸部へ立ち上がる部分（肩部）と推定される。外面は櫛描き状施文で、内面は被熱によるものか、著しく剥落している。

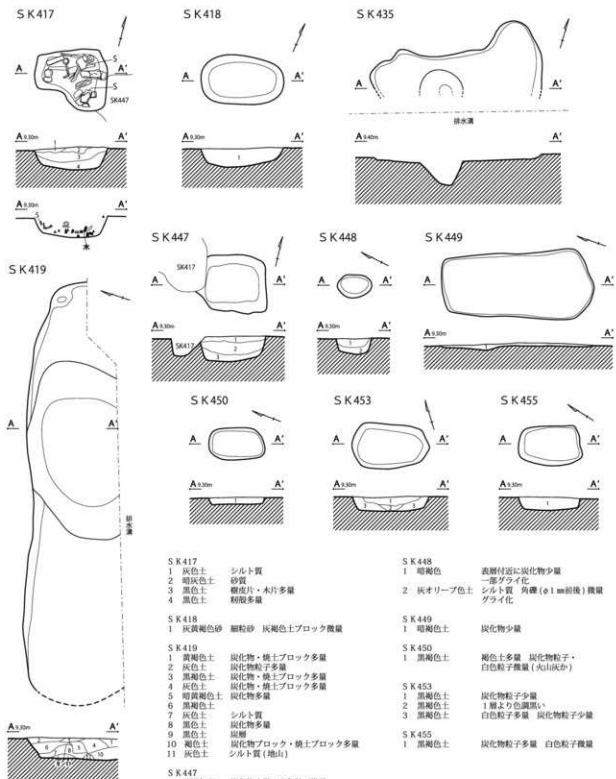
第561図1は軒椀瓦である。江戸式文様に類似し、二重唐草文である。

第562図1は漆桶である。内外面に赤漆が塗布され、高台内に黒漆で文様が描かれる。2・3は組物の可能性がある漆皿である。内面に赤漆、内面外周と外面に黒漆が塗布される。金で文様が描

第171表 第二面区画AG土壌一覧表

単位：m

番号	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	方位	備考	種別
417	F7-G7	不整形	1.15	1.00	0.25	N-75°-E	SK447より新	557
418	F7-G7	楕円形	1.30	0.75	0.30	N-67°-E		557
419	F7-G7・8	長楕円形	(6.25)	(1.45)	0.35	N-74°-E		557
435	F7-F・G8	不整形	2.70	1.05	0.50	N-60°-E		557
447	F7-G7	不整形	1.10	0.90	0.40	N-75°-E	SK417より古	557
448	F7-G8	楕円形	0.55	0.35	0.25	N-25°-W		557
449	F7-F・G8	隅丸長方形	2.40	1.10	0.10	N-20°-W		557
450	F7-F8	隅丸長方形	0.80	0.50	0.10	N-22°-W		557
453	F7-F8・9	楕円形	1.25	0.75	0.25	N-70°-W		557
454	F7-F9	不整形	(2.20)	1.50	0.25	N-35°-W		558
455	F7-F・G8	隅丸長方形	0.95	0.65	0.20	N-33°-W		557



- SK 417
- 1 灰色土 シルト質
  - 2 暗灰色土 砂質
  - 3 黒色土 燻皮片・木片多量
  - 4 黒色土 粗粒多量

- SK 418
- 1 灰黄褐色砂 細粒砂 灰褐色土ブロック微量

- SK 419
- 1 黄褐色土 炭化物・焼土ブロック多量
  - 2 灰色土 炭化物粒子多量
  - 3 黒褐色土 炭化物・焼土ブロック多量
  - 4 灰色土 炭化物・焼土ブロック多量
  - 5 暗黄褐色土 炭化物多量
  - 6 黒褐色土
  - 7 灰色土 シルト質
  - 8 黒色土 炭化物多量
  - 9 黒色土 炭化物
  - 10 褐色土 炭化物ブロック・焼土ブロック多量
  - 11 灰色土 シルト質(地山)

- SK 447
- 1 暗褐色土 炭化物少量 白色粒子微量
  - 2 暗褐色土 細粒砂微量混入
  - 3 暗褐色土 砂質土 細粒砂を主体にの角礫(φ1mm前後)微量

- SK 448
- 1 暗褐色 表面付近に炭化物少量 一部グライ化
  - 2 灰オリーブ色土 シルト質 角礫(φ1mm前後)微量 グライ化

- SK 449
- 1 暗褐色土 炭化物少量

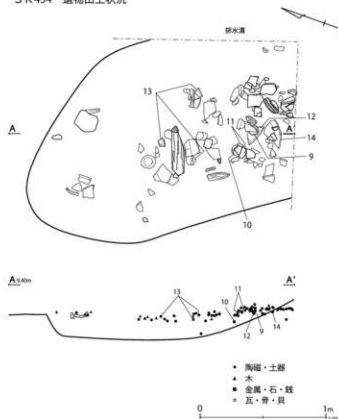
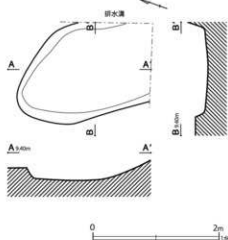
- SK 450
- 1 黒褐色土 褐色土多量 炭化物粒子・白色粒子微量(水田用)

- SK 453
- 1 暗褐色土 炭化物粒子少量
  - 2 黒褐色土 1層より色調黒い
  - 3 黒褐色土 白色粒子多量 炭化物粒子少量

- SK 455
- 1 黒褐色土 炭化物粒子多量 白色粒子微量

第557図 区画AG土壌(1)





第558図 区画AG土壌(2)

かれている。4・5は湯桶である。4は底板で、側面以外に黒漆が塗布されている。5は把手で、全面に黒漆が塗布されている。6は建具と思われる細い角材状の木製品である。木釘が6箇所、刻みが3箇所みられる。

第563図1は古寛永、2は新寛永通寶である。

#### 第419号土壌 (第557・559図)

F7-G7・8グリッドに位置する。南側は現地調査で設定した排水溝により壊されている。平面形は長楕円形で、検出長軸6.25m、短軸1.45m、深さ0.35mを測る。長軸方位はN-74°-Eを指す。中央は底面が落ち窪んでいる。

覆土はブロック状の堆積が目立つ。炭化物、焼土ブロックが多量に含まれ、火災処理土壌の可能性が疑われるが、被熱している遺物は少ない。

出土している陶磁器は少量だが、17世紀の遺物が主体である。小破片のため図示し得なかった

が、非掲載遺物にみられる波佐見系磁器のコンニャク印判染付碗が最新期である。推定廃絶期は18世紀前葉である。

第559図3～7に陶磁器類を図示した。3は肥前系陶器の輪壳鉢である。見込み蛇ノ目軸剥ぎで、内面は青緑釉と鉄釉を左右に掛け分けている。外面は透明釉である。4は肥前系陶器の刷毛目釉片口鉢である。外面下位に鉄釉、外面上位と内面に刷毛目釉が施軸されている。被熱している。5は備前系陶器の大甕である。折り返し口縁である。栗桶宿での出土は稀である。

6は瓦質土器の平底焙烙である。底部は無調整のシワ状痕がみられ、体部下位に強いケズリが施されている。補修痕である二次穿孔が1箇所遺存している。被熱し、赤色化している。7は江戸在地系のかわらけ小皿である。胎土は細粒な雲母を含む粉質である。

SK417



1



2

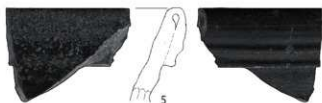
SK419



3



4



5



7



6

SK435

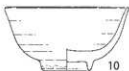


8

SK454



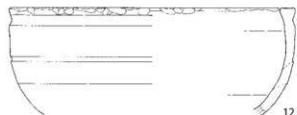
9



10



11



12



13



14

11~14 0 10cm 1:4

1~10 0 10cm 1:4

第559图 区画AG土壤出土遗物(1)

第172表 区画AG土壌出土遺物観察表(1)(第559図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	蓋	(5.4)	2.7	(10.4)	—	20	良好	白	SK417	肥前系 内外面施釉 外面染付	
2	土師質土器	壺・甕類	—	[4.6]	—	ADEK	5	普通	明褐色	SK417	常陸系 外面磨き施文 内面割落著しい	86-1
3	陶器	鉢	—	[3.6]	(6.1)	K	15	普通	灰白	SK419	肥前系 外面施釉 内面青緑・鉄軸左右掛け分け見込蛇ノ目施釉	
4	陶器	片口鉢	—	[6.9]	(9.2)	IK	20	普通	暗赤灰	SK419	肥前系 外面下位鉄軸 外面上位・内面刷毛目軸被熱	
5	陶器	甕	—	[7.4]	—	DEHK	5	良好	赤灰	SK419	備前系 内外面塗土・内面障灰	86-2
6	瓦質土器	焙烙	—	5.6	—	CHIK	5	普通	灰白	SK419	底部シワ状痕 体部下位強いケズリ 補修痕1あり 被熱(赤化)	
7	かわらけ	小皿	(10.3)	[1.5]	(4.9)	AHK	15	普通	にぶい橙	SK419	江戸在地系 胎土粉質	
8	陶器	蓋	(5.7)	1.1	(3.0)	I	25	普通	褐色	SK435	備前系 底部糸切痕 内面塗土 鞍肌軸 胎土垢器質	
9	磁器	碗	7.7	3.7	3.2	—	95	良好	白	SK454	肥前系 内外面施釉 外面染付 No.14	
10	磁器	碗	9.6	5.0	3.6	—	85	良好	白	SK454	肥前系 内外面施釉 外面染付 No.20	
11	陶器	こね鉢	(25.0)	[12.3]	—	EI	20	普通	灰白	SK454	瀬戸美濃系 内外面灰釉 裏胎部煤付着 No.21・22	
12	瓦質土器	火鉢	(30.0)	[11.3]	—	CH	10	普通	灰白	SK454	やや酸化焙焼成 口縁部敲打痕 内面土位煤付着 胎土中心褐色色 No.19	
13	瓦質土器	火鉢	—	[5.3]	(20.6)	CFHK	15	普通	にぶい橙	SK454	底部シワ状痕 やや酸化焙焼成 被熱(一部黒) No.6・8・10	
14	瓦質土器	焙烙	(40.4)	5.4	(38.2)	IK	15	普通	灰白	SK454	底部シワ状痕 体部下端ケズリ 煤す 被熱 No.18	

## 第435号土壌(第557・559・560図)

F7-F・G8グリッドに位置する。平面形は不整形で、底面中央にビット状の掘り込みがみられる。長軸2.7m、短軸1.05m、深さ0.5mを測り、長軸方位はN-60°-Eを指す。覆土は確認することができなかった。

出土遺物は少量で、19世紀中葉頃の陶磁器が主体である。第559図8に備前系陶器の蓋、第560図に型成形の円錐状土製品を図示した。

## 第453号土壌(第557・562図)

F7-F8・9グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長軸1.25m、短軸0.75m、深さ0.25mを測る。長軸方位はN-70°-Wを指す。

覆土は炭化物を含む黒褐色土で、下層に白色粒子がみられる。出土遺物は極めて少なく、陶磁器類は図示し得るものがなかった。最新期の陶磁器は瀬戸美濃系陶器の柿杓灯明皿である。推定廃絶期は18世紀後半である。

第562図7に木製品の独楽を図示した。

## 第454号土壌(第558・559・563図)

F7-F9グリッドに位置する。南・東側は現地調査で設定した排水溝に壊されている。平面

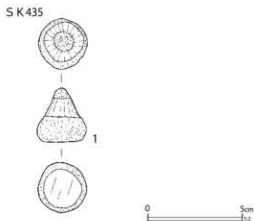
形は不整形で、検出長軸2.2m、短軸1.5m、深さ0.25mを測る。長軸方位はN-35°-Wを指す。覆土は確認することができなかった。遺物は一定量みられ、遺構上部の確認面に近い位置から出土している。

陶磁器類は土器が主体で、近代遺物が2点混入している。波佐見系磁器碗(第559図9・10)や瀬戸美濃系陶器のこね鉢(同11)、非掲載遺物にせじ碗の底部がみられる。推定廃絶期は18世紀前半である。

第559図9～14に陶磁器類、第563図3に銭貨を示した。9・10は波佐見系磁器のくらわんか手染付碗である。9は小碗で、10は端反形を呈する。

11は瀬戸美濃系陶器のこね鉢である。口縁部は外反せず、丸碗形片口鉢等に類似する形態である。灰軸が施軸され、露胎部に煤が付着する。

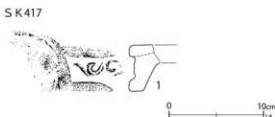
12・13は輪高台状の脚部が付く瓦質土器の脚付火鉢である。やや酸化焙焼成で、表面は橙色気味である。12は口唇部が平坦で、敲打痕がみられる。体部中位に沈線が施されている。内外面はヨコナデ調整である。13は底部に無調整のシワ



第560図 区画AG土壌出土遺物(2)

第173表 区画AG土壌出土遺物観察表(2)(第560図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	重量	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	土製品	不明	長さ2.7 高さ2.9	幅2.6		13.6	AK	普通	灰	SK435	型成形か 体部中位ナゲ 燻す 下面二次利用	



第561図 区画AG土壌出土遺物(3)

第174表 区画AG土壌出土遺物観察表(3)(第561図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	瓦	軒棧瓦	[3.3]	[12.0]	-	[6.6]	-	AIK	普通	灰白	SK417	燻す	

状痕が遺存する。いずれも胎土に一定量の角閃石が含まれ、在地産と推定される。

14は瓦質土器の平底培格である。底部に無調整のシワ状痕がみられ、体部下端部はケズリ調整である。

第563図3は銅製の新寛永通寶である。

#### 第455号土壌 (第557・563図)

F7-F・G8グリッドに位置する。平面形は隅丸長方形で、長軸0.95m、短軸0.65m、深さ0.2mを測る。長軸方位はN-33°-Wを指す。

覆土は炭化物を多量に含む黒褐色土の単層であ

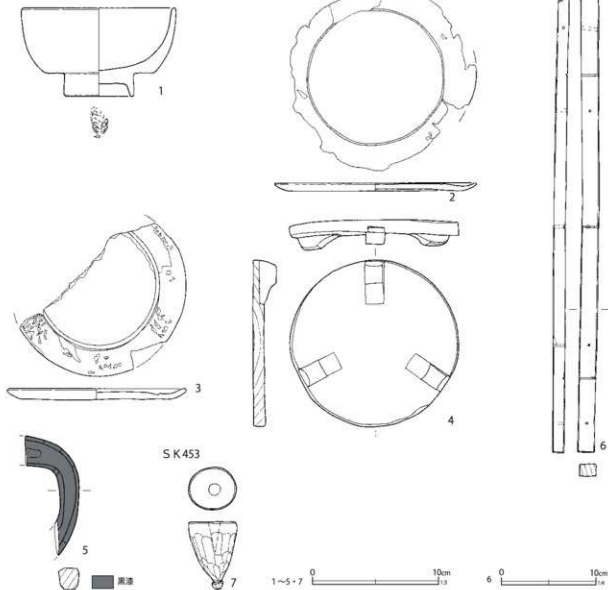
る。出土物は極めて少なく、陶磁器の出土はなかった。推定廃絶期は不詳である。

第563図4に銅製の北宋銭である元祐通寶を示した。初鋳年は1086年である。

#### (7) ビット (第564・565図)

ビットは26基検出された。区画ごとの内訳は、区画AAに1基(ビット76)、区画ABに1基(ビット22)、区画ACに7基(ビット21・23~28)、区画AFに9基(ビット30・31・33~37)、区画AGに8基(ビット32・40~46)である。

SK417



第562図 区画AG土壌(4)

第175表 区画AG土壌出土遺物観察表(4)(第562図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	木取り	遺構	備考	区版
1	木製品	漆碗	—	—	—	12.0	6.9	5.4	横木取り	SK417	内外面赤漆 高台内に黒漆で文様 No.3	130-17
2	木製品	漆皿	—	—	—	(14.2)	0.6	—	横木取り	SK417	内面赤漆 内面外周・外面黒漆 金で文様 歪み大 3と組物	
3	木製品	漆皿	—	—	—	14.2	0.9	—	横木取り	SK417	内面赤漆 内面外周黒漆 金で文様 外面黒 漆 2と組物	131-1
4	木製品	湯桶	—	—	1.8	13.2	—	—	板目	SK417	底板 側面以外黒漆 脚3 No.4	
5	木製品	湯桶	[9.4]	[3.9]	1.7	—	—	—	板目	SK417	把手 全面黒漆	
6	木製品	建具	49.1	1.8	1.3	—	—	—	板目	SK417	建具の一部カ 木釘6箇所 刻み3箇所	151-4
7	木製品	独梁	3.4	3.8	—	—	5.3	—	芯持材	SK453	上面に軸穴	131-3

SK417



1



2

SK454



3

SK455



4



第563図 区画AG土壇(5)

第176表 区画AG土壇出土遺物観察表(5)(第563図)

番号	種別	器種	法量	遺構名	備考	図版
1	銅製品	銭貨	径24.0 厚さ1.5 重さ4.4	SK417	寛永通寶(古)	
2	鉄製品	銭貨	径23.5 厚さ1.3 重さ1.1	SK417	寛永通寶(新)	
3	銅製品	銭貨	径22.3 厚さ1.1 重さ2.0	SK454	寛永通寶(新)	
4	銅製品	銭貨	径24.1 厚さ1.1 重さ2.7	SK455	元祐通寶	

単独のものがほとんどであり、建物跡を想定するような等間隔な並びは認められなかった。ただし、ビット29・40～42は径がかなり小さく、後世の杭跡の可能性がある。

第177表に位置・規模等の基本情報、第564図に遺構図、第565図に出土遺物を図示した。

## ビット26(第564・565図)

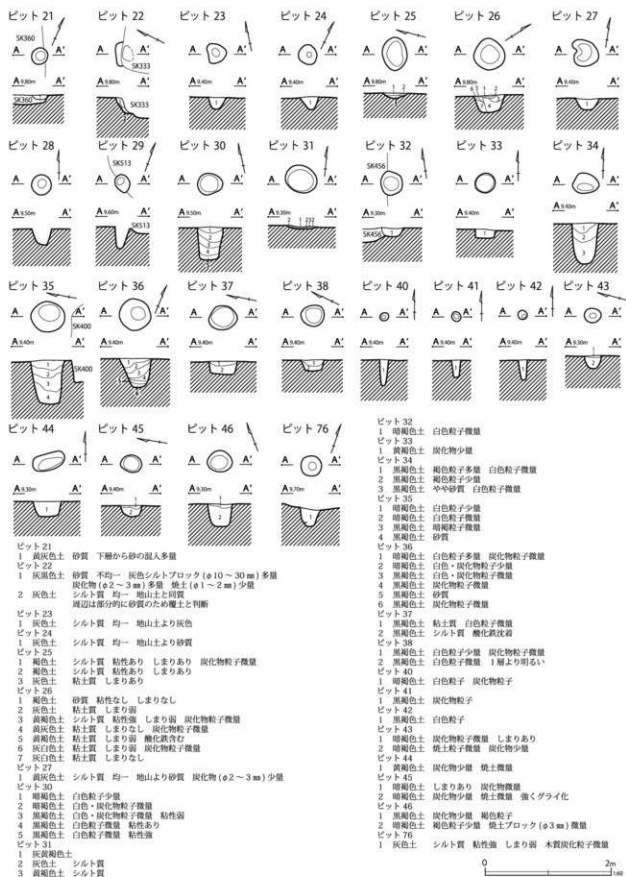
F7-C7グリッドに位置する。円形で、径0.5m、深さ0.26mを測る。粘土質な土が主体で、大分的に炭化物が含まれる。遺構の時期は19世紀前半である。

第565図1に出土した松岡系陶器の土瓶を図示

第177表 第二面ビット一覧表

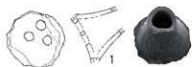
単位: m

番号	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	備考
21	F7-C6	円形	0.25	0.25	0.06	SK360より新
22	F7-C6	不明	0.35	(0.10)	0.2	SK333より古
23	F7-C6	不整形	0.35	0.32	0.2	
24	F7-C6	円形	0.32	0.30	0.2	
25	F7-C7	楕円形	0.52	0.40	0.1	
26	F7-C7	円形	0.50	0.50	0.26	
27	F7-D6	不整形	0.48	0.40	0.15	
28	F7-D6	円形	0.30	0.30	0.25	
29	F7-D7	楕円形	0.25	0.22	0.35	SK513と重複
30	F7-E7	楕円形	0.40	0.35	0.5	
31	F7-F7	楕円形	0.50	0.40	0.03	
32	F7-F7	円形	0.38	0.35	0.1	SK456より新
33	F7-F7	円形	0.30	0.30	0.1	
34	F7-E・F7	楕円形	0.40	0.32	0.65	
35	F7-F7	楕円形	0.55	0.50	0.7	
36	F7-F7	円形	0.50	0.50	0.5	
37	F7-F8	楕円形	0.45	0.40	0.2	
38	F7-F8	円形	0.35	0.35	0.15	
40	F7-F8	円形	0.15	0.15	0.4	
41	F7-F8	楕円形	0.15	0.13	0.3	
42	F7-F8	円形	0.15	0.15	0.3	
43	F7-G7	円形	0.25	0.2	0.2	
44	F7-G7	楕円形	0.55	0.25	0.23	
45	F7-G8	楕円形	0.32	0.25	0.15	
46	F7-G8	楕円形	0.4	0.35	0.35	
76	F7-D6	円形	0.3	0.3	0.3	SK407より新



第 561 図 ピット

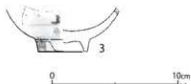
P26



P28



P35



第565図 ビット出土遺物

第178表 ビット出土遺物観察表 (第565図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	陶器	土瓶	—	[4.7]	—	IK	5	良好	褐灰	P26	外面海鼠軸	
2	磁器	碗	—	[3.3]	—	—	5	普通	白	P28	肥前系 内外面施軸 外面染付	
3	磁器	碗	—	[3.5]	3.9	—	15	良好	白	P35	肥前系 内外面施軸 外面染付	

した。注口部で、外面に海鼠軸が施軸されている。

#### ビット28 (第564・565図)

F7-D6グリッドに位置する。円形で、径0.3m、深さ0.25mを測る。覆土は確認できなかった。遺構の時期は不明である。

第565図2に出土した肥前系磁器の碗を図示した。外面に染付が施されている。

#### ビット35 (第564・565図)

F7-F7グリッドに位置する。楕円形で、長軸0.55m、短軸0.5m、深さ0.7mを測る。遺構は深く、検出標高が9.2mであるため、時期は比較的古いと思われる。遺構の時期は、第565図3に示した肥前系磁器の底部無軸染付碗の年代から、17世紀後半頃と推定される。

#### (8) 遺構外出土遺物 (第566～578図)

第566～578図に第二面までの掘削時、遺構確認作業に伴って出土した遺物を示した。遺物は文字資料と特徴的な製品を中心に抽出した。

第566・567図に陶磁器類、第568図に輪の羽口、第569・570図に土製品、第571図に瓦、第572図に木製品、第573・574図に金属製品、第575図に銭貨、第576図に鉄滓、第577図に石製品、第578図に硝子製品を図示した。

第566図2は肥前系磁器の色絵文字が施された紅帯で、いわゆる小町紅である。3は肥前系磁器

の小皿である。型成形で、貼り付け高台である。

4は肥前系磁器の紅帯である。型成形で、外面に縦織状の施文が施される。この種の紅帯の中では規格が大きい。

9は肥前系磁器の皿である。高台高が低い蛇ノ目凹形高台で、高台内に墨書「尗」が4箇所みえる。第3地点(『栗橋宿跡I』)等でみられ、現八坂神社である北二丁目陣屋跡(埤理文2021a)には明治二十六年(1894)の木札だが、「尗」、「根岸紙」の墨書がみえる。

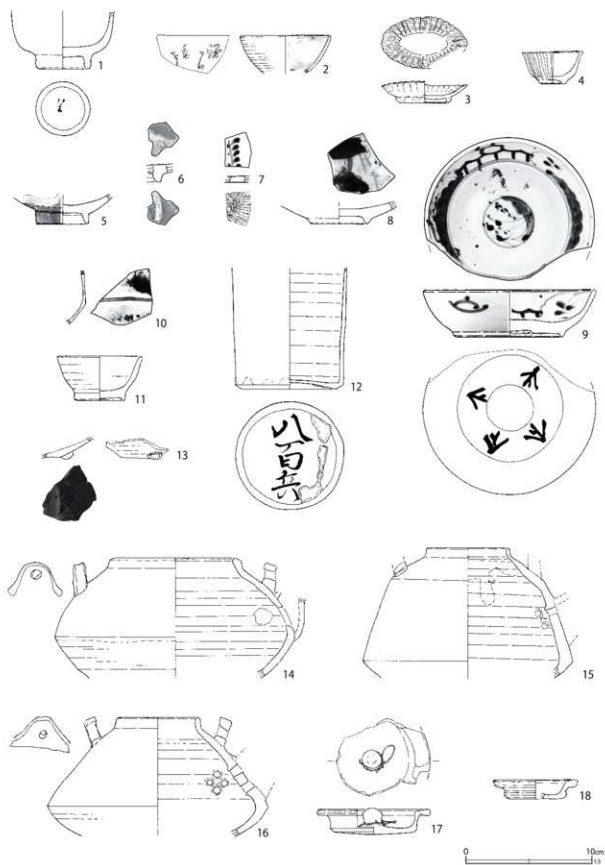
12は産地不詳陶器の爛徳利である。底部に墨書「八百兵」がみえる。第8地点に関わる資料と考えられる。

13は胎土が土器質で、底部を含めた内外面に黒軸が施軸される土瓶である。吉見焼の可能性が疑われる。14～16は胎土が土器質の土瓶である。いずれも厚手、体が張る。14は透明軸が施軸され、胎土に小礫が含まれる。挿図では接点のない2片から復元した。15・16は黒軸が施軸され、胎土に白色針状物質が含まれる。

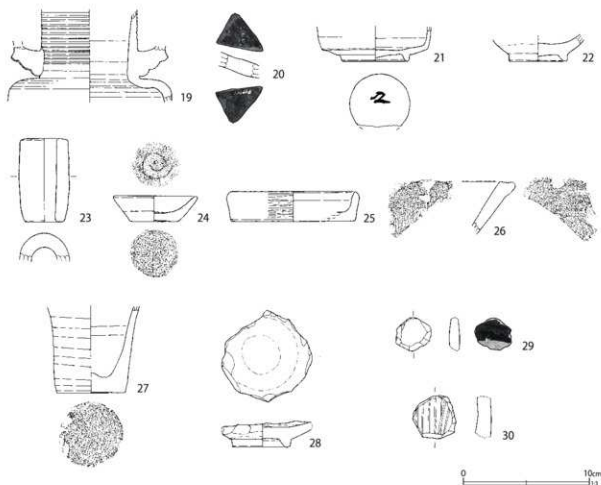
17・18は胎土が土器質の土瓶の落し蓋である。17は下面に鉄化粧が施され、上面に黒軸が施軸されている。つまみには銅線が巻き付いている。18は下面に鉄化粧が施され、上面は透明軸が施軸されている。

第567図20は中世常滑焼の甕である。肩部破片





第 566 図 遺構外出土遺物 (1)



第567図 遺構外出土遺物(2)

で、外面に自然釉がかかる。13～14世紀の所産である。

23は常滑焼の土鍾である。内面にシワ状痕がみられ、外面は塗土状である。栗橋宿では土鍾の出土が稀である。

24はかわらけ小皿である。坏形を呈し、胎土は砂質である。底部に糸切痕が遺存するが、不明瞭である。内底面には渦巻状のナデがみられる。

26は瓦質土器の播鉢である。胎土は硬質で、輝石が含まれている。内面に播目がみられる。

27は土師質土器の焼壺壺である。体部上位がやや反るように開き、底部は左回転の糸切痕がナデ消されている。欠失部は摩耗している。栗橋宿では、焼壺壺の出土が少ない。

28～30は底部(28)周囲、体部破片(29・

30)を打ち欠いて円盤状に二次加工を施したいわゆる円盤状製品である。28は肥前系磁器の底部露胎で、見込み蛇ノ目釉剥ぎが施される皿を転用している。29は瀬戸美濃系陶器の天目碗、30は丹波系播鉢を転用している。

第568図は鞆の羽口である。胎質は1・5が瓦質、2～4は土師質である。4・5は外面にナデ調整がみられ、4は内面が急激にすぼまる。5は鞆側の内面に擦痕がみられ、桐口使用が想定される。

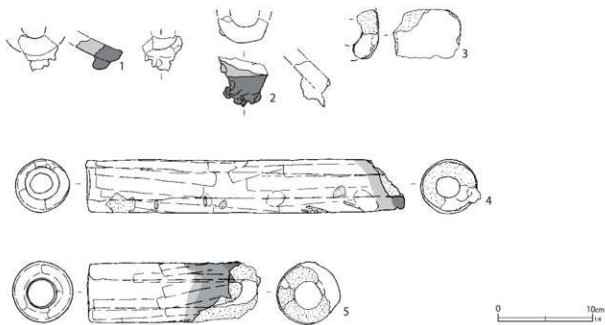
第569図1・2は京都系のいわゆる「つぼつぼ」に類似する土師質土器の小壺である。胎土が粉質で、細粒な雲母を含み、江戸在地系の可能性が推定される。底部は左回転の糸切痕がみられる。栗橋宿では、19世紀後半の遺構で出土する

第179表 遺構外出土遺物観察表(1)(第566・567図)

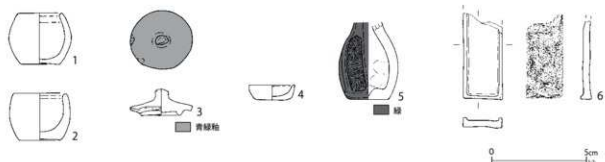
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	—	[4.6]	3.7	—	45	良好	白	F7-C7	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面部硝輪 焼痕あり 高台内使緑印(赤)	
2	磁器	紅環	(7.1)	[3.0]	—	—	15	普通	白	F7-C8	肥前系 内外面施釉 外面絵文(赤) 内面赤絵(赤)	
3	磁器	皿	6.8	1.7	3.9	—	80	良好	白	表採	肥前系 型成形 内外面施釉	
4	磁器	缸	4.6	2.6	1.8	—	100	良好	白	表採	肥前系 型成形 内外面施釉	
5	磁器	碗	—	[2.5]	3.9	—	10	普通	白	F7-D6	肥前系 内外面施釉 外面染付 初期伊万里様式	
6	磁器	碗	—	[1.4]	—	—	5	普通	白	F7-C7	肥前系 内外面施釉 初期伊万里様式	
7	磁器	皿	—	[0.5]	—	—	5	良好	白	F7-B7	肥前系 内面施釉・染付 下面カンナケズ痕	
8	磁器	皿	—	[1.8]	4.4	—	5	普通	灰白	F7-C8	肥前系 内外面施釉 内面染付 初期伊万里様式	
9	磁器	皿	13.4	3.7	8.4	—	70	普通	白	F7-D7	肥前系 内外面施釉・染付 高台内墨書「令」4あり	
10	磁器	急須	—	[4.3]	—	—	5	普通	白	F7-E7	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コハルト染付 外面下位墨書	
11	陶器	坏	(6.6)	3.5	3.8	EIK	40	普通	にぶい橙	F7-B7	瀬戸美濃系 内外面尾呂輪	
12	陶器	燗徳利	—	[9.6]	7.5	IK	20	良好	灰黄	F7-D6	外面灰釉 底部墨書「八百兵」 底部胎土付着	
13	陶器	土瓶	—	[1.7]	—	HIK	5	普通	浅黄橙	F7-C8	胎土器質 内外面鉄輪(黒) 内面硝洒落	
14	陶器	土瓶	(9.5)	[9.6]	—	EHIK	20	普通	にぶい橙	F7-C8	胎土器質 外面上位・内面施釉 胎土小礫含む 接点のあと2片から復元	
15	陶器	土瓶	(6.4)	[10.3]	—	HIJK	30	普通	橙	F7-C8	胎土器質 内外面鉄輪(黒) 胎土中心部灰色 被熱	
16	陶器	土瓶	6.2	[9.4]	—	HIJK	25	普通	浅黄橙	F7-C8	胎土器質 内外面鉄輪(黒) 被熱	
17	陶器	蓋	(8.7)	2.0	6.4	IK	40	良好	にぶい橙	F7-C7	胎土器質 下面鉄化粧 上面鉄輪 銅線付	
18	陶器	蓋	(6.4)	1.5	(4.0)	IK	20	普通	橙	F7-C8	胎土器質 下面鉄化粧 上面鉄輪 最大径(6.8) cm	
19	陶器	花生	—	[7.3]	—	IK	10	普通	灰白	F7-F8	瀬戸美濃系 外面鉄輪 内面硝輪薄掛け	
20	陶器	壺	—	[2.1]	—	EIK	5	普通	灰白	—	常滑焼 13~14e 層部外面自然釉	
21	陶器	香炉	—	[2.7]	5.1	IK	5	普通	灰白	F7-C8	瀬戸美濃系 外面灰釉 高台内墨書	
22	陶器	香炉	—	[2.1]	4.4	IK	10	普通	にぶい橙	F7-D6	外面下位・底部鉄化粧 外面上位鉄輪	
23	陶器	土埴	縦6.6 横4.0 孔径2.0	—	—	EHIK	40	良好	にぶい橙	F7-D6	常滑焼 内面シワ状痕 外面塗土	
24	かわらけ	小皿	(6.4)	2.0	3.7	EHIK	80	普通	にぶい橙	F7-C8	底部糸切痕 胎土砂質	
25	瓦質土器	鉢	(9.8)	2.3	(9.6)	IK	5	普通	灰	F7-C7	外面ミガキ 底部黒化	
26	瓦質土器	撞鉢	—	[4.1]	—	HIK	5	普通	灰黄	F7-C5	胎土硬質・礫石含む 内面撞目	
27	土師質土器	燒塩壺	—	[6.8]	5.3	AHIK	90	普通	橙	F7-C8	底部糸切痕(左)をナゲ消し 欠失部摩耗	
28	磁器	皿	—	[1.9]	4.1	—	—	普通	白	F7-C6	肥前系 内外面施釉 円盤状製品転用(底部)	
29	陶器	碗	縦2.6 横2.8 厚み0.8	—	—	IK	—	普通	浅黄橙	F7-D6	瀬戸美濃系 内外面鉄輪 円盤状製品転用(体部)	
30	陶器	撞鉢	縦3.3 横3.3 厚み1.3	—	—	EIK	—	普通	黄灰	F7-C7	丹波系 内面撞目 円盤状製品転用(体部)	

第180表 遺構外出土遺物観察表(2)(第568図)

番号	種別	器種	長さ	切廻径		輪廻径		重量	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
				外径	内径	外径	内径							
1	土製品	羽口	4.8	—	—	—	37.4	I	普通	楊灰	F7	二面確認 Tr 瓦質 外面整形不明		
2	土製品	羽口	5.0	—	(2.8)	—	56.1	I	普通	明黄褐	F7	二面確認 Tr 土師質 外面整形不明		
3	土製品	羽口	7.1	—	(3.0)	—	81.6	CHI	不良	にぶい橙	F7-C7	土師質 外面平坦面あり		
4	土製品	羽口	33.6	—	2.3	—	874.4	CI	良好	楊灰	F7-C8	土師質 ナゲ状調整 内面急にすびまる(10 cm)		
5	土製品	羽口	18.2	—	2.9	—	569.6	I	良好	にぶい橙	表採	瓦質 ナゲ状調整 輪廻内面擦痕あり 胴口使用		



第568図 遺構外出土遺物(3)



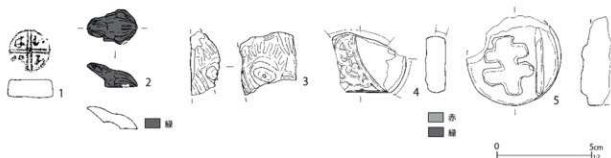
第569図 遺構外出土遺物(4)

第181表 遺構外出土遺物観察表(3)(第569図)

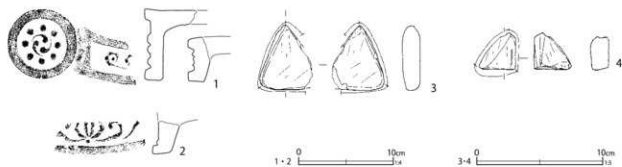
番号	種別	器種	口径	器高	底径	重量	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	土師質土器	小壺	2.3	2.7	2.0	8.0	HJK	普通	橙	F7-C7	江戸在地系カ 胎土粉質 底部糸切痕(左)	
2	土師質土器	小壺	2.8	2.5	2.2	6.9	AHK	普通	橙	F7-C7	江戸在地系カ 胎土粉質 底部糸切痕(左)	
3	陶器	ミニチュア	3.3	1.4	2.0	8.2	K	良好	灰白	F7-C7	京都信楽系 蓋 型成形 上面青緑釉	
4	土製品	ミニチュア	2.4	0.8	1.6	2.0	AK	良好	にぶい橙	F7-C7	江戸在地系 鉢カ 型成形 外面白化粧・施釉 内面雲母付着	
5	土製品	ミニチュア	—	[4.2]	2.2	9.9	K	良好	灰白	F7-C8	京都系 徳利 二枚型成形中空 外面隔刻文・緑釉	
6	土製品	ミニチュア	長さ[4.5]	幅2.1	器高0.5	5.4	AK	普通	淡黄	F7-C8	京都系 硯 型成形	

第182表 遺構外出土遺物観察表(4)(第570図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	土製品	泥面子	2.4	—	0.9	6.6	AHK	良好	橙	F7-C7	江戸在地系 型成形	122-12
2	土製品	人形	2.7	1.8	1.2	3.1	K	普通	にぶい橙	F7-C8	蛙 一枚型成形 開口上面緑釉	121-11
3	土製品	芥子面	[3.4]	[3.0]	1.5	7.5	AEHK	普通	にぶい橙	表探	型成形	122-7
4	土製品	不明	[3.2]	[3.9]	1.1	13.7	—	普通	灰白	F7-C8	側面彩色(ピンク) 型成形(隔刻文) 緑青付着	
5	漆皮	不明	[4.7]	5.0	[1.6]	26.3	AK	普通	白	F7-C8	型押し隔刻文字「実」カ	122-8



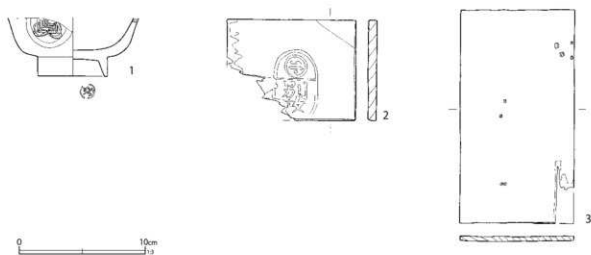
第 570 図 遺構外出土遺物 (5)



第 571 図 遺構外出土遺物 (6)

第 183 表 遺構外出土遺物観察表 (5) (第 571 図)

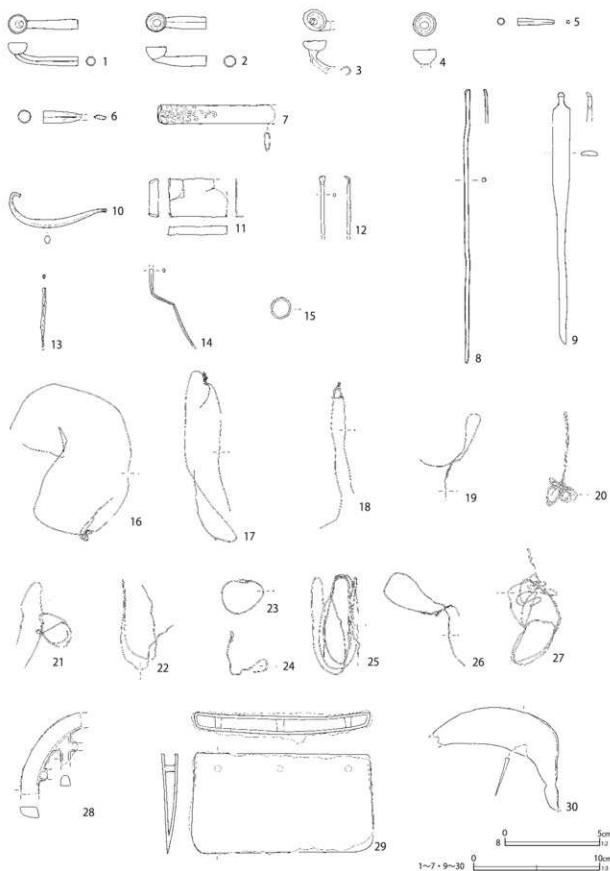
番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	瓦	軒棧瓦	[5.0]	[13.7]	—	[11.1]	—	EK	普通	灰白	F7-C7	右巻 八連珠三巴文 燻十 弱く銀化	
2	瓦	軒棧瓦	[3.1]	[19.9]	—	[3.5]	—	EIK	普通	灰白	F7-C7	燻十	
3	瓦	転用瓦	5.1	4.1	1.4	—	—	AIK	普通	灰	F7-B5	砥具転用	
4	瓦	転用瓦	縦 2.9 横 2.9	2.9	1.4	—	—	CIK	普通	灰	F7-B6	砥具転用	



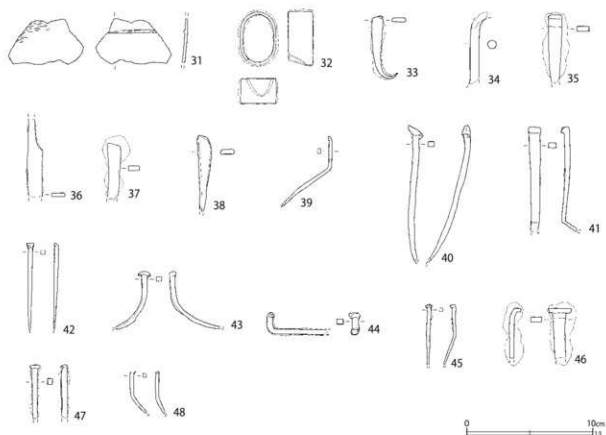
第 572 図 遺構外出土遺物 (7)

第 184 表 遺構外出土遺物観察表 (6) (第 572 図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径 / 径	高さ	底径	木取り	遺構	備考	図版
1	木製品	漆碗	—	—	—	[4.6]	5.5	—	横木取り	F7-C7	内外面赤漆 外面に黒で家紋 3 高台内に黒漆で文字	
2	木製品	板	7.9	10.2	0.7	—	—	—	板目	表採 F	焼印「Q」(別改)	
3	木製品	木札	16.8	9.0	0.4	—	—	—	板目	F7-C8	表面墨書 木釘 木釘孔	



第 573 图 濠沟外出土遗物 (8)



第571図 遺構外出土遺物(9)

傾向にある。

3は京都信楽系陶器のミニチュアである。蓋のミニチュアで、いわゆる玩具類と考えられる。型成形で、上面は青緑軸である。

5は京都系のミニチュアである。徳利のミニチュアで、前後合わせの二枚型成形である。接ぎ痕に沿って剥がれており、片面だけ遺存している。外面に陽刻状文と緑軸がみられる。

6は白色土器質で素焼きの土製品で、京都系のミニチュアである。硯を模しており、型成形で、下面に指頭痕がみえる。

第570図1は江戸在地系の泥面子である。型成形で、上面に「いろはに」の陽刻文字がみえる。2は蛙の人形である。一枚型成形で、下面は開口する。上面に緑軸が施軸される。3は芥子面と思われるが大型である。型成形である。

第571図1は軒棧瓦で、右巻きの八連珠三巴文

である。唐草文の外側の房は4連である。2は軒棧瓦で、第8地点に多い独特の瓦当文様である。19世紀前半の遺構に多くみられる。

3・4は転用瓦である。元の形状は不明で、磁具に転用されている。

第572図1は漆椀である。内外面に赤漆が塗布されている。外面に黒漆で「〇」に違い鷹の羽の家紋が3箇所みられる。高台内に黒漆で文字が書かれている。2は木製板材で、焼印「㊦」、「別改」がみえる。

第573図1～6は銅製煙管である。6は鍍金が施されている。16～27は針金である。焙烙の補修や土瓶の釣り手等に使用されている例が多い。

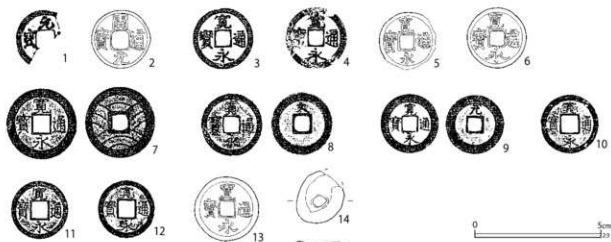
第575図1・2は渡来銭である。1は北宋銭の元祐通寶の可能性が高い。

2は唐銭の開元通寶である。初鑄年は621年である。

第185表 遺構外出土遺物観察表(7) (第573・574図)

番号	種別	器種	法量	遺構名	備考	図版
1	銅製品	煙管	長さ5.6 火皿径1.5 小口径0.8 重さ6.4	F7-C8	煙首	133-1
2	銅製品	煙管	長さ4.8 火皿径1.6×1.5 小口径1.0×0.8 重さ6.1	F7-D8	煙首	133-1
3	銅製品	煙管	長さ2.2 火皿径(1.9×1.7) 重さ3.6	F7-C7	煙首 欠損部多い	
4	銅製品	煙管	火皿径1.8 重さ4.1	F7-F7	煙首 火皿部のみ	
5	銅製品	煙管	長さ2.9 小口径0.6 口径径0.3 重さ1.2	F7-D6	吸口	
6	銅製品	煙管	長さ[3.1] 小口径1.0 口径径1.0×0.4 重さ1.9	F7-D6	表採 吸口 鍍金あり	
7	銅製品	小柄	長さ[9.3] 幅1.5 厚さ0.5 重さ16.4	F7-C6	柄部 唐草文打出し	134-1
8	銅製品	簪	長さ14.5 厚さ0.2 重さ3.2	F7-C8	飾り欠失	136-1
9	銅製品	筭	長さ20.0 幅1.3 厚さ0.4 重さ38.9	F7-D6	No.1	136-1
10	銅製品	把手	縦2.8 横7.7 厚さ0.4 重さ11.6	F7-C8	変形	
11	銅製品	蓋カ	縦3.1 横4.6 幅0.6 厚さ0.1 重さ2.5	F7-C8		
12	銅製品	耳掻き	長さ[4.6] 幅0.5 厚さ0.2 重さ2.0	F708-2		
13	銅製品	不明	長さ[4.7] 幅0.3 厚さ0.1 重さ0.5	F7-C8	中空	
14	銅製品	不明	長さ[6.2] 幅0.3 厚さ0.1 重さ0.6	F7-C8	中空	
15	銅製品	環金具	径1.6 厚さ0.1 重さ1.3		表採	
16	銅製品	針金	縦12.5 横9.7 厚さ0.08 重さ1.5	F7-C8	径12cmの棒状品に括り付けられていた痕跡を残す	
17	銅製品	針金	縦13.6 横4.3 厚さ0.1 重さ1.4	F7-C8	結び目あり	
18	銅製品	針金	縦11.6 横2.8 厚さ0.08 重さ0.8	F7-C8	結び目あり	
19	銅製品	針金	縦6.9 横5.0 厚さ0.1 重さ0.5	F7-C8		
20	銅製品	針金	縦7.5 横2.6 厚さ0.1 重さ2.2	F7-C8		
21	銅製品	針金	縦6.8 横4.4 厚さ0.1 重さ1.1	F7-C8		
22	銅製品	針金	縦7.1 横4.2 厚さ0.1 重さ1.1	F7-C8	結び目あり	
23	銅製品	針金	縦2.8 横3.4 厚さ0.08 重さ0.3	F7-C8	径3cmの棒状品に括り付けられていた痕跡を残す	
24	銅製品	針金	縦3.5 横3.3 厚さ0.1 重さ0.4	F7-C8		
25	銅製品	針金	縦8.0 横4.0 厚さ0.08 重さ4.6	F7-D8		
26	銅製品	針金	縦7.4 横6.5 厚さ0.1 重さ0.8	F7-C8		
27	銅製品	針金	縦9.3 横4.3 厚さ0.1 重さ3.7		表採	
28	鉄製品	火格子	縦[6.5] 横[4.8] 厚さ0.9 重さ50.2	F7-B6		
29	鉄製品	鋤先	縦[8.0] 横14.5 厚さ1.4 重さ220.1	F7-B7		
30	鉄製品	鎌	刃長[10.0] 刃幅3.2 背幅0.3 重さ30.0	F7-C8		
31	鉄製品	鍋	縦[3.7] 横[6.0] 厚さ0.2 重さ10.9	F7-C7	胴部破片	
32	鉄製品	環金具	縦4.2 横2.8 幅2.0 厚さ0.2 重さ26.3	F7-C7		
33	鉄製品	鉤金具カ	長さ5.0 幅1.1 厚さ0.3 重さ5.4		南北トレンチ	
34	鉄製品	不明	長さ[5.8] 厚さ0.7 重さ15.2	F7-B5		
35	鉄製品	不明	長さ[5.5] 幅(1.0) 厚さ(0.4) 重さ15.2	F7-B7		
36	鉄製品	不明	長さ[6.2] 幅1.1 厚さ0.3 重さ7.9	F7-C6		
37	鉄製品	不明	長さ[4.4] 幅0.9 厚さ0.4 重さ11.7	F7-C6		
38	鉄製品	不明	長さ[6.1] 幅1.1 厚さ0.4 重さ6.9	F7-C8		
39	鉄製品	不明	長さ5.7 幅0.2 厚さ0.4 重さ2.6	F7-C8		
40	鉄製品	釘	長さ[10.8] 幅0.5 厚さ0.4 重さ12.0	F7-C8		
41	鉄製品	釘	長さ[8.4] 幅0.6 厚さ0.4 重さ12.4	F7-B6		
42	鉄製品	釘	長さ[7.0] 幅0.3 厚さ0.3 重さ3.0	F7-F8	Pit5	
43	鉄製品	釘	長さ[4.6] 幅0.4 厚さ0.4 重さ4.4		南北トレンチ	
44	鉄製品	釘	長さ[1.8] 幅0.5 厚さ0.4 重さ4.1	F7-B5		
45	鉄製品	釘	長さ[4.8] 幅0.3 厚さ0.3 重さ1.5	F7-C7		
46	鉄製品	釘	長さ[4.0] 幅(1.0) 厚さ(0.4) 重さ14.9	F7-C7		
47	鉄製品	釘	長さ[4.3] 幅0.4 厚さ0.5 重さ3.5	F7-B6		
48	鉄製品	釘	長さ[3.4] 幅0.3 厚さ0.3 重さ1.3	F7	南北トレンチ	

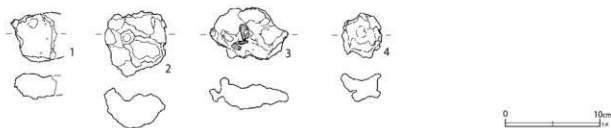




第 575 図 遺構外出土遺物 (10)

第 186 表 遺構外出土遺物観察表 (8) (第 575 図)

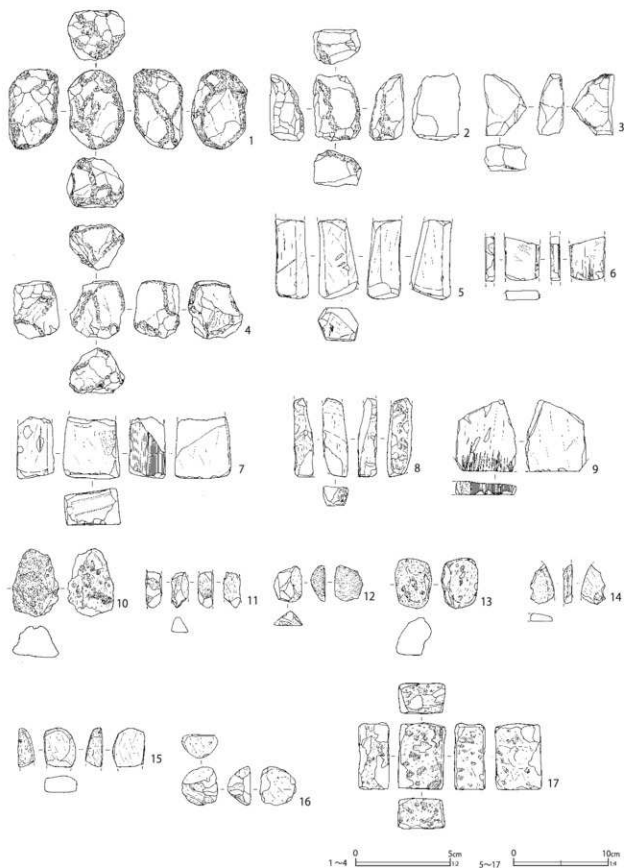
番号	種別	器種	法量	遺構名	備考	図版
1	銅製品	銭貨	径 23.9 厚さ 1.4 重さ 1.4	表採	元□口寶	
2	銅製品	銭貨	径 23.0 厚さ 0.8 重さ 1.4	F7-C7	盤地上 開元通寶	
3	銅製品	銭貨	径 24.5 厚さ 1.4 重さ 3.3	F7-C6	寛永通寶 (古)	
4	銅製品	銭貨	径 25.0 厚さ 1.5 重さ 2.9	F7-D6	寛永通寶 (古)	
5	銅製品	銭貨	径 22.8 厚さ 1.2 重さ 2.2	F7-B6	寛永通寶 (古)	
6	銅製品	銭貨	径 23.0 厚さ 1.3 重さ 2.9	F7-D6-1	寛永通寶 (古)	
7	銅製品	銭貨	径 28.2 厚さ 1.3 重さ 5.3	F7-B7	寛永通寶 (新) 11 波	
8	銅製品	銭貨	径 25.1 厚さ 1.2 重さ 3.1	F7-C8	寛永通寶 (新) 背文	
9	銅製品	銭貨	径 23.4 厚さ 1.3 重さ 2.3	F7-C8	寛永通寶 (新) 背元	
10	銅製品	銭貨	径 23.2 厚さ 1.0 重さ 2.4	F7-C8	寛永通寶 (新)	
11	銅製品	銭貨	径 23.0 厚さ 1.0 重さ 2.4	F7-C8	寛永通寶 (新)	
12	銅製品	銭貨	径 23.0 厚さ 1.0 重さ 1.9	F7-D6	寛永通寶 (新)	
13	銅製品	銭貨	径 25.0 厚さ 1.5 重さ 4.0	表採	寛永通寶 (新)	
14	銅製品	雁首銭	径 20.2 × 18.5 厚さ 1.4 重さ 1.9	F7-D7		



第 576 図 遺構外出土遺物 (11)

第 187 表 遺構外出土遺物観察表 (9) (第 576 図)

番号	種別	器種	平面形	法量	遺構名	備考	図版
1	鉄滓	楕形滓	楕円形	長さ 5.0 幅 4.5 厚さ 2.6 重さ 80.7	F7	二面確認 Tr 上面木炭少量 底面黴状 木炭多い 磁着弱い	137-3
2	鉄滓	楕形滓	方形	長さ 6.7 幅 6.5 厚さ 3.4 重さ 120.3	F7	二面確認 Tr はば完形 磁着なし	137-3
3	鉄滓	楕形滓	不整楕円形	長さ 8.2 幅 5.4 厚さ 2.5 重さ 108.2	F7-D6	はば完形 磁着弱い	137-3
4	鉄滓	楕形滓	円形	長さ 4.6 幅 4.2 厚さ 2.5 重さ 49.4	F7-D6	完形 上面鍛造削片少量 磁着やや弱い	137-3



第 577 图 濠溝外出土遺物 (12)

第188表 遺構外出土遺物観察表(10)(第577図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	図版
1	石製品	火打石	4.2	3.0	2.6	44.9	チャート	F7-B6	稜の潰れ著しい	
2	石製品	火打石	3.5	2.5	1.8	22.1	玉髓	F7-C8	稜の潰れ著しい	
3	石製品	火打石	3.2	2.2	1.4	12.4	チャート	F7-D6	使用痕あり	
4	石製品	火打石	3.0	2.9	2.4	25.2	石英	F7-D6	稜の潰れ著しい	
5	石製品	砥石	8.4	4.3	3.5	162.0	砂岩	F7-B6	硬質細粒砂岩 断面六面体 砥面5	
6	石製品	砥石	[4.7]	[3.8]	1.0	27.4	凝灰岩	F7-D8	表裏面ノコギリ痕に類似する線条痕 砥面2	
7	石製品	砥石	[6.5]	6.0	3.9	221.8	流紋岩	F7-B6	側面幅広工具痕・ノコギリ痕 砥面3	
8	石製品	砥石	[8.3]	2.7	2.0	49.4	流紋岩(緑色)	F7-B7	裏面櫛歯状工具痕・刻書カ 側面櫛歯状工具痕カ・削痕 砥面1	
9	石製品	砥石	[7.6]	[6.4]	1.4	100.9	ホルンフェルス	F7-C7	側面ノコギリ痕・折りとり痕・端部幅広工具痕カ 表面刃ならし痕多数 砥面2	
10	石製品	磨石	7.2	4.9	3.3	29.6	軽石	F7-B7	使用面1	
11	石製品	磨石	[3.8]	1.8	1.7	5.3	角閃石安山岩	F7-B6	多孔質 使用面3 線条痕あり	
12	石製品	磨石	[3.8]	[2.0]	1.5	5.5	角閃石安山岩	F7-C5	多孔質 使用面3 線条痕2	
13	石製品	磨石	5.4	4.3	3.2	40.0	角閃石安山岩	F7-C5	多孔質 自然面遺存 使用面1 欠失部摩耗	
14	石製品	磨石	[4.2]	[2.3]	0.9	4.9	角閃石安山岩	F7-C6	多孔質 自然面遺存 使用面2	
15	石製品	磨石	[4.1]	3.7	1.6	12.6	角閃石安山岩	F7-C6	多孔質 自然面遺存 使用面4	
16	石製品	磨石	4.1	3.8	2.4	13.8	角閃石安山岩	F7-D7	多孔質 全面使用	
17	石製品	磨石カ	7.0	5.0	3.2	42.4	軽石	F7-C8	削痕あり 使用面5	



第578図 遺構外出土遺物(13)

第189表 遺構外出土遺物観察表(11)(第578図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	遺構	備考	図版
1	硝子製品	筭	2.0	0.6	0.4	2.0	F7-C7	透明 中実	142-12

第576図は鉄滓である。1・3・4は椀形滓で、2は椀形滓と思われる。1は木炭が多くみられ、底部はシワ状である。磁着は弱い。2・3はほぼ完形で、2は磁着がなく、3は磁着が弱い。4は完形で、上面に鍛造剥片が少量みられ、磁着は弱めである。

第577図1~4は火打石である。1・3はチャート、2は玉髓、4は石英製である。1はほぼ全面を使いつぶしており、稜がほとんどない。2は裏面が大きく剥離しており、その反対の面は使いつぶされて、稜が丸くなっている。稜の再生が行われた可能性が疑われる。3は使用痕がみられるが、それほど使われずに廃棄されたようである。

5は砂岩製砥石である。栗橋宿では荒砥である砂岩製砥石の出土は少ない。7は白色の流紋岩製砥石で、側面にノコギリ状工具痕、チョウナ状工具と推定される刃幅の広い工具痕が遺存する。8は緑色の流紋岩製砥石で、櫛歯状工具痕が遺存する。緑色の流紋岩にみられることが多い工具痕である。9はホルンフェルス製砥石で、側面に密なノコギリ状工具痕が遺存し、表面は多数の刃ならし痕がみられる。

12は多孔質の角閃石安山岩製磨石で、線条痕が明瞭にみえる。17は長方形を呈する軽石製磨石で、裏面中央が僅かに凹んでいる。

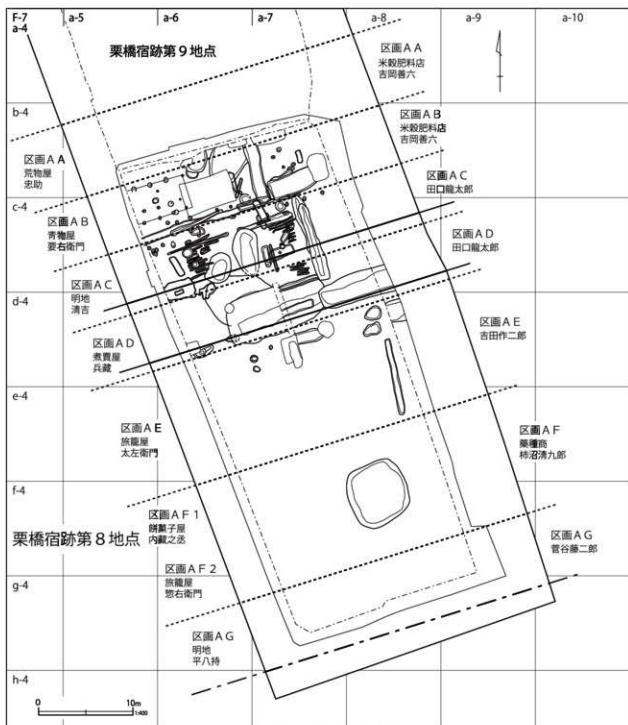
### 3. 第三面の遺構と遺物

第二面で検出された第458号土壌を精査中に、遺構壁面に下層遺構が検出された。そのため調査区北半部を0.2～0.3m掘削し、第二面下層遺構として現地調査を行った。なお、調査区南半部は第二面表土掘削時に第二面下層遺構群検出レベ

ルまで掘り下げられている。

ここでは、第二面下層遺構群を第三面として扱うこととする。

第三面から検出された遺構は、建物跡1棟、溝跡10条、竈跡3箇所、小鍛冶跡2基、土壇47基、

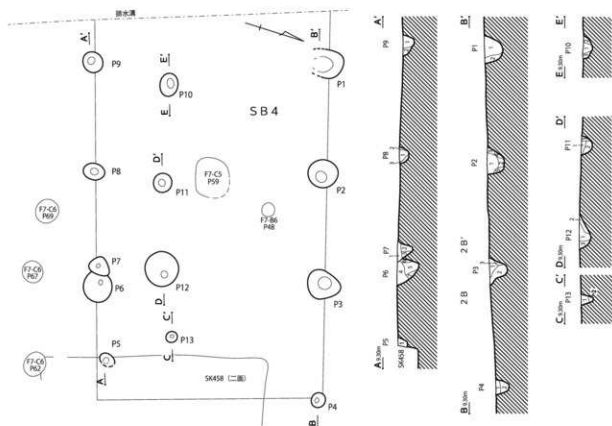


第579図 第三面区画参考図

第190表 第三面建物跡一覧表

単位: m

番号	グリッド	桁行(長軸)	梁行(短軸)	桁行推定	梁行推定	深さ	方位	備考
4	F7-B・C5・6	5.71	4.16	5.30	3.58	0.34	N-71°-E	P48・59と重複



## SB 4

- P 1  
1 青灰色土 粘土質 白色・褐色粒子少量 しまり強 粘性強  
2 灰色土 砂質 粘土ブロック(φ~5mm)少量 しまり強 粘性弱
- P 2  
1 青灰色土 粘土質 白色粒子微量 しまり強 粘性強  
2 灰色土 砂質 粘土ブロック(φ~4mm)少量 しまり強 粘性弱  
3 灰色土 砂質 粘土ブロック(φ~5mm)少量 しまり強 粘性弱
- P 3・P 4  
1 灰色土 粘土質 褐色粒子やや多量 しまり強 粘性弱  
2 灰色土 粘土質 白色・炭化物粒子少量 しまり強 粘性強  
3 灰色土 粘土質 褐色粒子多量 しまり強 粘性弱  
4 灰色土 粘土質 褐色粒子やや多量 炭化物粒子少量 しまり強 粘性弱  
5 青灰色土 粘土質 白色粒子少量 しまり強 粘性強  
6 灰色砂 粘土ブロック(φ~8mm)少量 しまり強 粘性弱  
7 灰色砂 粘土ブロック(φ~5mm)少量 しまり強 粘性弱
- P 5  
1 青灰色土 粘土質 白色粒子微量 しまり強 粘性強
- P 6  
1 青灰色土 粘土質 褐色粒子少量 しまり強 粘性強  
2 灰色砂 粘土ブロック(φ~5mm)少量 しまり強 粘性弱(裏込土)
- P 7  
1 灰色土 粘土質 褐色・炭化物粒子少量 しまり強 粘性強  
2 灰色土 粘土質 白色・褐色粒子多量 しまり強 粘性弱  
3 灰色土 粘土質 褐色粒子多量 しまり強 粘性弱  
4 灰色土 粘土質 褐色粒子少量 しまり強 粘性強 裏込土  
5 灰色砂 粘土ブロック(φ~8mm)多量 しまり強 粘性弱 裏込土

## P 8

- 1 灰色土 粘土質 褐色粒子少量 しまり強 粘性強  
2 青灰色土 粘土質 褐色・炭化物粒子少量 しまり強 粘性強  
3 灰色土砂 粘土ブロック(φ~5mm)少量 しまり強 粘性弱
- P 9  
1 灰色土 粘土質 褐色粒子多量 しまり強 粘性弱  
2 灰色砂 粘土ブロック(φ~5mm)含む しまり強 粘性弱

## P 10

- 1 青灰色土 粘土質 白色粒子少量 しまり強 粘性強  
2 灰色砂 粘土ブロック(φ~6mm)少量 しまり強 粘性弱  
3 灰色砂 粘土ブロック(φ~7mm)少量 しまり強 粘性弱

## P 11

- 1 青灰色土 粘土質 褐色粒子微量 しまり強 粘性強  
2 灰色土 粘土質 褐色・炭化物粒子少量 しまり強 粘性強  
3 灰色土 粘土質 白色・褐色粒子少量 しまり強 粘性弱

## P 12

- 1 灰色土 粘土質 白色粒子少量 炭化物粒子微量 しまり強 粘性強  
2 灰色砂 粘土ブロック(φ~10mm)やや多量 しまり強 粘性弱  
裏込土

## P 13

- 3 灰色砂 粘土ブロック(φ~8mm)やや多量 しまり強 粘性弱 裏込土

## P 13

- 1 灰色土 粘土質 褐色・褐色粒子少量 しまり強 粘性強  
2 灰色土 粘土質 白色・褐色粒子多量 しまり強 粘性弱

0 2m

第580図 第4号建物跡

ビット30基である。

第三面では、第一面のように明確な区画施設が検出されていない。そのため、『絵図』との対比が非常に困難である。また、第三面の遺構群は、18世紀前半以前から18世紀後半を中心とすることから『絵図』の年代以前であり、対比可能な史料がない。

そこで第二面と同様に、第三面では区画範囲の変動がない区画の存在を想定したうえで、出土文字資料等の対比を行うことができるように、第一面と同様に区画に即して資料の提示を行う。

各遺構が属する区画については、第8地点区画案（第18図）を用いて、第一面の区画施設直下に位置する場所に敷地境を示した（第579図）。第579図は19世紀中葉に比定される第一面の区画を基に作成した区画参考図である。そのため、検出されている遺構が必ずしも区画の実態に即しているわけではないことを留意したい。

#### （1）建物跡（第580・581図）

建物跡は区画ABの西部で1棟検出された。第190表に位置・規模等の基本的な情報、第580図に遺構図、第581図に遺物図を示した。

#### 第4号建物跡（第580・581図）

F7-B・C5・6グリッドに位置する。平面形は長方形で、1.8m（1間）間隔で9箇所の小穴（P1～9）が検出されている。小穴（P10～13）は、現地調査で建物跡に伴う小穴としている。しかし、位置に若干のずれが生じている上、間隔も栗橋宿で一般的な1間もしくは半間間隔ではないため、建物跡に伴うかは疑わしい。周辺にはビット48・59・62・67・69が検出されているが、建物跡に伴うかは不明である。

検出長軸5.4m（3間）以上、短軸3.6m（2間）、深さは最大0.34mである。西側は調査区外へ延びる可能性がある。

小穴内には栗石等の根石は認められず、礎石の据え付け穴ではなく柱穴の可能性が考えられる。栗石が認められない素掘りの建物跡は、栗橋宿では極めて稀である。

出土遺物はP12から出土した丹波系陶器の挿鉢のみで、第581図に示した。P12は建物跡に直接伴うかは不明であるため、構築時期は17世紀後半以降と推定される。

第581図1は丹波系陶器の挿鉢である。内面に



第581図 第4号建物跡出土遺物

第191表 第4号建物跡出土遺物観察表（第581図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	陶器	挿鉢	(36.8)	13.2	(15.0)	EIKL	20	普通	橙	丹波系 内面襷目8条 / 単位 外面指頭痕	

1単位8条の掘目、外面には右上がりの指頭痕がみられる。

## (2) 溝跡 (第582～585図)

溝跡は10条検出された。第26号溝跡は日光道中に直交するように長く延びており、第一面で検出された区画施設にほぼ重なる位置に掘り込まれている。第一・二面より古い区画施設の一部を検出した可能性がある。第192表に位置・規模等の基本的な情報を示した。

### 第19号溝跡 (第582図)

F7-C6・7グリッドの区画ACに位置する。第1号畝跡より新しく、第535～538・541号土壌、ピット74と重複する。長さ6.05m、幅0.74m、深さ0.36mを測り、長軸方位はN-72°-Eを指す。日光道中に直交するように短く延びており、覆土は粘土層である。

遺物は出土していないが、第1号畝跡より新しいことから、推定廃絶期は18世紀以降と考えられる。

### 第20号溝跡 (第582図)

F7-C6・7グリッドの区画ABに位置する。第494号土壌より古く、第530号土壌より新しい。さらに第23・26号溝跡、第499・536号土壌と重複する。

検出長3.9m、幅0.88m、深さ0.18mを測り、長軸方位はN-72°-Eを指す。日光道中に直交するように、短く延びる浅い溝である。

覆土は場所により異なり、西部は粘土質土、東

部には砂がみられる。

遺物の出土はないが、第530号土壌より新しいことから、推定廃絶期は18世紀以降と推定される。

### 第23号溝跡 (第582・584・585図)

F7-B6・7・C7グリッドに位置し、区画AA・ABにまたがる。第499・523号土壌より新しく、第20号溝跡、第494・536号土壌と重複する。

検出長7.14m、幅1.52m、深さ0.44mを測り、長軸方位はN-15°-Wを指す。日光道中に平行するように延び、北端は第9地点へと続いている。覆土は粘土質土の単層で、炭化物が含まれている。

遺物は一定量出土しており、陶磁器類は17世紀後半から18世紀前葉の所産が主体である。出土した肥前系磁器のシャープな「U」字状高台の皿は18世紀前葉に比定され得る第497号土壌直上の焼土層出土破片と接合関係にある。接合遺物は第497号土壌焼土層へ帰属させた。最新期の陶磁器は非掲載遺物にみられる瀬戸美濃系陶器の半胴甕と思われる破片である。推定廃絶期は18世紀前葉である。

第584図、第585図22に出土遺物を図示した。

1～7は肥前系磁器である。1は波佐見系の粗製碗で、高台は幅広である。2は高台がやや大きい染付碗である。3は青磁釉の碗である。外面下位、高台内に鉄軸が施軸される。外面は青磁釉

第192表 第三面溝跡一覧表

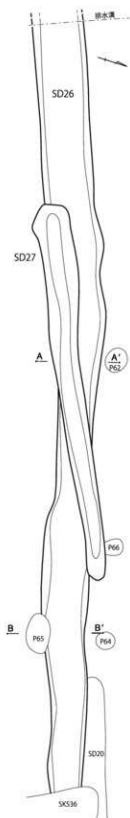
番号	区画	グリッド	長さ	幅	深さ	方位	備考
19	AC	F7-C6・7	6.05	0.74	0.36	N-72°-E	畝1より新 SK535～538・541・P74と重複
20	AB	F7-C6・7	(3.90)	0.88	0.18	N-72°-E	SK494より古 SK530より新 SD23・26・SK499・536と重複
23	AA/AB	F7-B6・7・C7	(7.14)	1.52	0.44	N-15°-W	SK499・523より新 SD20・SK494・536と重複
24	AC	F7-C6	6.81	0.29	0.18	N-71°-E	畝3・SK528より新
25	AB	F7-B・C6	2.14	0.30	0.13	N-15°-E	P47より古 SK490と重複
26	AB	F7-C5・6	(12.10)	0.83	0.10	N-72°-E	SD27・P65より古 SD20・SK536と重複
27	AB	F7-C6	6.02	0.54	0.24	N-66°-E	SD26より新 P66と重複
28	AD	F7-D7	(3.80)	0.80	0.20	N-70°-E	SK497より古
29	AD	F7-C7	(4.34)	0.65	0.27	N-72°-E	SK480・497と重複
31	AC/AD	F7-C7	3.00	0.28	0.09	N-15°-W	SK544より新

単位：m

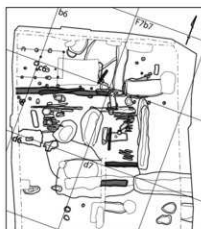
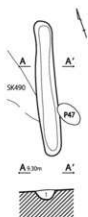




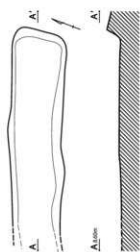
SD26・27



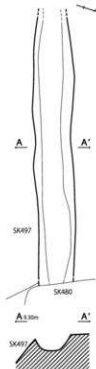
SD25



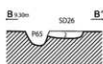
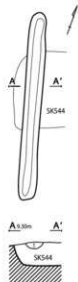
SD28



SD29



SD31



SD25

1 暗灰色土 粘土質 細粒砂礫多量混入、しまり強 粘性弱

SD26 (1, 2)・27 (3, 4)

- 1 灰色土 粘土質 白色・褐色粒子・炭化物粒子少量、しまり強 粘性強
- 2 灰色土 粘土質 白色・褐色粒子多量、しまり強 粘性強
- 3 灰色土 粘土質 白色・褐色粒子少量、しまり強 粘性強
- 4 暗灰色土 粘土質 白色・褐色粒子多量、しまり強 粘性弱

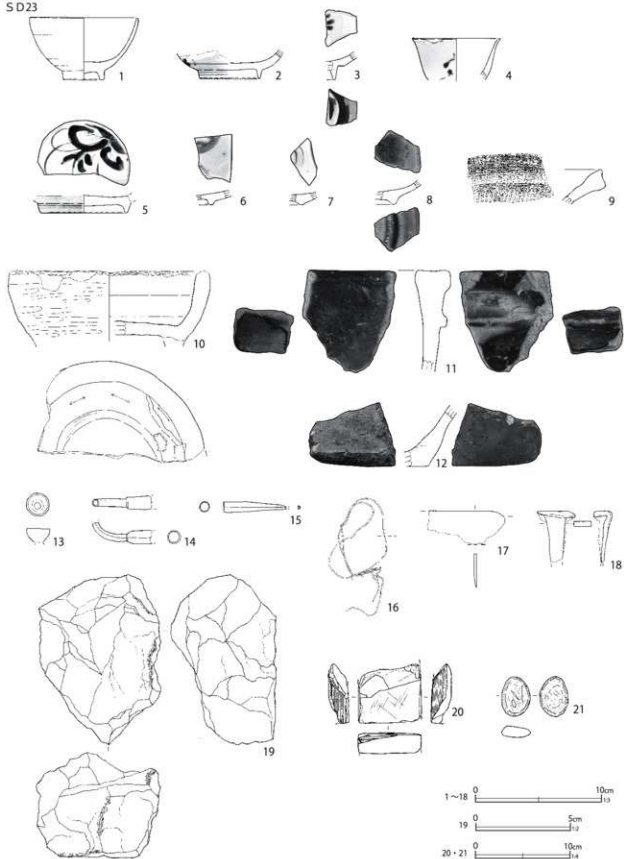
SD31

1 暗褐色土 細粒砂少量混入、炭化物粒子微量

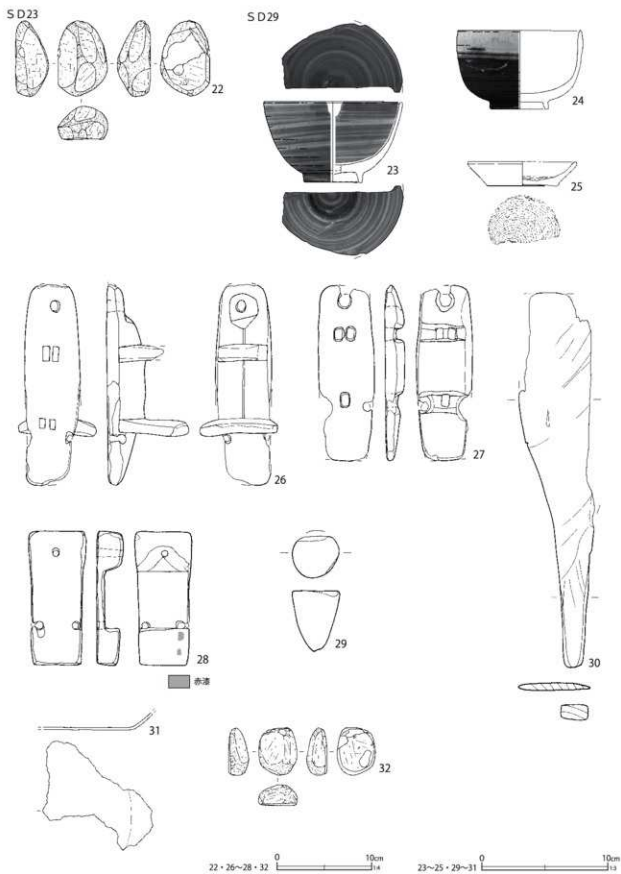


第 583 図 溝跡 (2)

SD23



第584図 溝跡出土遺物(1)



第 585 图 溝跡出土遺物 (2)

第193表 溝跡出土遺物観察表 (第584・585図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	8.4	4.9	3.1	—	20	普通	白	SD23	肥前系 内外面施釉	
2	磁器	碗	—	[2.3]	4.6	—	5	普通	白	SD23	肥前系 内外面施釉 外面染付	
3	磁器	碗	—	[2.1]	—	—	5	良好	白	SD23	肥前系 外面下位・高台内鉄軸 外面上位青磁軸 内面施釉・染付	
4	磁器	碗	(6.8)	[3.3]	—	—	5	良好	白	SD23	肥前系 内外面施釉 外面染付	
5	磁器	皿	—	[1.4]	(6.8)	K	5	普通	白	SD23	肥前系 内外面施釉 内面染付	88-1
6	磁器	皿	—	[1.1]	—	—	5	良好	白	SD23	肥前系 内外面施釉 内面染付 SK523に同文別個体あり	
7	磁器	皿	—	[1.0]	—	—	5	普通	白	SD23	肥前系 内外面施釉 内面染付	88-2
8	陶器	皿	—	[1.9]	—	EIK	5	良好	灰白	SD23	古瀬戸大窯第一段階 内外面灰軸 16c後葉	
9	陶器	播鉢	—	[2.8]	—	EIK	5	普通	灰白	SD23	丹波系 内面播目7条/単位	
10	瓦質土器	火鉢	—	[5.5]	—	CIK	25	普通	灰白	SD23	砂目底 体部ミガキ 輪高台状脚の欠失部を二次利用 口縁部敲打痕 被熱 煤付着	
11	瓦質土器	火鉢	—	[8.0]	—	AI	5	普通	灰白	SD23	胎土細粒砂質 燻す 表面部分的に摩耗	
12	土質土器	壺	—	[4.8]	—	AIH	5	普通	明褐色	SD23	常陸系 胎土中心褐色	
13	銅製品	煙管	径1.8 重さ3.2							SD23	雁首 火皿	
14	銅製品	煙管	長さ[4.8] 小口径1.0 重さ5.4							SD23	雁首 火皿欠	
15	銅製品	煙管	長さ[5.0] 小口径0.8 口径径(0.2) 重さ1.8							SD23		
16	銅製品	針金	縦9.3 横4.6 厚さ0.1 重さ1.8							SD23	括り付けの形状を残す	
17	鉄製品	刃物	刃長[6.2] 刃幅2.7 背幅0.2 重さ8.1							SD23	包丁か	
18	鉄製品	釘	長さ[4.1] 幅1.4 厚さ0.4 重さ9.6							SD23		
19	石製品	大打石	長さ9.0 幅6.6 厚さ5.6 重さ345.9							SD23	チャート 稜の潰れ著しい	
20	石製品	砥石	長さ[6.3] 幅6.7 厚さ[2.1] 重さ96.1							SD23	粘板岩 側面ノコギリ痕3表・側面削痕2 砥面1	141-1
21	石製品	磨石	長さ4.2 幅3.0 厚さ1.1 重さ6.9							SD23	角閃石安山岩 多孔質 自然面遺存 使用面2 刃物傷あり	
22	石製品	磨石	長さ8.0 幅5.3 厚さ3.5 重さ83.5							SD23	角閃石安山岩 多孔質 自然面遺存 多面使用	
23	陶器	碗	(10.7)	6.4	(4.6)	I	40	良好	灰白	SD29	肥前系 内外面渦巻状刷毛目軸	
24	陶器	碗	(11.0)	6.2	4.2	EK	20	普通	灰白	SD29	瀬戸美濃系 内面灰軸 外面灰・鉄軸 上下掛け分け	
25	かわらけ	小皿	(8.5)	1.9	(5.6)	CFHI	40	普通	明褐色	SD29	底部糸切痕(左) 胎土砂質 器形歪む	
26	木製品	下駄	長さ[21.3] 幅5.9 高さ8.6							SD29	台板目 歯根目 露卯下駄	
27	木製品	下駄	長さ18.5 幅5.9 高さ[2.0]							SD29	板目 露卯下駄	
28	木製品	下駄	長さ14.2 幅5.7 高さ2.8							SD29	板目 刺り下駄 裏面赤漆	
29	木製品	独楽	長さ4.8 幅3.8 厚さ3.3							SD29	芯持材	132-17
30	木製品	不明品	長さ29.4 幅[5.6] 厚さ1.2							SD29	板目 表面工具痕	
31	鉄製品	鍋	縦[8.7] 横[8.8] 厚さ0.2 重さ36.3							SD29	鍋底破片	
32	石製品	磨石	長さ5.0 幅4.1 厚さ2.2 重さ25.9							SD29	角閃石安山岩 多孔質 自然面遺存 使用面5	141-1

で、内面に透明釉、染付が施されている。4は蹄反形の小碗である。外面に染付が施されている。5は高台断面がシャープな「U」字状を呈する皿である。内面に染付が施されている。6・7は幅広高台の皿で、いわゆる初期伊万里様式である。内面に染付がみられ、6は重複する第523号土壙に同文製品が認められる。

8は古瀬戸古窯第一段階の陶器皿である。内外面に灰軸が施軸されている。16世紀後葉の所産である。9は丹波系陶器の播鉢である。内面に1

単位7条の播目が遺存している。

10は瓦質土器の小型脚付火鉢である。輪高台状の脚部は欠失しており、欠失部に二次利用がみられる。脚部が破損したことにより、欠失部を研磨し、ベタ底状の底部を作出したと思われる。底部は無調整の砂目底で、外面にミガキ調整が施されている。内面はヨコナデ調整である。口縁部には敲打痕が無数にみられる。胎土に角閃石が一定量含まれており、在地産と推定される。

11は瓦質土器の大型火鉢と思われる破片であ

る。胎質は瓦に極めて近く、胎土は無色の雲母が含まれる細粒砂質である。口唇部は幅広く、体部中位に凸帯が廻る。

12は胎土に金雲母が多量に含まれる常陸系土師質土器甕の底部破片である。栗橋宿では稀に出土し、常総地域、江戸市中、栗橋宿間の流通を明らかにする手掛かりとなる。

13～15は銅製煙管で、13・14は雁首、15は吸口である。16は銅製針金で、栗橋宿では焙烙の補修に利用されていることが多い。17は鉄製の刃物で、包丁の可能性が疑われる。18は鉄製のさっぱ釘である。

19は大型のチャート塊で、使用痕と考えられる物の潰れがみられるため火打石とした。20は粘板岩製の砥石である。側面に密なノコギリ状工具痕が遺存している。表、側面には工具による削り痕がみられる。第584図21、第585図22は多孔質の角閃石安山岩転石製磨石である。いずれも自然面が遺存している。21は両面を使用面とし、扁平になっている。22は使用面が多面にわたっており、自然面は部分的な遺存である。

#### 第24号溝跡 (第582図)

F7-C6グリッドの区画ACに位置する。第3号畝跡、第528号土壌より新しい。長さ6.81m、幅0.29m、深さ0.18mを測り、長軸方位はN-71°-Eを指す。遺構の性格は不明であるが、日光道中と直交するように伸び、浅く幅が狭いため、区画施設の底面を検出している可能性も疑われる。

覆土は下層が砂質土で、上層は粘土である。出土遺物は極めて少ない。小破片のため図示し得なかったが、非掲載の陶磁器は波佐見系磁器の小碗や肥前系陶器の青緑釉丸碗等17世紀後半から18世紀前半の製品で占められる。推定廃絶期は18世紀前半である。

#### 第25号溝跡 (第583図)

F7-B・C6グリッドの区画ABに位置す

る。ビット47より古く、第490号土壌と重複する。長さ2.14m、幅0.3m、深さ0.13mを測り、長軸方位はN-15°-Eを指す。覆土は粘土質で、粗粒砂が極めて多量に混入している。遺物の出土はなく、遺構の時期は不明である。

#### 第26号溝跡 (第583図)

F7-C5・6グリッドの区画ABに位置する。第27号溝跡、ビット65より古く、第20号溝跡、第536号土壌と重複する。検出長12.1m、幅0.83m、深さ0.1mを測り、長軸方位はN-72°-Eを指す。日光道中に直交するように長く伸びており、西端は調査区外で、東端は遺構の重複により検出できなかった。

覆土は粘土質で、一部に炭化物が少量含まれている。出土遺物は図示しなかった三和産の可能性のある須恵器杯の破片1点である。17世紀後半以降に比定される第27号溝跡より古い時期の溝である。

#### 第27号溝跡 (第583図)

F7-C6グリッドの区画ABに位置する。第26号溝跡より新しく、ビット66と重複する。長さ6.02m、幅0.54m、深さ0.24mを測り、長軸方位はN-66°-Eを指す。覆土は第26号溝跡の覆土に類似する粘土質で、下層は暗色を呈する。出土遺物は図示しなかった丹波系陶器の播鉢の破片1点のみである。遺構の時期は17世紀後半以降である。

#### 第28号溝跡 (第583図)

F7-D7グリッドの区画ADに位置する。第497号土壌より古い。検出長3.8m、幅0.8m、深さ0.2mを測り、長軸方位はN-70°-Eを指す。第497号土壌の東部最下層で検出されており、西端は検出することができなかった。覆土は確認することができなかった。

第497号土壌に大きく壊された深い土壌の底面を検出した可能性が疑われるが、遺物の出土はない。遺構の重複関係から時期は18世紀初頭以前

である。

#### 第29号溝跡 (第583・585図)

F7-C7グリッドの区画ADに位置し、第480・497号土壇と重複する。検出長4.34m、幅0.65m、深さ0.27mを測り、長軸方位はN-72°-Eを指す。覆土は確認することができなかった。西端部は検出されなかった。

出土遺物は一定量出土しており、陶磁器類は肥前系陶器が多い。最新期の陶磁器は瀬戸美濃系陶器の腰錆碗である。遺構の時期は、18世紀前半である。

第585図23～32に出土遺物を図示した。23は肥

前系陶器の刷毛目軸碗である。内外面に渦巻状の刷毛目軸が施される。24は瀬戸美濃系陶器の腰錆碗である。第497号土壇出土腰錆碗と異なり、体部がほぼ垂直に立ち上がり、丸腰の筒形状を呈する。栗橋宿では18世紀中葉以降の遺構でみられる器形であることから、最新期の陶磁器であると考えられる。内面は灰釉、外面は鉄釉を上下に掛け分けている。

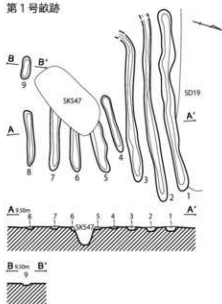
25はかわらけ小皿である。底部には左回転の糸切痕が遺存する。胎土は角閃石を一定量含む砂質で、口縁部は歪んでいる。在地産と推定される。

第194表 第三面敏跡一覧表

単位：m

番号	区画	グリッド	長さ	幅	深さ	方位	備考
1号-1	AC	F7-C7	2.90	0.18	0.07	N-67°-E	SD19・SK547・553より古 SK545・546と重複
2			(3.00)	0.15	0.06		
3			(2.40)	0.17	0.05		
4			0.96	0.12	0.03		
5			(0.83)	0.19	0.03		
6			(0.71)	0.15	0.06		
7			(1.01)	0.14	0.03		
8			0.88	0.11	0.03		
9			0.36	0.14	0.03		
2号-1	AD	F7-C7	0.99	0.20	0.04	N-82°-E	
2			1.50	0.08	0.04		
3			1.99	0.16	0.03		
4			1.15	0.15	0.05		
5			1.30	0.19	0.04		
3号-1	AC	F7-C6	1.69	0.19	0.07	N-73°-E	SD24・SK522・528・P61より古 SK527より新
2			(1.43)	0.20	0.13		小鍛冶2と重複
3			1.20	0.18	0.09		
4			(2.64)	0.21	0.23		
5			(1.83)	0.23	0.13		
6			(2.15)	0.20	0.14		
7			1.53	0.19	0.14		
8			0.76	0.17	0.09		
9			1.34	0.14	0.19		
10			1.32	(0.36)	0.19		
11			(0.53)	0.26	0.21		
12			(1.16)	0.18	0.19		
13			2.80	0.24	0.17		
14			1.10	0.25	0.14		
15			0.98	0.31	0.10		
16			0.93	0.18	0.06		
17			1.61	0.24	0.14		
18			0.65	0.31	0.11		

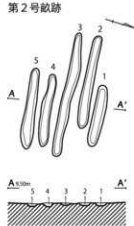
### 第1号畝跡



### 第1号畝跡

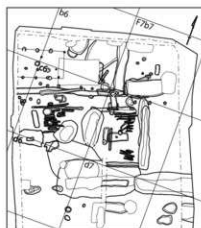
1 灰黒色シルト 洪水起源の砂礫をブロック状に多量に含む

### 第2号畝跡

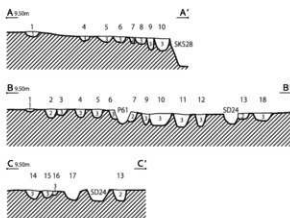
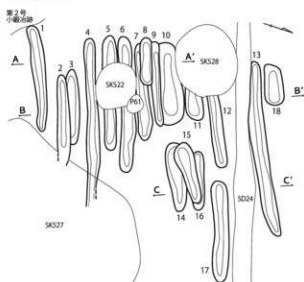


### 第2号畝跡

1 灰黒色シルト 洪水起源の砂礫をブロック状に多量に含む



### 第3号畝跡



### 第3号畝跡

1 灰色粘質土 地山土ブロック(小)・炭化物残骸  
2 暗褐色土 砂質 灰色粘質土ブロック(小) 残骸  
3 黄褐色砂 細粒砂 重角砂



第586図 畝跡

26～30は木製品である。26・27は露卯下駄、28は削り下駄である。28には裏面に赤漆が遺存している。29は叩き独楽である。30は上部は薄い板状、下部は把手状を呈する用途不明の木製品である。表面に工具痕が遺存する。

31は鉄製鍋の底部である。栗橋宿では破片資

料で一定量みられる。

32は多孔質の角閃石安山岩転石製磨石である。自然面は部分的に遺存している。使用面は5面である。

### 第31号溝跡 (第583図)

F7-C7グリッドに位置し、区画AC・ADに

またがる。第544号土壌より新しい。長さ3.0m、幅0.28m、深さ0.09mを測り、長軸方位はN-15°-Wを指す。日光道中に対して平行するように短く延びる。覆土は単層で、細粒砂が少量混在し、炭化物が含まれる暗褐色土である。遺物の出土はなく、遺構の時期は不明である。

### (3) 畝跡 (第586図)

畝跡は3箇所検出された。第1・3号畝跡は参考区画AC「明地/清吉」、第2号畝跡は参考区画AD「煮賣屋/兵藏」に位置する。

栗橋宿では、これまでに畝跡が検出されていない。検出された畝跡は、宿場町における土地利用方法を考えるうえで重要である。なお、基本土層西壁(第5～7図)区画AE内の標高10m前後で、畝跡が検出されており、AS-Aに覆われていることから天明三年(1783)に比定される。

第1～3号畝跡と基本土層西壁で検出された畝跡については、栽培種を把握するために花粉分析を実施した(V-7)。

第194表に位置・規模等の基本的な情報、第586図に遺構図を示した。

#### 第1号畝跡 (第586図)

F7-C7グリッドに位置する。第19号溝跡、第547・553号土壌より古く、第545・546号土壌と重複する。

検出された畝間の溝は9条で、長さにはばらつきがあるが、深さ・間隔は一定である。浅いため全体を検出することができなかったと考えられる。溝4・5は長軸方位がずれている。溝2・3は西端部が検出されず、溝3は端部がやや南にカーブしている。溝9は溝8の延長線上にあるため、一連の溝である。

覆土は灰黒色のシルトで、ブロック状の砂が多

量に含まれる。この砂は洪水起源で、耕作に伴い巻きこんで堆積したものと考えられる。

自然科学分析(花粉分析)を行ったサンプル土壌は溝1・2・4から採取し、溝2の試料を分析した(V-7)。結果は、花粉化石がほとんど検出されず、保存状態が悪いエノキ属-ムクノキ属(木本花粉)、イネ科(草本花粉)、シダ類孢子が極僅かに産出されたのみであり、栽培種を同定するに至らなかった。

遺物は溝2～4で18世紀代の陶磁器が極少量出土しているが、図示し得るものがなかった。遺構の時期は18世紀前半である。

#### 第2号畝跡 (第586図)

F7-C7グリッドに位置する。検出された畝間の溝は5条で、長さにはばらつきがあるが、深さ・間隔は一定である。浅いため全体を検出することができなかったと考えられる。

覆土は第1号畝跡と同じであり、溝の深さ、検出標高もほぼ同じである。したがって、位置は離れているが、第1号畝跡と同時開削と考えられる。また、参考区画ACからAD北側にかけて、広範囲に耕作地として利用されていた可能性が高い。出土遺物はないが、第1号畝跡と同時開削であることから遺構の時期は18世紀前半である。

#### 第3号畝跡 (第586図)

F7-C6グリッドに位置する。第24号溝跡、第522・528号土壌、ピット61より古く、第527号土壌より新しい。さらに第2号小鍛冶跡と重複する。

検出された溝は18条である。間隔がほぼなく、重複している溝があることから少なくとも2回の耕作が行われている。長さはばらつきがあるが、一部は検出標高、深さが第1号畝跡に近似し

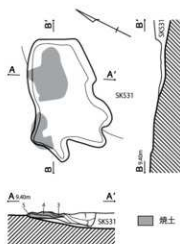
第195表 第三面小鍛冶跡一覧表

単位: m

番号	区画	グリッド	形態	長さ	幅	深さ	方位	備考
小鍛冶1	AC/AD	F7-C・D6	不整形	1.97	1.24	0.20	N-31°-E	SK531より新
小鍛冶2	AC/AD	F7-C・D6	不整形	(3.20)	2.20	0.10	N-74°-E	SK514より新 3号畝跡と重複

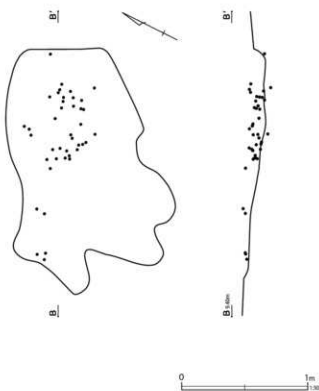


### 第1号小鍛冶跡

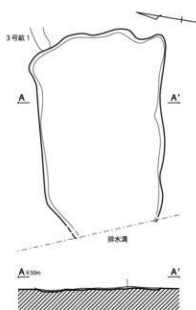


#### 第1号小鍛冶跡

- 1 黄褐色シルト 炭化物(φ2~5mm)少量  
最下面に炭化物の層状堆積あり
- 2 黄褐色シルト 1層に同じ 1層より炭化物少量
- 3 暗褐色土 白色粘土ブロック少量 炭化物粒子(φ1~3mm)微量  
細粒の雜草炭化 鉄滓多量
- 4 黒褐色土 炭化物少量 白色粘土ブロック少量 鉄滓多量
- 5 にぶい黄褐色土 細粒砂 白色粘土ブロック多量

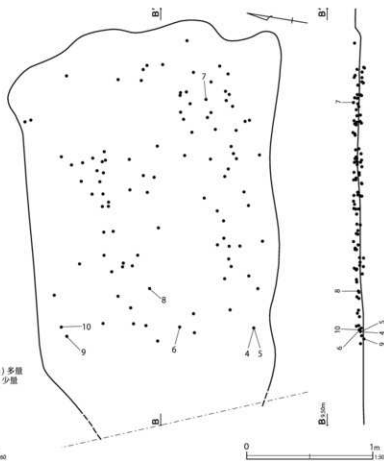


### 第2号小鍛冶跡



#### 第2号小鍛冶跡

- 1 黄褐色土 シルト質 やや不均一 炭化物(φ2~10mm)多量  
鉄滓(φ2~50mm)多量 焼土(φ2~5mm)少量  
鍛造剥片多量 鉄滓(φ10~50mm)多量

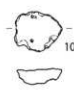
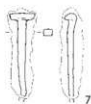
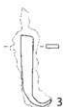


第587図 小鍛冶跡

第1号小鍛冶跡



第2号小鍛冶跡



第588図 小鍛冶跡出土遺物

1・8~10 0 10cm 1:1  
2~7 0 10cm 1:1

第196表 小鍛冶跡出土遺物観察表 (第588図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	須恵器	坪	—	[0.8]	(6.9)	DEIK	10	普通	灰白	小鍛冶1	三和重 9c中〜後半	
2	鉄製品	刀子	長さ [4.8]	刃長 [2.7]	刃幅 (1.0)	背幅 (0.2)				小鍛冶2		134-2
3	鉄製品	鉤金具	長さ [5.6]	幅 (1.0)	厚さ (0.3)	重さ 21.0				小鍛冶2		
4	鉄製品	不明	縦 [7.8]	横 [3.7]	重さ 84.2					小鍛冶2	No.57	
5	鉄製品	不明	長さ [5.8]	幅 (1.0)	厚さ (0.6)	重さ 33.7				小鍛冶2	No.57	
6	鉄製品	不明	長さ 8.3	幅 1.3	厚さ 0.3	重さ 29.4				小鍛冶2	No.25	
7	鉄製品	釘	長さ [6.5]	幅 (0.7)	厚さ (0.5)	重さ 26.0				小鍛冶2	No.47	
8	鉄滓	楕形滓	長さ 7.5	幅 6.2	厚さ 2.9	重さ 126.0				小鍛冶2	平面楕円形 上下2層の滓 上面木炭・鍛造製片あり 底面木炭あり 磁着や強い No.18	137-3
9	鉄滓	楕形滓	長さ 8.5	幅 8.0	厚さ 6.0	重さ 258.0				小鍛冶2	平面不整形 全体に木炭・鍛造製片が多い 磁着や強い No.21	137-3
10	鉄滓	楕形滓	長さ 4.8	幅 4.2	厚さ 1.5	重さ 39.2				小鍛冶2	平面楕円形 はぼ完形 上面木炭少量・鍛造製片多量・禹玉(粒状滓)付着 底面鍛造製片多量・木炭少量付着 磁着強い No.51	137-3

ている。したがって、覆土の状況は異なるが、一部の溝は第1号畝跡と同時開削の可能性がある。

出土遺物はないが、重複関係から遺構の時期は17世紀後半から18世紀前半である。

#### (4) 小鍛冶跡 (第587・588図)

小鍛冶跡は2基検出された。栗橋宿跡では、羽口・鉄滓などの鍛冶関連遺物は特定の区画で多く出土しているが、これまでに鍛冶関係の遺構は検出されていない。後述する第497・500号土壌では、多量の羽口・鉄滓・鍛造製片が出土しており、関連性が示唆される。

検出された場所は参考区画AC「明地/清吉」

とAD「煮賣屋/兵藏」にまたがる。第195表に位置・規模等、第587図に遺構図、第588図に遺物図を示した。

#### 第1号小鍛冶跡 (第587・588図)

F7-C・D6グリッドに位置し、第531号土壌より新しい。平面形はアメーバ状の不整形を呈し、長さ1.97m、幅1.24m、深さ0.2mを測る。長軸方位はN-31°-Eを指す。底面は北西から南東に向かって傾斜している。

覆土は第1・2層は同質で、各層の最下部に炭

化物が層状に堆積している。第3・4層はいずれも多量の鉄滓が含まれており、炭化物和白色粘土ブロックが少量みられる。3層は細粒砂が混在している。鉄滓は多く出土しているが、陶磁器類の出土は極めて少ない。陶磁器は小破片のため図示し得るものがなかったが、非掲載遺物に瀬戸美濃系陶器の白天目碗、緑釉流し掛けの鉢がみられる。重複関係から遺構の時期は18世紀以降と考えられる。

出土遺物は第588図1に混入と考えられる三和産須恵器の坏を示した。

## 第2号小鍛冶跡 (第587・588図)

F7-C・D6グリッドに位置する。第514号土壌より新しく、第3号跡跡と重複する。平面形は不整形で、検出長3.2m、幅2.2m、深さ0.1mを極める。長軸方位はN-74°-Eを指す。極めて浅く、西側は現地調査時に設定された排水溝に壊されている。

シルト質土の単層で、0.2~5cmの鉄滓片や鍛造剥片が多量に含まれている。また、多量の炭化物和少量の焼土がみられる。小規模な鍛造が行われていたと考えられる。

出土遺物は極めて少なく、陶磁器は非掲載遺物に瀬戸美濃系陶器の片口鉢がみられる。遺構の時期は18世紀前半である。

第588図2~10に出土遺物を図示した。2は鉄製の刀子である。3は鉤金具である。4~6は用途不明の鉄製品、7は頭巻釘である。鉄製品は素材として再利用するために持ち込まれたものだろうか。

8~10は楕円形滓である。8は上下2層の滓で構成されており、上・底面に木炭、上面に鍛造剥片がみられる。磁着は強めである。9は全体に木

炭、鍛造剥片が多くみられ、磁着は強めである。10はほぼ完形である。上・底面に少量の木炭と多量の鍛造剥片みられる。また、粒状滓が付着する。磁着は強めである。

## (5) 土壌 (第589~733図)

土壌は47基検出された。第一面と同様に、各区画の様相を把握するために、土壌については原則区画ごとに掲載した。

なお、第三面は明確な区画施設が検出できていないことから、第一面の区画を用いた。第579図に示した第三面の区画は、第二面と同様に参考区画であるため、区画の実態に即しているわけではないことを留意したい。また、第一面の区画対比に用いた『絵図』と第三面で検出された遺構の年代には、年代差があることに注意したい。区画をまたぐ土壌については、原則北側の区画に帰属させた。

特徴的な土壌は抽出し、遺構図及び掲載遺物については各区画ごとに先行して図示した。掲載遺物は遺構ごとにまとめたうえで、全種の遺物を一括掲載した。

非抽出とした土壌は、遺構図を各区画ごとにまとめ、出土遺物は陶磁器・土器類、羽口、土製品、瓦、木製品、金属製品、鉄滓、銭貨、石製品、硝子・骨製品、壁材の順で、各種別に分けて掲載した。

各土壌における最新期の陶磁器と推定廃絶期については、第254表「遺構時期推定一覧表」を参照されたい。また、遺構と出土遺物については、紙数の都合上全てを記述することができないため、特徴的なものを記載していく。

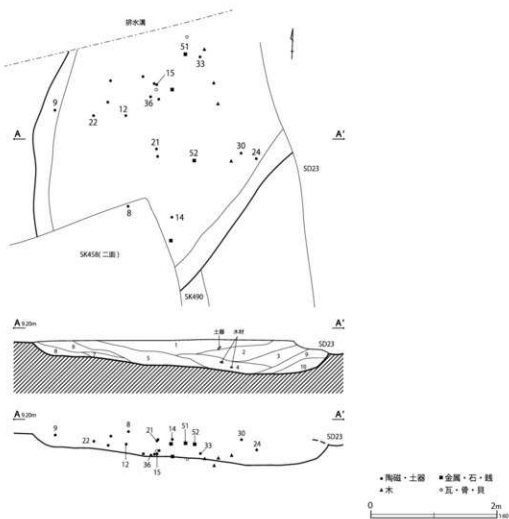
## ①区画AAの土壌 (第589~595図)

第三面の土壌は2基検出された。区画AAは『絵

第197表 第三面区画AA土壌一覧表

単位: m

番号	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	方位	備考	挿図
523	F7-B6	不明	(4.34)	3.86	0.49	N-21°-E	SD23より古 SK490と重複	589
524	F7-B6	楕円形	(2.35)	(2.15)	(0.58)	N-5°-E	SK525と重複	595



## SK523

- 1 灰褐色土 粘土質 砂粒(白色・褐色粒子)少量  
炭化物粒子少量混 粘性あり しまり強 陶器出土
- 2 灰色土 粘土質 白色粒子微量 粘性強 しまり強
- 3 灰色土 粘土質 白色粒子・炭化物少量 粘性強 しまり強
- 4 灰褐色土 粘土質 砂粒(白色・褐色粒子)やや多量  
有機物(木片か)多量混入 粘性強 しまり強
- 5 灰褐色土 4層より近い 粘土質 白色・褐色粒子少量  
炭化物・有機物(木片)少量 粘性強 しまり強 陶器出土

- 6 暗灰色土 粘土質 褐色粒子少量 炭化物粒子少量  
有機物(木片)微量 粘性強 しまり強
- 7 暗灰色土 砂質 白色・褐色粒子多量 粘性微弱 粘性微弱 しまり強
- 8 暗灰色土 粘土質 砂粒(白色・褐色粒子)多量  
有機物(木片)微量 粘性弱 しまり強
- 9 暗灰色土 粘土質 砂粒(白色・褐色粒子)多量  
有機物(木片)微量 粘性強 しまり強
- 10 暗灰色土 9層より近い 粘土質 砂粒(白色・褐色粒子)多量  
粘性弱 しまり強

第589図 区画AA土壌(1)

図)にみえる「荒物屋/忠助」の区画で、大部分は第9地点(『栗橋宿跡VII』)に属する。第一面では土壌が検出されなかったが、第二面では一定量が検出されている。

第197表に位置・規模等の基本的な情報を示した。

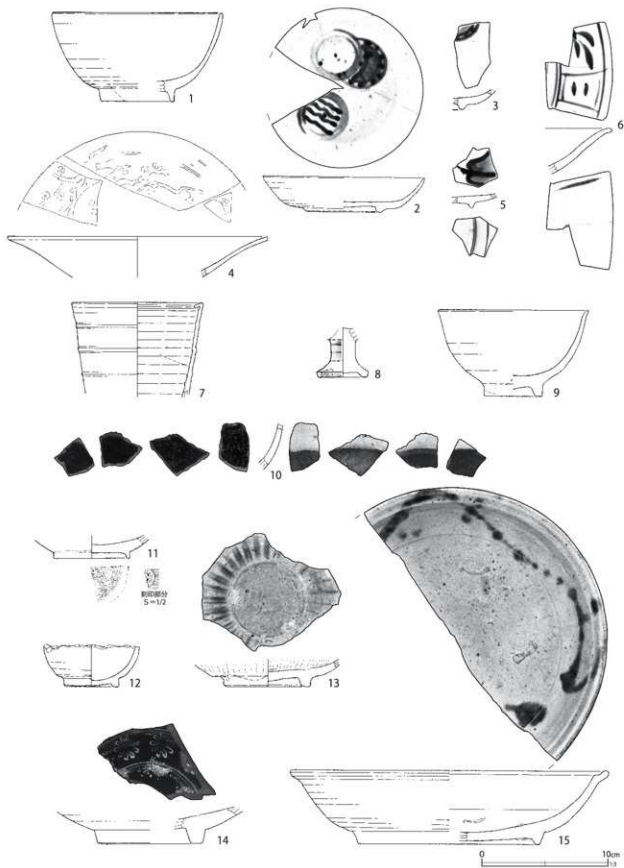
本区画で抽出した土壌は第523号土壌で、先行して第589図に遺構図、第590～594図に遺物図を示した。非抽出となった土壌は、第595

図に遺構図を示した。

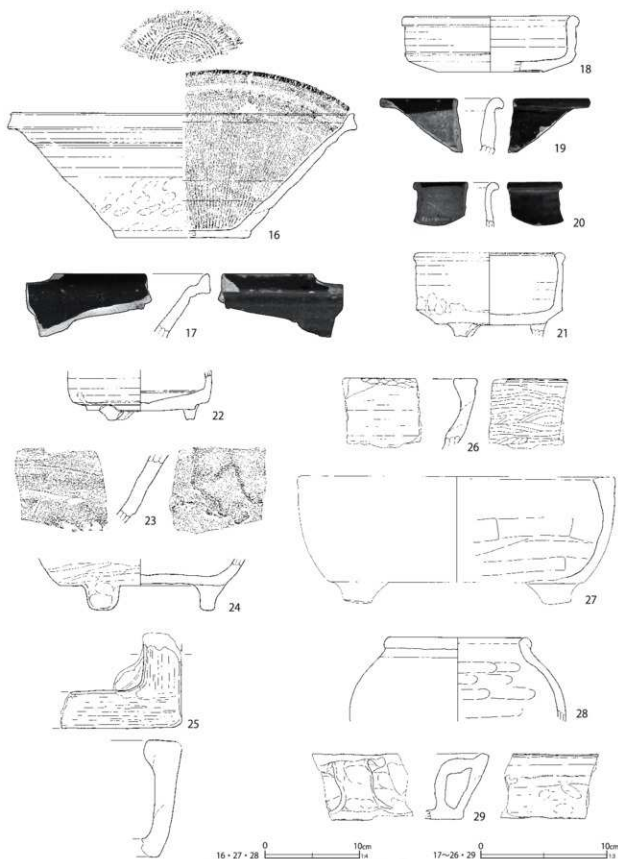
## 第523号土壌(第589～594図)

F7-B6グリッドに位置する。第23号溝跡より古く、第490号土壌と重複する。平面形は遺構の重複等により不明である。検出長軸4.34m、短軸3.86m、深さ0.49mを測り、長軸方位はN-21°-Eを指す。

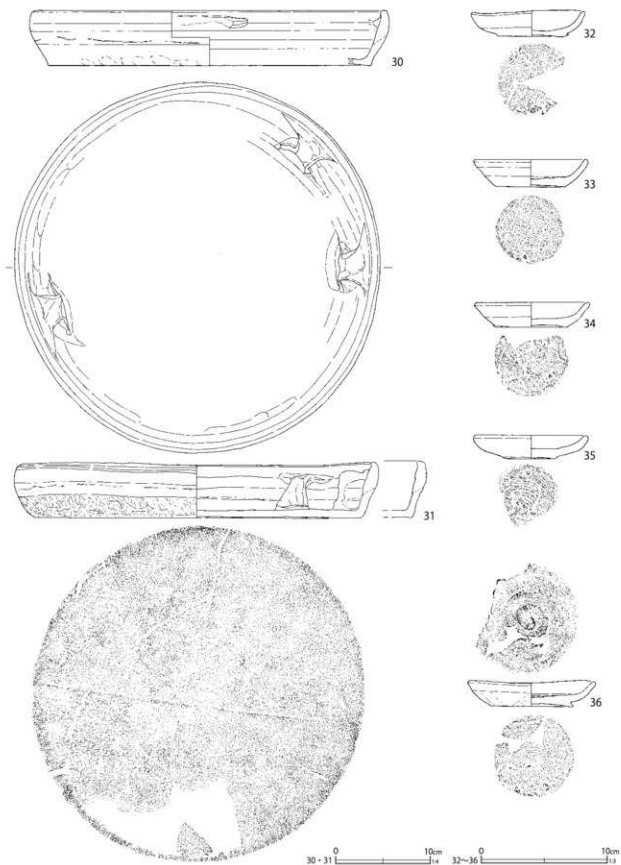
覆土は粘土質土を主体とし、部分的に砂粒が混じる。全体的に木質が少量含まれる。炭化物の含



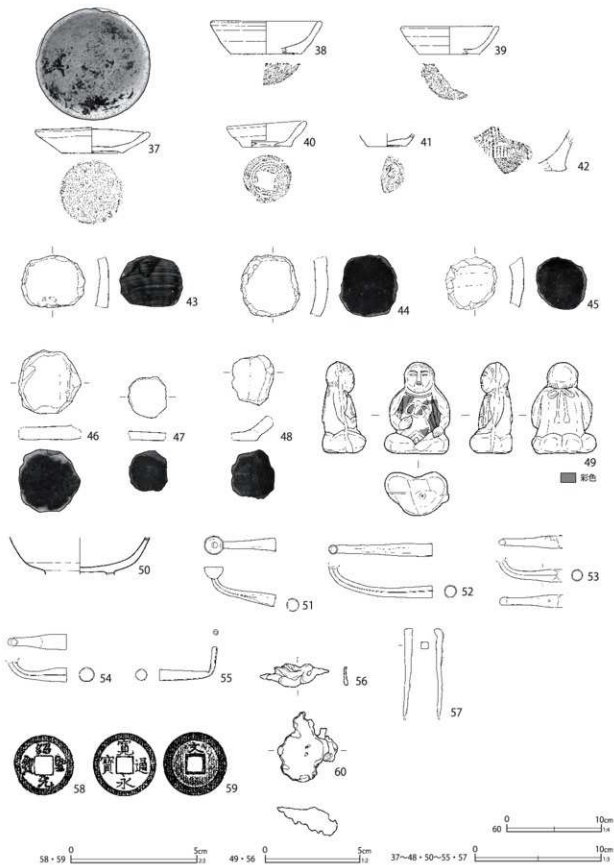
第 590 图 第 523 号土坑出土遗物 (1)



第 591 图 第 523 号土坑出土遗物 (2)



第 592 図 第 523 号土坑出土遺物 (3)



第 593 图 第 523 号土坑出土遗物 (4)





第594図 第523号土壙出土遺物(5)

有は部分的である。

遺物は多量に出土している。陶磁器類は17世紀の所産が主体である。一部は第23号溝跡(18世紀前葉)、第497号土壙(18世紀初頭)出土破片と接合関係にあるが、第523号土壙はこれらの遺構より古い陶磁器組成を示す。推定廃絶期は栗橋宿では類例がない17世紀後葉である。

第590～594図に出土遺物を図示した。第590図1～8は肥前系磁器である。1は底部無軸の碗である。口径13.2cmを測る大碗で、高台は幅広く

ある。1650～1670年代頃の所産である。

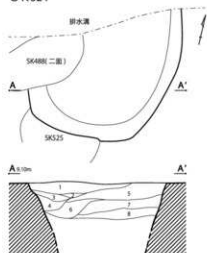
2・3はいわゆる初期伊万里様式の皿である。第23号溝跡出土破片と同文である。4は型打ち成形の白磁皿である。内面に陽刻文がみられるが、施釉により文様がはっきりしない。見込みは深い。5は断面形がシャープな「U」字状高台を呈する皿である。体部下にカンナケズリ痕がみられる。6は初期伊万里芙蓉手大皿の破片である。第497号土壙出土破片(第621図48)は同一個体の可能性が疑われる。

第198表 第523号土坑出土遺物観察表(第590~594図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	磁器	碗	(13.2)	7.0	(5.8)	—	25	普通	白	肥前系 内外面施釉	111-3
2	磁器	皿	12.7	2.8	5.6	—	70	普通	白	肥前系 内外面施釉 内面染付	111-4
3	磁器	皿	—	[1.6]	—	—	5	普通	白	肥前系 内外面施釉 内面染付	111-5
4	磁器	皿	(20.5)	[3.3]	—	—	25	良好	白	肥前系 内外面施釉 内面型押彫刻文	111-6
5	磁器	皿	—	[1.2]	—	—	5	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付	—
6	磁器	皿	—	[3.6]	—	—	5	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	111-7
7	磁器	香炉	(10.2)	[7.5]	—	—	10	良好	白	肥前系 内外面施釉 接点のない2片から復元(隆帯の数は推定)	—
8	磁器	仏瓶器	—	[3.9]	3.9	—	45	良好	白	肥前系 内外面施釉 外面染付 No.25	—
9	陶器	碗	(11.8)	6.8	4.4	K	35	良好	灰白	肥前系 内外面青緑釉 裏付糸切痕遺存 SD23と接合 No.11	—
10	陶器	碗	—	[3.8]	—	IK	5	普通	にぶい黄橙	内面鉄軸 外面上位白釉・下位鉄化粧	—
11	陶器	碗	—	[1.8]	(6.0)	IK	5	良好	灰黄	肥前系 内外面施釉 高台内刻印遺存	113-6
12	陶器	坏	—	[3.3]	4.2	EIK	70	普通	灰白	瀬戸美濃系 内外面灰釉 口縁部敲打痕・煤付着 No.13	—
13	陶器	皿	—	[2.2]	6.5	EIK	45	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面灰釉 体部縁 内面目跡3遺存	—
14	陶器	鉢	—	[2.9]	(6.6)	BHK	5	良好	にぶい橙	肥前系 体部鉄化粧 内面白土象嵌・施釉・砂目跡3遺存 No.26	—
15	陶器	鉢	(25.0)	5.8	(14.0)	EK	40	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面灰釉 内面青緑釉流し掛け 底部袖状き取り 内面目跡2遺存 No.18	—
16	陶器	播鉢	(35.8)	13.2	(14.0)	DEIK	25	良好	明焼灰	丹波系 内面播目7条/単位 胎土小磯含む	—
17	陶器	播鉢	—	[5.0]	—	EK	5	普通	淡黄	瀬戸美濃系 内外面鉄軸	—
18	陶器	香炉	(13.0)	4.4	(8.4)	K	15	普通	灰白	瀬戸美濃系 外面鉄軸	—
19	陶器	香炉	—	[4.4]	—	IK	5	普通	灰白	瀬戸美濃系 内面上位・外面鉄軸	—
20	陶器	香炉	—	[3.5]	—	K	5	良好	灰白	瀬戸美濃系 内面上位・外面鉄軸	—
21	陶器	香炉	(11.2)	[6.6]	(8.6)	K	35	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面鉄軸 内面目跡1遺存 No.6	—
22	陶器	香炉	—	[3.9]	8.4	EK	25	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面鉄軸 No.12	—
23	陶器	壺	—	[4.9]	—	IK	5	良好	灰白	内外面ヘラナゲ 胎土硬質 中心部灰色 還元焼成 澁美富 12c 後半	—
24	瓦質土器	大鉢	—	[4.0]	13.0	IK	15	普通	灰白	体部ミガキ 脚欠失1 No.3	—
25	瓦質土器	角大鉢	—	[9.2]	—	AHK	5	普通	にぶい橙	口唇部ミガキ 横す 胎土硬質	—
26	瓦質土器	大鉢	—	[5.5]	—	CIK	5	普通	灰白	口唇・体部ミガキ 横す 胎土中心灰色 口縁部敲打痕	—
27	瓦質土器	大鉢	(32.0)	13.5	27.0	AIK	40	普通	灰白	横す 胎土中心灰色 被熱(外面著しく剥落) SD23と接合	—
28	土質土器	大酒壺	(14.4)	[8.9]	—	AEIK	10	不良	にぶい桃	常陸系 内面煤付着 被熱	111-8
29	瓦質土器	焙烙	—	5.2	—	HK	5	普通	灰白	砂目痕 体部下位弱いケズリ 横す 胎土中心黒色・硬質	—
30	瓦質土器	焙烙	(36.9)	5.9	(34.0)	CIK	10	普通	灰白	底部シワ状痕 横す 内耳1遺存 No.4 SD23と接合	—
31	瓦質土器	焙烙	37.2	6.0	34.5	CIK	95	普通	灰白	底部シワ状痕 体部下位弱いケズリ・シワ状痕	111-9
32	かわらけ	小皿	8.6	2.1	5.5	CHK	80	普通	にぶい橙	底部糸切痕(左) 胎土砂質 SD23と接合	112-1
33	かわらけ	小皿	8.8	2.2	5.3	CHK	80	普通	灰白	底部糸切痕(左) 胎土砂質 No.22	112-1
34	かわらけ	小皿	8.8	2.0	5.7	CHK	70	普通	浅黄橙	底部糸切痕(左) 胎土砂質	112-1
35	かわらけ	小皿	(8.7)	1.9	3.9	CHK	45	普通	明赤褐	底部糸切痕(左) 胎土砂質	112-1
36	かわらけ	小皿	9.7	2.1	6.4	CHK	80	普通	にぶい橙	底部糸切痕(左) 内底面渦巻状ナゲ 胎土砂質 No.19	112-1
37	かわらけ	小皿	8.6	2.0	5.0	CHK	95	普通	にぶい橙	底部糸切痕(左) 胎土砂質 内面タール状物質付着	112-1
38	かわらけ	小皿	(8.5)	2.6	(5.6)	EIK	20	普通	明焼灰	底部糸切痕 胎土砂質	112-1
39	かわらけ	小皿	(7.5)	2.2	(4.8)	CHK	25	普通	灰白	底部糸切痕 胎土砂質	112-1
40	かわらけ	小皿	6.2	2.0	3.9	CHK	90	普通	灰白	底部糸切痕(左) 胎土砂質 底部二次穿孔か	112-1
41	かわらけ	小皿	—	[1.0]	(3.0)	CHK	15	普通	にぶい橙	底部糸切をナゲ消し 胎土砂質	112-1
42	瓦質土器	播鉢	—	[3.2]	—	IK	5	不良	灰白	内面播目 横す 胎土粉質	—

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
43	陶器	鉢	縦4.1 横5.1 重さ24.6			IK	—	普通	にぶい橙	肥前系 外面鉄輪刷毛壁状 内面施釉・目跡(砂) 円盤状製品転用(胴部)	
44	土師質土器	焙烙	縦4.8 横4.6 重さ26.7			ADEHK	—	普通	にぶい赤褐	円盤状製品転用(胴部) 外面黒化	
45	土師質土器	焙烙	縦4.1 横4.1 重さ18.4			ADEHK	—	普通	にぶい赤褐	円盤状製品転用(口縁部) 内外面黒化	
46	瓦質土器	火鉢類	縦5.0 横4.9 重さ25.1			IK	—	普通	灰白	底部シワ状痕 爐す 胎土中心灰色 円盤状製品転用(底部)	
47	土師質土器	焙烙	縦3.1 横3.0 重さ7.7			ADEHK	—	普通	にぶい赤褐	円盤状製品転用(底部) 内外面黒化	
48	土師質土器	焙烙	縦4.0 横3.3 重さ13.8			ADEHK	—	普通	にぶい赤褐	円盤状製品転用(底部) 内外面黒化	
49	土製品	人形	高さ4.8 幅3.5 厚さ2.3 重さ23.8			AEH	—	良好	にぶい黄褐	前後合二枚型成形 中実 雲母付着 彩色遺存(黒化・剥離)	122-6
50	木製品	漆椀	高さ[3.0]							横木取り 内外面赤漆	
51	銅製品	煙管	長さ5.7 火皿径1.5 小口径1.0 重さ5.7							No.2 雁首 小口欠損	133-2
52	銅製品	煙管	長さ[8.3] 小口径1.0 重さ6.6							No.1 雁首 火皿欠落	133-2
53	銅製品	煙管	長さ[4.9] 径0.9 重さ4.0							雁首 火皿・小口欠落	133-2
54	銅製品	煙管	長さ[4.7] 小口径1.2×1.1 重さ3.8							雁首 火皿欠落	133-2
55	銅製品	煙管	長さ4.6 小口径0.9 口付径0.4 重さ3.4							吸口 折れ曲がる	133-2
56	銅製品	目貫	縦1.2 横3.7 厚さ0.2 重さ3.4							竜頭	
57	鉄製品	釘	長さ[7.0] 幅0.6 厚さ0.5 重さ5.4								
58	銅製品	銭貨	径24.3 厚さ1.0 重さ2.2							紹聖元寶	136-10
59	銅製品	銭貨	径25.5 厚さ1.4 重さ3.7							寛永通寶(新) 背文	
60	鉄滓	桶形滓	長さ7.3 幅6.7 厚さ2.5 重さ84.7							楕円形 ほぼ完形か 上面木炭、微細な鋭造剥片少量 底面木炭多い 磁着やや弱い	136-15
61	石製品	火打石	長さ2.8 幅2.2 厚さ2.3 重さ17.1							チャート 稜の潰れ著しい	
62	石製品	火打石	長さ3.3 幅1.9 厚さ1.9 重さ20.5							チャート 使用痕あり	
63	石製品	碁石	径2.2 厚さ0.5 重さ3.4							粘板岩 欠大部摩耗	139-9
64	石製品	碁石	長さ16.4 幅13.3 厚さ8.6 重さ2291.6							流紋岩 側面刃物傷2・凹凸面摩耗 表面被熱黒化・鉄錆付着	139-10
65	石製品	碁石	長さ[7.3] 幅2.7 厚さ2.6 重さ58.2							流紋岩(緑色) 側面櫛歯状工具痕か・所痕 砥面4	
66	石製品	碁石	長さ[11.0] 幅2.8 厚さ3.0 重さ121.6							流紋岩(緑色) 側面削痕2 砥面2	
67	石製品	磨石	長さ[3.3] 幅4.0 厚さ1.4 重さ7.3							角閃石安山岩 多孔質 自然面遺存 使用面4 欠大部摩耗 断面煤付着	141-1
68	石製品	磨石	長さ5.6 幅4.9 厚さ2.2 重さ17.7							角閃石安山岩 多孔質 自然面遺存 使用痕あり 摩耗が著しい	
69	石製品	碁石カ	長さ2.5 幅2.1 厚さ2.0 重さ14.7							流紋岩(緑色) 使用面3	139-11

### SK524



#### SK524

- |   |      |                               |
|---|------|-------------------------------|
| 1 | 暗褐色土 | 粘土質 白色・褐色粒子多量 粘性弱             |
| 2 | 暗灰色土 | 粘土質 白色粒子少量 粘性強 しまり強           |
| 3 | 暗灰色土 | 粘土質 砂粒混入多量 粘性弱 しまり強           |
| 4 | 暗灰色土 | 砂質 粘土ブロック(φ~30mm)多量 粘性弱 しまり強  |
| 5 | 暗灰色土 | 粘土質 白色粒子極少量 粘性強 しまり強          |
| 6 | 暗灰色土 | 5層より強い 粘土質 白色粒子微量 粘性強 しまり弱    |
| 7 | 暗褐色土 | 粘土質 白色粒子少量 粘性強 しまり強           |
| 8 | 暗褐色土 | 粘土質 白色粒子少量 有機物(木片)多量 粘性強 しまり強 |

第595図 区画AA土壌(2)

7は白磁の香炉である。口縁部は内側に折り返し、体部に推定3条の凸帯が廻る。挿図は接点のない2片から復元した。

8は仏飯器である。底部は浅く削り込まれ、その外周に面取りが施されている。外面は染付である。

9は肥前系陶器の青緑釉丸碗である。内外面に青緑釉が施軸され、高台畳付に糸切痕が遺存している。第23号溝跡出土破片と接合関係にある。10は産地不詳陶器の碗である。鉄軸が施軸され、外面上位に白釉が流し掛けられている。外面下位の露胎部には鉄化粧が施されている。胎土は硬質で、九州諸窯で生産された可能性がある。11は肥前系陶器の京焼碗である。高台内に刻印が遺存している。

12は瀬戸美濃系陶器の坏で、灰釉が施軸されている。口縁部に敲打痕と煤の付着がみられ、灰落として転用されたことが示唆される。

13は瀬戸美濃系陶器の菊皿である。体部に鎬が施され、内外面にいわゆる黄瀬戸釉が施軸される。内面に目跡が3箇所遺存する。

14は肥前系陶器の三島手鉢である。体部に鉄化粧、内面に白土象嵌が施される。内面に砂目跡が3箇所遺存する。

15は瀬戸美濃系陶器の鉢である。灰釉が施軸され、内面に青緑釉が流し掛けられている。内面中位に段が付き、底部は軸が抜き取られている。内面には目跡が2箇所遺存している。

第591図16は丹波系陶器の播鉢である。体部下位に右上がりの指頭痕がみられ、上位はヨコナデ調整である。口縁の縁帯部下端は外側に張り出ししている。

23は渥美窯産の甕である。胎土は硬質で、還元焙焼である。12世紀後半の所産である。

24～27は瓦質土器の火鉢である。24は板状脚が2箇所遺存している。体部はミガキ調整である。25は硬質な胎土を呈する角火鉢で、口唇部

にミガキ調整が施される。26は27に類似する火鉢で、口縁部内側に敲打痕がみられ、体部はミガキ調整である。27は丸形の脚部が付き、外面は被熱により著しく剥落している。第23号溝跡出土破片と接合関係にある。

28は胎土に金雲母が多量に含まれる常陸系土師質土器の火消壺である。被熱し内面に煤が付着している。

第592図31は瓦質土器の平底焙烙である。底部は無調整のシワ状痕がみられる。体部下位にシワ状痕が遺存しているが、弱くナデ消されている。胎土に角閃石が一定量含まれ在地産と推定される。

32～36、第593図37～41は胎土が砂質で、角閃石が一定量含まれるかわらけ小皿である。いずれも在地産と推定される。18世紀初頭に比定される第497号土壘では江戸在地系かわらけが主体であるに対して、17世紀後葉に比定される本遺構では、在地産かわらけのみ出土している。17世紀後葉から18世紀初頭にかけてかわらけの流通に変化が生じている可能性が示唆される。

43～48は陶磁器類の体部破片や底部破片を打ち欠いて円形に成形したいわゆる円盤状製品である。43は肥前系陶器の鉢、44・45・47・48は常陸系土師質土器の焙烙、46は瓦質土器の火鉢類を素材としている。

49は土製人形ある。前後合わせの二枚型成形で、中実である。彩色が遺存しているが黒色化し、剥落している。

50は漆碗である。51～54は銅製煙管の雁首、55は吸口である。

58は北宋銭の紹聖元寶である。初鋳年は1094年である。

第594図61・62はチャート製火打石である。61は稜が使用により丸みを帯びているが、62はほぼ未使用である。64は流紋岩製の大型の砥石である。表面の凹凸部は摩耗し、被熱による黒色化

と鉄錆が付着する。67・68は多孔質の角閃石安山岩転石製磨石である。69は緑色の流紋岩製砥石と思われるが、小型の球体状である。

#### 第524号土壌 (第595図)

F7-B6グリッドに位置し、第525号土壌と重複する。平面形は楕円形で、検出長軸2.35m、短軸2.15m、深さ0.58mを測る。長軸方位はN-5°-Eを指す。北側は現地調査で設定した排水溝に壊されている。

覆土は粘土質土を主体とし、下層には木質が多量に含まれる。底面が検出できていない深い土壌で、断面形から井戸跡の可能性が疑われる。

出土遺物はなく、遺構の時期は不明である。

#### ②区画ABの土壌 (第596～598図)

第三面の土壌は9基検出された。区画ABは『絵図』にみえる「青物屋/要右衛門」に相当する。すべて遺物の出土が少ない土壌だが、比較的大型の土壌もみられる。第199表に位置・規模等の基本的な情報を示した。

本区画で抽出した土壌はなく、第596図に遺構図、第597・598図に遺物図を示した。

#### 第490号土壌 (第596図)

F7-B6グリッドに位置し、第25号溝跡、第523号土壌と重複する。平面形は長楕円形で、長軸2.37m、短軸0.48m、深さ0.12mを測る。長軸方位はN-22°-Wを指す。溝状の土壌で、覆土は粘土質土の単層である。小型の鉄滓片、鍛造剥片が多量にみられる。

出土遺物は鉄滓311.1gと羽口22.7gのみである。遺構の時期は不明だが、第1・2号小鍛冶跡、第497・500号土壌と関連性が示唆される。

#### 第494号土壌 (第596図)

F7-B・C7グリッドに位置する。第20号溝跡より新しく、第23号溝跡、第495・499号土壌と重複する。平面形は不整形で、長軸1.56m、短軸0.44m、深さ0.21mを測る。長軸方位はN-26°-Wを指す。

覆土は褐色粒子を多量に含む砂の単層である。出土遺物はなく、遺構の時期は不明である。

#### 第495号土壌 (第596～598図)

F7-B・C7グリッドに位置する。ビット71より古く、第496号土壌より新しい。さらに第494・499号土壌と重複する。平面形は隅丸長方形で、検出長軸4.9m、短軸2.2m、深さ0.45mを測る。長軸方位はN-68°-Eを指す。

覆土は粘土質土主体で、上層は粘土ブロックを含む砂質土である。下層には木材等が多量にみられる。出土遺物は極めて少なく、陶磁器類は18世紀代の所産である。推定廃絶期は18世紀代である。

出土遺物は第597図1に瓦質土器の平底焙烙、第598図1に鉄製の刀子、2に鉄製の釘を図示した。

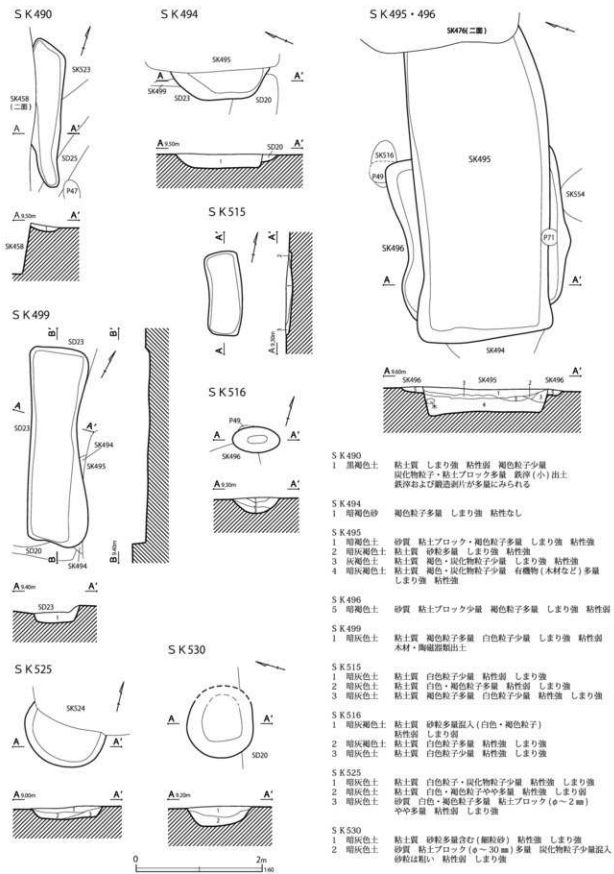
#### 第496号土壌 (第596図)

F7-B・C7グリッドに位置する。第495号土壌、ビット71より古く、ビット49より新し

第199表 第三面区画AB土壌一覧表

単位：m

番号	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	方位	備考	挿図
490	F7-B6	長楕円形	2.37	(0.48)	0.12	N-22°-W	SK523・SD25と重複	596
494	F7-B・C7	不整形	1.56	(0.44)	0.21	N-26°-W	SD20より新 SD23・SK495・499と重複	596
495	F7-B・C7	隅丸長方形	(4.90)	2.20	0.45	N-68°-E	P71より古 SK496より新 SK494・499と重複	596
496	F7-B・C7	隅丸長方形	2.73	2.50	0.10	N-24°-W	SK495・P71より古 P49より新 SK516・554と重複	596
499	F7-B・C7	隅丸長方形	3.15	0.90	0.25	N-28°-W	SD23より古 SD20・SK494・495と重複	596
515	F7-B7	隅丸長方形	1.32	0.52	0.10	N-12°-W		596
516	F7-B7	楕円形	0.75	0.40	0.25	N-72°-E	P49より古 SK496と重複	596
525	F7-B6	不明	1.31	(0.80)	0.20	N-82°-W	SK524と重複	596
530	F7-B・C6	楕円形	[1.15]	1.05	0.30	N-73°-E	SD20より古	596



第 596 図 区画 AB 土壌

- S K 490  
1 黒褐色土 粘土質 しまり強 粘性弱 褐色粒子少量  
炭化物粒子・粘土ブロック多量 鉄滓(小)出土  
鉄滓および製造副産物が多量にみられる
- S K 494  
1 暗褐色砂 褐色粒子多量 しまり強 粘性なし
- S K 495  
1 暗褐色土 砂質 粘土ブロック・褐色粒子多量 しまり強 粘性強  
2 暗灰褐色土 粘土質 砂粒多量 しまり強 粘性強  
3 灰褐色土 粘土質 褐色・炭化物粒子少量 しまり強 粘性強  
4 暗灰褐色土 粘土質 褐色・炭化物粒子少量 有機物(木材など)多量  
しまり強 粘性強
- S K 496  
5 暗褐色土 砂質 粘土ブロック少量 褐色粒子多量 しまり強 粘性弱
- S K 499  
1 暗灰色土 粘土質 褐色粒子多量 白色粒子少量 しまり強 粘性弱  
木材・陶磁器類出土
- S K 515  
1 暗灰色土 粘土質 白色粒子少量 粘性弱 しまり強  
2 暗灰色土 粘土質 白色・褐色粒子多量 粘性強 しまり強  
3 暗灰色土 粘土質 褐色粒子多量 白色粒子少量 粘性強 しまり強
- S K 516  
1 暗灰褐色土 粘土質 砂粒多量混入(白色・褐色粒子)  
粘性弱 しまり弱  
2 暗灰褐色土 粘土質 白色粒子多量 粘性強 しまり強  
3 暗灰色土 粘土質 白色粒子少量 粘性強 しまり強
- S K 525  
1 暗灰色土 粘土質 白色粒子・炭化物粒子少量 粘性強 しまり強  
2 暗灰色土 粘土質 白色・褐色粒子やや多量 粘性強 しまり弱  
3 暗灰色土 砂質 白色・褐色粒子多量 粘土ブロック( $\phi \sim 2\text{mm}$ )  
やや多量 粘性弱 しまり強
- S K 530  
1 暗灰色土 粘土質 砂粒多量混入(細砂粒) 粘性強 しまり強  
2 暗灰色土 砂質 粘土ブロック( $\phi \sim 30\text{mm}$ )多量 炭化物粒子少量混入  
砂粒は粗い 粘性弱 しまり強

い。さらに第516・554号土壌と重複する。平面形は隅丸方形で、長軸2.73m、短軸2.5m、深さ0.1mを測る。長軸方位はN-24°-Wを指す。

覆土は粘土ブロックを含む砂質土で、浅い単層である。出土遺物はなく、推定廃絶期は不明である。

#### 第499号土壌 (第596図)

F7-B・C7グリッドに位置する。第23号溝跡より古く、第20号溝跡、第494・495号土壌と重複する。平面形は隅丸長方形で、長軸3.15m、短軸0.9m、深さ0.25mを測る。長軸方位はN-28°-Wを指す。

覆土は粘土質土の単層で、木材等の木質が含まれる。出土遺物はないが、重複関係から遺構の時期は18世紀前葉以前である。

#### 第515号土壌 (第596図)

F7-B7グリッドに位置する。平面形は隅丸長方形で、長軸1.32m、短軸0.52m、深さ0.1m SK495



第597図 区画AB土壌出土遺物(1)

#### 第200表 区画AB土壌出土遺物観察表(1)(第597図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	瓦質土器	焙烙	-	[0.6]	-	ClK	5	普通	灰白	SK495	底部シワ状痕 内面刷印菊花文・煤付着	113-1

SK495



SK530



第598図 区画AB土壌出土遺物(2)

#### 第201表 区画AB土壌出土遺物観察表(2)(第598図)

番号	種別	器種	法量	遺構名	備考	図版
1	鉄製品	刀子	長さ[12.5] 刃長[11.3] 刃幅1.3 背幅0.3 重さ10.8	SK495		134-2
2	鉄製品	釘	長さ[4.2] 幅1.3 厚さ0.5 重さ28.4	SK495		
3	鉄製品	不明	縦[2.8] 横[10.5] 厚さ0.1 重さ9.7	SK530		

を測る。長軸方位はN-12°-Wを指す。覆土はほぼ同質の粘土質土が堆積している。出土遺物はなく、推定廃絶期は不明である。

#### 第516号土壌 (第596図)

F7-B7グリッドに位置する。ピット49より古く、第496号土壌と重複する。平面形は楕円形で、長軸0.75m、短軸0.4m、深さ0.25mを測る。長軸方位はN-72°-Eを指す。

覆土は粘土質土で、上層は砂粒が多量に混入している。出土遺物は極めて少なく、陶磁器類は非掲載遺物に波佐見系磁器くわわんか手碗のみみられる。推定廃絶期は18世紀前半以降である。

#### 第525号土壌 (第596図)

F7-B6グリッドに位置し、第524号土壌と重複する。平面形は北側が壊されているため不明である。検出長軸1.31m、短軸0.8m、深さ0.2mを測り、長軸方位はN-82°-Wを指す。

覆土の下層は粘土ブロックを含む砂質土で、上層は炭化物等を含む粘土質土である。出土遺物はなく、推定廃絶期は不明である。

#### 第530号土壌 (第596・598図)

F7-B・C6グリッドに位置し、第20号溝跡より古い。平面形は楕円形で、検出長軸1.15m、短軸1.05m、深さ0.3mを測る。長軸方位は

N-73° -Eを指す。

覆土は下層が粘土ブロックを多量に含む粗い砂質土、上層は細粒砂を多量に含む粘土質土である。出土遺物は極めて少なく、非掲載遺物の陶磁器類には瓦質土器の瓦盤、丹波系陶器の播鉢、瀬戸美濃系陶器の鉄軸香炉がみられる。推定廃絶期は17世紀後半以降である。

### ③区画ACの土壌 (第599～607図)

第三面の土壌は23基検出された。区画ACは『絵図』にみえる「明地/清吉」に相当する。他の区画より検出数が多いが、すべて遺物の出土が少ない土壌である。一部溝状の土壌もみられる。第202表に位置・規模等の基本的な情報を示した。

本区画で抽出した土壌はなく、第599・601図に遺構図、第602～607図に遺物図を示した。

### 第480号土壌 (第599・602・604・606・607図)

F7-C7グリッドに位置する。第554号土壌

より新しく、第29号溝跡と重複する。平面形は不整形で、溝状を呈する。断面形は逆台形である。長軸8.4m、短軸1.5m、深さ0.6mを測り、長軸方位はN-15° -Wを指す。

第480号土壌は、現地調査で第344号土壌の下層に検出された長方形土壌(旧第480号土壌)と遺構番号が重複している。旧第480号土壌は第344号土壌下層として、第344号土壌の遺構図(第483図)に示したが実態は2基の土壌である。第344号土壌下層で取り上げた掲載遺物は諸事情により、遺構番号が重複していた第480号土壌の掲載遺物に混在している。出土位置については観察表備考欄に示した。なお、第344号土壌下層の出土遺物は第344・480号土壌砂層一括、第344・480号土壌焼土層一括として取り上げられている。

覆土の下層は細粒砂を含む砂質土で、上層は粘土質土である。遺物は中層から出土している。

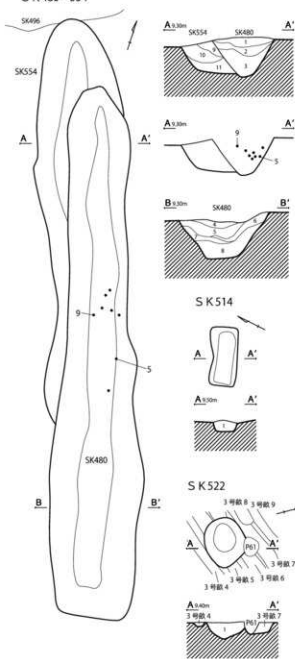
第202表 第三面区画AC土壌一覧表

単位：m

番号	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	方位	備考	坪数
480	F7-C7	不整形	8.40	1.50	0.60	N-15° -W	SK554より新 SD29と重複	599
514	F7-C・D6	隅丸長方形	0.90	0.45	0.15	N-70° -E	小竈2より古	599
522	F7-C6	不整形円形	0.71	0.65	0.25	N-72° -E	P61より古 竈跡3より新	599
526	F7-C6	隅丸長方形	2.28	0.70	0.23	N-30° -W		599
527	F7-C6	楕円形	3.26	2.40	0.57	N-13° -E	竈跡3より古 SK531と重複	599
528	F7-C6	楕円形	1.15	1.00	0.45	N-72° -E	SD24より古 竈跡3より新	599
529	F7-C7	不整形楕円形	1.10	0.95	0.24	N-22° -W		600
533	F7-C6	隅丸長方形	1.00	0.70	0.32	N-70° -E	SK534・P70より新 P63と重複	600
534	F7-C6	楕円形	0.95	0.66	0.30	N-45° -W	SK533より古 P70と重複	600
535	F7-C6・7	不整形楕円形	(5.40)	2.70	0.60	N-12° -W	SK531より古 SD19と重複	600
536	F7-C7	隅丸長方形	(2.40)	0.75	0.18	N-25° -W	SK538より古 SK537・541より新 SD19・20・23・26と重複	600
537	F7-C7	不明	0.60	0.18	0.10	N-20° -W	SK536より古 SD19と重複	600
538	F7-C7	長楕円形	1.50	0.22	0.15	N-70° -E	SK536・541より新 SD19と重複	600
540	F7-C6	楕円形	0.64	0.40	0.42	N-13° -W		600
541	F7-C7	楕円形	1.64	0.60	0.30	N-25° -W	SK536・538より古 SD19と重複	600
544	F7-C7	隅丸長方形	2.60	1.12	0.35	N-69° -E	SD31・P77より古 SK545と重複	601
545	F7-C7	楕円形	0.64	0.53	0.10	N-30° -W	竈跡1・SK544と重複	601
546	F7-C7	円形	0.53	0.48	0.13	N-70° -E	竈跡1と重複	601
547	F7-C7	隅丸長方形	1.25	0.60	0.48	N-32° -E	竈跡1より新	601
548	F7-C7	隅丸長方形	(2.04)	0.63	0.35	N-14° -W	SK549より古	601
549	F7-C7	不整形楕円形	0.65	0.50	0.20	N-43° -W	SK548より新	601
553	F7-C7	不整形円形	1.00	0.90	0.17	N-25° -E	竈跡1より新	601
554	F7-B・C7	長楕円形	(6.45)	1.37	0.40	N-19° -W	SK480より古 SK496と重複	599



S K 480・554



S K 480

- |          |         |        |          |         |
|----------|---------|--------|----------|---------|
| 1 灰褐色土   | 粘土質     | 褐色粒子少量 | 粘性強      | しまり強    |
| 2 暗灰色土   | 粘土質     | 白色粒子少量 | 粘性弱      | しまり強    |
| 3 暗灰色土   | 2層より暗い  | 粘土質    | 褐色粒子多量   | 炭化物粒子少量 |
| 4 灰色粘土   | 炭化物粒子少量 | 褐色細砂少量 | 地山ブロック少量 | 粘性弱     |
| 5 灰褐色砂質土 | 粘土質微塵   |        |          |         |
| 6 灰褐色砂質土 | 粘土質微塵   | 細砂少量   |          |         |
| 7 灰褐色砂質土 | 粘土質     | 細砂微塵   | 炭化物微塵    |         |
| 8 灰褐色砂質土 | 粘土質     | 細砂少量   |          |         |

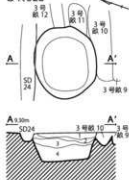
S K 554

- |         |        |        |        |         |
|---------|--------|--------|--------|---------|
| 9 灰褐色土  | 粘土質    | 褐色粒子少量 | 粘性強    | しまり強    |
| 10 暗灰色土 | 粘土質    | 白色粒子少量 | 粘性弱    | しまり強    |
| 11 暗灰色土 | 2層より暗い | 粘土質    | 褐色粒子多量 | 炭化物粒子少量 |
|         | 粘性弱    |        |        | しまり強    |

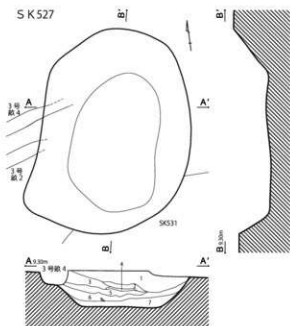
S K 526



S K 528



S K 527



S K 514

- 1 黄褐色土 均一 黄褐色土主体 地山黄褐色シルトブロック(φ5~20mm 炭化)多量 炭化物(φ2~5mm 炭化)少量

S K 522

- 1 暗褐色砂質土 炭化物粒子(φ~2mm)(2%) 粘性微塵

S K 526

- 1 オリーブ灰色粘土 炭化物(φ5~20mm)(5%) 粘性強 埋戻し

S K 527

- 1 灰色土 シルト質 均一 地山灰色シルト層の流入土層 炭化物(φ2~5mm 未炭化 少量) 灰白色シルト質粘土ブロック(φ5~20mm 炭化 少量) やや不均一 炭化物(φ2~3mm 炭化 少量) 灰白色シルト質粘土ブロック(φ30~40mm 炭化 多量) このブロックは内部がラミナ状
- 2 青灰色粘土 シルト質 均一 1層と同じ やや粒子が細かい やや不均一 2層と同じ 灰白色シルト質粘土ブロックが多い
- 3 灰色土 シルト質 均一 3層と同じ ややラミナ状
- 4 青灰色粘土 均一 2層と同じ 灰白色シルト質粘土ブロックは極めて少ない
- 5 灰色土 均一 2層と同じ
- 6 青灰色粘土 シルト質 均一 3層と同じ
- 7 灰色土

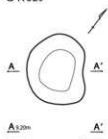
S K 528

- |        |        |       |
|--------|--------|-------|
| 1 黒褐色土 | 砂質     | 粒子細かい |
| 2 黒褐色土 | 砂質     | 砂多量   |
| 3 暗褐色土 | 砂質     | 粒子細かい |
| 4 褐色土  | 黄褐色砂多量 |       |

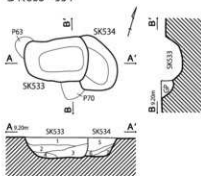


第599図 区画AC土壌(1)

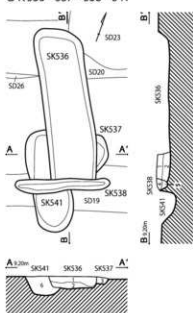
S K 529



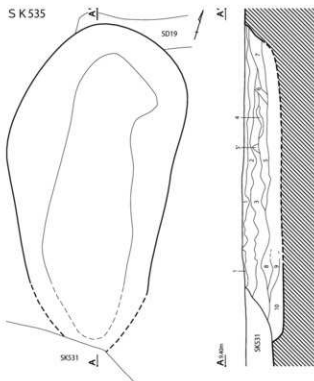
S K 533・534



S K 536・537・538・541



S K 535



S K 540



S K 533

- 1 青灰色土 粘土質 褐色細粒少量 粘性強 しまり強
- 2 灰色土 粘土質 褐色細粒やや多量 炭化物粒子若干 粘性強 しまり強
- 3 灰色土 粘土質 褐色細粒多量 粘性強 しまり弱
- 4 青灰色土 粘土質 褐色細粒少量 粘性強 しまり強

S K 534

- 5 青灰色土 粘土質 褐色細粒少量 粘性強 しまり強
- 6 灰色土 粘土質 褐色細粒やや多量 粘性強 しまり強
- 7 灰色土 砂層 粘土ブロック(φ~8mm)少量 粘性弱 しまり弱

S K 535

- 1 褐色土 均一 地山砂層に比して著しくシルト質の土層とむ 洪水起源のシルトの混入が 炭化物(φ2~3mm 中や風化多量)
- 2 青灰色土 均一 1層と同じ 更に土壌が多くやや粘土質 炭化物1層より多い
- 3 青灰色砂 均一 1層と同じ 1層より砂質 部分的にはほぼ純砂層 下部に起源をもつ 炭化物やや少ない
- 4 褐色砂 均一 比較的純粋な砂層
- 5 灰黒色土 不均一 シルトと粘土の互層で風化した炭化物を多量に含む 鈣礫も含まれる 鐵造割片も多く含まれる
- 6 灰褐色砂 均一 4層と同じ
- 7 青灰色土 均一 2層と同じ

- 8 青灰色土 均一 シルト質の土層 3層より土質多い
- 9 青灰色土 均一 8層よりやや砂質
- 10 青灰色砂 青灰色の砂

S K 536

- 1 青灰色土 粘土質 褐色細粒やや多量 炭化物粒子少量 骨片少量混入(取り上げ不可能) 粘性弱 しまり強
- 2 灰色土 砂層 粘土ブロック(φ~5mm)少量 粘性弱 しまり強

S K 537

- 3 灰色土 砂層 粘土ブロック(φ~8mm)多量 骨片・炭化物粒子少量 粘性弱 しまり強

S K 538

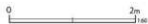
- 4 灰色土 粘土質 褐色粒子(層)多量 粘性強 しまり強
- 5 暗褐色土 砂層 粘土ブロック(φ~5mm)少量 炭化物粒子弱 粘性弱 しまり強

S K 541

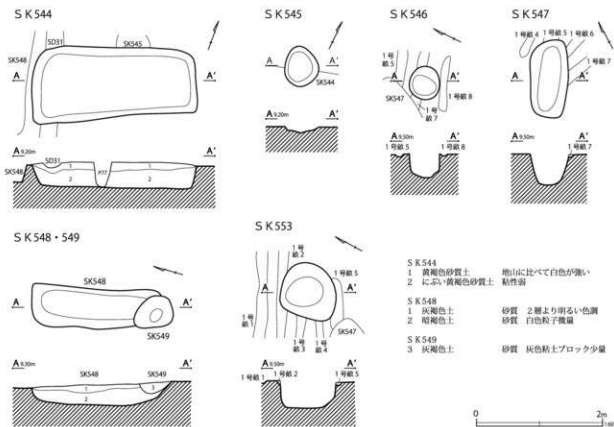
- 6 暗褐色土 砂層 粘土ブロック(φ~5mm)少量 粘性弱 しまり弱

S K 540

- 1 灰色土 粘土質 褐色細粒少量 炭化物粒子弱 粘性強 しまり強
- 2 灰色土 砂層 粘土ブロック(φ~5mm)少量 粘性弱 しまり強



第600図 区画AC土壌(2)



第601図 区画AC土坑（3）

出土遺物は第602図1～11に陶磁器類、第604図1に鉄製品、第606図1・2に石製品、第607図1に壁材を図示した。なお、第602図1・4・6・7・11、第604図1、第607図1は第344号土坑下層出土である。

第602図1～4は肥前系磁器である。1は碗で、外面に一重網目文の染付が施される。2は体部が直線的に開口する端反形の碗である。体部下位は角張る。高台内に「大明成化年製」銘の染付がみられる。3は高台断面がシャープな「U」字状を呈する色絵の皿である。内面に赤い上絵付が施され、被熱により黒色化している。4は貝殻状を呈する輪高台の型皿である。内面に型押し施文がみられる。挿図では接点のない3片から復元した。

8は産地不詳陶器の瓶類である。砂目底で墨痕がみえる。胎土は白色針状物質を含み、極めて硬質である。欠失部は一部敲打による二次利用がみ

られる。

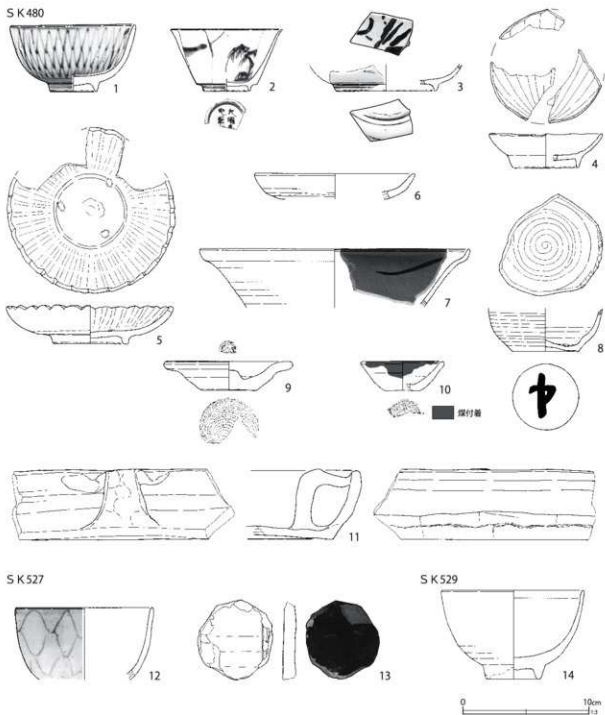
10は胎土に細粒な雲母が含まれる坏形を呈するかわかけ小皿である。底部に糸切痕が遺存し、胎土は粉質である。口縁部から体部にかけて煤が付着しており、灯明皿として利用された可能性が示唆される。

第604図1は鉄製の頭巻釘である。第606図1は粘板岩製の硯である。被熱し、著しく剥落している。2は安山岩製の石臼口縁部である。被熱しており、同一個体破片が他に3点みられる。また、第497号土坑焼土層出土の底部破片は同一個体の可能性が高い。

第607図1は壁材である。3種類の材圧痕がみられ、極めて強く被熱している。

#### 第529号土坑（第600・602・605図）

F7-C7グリッドに位置しする。平面形は不整形円形で、長軸1.1m、短軸0.95m、深さ0.24mを測る。長軸方位はN-22°-Wを指す。



第602図 区画AC土壌出土遺物(1)

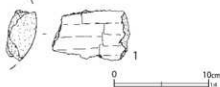
覆土は確認することができなかつた。出土遺物は極めて少ないが、肥前系磁器の底部露胎の青磁釉碗(第602図14)や在地産かわらけ、絵銭、二枚の渡来銭が出土していることから栗橋宿初期の遺構の可能性がある。推定廃絶期は17世紀後半である。

出土遺物は第602図14に磁器、第605図2～4に銭貨を示した。第602図14の肥前系磁器の底部露胎の碗である。青磁釉が施釉され、高台は幅広くである。第605図2・3は金銭の正隆元寶である。初鑄年は1158年である。4は絵銭で、栗橋宿では稀である。馬と鳥の文様が見える。

第203表 区画AC土壌出土遺物観察表(1)(第602図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考		図版
1	磁器	碗	9.8	5.3	3.6	—	75	普通	白	SK480	肥前系 内外面施釉 外面染付		
2	磁器	碗	(8.7)	4.9	(3.6)	—	25	良好	白	SK480	肥前系 内外面施釉・染付		
3	磁器	皿	—	[2.1]	(7.8)	—	10	普通	白	SK480	肥前系 内外面施釉・色絵(赤) 被熱(上給付黒化)		
4	磁器	皿	縦[9.0] 横[8.6] 器高2.7		(5.0)	—	45	良好	白	SK480	肥前系 内外面施釉 内面型押施文 接点のない3片から復元		
5	陶器	皿	12.6	3.0	5.6	IK	70	良好	灰白	SK480	瀬戸美濃系 内外面灰釉 内面目跡3あり Na5 SK344下層・SK497と接合		
6	陶器	皿	12.5	[2.0]	—	IK	30	普通	灰白	SK480	瀬戸美濃系 内外面灰釉 強く被熱		
7	陶器	鉢	21.2	[4.6]	—	K	10	普通	灰白	SK480	京都信楽系 内外面施釉 内面鉄絵 強く被熱		
8	陶器	瓶腹	—	[3.4]	5.2	IJK	20	良好	灰白	SK480	砂目底・墨痕 欠失部二次利用(敲打) 胎土極硬質	89-1	
9	陶器	蓋	10.0	2.3	4.6	EIK	80	良好	灰白	SK480	瀬戸美濃系 底部糸切痕(右) 柿軸付着 Na3 SK344と接合		
10	かわらけ	小皿	(6.4)	2.3	(2.8)	AK	25	普通	灰白	SK480	底部糸切痕遺存 口縁へ体部煤付着 胎土粉質		
11	瓦質土器	焙烙	—	5.6	—	CIK	5	普通	灰白	SK480	底部シワ状痕 体部下位ケズリ 糠す 胎土中心暗灰色		
12	磁器	碗	(10.8)	[5.7]	—	—	10	良好	白	SK527	肥前系 内外面施釉 外面染付		
13	陶器	摺鉢	縦6.2 横5.9 重さ42.8			K	—	普通	灰白	SK527	瀬戸美濃系 内外面灰釉 内面窪目 円盤状製品転用(胴部)		
14	磁器	碗	(11.0)	7.0	4.2	IK	60	普通	灰白	SK529	肥前系 内外面青磁釉		

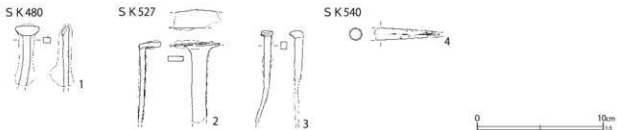
## SK554



第603図 区画AC土壌出土遺物(2)

第204表 区画AC土壌出土遺物観察表(2)(第603図)

番号	種別	器種	長さ	胴側径		輪側径		重量	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
				外径	内径	外径	内径							
1	土製品	羽口	8.2	—	—	—	—	115.8	E1	普通	褐色	SK554	やや砂質 ナゲ状調整	



第604図 区画AC土壌出土遺物(3)

第205表 区画AC土壌出土遺物観察表(3)(第604図)

番号	種別	器種	法量			遺構名	備考	図版
			長さ	幅	厚さ			
1	鉄製品	釘	長さ[4.8]	幅(0.6)	厚さ(0.4)	重さ11.4	SK480	
2	鉄製品	釘	長さ[6.4]	幅1.2	厚さ0.4	重さ17.3	SK527	
3	鉄製品	釘	長さ[7.5]	幅0.5	厚さ0.6	重さ5.3	SK527	
4	銅製品	煙管	長さ[5.2]	径1.0	重さ2.0		SK540	吸口 小口・口付欠損

SK527

SK529



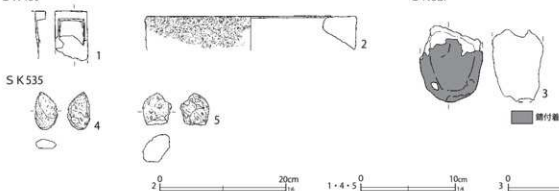
第605図 区画AC土壌出土遺物(4)

第206表 区画AC土壌出土遺物観察表(4)(第605図)

番号	種別	器種	法量	遺構名	備考	図版
1	銅製品	銭貨	径25.6 厚さ1.1 重さ2.8	SK527	寛永通寶(古)	
2	銅製品	銭貨	径24.5 厚さ1.4 重さ2.8	SK529	正隆元寶	136-11
3	銅製品	銭貨	径25.0 厚さ1.5 重さ3.5	SK529	正隆元寶	136-12
4	銅製品	給銭	径24.9 厚さ1.3 重さ3.6	SK529	馬と鳥	136-13

SK480

SK527



第606図 区画AC土壌出土遺物(5)

第207表 区画AC土壌出土遺物観察表(5)(第606図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	図版
1	石製品	硯	[5.2]	3.4	—	25.9	粘板岩	SK480	器高[1.1]cm 被熱(剥落)	
2	石製品	石臼	口径(34.0)	—	—	621.5	安山岩	SK480	器高[5.4]cm 上白上半部 外面ビシャン仕上げ状の凹凸口唇部摩耗・被熱・煤付着 同一個体片他3片あり SK497 焼土層-105は同一個体	
3	石製品	不明	[4.0]	3.3	2.7	42.3	不明	SK527	精状付着物(欠失部除く全面) 白色石材	139-12
4	石製品	磨石	4.0	2.4	1.0	3.9	角閃石安山岩	SK535	多孔質 使用痕あり	
5	石製品	磨石	4.0	3.2	2.3	8.2	角閃石安山岩	SK535	多孔質 使用面1 欠失部摩耗	

SK480



第607図 区画AC土壌出土遺物(6)

第208表 区画AC土壌出土遺物観察表(6)(第607図)

番号	種別	器種	縦	横	厚さ	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	埴材	—	7.3	6.1	3.1	—	—	—	黄灰	SK480	材圧痕(3種類) 被熱(強・淨化・硬質化・黒化)	

### 第535号土壌 (第600図)

F7-C6・7グリッドに位置する。第531号土壌より古く、第19号溝跡と重複する。平面形は不整形円形で、検出長軸5.4m、短軸2.7m、深さ0.6mを測る。長軸方位はN-12° -Wを指す。

覆土は砂が主体である。第5層はシルトと粘土の互層で、炭化物を多量に含む。また、鉄滓や鍛造剥片が多く含まれている。第1・2号小鍛冶跡や第497・500号土壌にみられる鍛冶関連の遺構・遺物と関係性が示唆される。

出土遺物は極めて少なく、非掲載遺物の瀬戸美濃系陶器の腰鉢碗が最新期の陶磁器である。推定廃絶期は重複関係から18世紀前葉以前である。

### ④区画ADの土壌 (第608～710図)

第三面の土壌は5基検出された。区画ADは『絵図』にみえる「煮賣屋/兵藏」に相当する。2基は大型且つ、極めて多量の遺物を含む。また、一部で火災に関わると考えられる焼土層が検出されており、第608・609図にその範囲を示した。第209表に位置・規模等の基本的な情報を示した。

本区画で抽出した土壌は第497・500号土壌で、第608～611・661図に遺構図、第612～660・662～703図に遺物図を先行して示した。また、非抽出となった土壌は、第704図に遺構図、第705～710図に遺物図を示した。

### 第497号土壌焼土層 (第608・609・612～619図)

第497号土壌検出面直上を覆う焼土層が検出された。遺構東部のおよそ4m四方の範囲にアメリ

バ状に広がっており、層の厚みは最大で0.24mを測る。土層中には被熱した壁材と思われる焼土塊や炭化物が多量に含まれており、粘土や砂質土の混ざりがみられる。

焼土層中からは強く被熱した陶磁器が多く出土しており、直下で検出された第497号土壌にも同一個体と思われる陶磁器や接合関係にあるものが少量含まれている。また、第344号土壌下層(第483図)にみられる焼土層出土遺物に同一個体や接合関係にあるものがみられる。第二面の第1号井戸跡にも焼土層由来の遺物がみられるが、これは第1号井戸跡が焼土層の一部を壊したことによる混入である。これらの他にも多くの遺構、グリッド出土遺物と接合関係にある。詳細は第VI章を参照されたい。

遺物は一定量出土しており、陶磁器は17世紀後半から18世紀前葉の所産で占められる。最新期の陶磁器である波佐見系磁器のくらわんか手碗がみられ、焼土層直下の第497号土壌出土陶磁器の様相とは大きく変わらない。しかし、良質な皿の組物(第612図9・第613図32)等がある点では、若干様相が異なっている。焼土層の時期は18世紀前葉頃と考えられる。

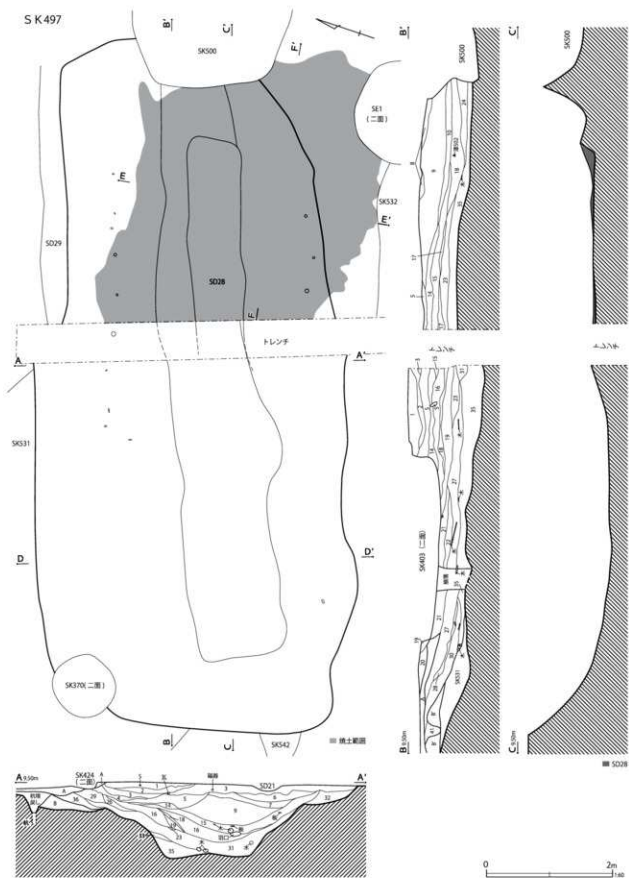
第612～619図に出土遺物を示した。なお、陶磁器については、明らかな同一個体資料や第497号焼土層に関わると考えられる被熱遺物については、接合関係がなくても焼土層の遺物として扱った。焼土層と接合関係がない他遺構出土陶磁器は、第617図にまとめた。

第612図3は波佐見系磁器のくらわんか手碗で

第209表 第三面区画AD土壌一覧表

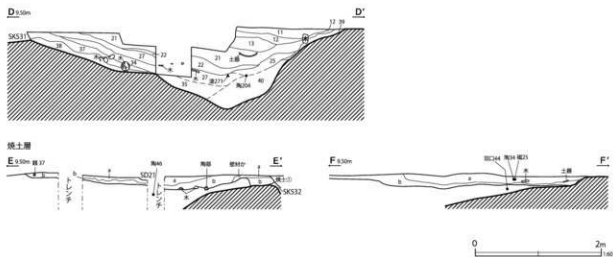
単位：m

番号	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	方位	備考	挿図
497	F7-C7・D6・7	隅丸長方形	10.80	5.10	1.20	N-72° -E	SK500より古 SD28・SK531より新 SD29・SK542と重複	608
500	F7-C・D7・8	隅丸長方形	(7.70)	2.95	0.90	N-72° -E	SK497より新	611
521	F7-D6	楕円形	2.22	1.10	0.23	N-65° -E		704
531	F7-C・D6・7	不明	(7.20)	5.35	0.70	N-80° -W	小鍛冶1・SK497より古 SK535より新 SK527と重複	704
542	F7-D6	楕円形	1.40	0.70	0.33	N-78° -E	SK497と重複	704



第608図 区画AD土層(1)

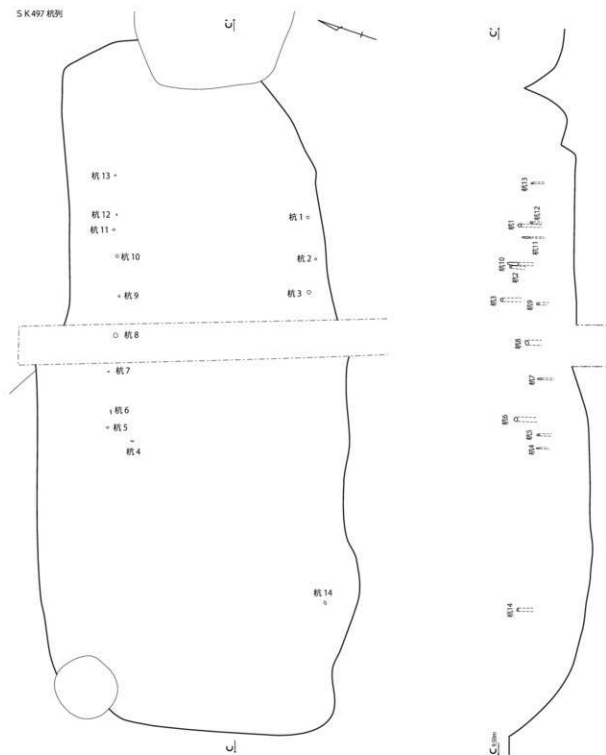




- 整地土**
- A 暗褐色土 白色粘土若干混 白色粘土ブロック少量 整地土  
 B 暗褐色土 暗粘砂多量混 粘性ややあり 炭化物φ2～10mm(3%) 整地土か  
 B' 黒褐色～暗褐色土 暗粘砂多量混 粘性ややあり 炭化物φ2～10mm(3%) 整地土B層と同じだが腐植物状のものが入る
- S K 497**
- 1 暗褐色土 暗粘砂少量混 炭化物φ2～15mm(5%) 焼土塊φ2～10mm(7%) 埋戻し 整地している  
 2 オリーブ灰色土 炭化物φ2～10mm(3%) 焼土塊φ3～6mm(2%) 埋戻し  
 3 暗褐色土 炭化物φ2～10mm(5%) 焼土塊φ2～20mm(5%) 埋戻し  
 4 暗褐色土 暗粘砂少量混  
 5 暗褐色土 暗粘砂ラミナ状に微量混 炭化物φ2～5mm(2%) 焼土塊φ2～10mm(5%) 土色4層より暗い 6層に近似 投棄物の堆積層  
 6 暗褐色土 炭化物φ2mm前後(1%) 焼土塊φ2～10mm(2%)  
 7 にぶい黄褐色細粘砂 9層に対し6層の影響を受けたもの  
 8 暗褐色土 9層細粘砂小ブロック中量含む 焼土層が9層の影響を受けたもの  
 9 黄褐色細粘砂 粒径大きく粗砂に近い 僅かに横方向のラミナ状堆積が見られ、洪水堆積が疑われる  
 10 暗褐色土 9層より若干土色黄褐色みがる 東方で19層土小ブロック少量  
 11 灰黄褐色土 しまりやや強 炭化物φ2～4mm(1%) 暗粘砂若干 埋戻し  
 12 暗褐色土 灰黄色土小ブロック少量混 炭化物φ6～20mm(10%) 暗粘砂少量混 埋戻し  
 13 黄褐色細粘砂 粒径は均一だが下方ほど大径である 洪水堆積か  
 14 黄褐色砂質土 11層土小ブロック若干混 8層ベースに5層少量混  
 15 黄褐色土 11層土ベースに3層土中量混  
 16 黒色土 φ1～5mmの炭化物極多量(使用済み木炭か) 焼土塊ほとんど見られない 鉄屑を含む  
 17 黒色土 炭化物多量(±2mm) 羽子等の遺物多い 鐵道剥片を含む  
 18 暗褐色粘質土 暗粘砂中量含む 炭化物は比較的少ない  
 19 黒褐色土 粘土質 暗粘砂若干混 粘性やや強 炭化物φ10±3mm(2%)  
 20 黒色粘土 17層と同様の炭化物多量含むが17層より少ない 暗褐色粘質土をラミナ状に含む 鐵道剥片も17層より少ない  
 21 暗褐色土 炭化物φ～20(3%) 暗粘砂少量混 粘土ベース 埋戻し  
 22 黄褐色細粘砂 暗粘砂ベースに21層土少量混 流し入  
 23 オリーブ灰色粘土 均質 炭化物粘土極微量含む  
 24 オリーブ灰～灰黄褐色土 粘土ベースに腐植物少量混 19層との境界に炭化物φ3±2mm少量含む  
 25 暗褐色粘土 21層土より土色明るい  
 26 暗褐色土 暗粘砂少量混 灰黄色土小ブロック微量混(29層土)  
 27 黒褐色粘質土 粘性やや強 炭化物φ1～3mm(2%) 木片の大半はこの層出土  
 28 オリーブ灰色粘土 23層土に近い 27層土少量混(影響うける)  
 29 灰色粘土 暗褐色土若干含む  
 30 黒褐色土 炭化物φ2～10mm(3%) 28層土小ブロック若干含む  
 31 暗褐色粘質土 粘性強 しまりもあり 地は砂地なので粘性の強い土で覆っているか  
 32 暗褐色土 粘性あり 暗粘砂少量混 埋戻しか  
 33 黄褐色砂質土 暗粘砂多量混 地山ブロック  
 34 暗褐色粘土 粘土ベースに暗粘砂若干混 炭化物φ10±2(2%)  
 35 暗褐色粘土 腐植物等も若干混ざる 土色は灰黄～暗褐色～オリーブ灰色とまだら  
 36 暗褐色細粘砂 暗褐色土少量混 流し入  
 37 灰黄褐色土 粘土ベースに暗粘砂中量混 灰黄色土小ブロック少量混  
 38 暗褐色土 粘土ベースに暗粘砂若干混 炭化物φ2～5mm(3%)  
 39 暗褐色粘質土 粘土ベースに暗粘砂少量混(地山混) 性態不明 自然堆積か  
 40 暗褐色粘質土 暗粘砂ベースに粘土少量混(地山ベース) 性態不明 自然堆積か  
 41 黒褐色土 炭化物粒子φ1～3mm(3%) 黄褐色土小ブロック若干含む(ピットの可能性がある)
- S K 497 焼土層**
- a 暗褐色土 粘性あり しまりやや強 焼土塊(熱した壁土)φ10～40mm(15%) 炭化物多量混  
 b 暗褐色土 砂質土ベースに粘土少量混ざる 焼土塊(熱した壁土)φ10～50mm(20%) 炭化物少量混
- 焼土① 暗褐色土** 暗粘砂少量混(粗砂に近い) 地山層 焼土粒子φ2～5mm(3%) 炭化物φ1～4mm(3%) S K 532の1層土小ブロック状に15%混

第609図 区画AD土壌(2)

S K 497 航列

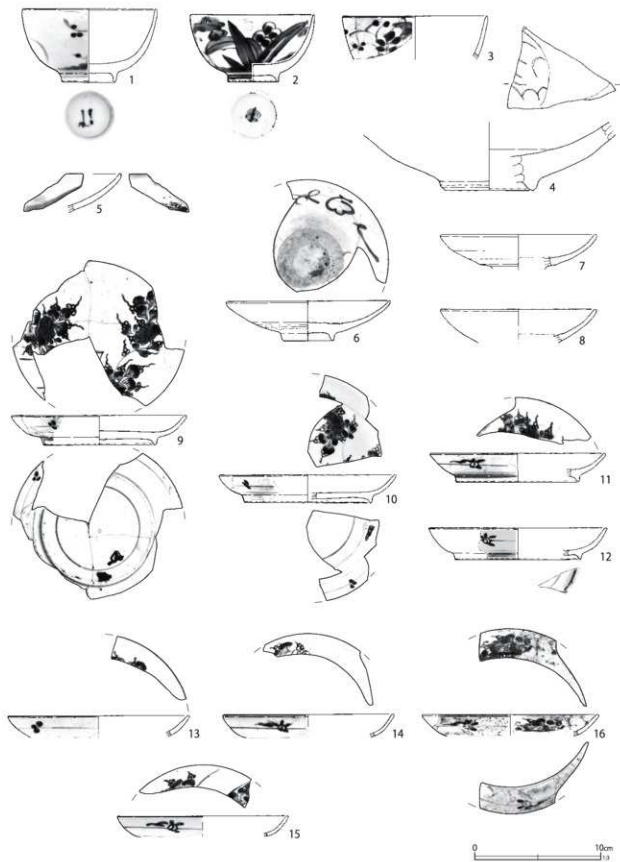


0 2m

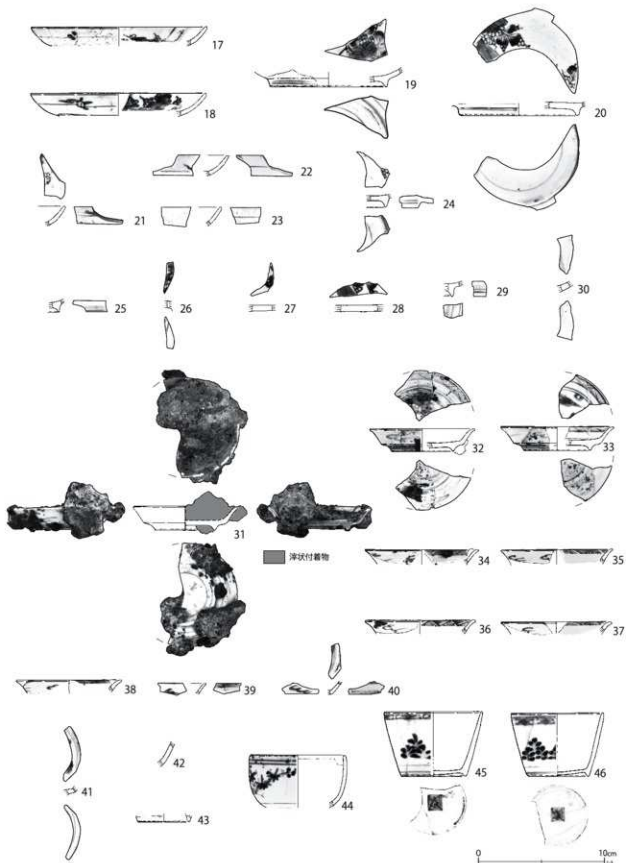
第610区 区画AD土坑(3)



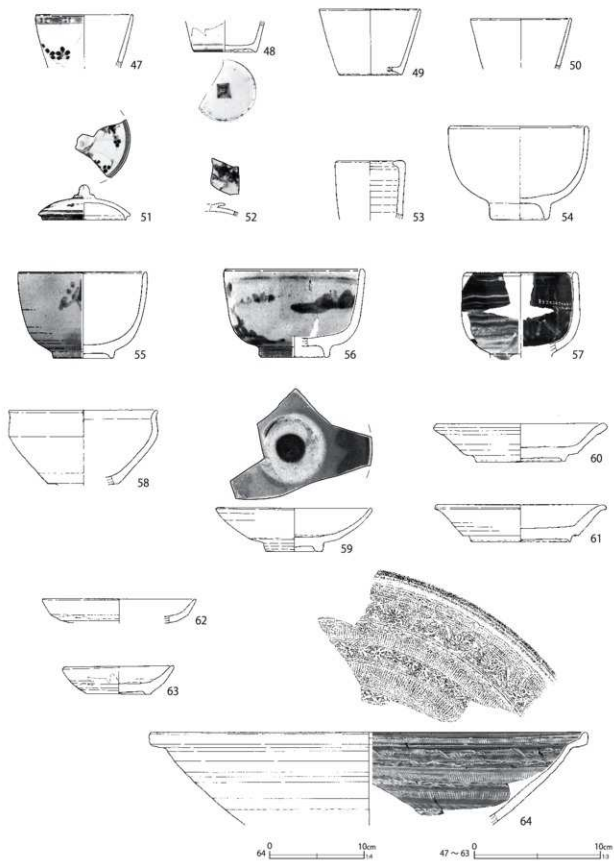
第 611 図 第 497 号土坑遺物出土状況



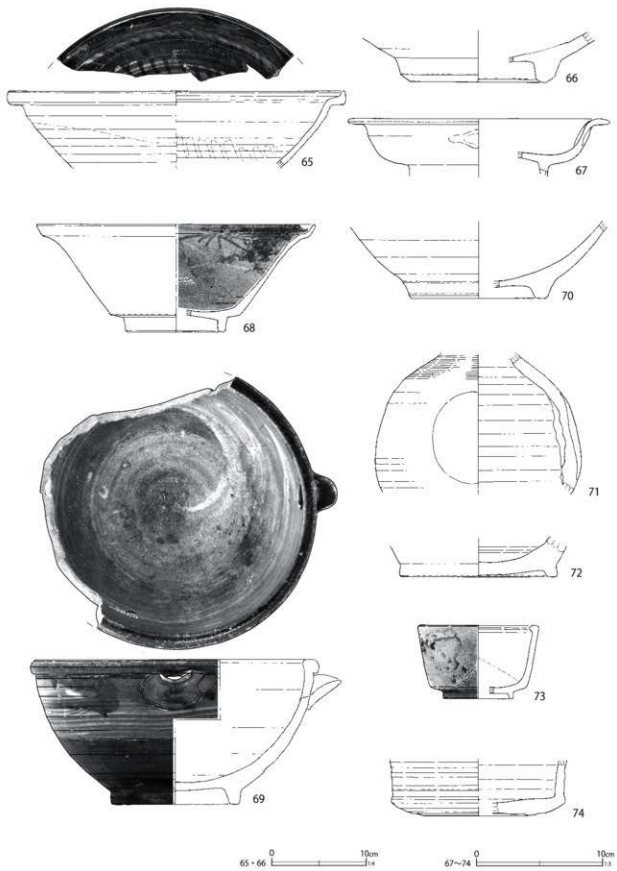
第 612 图 第 497 号土坑梳土層出土遺物 (1)



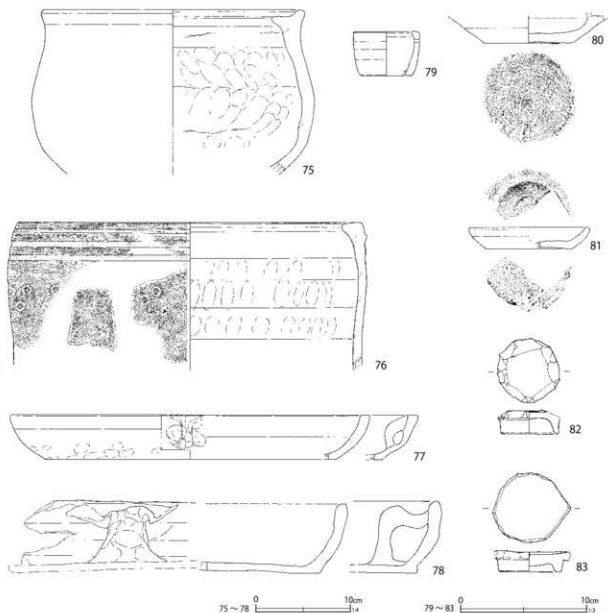
第 613 图 第 497 号土坑竖土層出土遺物 (2)



第 614 图 第 497 号土坑土層出土遺物 (3)



第 615 图 第 497 号土坑烧土层出土遗物 (4)



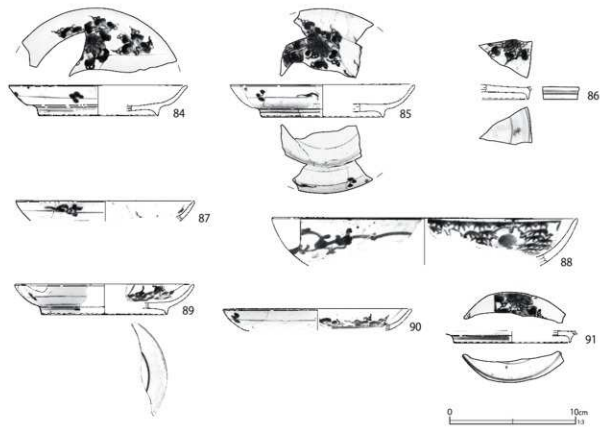
第616図 第497号土壌土層出土遺物(5)

ある。外面に雪輪草花文染付がみられ、強く被熱している。4は肥前系磁器の皿と考えられる。18世紀前葉の火災処理土壌である第552号土壌出土資料(第712図10)に類似する。青磁釉が施釉され、内面に陰刻文が施される。被熱し、煤が付着する。

第612図9～16、第613図17～30は同文の肥前系磁器の皿である。高台断面がシャープな「U」字状を呈する。良質な皿で、組物と考えられるが、

別個体資料を捉えることが困難であるため正確な個体数は不明である。少なくとも3個体以上はあると思われる。いずれも被熱破砕しており、接合率が極めて悪い。16は極めて強い被熱により、発泡し、歪んでいる。また、焼土層外から同文資料(第617図84～87・89～91)が7点出土している。31～41は同文の肥前系磁器のそり皿である。組物と考えられるが、破片資料が多く、別個体資料を捉えることが困難である。少なくとも2





第617図 第497号土壇焼土層出土遺物(6)

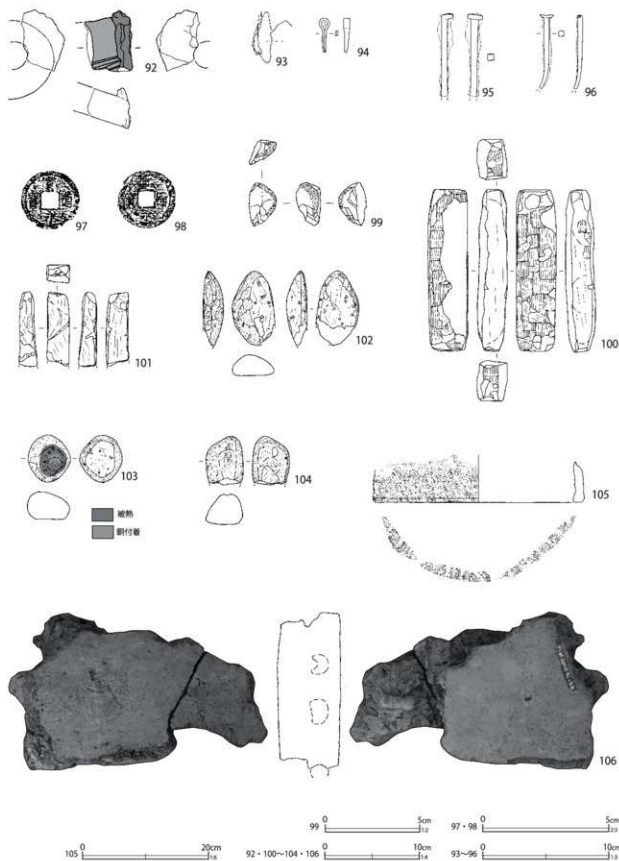
個体以上はあると思われる。いずれも被熱破砕しており、表面が発泡するほど強く焼けている資料もみられる。31・32・34は強い熱を受けた土が滓状になり、付着している。

第613図45～46、第614図47～50は同文と思われる肥前系磁器の蕎麦猪口であるが、被熱痕跡は一切認められない。

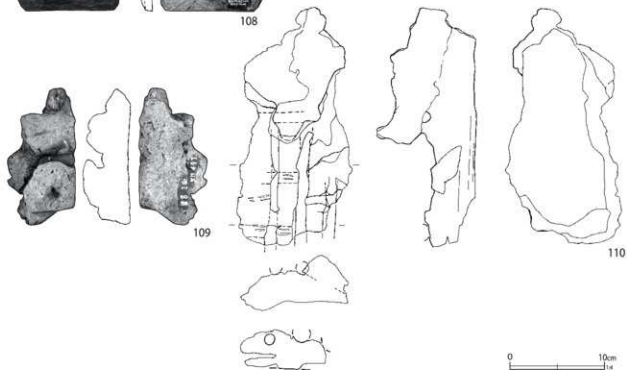
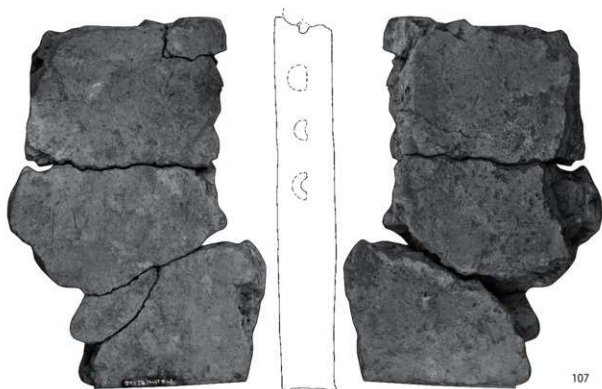
53は肥前系磁器の灰落しである。外面は青磁釉で、極めて強い被熱により、黒・赤色化している。

54は肥前系陶器の呉器手碗である。被熱し、煤が付着している。第1号井戸跡と接合関係にある。55は瀬戸美濃系陶器の御室碗で、灰釉が施軸され、外面に呉須絵が施される。弱く被熱している。56は肥前系陶器の陶胎染付碗である。外面に呉須絵、鉄絵が施される。第21号溝跡と接合関係にある。62は瀬戸美濃系陶器の御深井皿

である。灰釉が施軸され、被熱している。63は瀬戸美濃系陶器の把手付灯明皿である。鉄釉が施軸され、把手が僅かに遺存する。被熱し、一部黒色化している。64は口径が極めて大きい肥前系陶器の三島手鉢である。外面下位に鉄化粧が施され、内面に陰刻文と白土象嵌がみられる。弱く被熱している。第1号井戸跡と接合関係にある。第615図67は陶器の鉢である。極めて強い被熱により、胎土・釉調が変質しているため、産地不詳である。体部の2箇所を凹ませている。68は京都信楽系陶器の鉢である。内面に鉄絵が施され、受け口状の口縁部である。極めて強く被熱しており、表面は発泡している。71・72は陶器瀬戸美濃系陶器で、厚手の徳利である。同一個体である可能性が高く、いずれも被熱している。鉄釉が施軸されている。71は第1号井戸跡・第552号土壇、72は第344号土壇下層の焼土層出土破片と接



第 618 图 第 497 号土壌土層出土遺物 (7)



第619图 第497号土坑瓮土层出土物(8)

第210表 第497号土壇焼土層出土遺物観察表(第612~619図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	磁器	碗	(10.6)	5.8	4.1	—	45	良好	灰白	肥前系 内外面施釉 外面染付 焼土層No.52	
2	磁器	碗	9.7	5.3	3.9	—	90	良好	白	肥前系 内外面施釉 外面染付 No.31	
3	磁器	碗	(11.4)	[3.4]	—	—	10	普通	白	肥前系 内外面施釉 外面染付 強く被熱	
4	磁器	皿	—	[5.4]	(7.0)	—	10	普通	白	肥前系 内外面青磁釉 内面除刻文 被熱・煤付着	
5	磁器	皿	—	[3.0]	—	—	5	良好	白	肥前系 内外面施釉 被熱 煤付着	
6	磁器	皿	(13.0)	3.1	4.0	K	35	良好	白	肥前系 内外面施釉 内面染付 見込み蛇ノ目輪刺ぎ 高台煤付着 焼土層No.7	
7	磁器	皿	(12.2)	[2.8]	—	—	10	普通	白	肥前系 内外面施釉 被熱	
8	磁器	皿	(12.2)	[2.6]	—	—	10	良好	白	肥前系 内外面施釉 被熱	
9	磁器	皿	(13.8)	2.4	8.8	—	40	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 高台内ハリ支跡1あり 被熱 SK480・SK480-344と接合	
10	磁器	皿	(14.0)	2.2	(10.0)	—	15	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 被熱	
11	磁器	皿	(13.7)	2.3	(9.6)	—	15	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 被熱	
12	磁器	皿	(14.0)	2.5	(9.9)	—	5	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 被熱	
13	磁器	皿	(14.3)	[1.7]	—	—	15	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 被熱	
14	磁器	皿	(13.4)	[1.8]	—	—	15	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 被熱	
15	磁器	皿	(13.4)	[1.6]	—	—	15	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 被熱	
16	磁器	皿	(14.0)	[1.7]	—	—	10	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 極めて強く被熱 熱で歪む No.25	
17	磁器	皿	(14.0)	[1.5]	—	—	15	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 強く被熱 F7-C8と接合	
18	磁器	皿	(13.9)	[1.8]	—	—	15	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 被熱 SK552・F7-D7と接合	
19	磁器	皿	—	[1.5]	(9.4)	—	5	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 被熱	
20	磁器	皿	—	[1.1]	(9.2)	—	15	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 被熱 No.38	
21	磁器	皿	—	[1.6]	—	HK	5	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 被熱	
22	磁器	皿	—	[1.7]	—	—	5	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 被熱	
23	磁器	皿	—	[1.5]	—	—	5	普通	白	肥前系 内外面施釉 外面染付 強く被熱	
24	磁器	皿	—	[1.0]	—	—	5	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 被熱	
25	磁器	皿	—	[1.0]	(9.8)	—	5	良好	白	肥前系 内外面施釉 外面染付 被熱	
26	磁器	皿	—	[0.8]	—	—	5	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 被熱	
27	磁器	皿	—	[0.5]	—	—	5	普通	白	肥前系 内外面施釉 内面染付 被熱	
28	磁器	皿	—	[0.6]	—	—	5	普通	白	肥前系 内外面施釉 内面染付 被熱	
29	磁器	皿	—	[1.2]	—	—	5	普通	白	肥前系 内外面施釉 外面染付 被熱	
30	磁器	皿	—	[0.9]	—	—	5	普通	白	肥前系 内外面施釉	
31	磁器	皿	8.2	1.9	4.8	—	50	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 全面に洋状付着物 強く被熱	
32	磁器	皿	(8.2)	1.8	(5.0)	—	30	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 強く被熱(土塊付着) SE1と接合	
33	磁器	皿	(9.0)	1.9	(5.2)	—	10	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 強く被熱	
34	磁器	皿	(9.0)	[1.2]	—	—	5	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 強く被熱(洋状付着物)	
35	磁器	皿	(8.7)	[1.2]	—	—	5	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 被熱	
36	磁器	皿	(8.4)	[1.1]	—	—	10	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 強く被熱(土塊付着)	
37	磁器	皿	(8.5)	[1.0]	—	—	5	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 弱く被熱	
38	磁器	皿	(8.2)	[1.0]	—	—	5	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付	
39	磁器	皿	—	[0.9]	—	—	5	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 被熱	
40	磁器	皿	—	[1.0]	—	—	5	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 被熱	
41	磁器	皿	—	[0.7]	—	—	5	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 強く被熱(破断面赤化)	
42	磁器	碗	—	[1.9]	—	—	5	普通	白	肥前系 内外面施釉 被熱	
43	磁器	碗	—	[0.7]	(4.2)	—	5	普通	白	肥前系 内外面施釉 外面染付 被熱	
44	磁器	蓋物	(7.4)	[4.2]	—	—	35	良好	白	肥前系 内外面施釉 外面染付 SK480-344破片強く被熱 SK497 焼上破片被熱 SK497・SK480-344と接合	
45	磁器	猪口	(7.7)	5.1	(5.0)	—	45	良好	白	肥前系 内外面施釉 外面染付 内面呉須散る SK480-344と接合	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
46	磁器	猪口	7.2	5.1	4.7	—	50	普通	白	肥前系 内外面施釉 外面染付 SK497・SK480-344・SE 1 と接合	
47	磁器	猪口	(7.6)	[4.2]	—	—	10	良好	白	肥前系 内外面施釉 外面染付 F7-D7 と接合	
48	磁器	猪口	—	[2.5]	4.9	—	15	良好	白	肥前系 内外面施釉 外面染付	
49	磁器	猪口	(7.8)	5.2	(4.8)	—	20	良好	白	肥前系 内外面施釉 外面染付 SK480-344 と接合	
50	磁器	猪口	(7.8)	[4.0]	—	—	10	良好	白	肥前系 内外面施釉 外面染付	
51	磁器	蓋	—	2.8	(6.5)	—	30	良好	白	肥前系 上下面施釉 上面染付 被熱(一部黒化) SK497 と接合	
52	磁器	蓋	—	[1.1]	—	—	5	普通	白	肥前系 内外面施釉 上面染付 煤付着	
53	磁器	灰落し	(5.2)	[4.6]	—	—	15	普通	白	肥前系 外面青磁釉 強く被熱(黒化・赤化) No.34	
54	陶器	碗	10.8	7.4	4.0	—	85	良好	灰白	肥前系 内外面施釉 被熱・煤付着 No.2 SE1 と接合	
55	陶器	碗	(10.0)	6.8	4.6	EK	30	普通	灰白	瀬戸美濃系 内外面灰釉 外面呉須絵 弱く被熱	
56	陶器	碗	10.8	7.0	(5.2)	K	45	普通	灰白	肥前系 内外面施釉 外面呉須・鉄絵 No.30 SD20・F7-D6 と接合	
57	陶器	碗	(8.6)	[6.7]	—	IK	30	普通	にぶい赤褐	肥前系 内外面刷毛目釉 No.28・40	
58	陶器	碗	(11.8)	[6.0]	—	EHIK	15	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面鉄釉 No.41	
59	陶器	皿	(12.1)	3.4	4.4	IK	40	普通	にぶい黄緑	肥前系 外面施釉 内面青緑釉	
60	陶器	皿	(13.2)	3.0	7.0	IK	55	普通	灰	瀬戸美濃系 内外面灰釉 内面目跡3あり No.16・18・26・27	
61	陶器	皿	(13.2)	3.0	(8.0)	EIK	20	普通	灰白	瀬戸美濃系 内外面灰釉 内面輪状重焼痕 高台内目跡2遺存	
62	陶器	皿	(12.0)	[1.9]	—	IK	10	普通	灰白	瀬戸美濃系 内外面灰釉 被熱	
63	陶器	灯明皿	8.5	2.3	5.1	IK	70	普通	灰白	瀬戸美濃系 外面上位・内面鉄釉 被熱(一部黒化) 把手遺存 No.19	
64	陶器	鉢	(46.0)	[9.8]	—	EIK	15	普通	にぶい赤褐	肥前系 外面下位鉄化粧 内外面施釉 内面陰刻文・白土象嵌 弱く被熱 SE1 と接合	
65	陶器	鉢	(35.6)	[8.2]	—	IK	15	普通	灰赤	肥前系 外面施釉 内面刷毛目釉	
66	陶器	鉢	—	[5.4]	(14.4)	EIK	15	普通	赤橙	肥前系 内外面鉄化粧 内面施釉・砂目跡4遺存 弱く被熱	
67	陶器	鉢	(19.5)	[4.6]	—	—	30	良好	黄灰	内外面鉄釉(黒) 胎土硬質 強く被熱 高台内露胎 SK497出土の同一個体片あり 体面凹部2遺存 No.22 F7-D7 と接合	
68	陶器	鉢	(22.0)	8.6	(7.6)	—	25	良好	灰白	京都信楽系 内外面施釉 内面鉄絵 強く被熱 No.47・53	
69	陶器	片口鉢	(21.5)	11.5	10.0	EIK	75	普通	にぶい赤褐	肥前系 内外面刷毛目釉 外面下位鉄刷毛塗状 No.33・50	
70	陶器	片口鉢	—	[6.1]	(10.6)	IK	15	普通	灰	肥前系 外面鉄絵 内面刷毛目釉 被熱 SK362 と接合	
71	陶器	徳利	—	[11.1]	—	EIK	40	普通	灰白	瀬戸美濃系 内外面鉄釉 被熱(黒化・赤褐) No.35・43・45 SE1・SK552 と接合	
72	陶器	徳利	—	[3.1]	(12.4)	EIK	10	普通	灰白	瀬戸美濃系 内外面鉄釉 胎土極硬質 被熱 煤付着 SK344 と接合	
73	陶器	香炉	(8.8)	[5.8]	(5.5)	IK	25	普通	灰白	内面上位・外面施釉 強く被熱	
74	陶器	香炉	—	[4.4]	(8.4)	EIK	45	普通	灰白	瀬戸美濃系 外面灰釉 No.9・10 SK344・SD21 と接合	
75	陶器	甕	(27.2)	[17.4]	—	DEIK	30	良好	赤褐	備前系 外面塗土 No.110 焼土層No.15	104-6
76	土師質土器	火鉢	(36.1)	[15.0]	—	AEBKL	15	普通	にぶい赤褐	常陸産 内面指頭痕 外面スタンプ施文・刷毛目状施文 胎土中心還元焼成 SK497破片1が被熱(黒化) No.51・52・205	
77	土師質土器	焙烙	(37.8)	4.7	(30.8)	ADEHK	80	普通	にぶい褐	体部上位煤付着 外面下位指頭痕 接点のない2片から復元 焼土層No.12・20・36	
78	瓦質土器	焙烙	—	5.7	—	CIK	20	普通	灰白	砂目底・圧痕 体部下位弱いケズリ 被熱か(やや酸化焼成) No.23	
79	土師質土器	鉢	(4.0)	3.5	(4.0)	I	20	普通	褐灰	体部上位穿孔1 被熱(黒化)	
80	土師質土器	灯明皿	—	[2.2]	7.0	AHIK	40	普通	にぶい黄緑	江戸在地系 底部糸切痕(左) 胎土粉質 被熱(強)・煤付着 焼土層No.32	
81	かわらけ	小皿	(9.4)	1.7	(6.8)	CIK	30	普通	灰白	底部糸切痕(左) 胎土砂質	104-2
82	陶器	碗	—	[1.8]	4.5	K	—	普通	灰白	肥前系 内外面施釉 円盤状製品転用(底部) 縦5.0cm 横4.9cm No.13	
83	陶器	碗	—	[1.6]	4.8	IK	—	普通	灰白	瀬戸美濃系 内面尾目釉 円盤状製品転用(底部) 縦5.5cm 横6.2cm No.51	
84	磁器	皿	(14.0)	2.4	(9.4)	—	25	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 被熱 SD23・SK344・F7-D7 と接合	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
85	磁器	皿	(14.4)	2.6	(9.6)	—	10	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 強く被熱 SK480-344 と接合	89-2
86	磁器	皿	—	[1.1]	—	—	5	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	89-3
87	磁器	皿	(14.0)	[1.6]	—	—	10	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 被熱 SK480-344 と接合	
88	磁器	皿	(24.0)	[3.7]	—	—	5	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 強く被熱	89-4
89	磁器	皿	(14.1)	2.4	(9.9)	—	20	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 被熱 F7-D7 と接合	
90	磁器	皿	(14.8)	[1.7]	—	—	10	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 被熱 F7-D7・D8 と接合	
91	磁器	皿	—	[0.9]	(9.2)	—	5	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
92	土製品	羽口	長さ4.8 重さ89.1			HI	—	良好	白	土師質 ナゲ状調整カ	
93	銅製品	針金	縦4.2 横3.2 厚さ0.1 重さ0.5							焼土	
94	鉄製品	環釘	長さ2.7 幅0.1 厚さ0.4 重さ1.0							焼土	
95	鉄製品	釘	長さ[6.5] 幅0.5 厚さ0.5 重さ12.6							焼土	
96	鉄製品	釘	長さ[5.9] 幅0.4 厚さ0.4 重さ4.4							焼土	
97	銅製品	銭貨	径23.2 厚さ1.2 重さ2.6							焼土層 寛永通寶(新) No.37	
98	銅製品	銭貨	径23.9 厚さ1.4 重さ2.2							焼土層 寛永通寶(新) No.29	
99	石製品	火打石	長さ2.3 幅1.4 厚さ1.3 重さ3.0							玉髓 稜の潰れ著しい 強く被熱(白色化)	
100	石製品	砥石	長さ17.1 幅3.2 厚さ4.3 重さ368.7							流紋岩 SK480・344 焼土層 表裏・側面櫛歯状工具痕 砥面2	140-1
101	石製品	砥石	長さ[7.8] 幅2.4 厚さ1.9 重さ54.9							流紋岩(緑色) SK480・344 焼土層 表面刃物傷 砥面2	
102	石製品	磨石	長さ7.9 幅4.5 厚さ2.2 重さ33.7							角閃石安山岩 SK480・344 焼土層 多孔質 自然面遺存 使用面4	141-1
103	石製品	磨石	長さ5.0 幅4.5 厚さ2.9 重さ55.5							角閃石安山岩 SK480・344 焼土層 自然面遺存 使用面1 強く被熱(光沢・ヒビ割) 銅付着	141-1
104	石製品	磨石	長さ[5.1] 幅3.9 厚さ3.5 重さ32.5							角閃石安山岩 多孔質 自然面遺存 使用面1	
105	石製品	石臼	底径(34.0) 重さ296.0							安山岩 SK480・344 焼土層 器高[6.5] cm 上白下半部 外面小タタキ仕上げ状の刻み目 下面扉目 被熱・煤付着 同一破片2あり 区画AC-2は同一個体	
106	壁材	—	縦21.8 横12.4 厚さ4.9			G	—	—	—	にぶい橙	
107	壁材	—	縦29.5 横18.2 厚さ5.1			G	—	—	—	にぶい橙	
108	壁材	—	縦6.5 横8.3 厚さ2.0			EIK	—	—	—	にぶい橙	
109	壁材	—	縦10.7 横5.2 厚さ3.6			AEIK	—	—	—	橙	
110	壁材	—	長さ24.3 幅11.5 厚さ10.1 重さ544.7						黄褐色	3×3本の竹組 横木は割竹カ 強く被熱し溶融する	116-3

合関係にある。第616図75は備前系陶器の甕で、外面に塗土が施される。口縁部は受け口状を呈する。

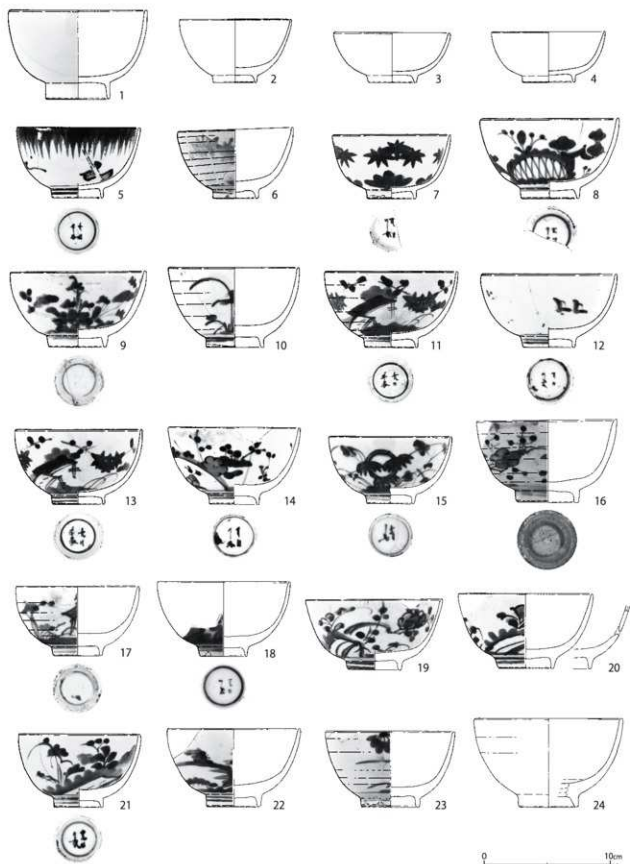
76は口縁部の形状から大型火鉢と推定される常陸系土師質土器である。胎土に金雲母が多量に含まれている。外面には3個1組の環状スタンプ文が施文され、その上に平行する細密な条線が廻る。77は常陸系土師質土器の平底焙烙である。外面下位に指頭痕がみられる。挿図では接点がない2片から復元した。81は胎土に角閃石が一定量含まれる砂質のかわらけ小皿である。在地産と推定される。

第617図88は第344号土壇下層の焼土層から出

土した肥前系磁器の皿である。内面に笹文の染付がみられ、強く被熱している。同文資料が第552号土壇で出土しており、同一個体である可能性が高い。

第618図99は玉髓製の火打石である。使い込まれており、稜は丸みを帯びる。被熱により、白色化している。100は緑色の流紋岩製砥石である。側面4面に櫛歯状工具痕が明瞭に遺存し、表裏2面は砥面である。103は角閃石安山岩転石製磨石である。重量感があり、磨り面には被熱痕跡と銅の付着がみられる。

第618図106、第619図107～110は壁材である。いずれも材圧痕がみられる。108は外面側が砂壁

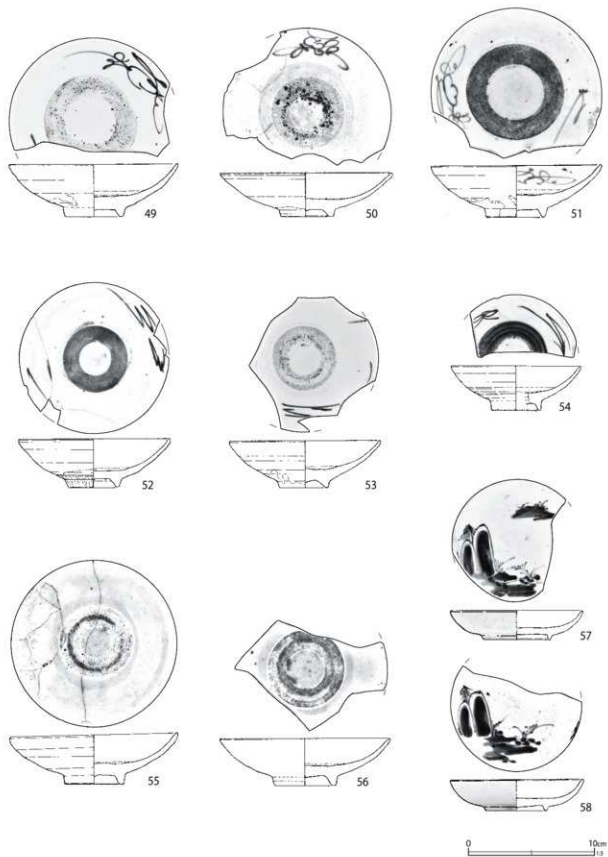


第 620 图 第 497 号土坑出土遗物 (1)

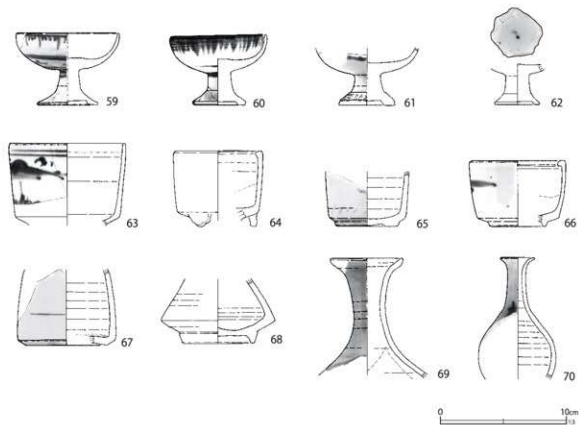


第 621 图 第 497 号土坑出土遗物 (2)





第 622 图 第 497 号土坑出土遗物 (3)



第623図 第497号土壌出土遺物(4)

である。

#### 第497号土壌 (第608～611・620～660図)

F7-C7、D6・7グリッドに位置する。第500号土壌より古く、第28号溝跡、第531号土壌より新しい。さらに、第29号溝跡、第542号土壌と重複する。平面形は隅丸長方形で、長軸10.8m、短軸5.1m、深さ1.2mを測る大型の土壌である。長軸方位はN-72°-Eを指す。直上は焼土層に覆われており、第497号土壌の検出標高はおよそ9.2mである。

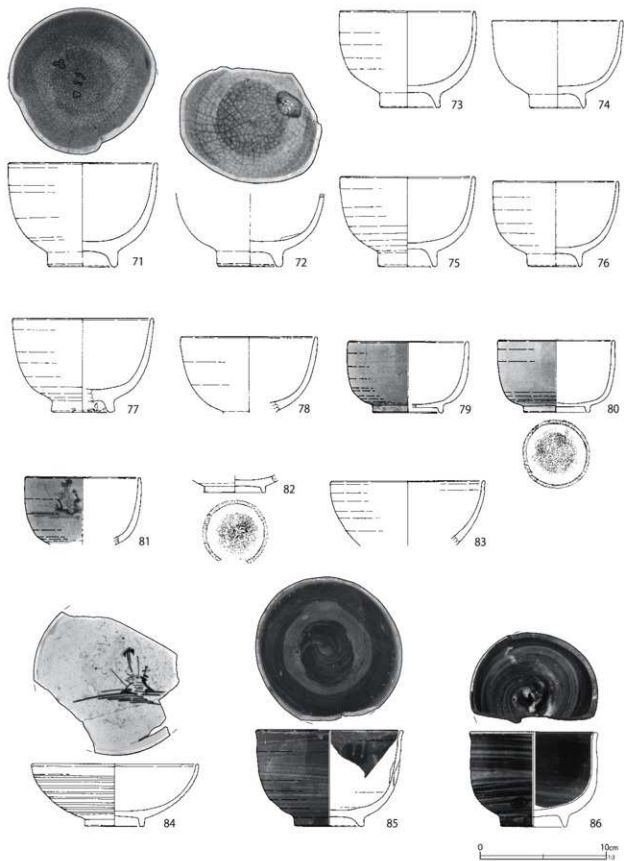
遺構底面は高低差があり、東部の底面には第28号溝跡の掘り方が遺存している。短軸断面は中層から下層は逆台形を呈するが、上層は緩やかに南北へ広がり、テラス状となっている。

土層は細かく分層することが可能であり、第9・13層に洪水堆積と思われる砂がみられることから長期間開口していたと考えられる。土壌内

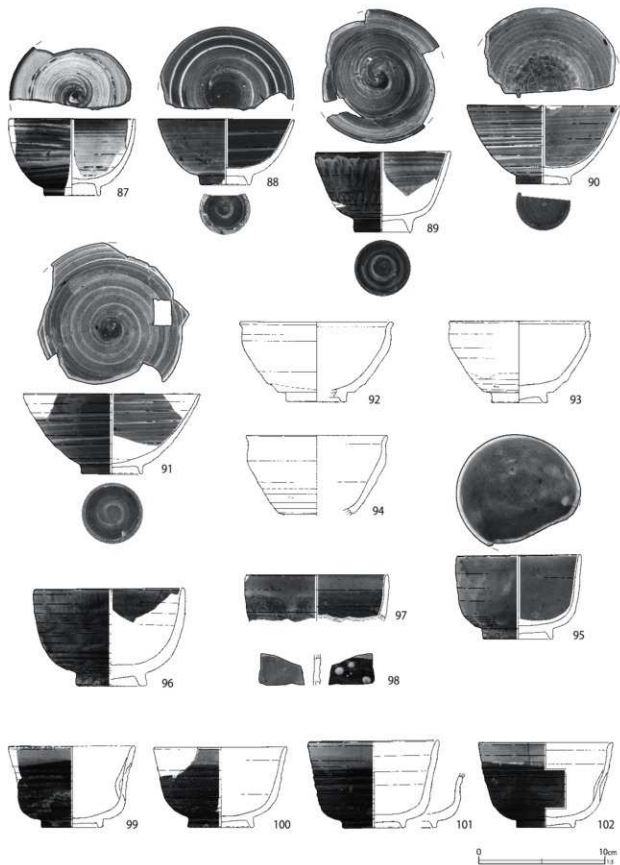
部の中央から東部にかけて、径6cm程度の細い杭が2列に並び、土壌に伴う杭である可能性が高い。地山が砂地で脆いため、本来は土壌壁面に土留めの側板が廻り、それらを杭が支えていた可能性が考えられる。

出土遺物に鍛冶関連遺物が多量にみられ、覆土の第16層には使用済の木炭と思われる炭化物が極めて多量に含まれ、鉄滓も出土している。また、第17・20層には鍛造剥片が含まれており、第17層では輪の羽口が出土している。

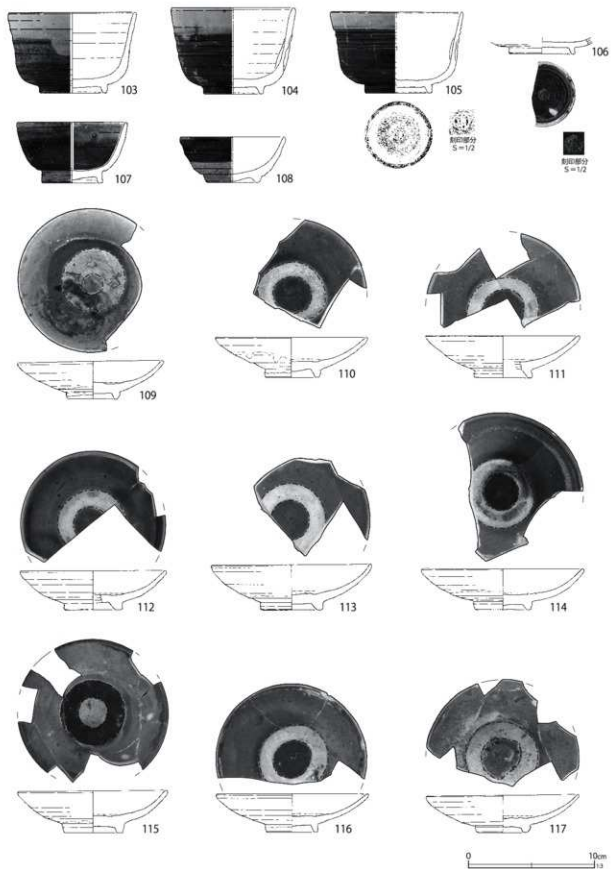
出土遺物は極めて多量である。陶磁器類は17世紀後半の所産が主体であり、18世紀初頭に比定される陶磁器が少量組成する。器種は碗、皿が特に多く、播鉢や焙烙の出土も目立つ。また、極めて多量のかかわりけが出土している。輪の羽口、鉄滓の出土が多く、第1・2号小鍛冶跡との関連性が示唆される。推定廃絶期は18世紀初頭であ



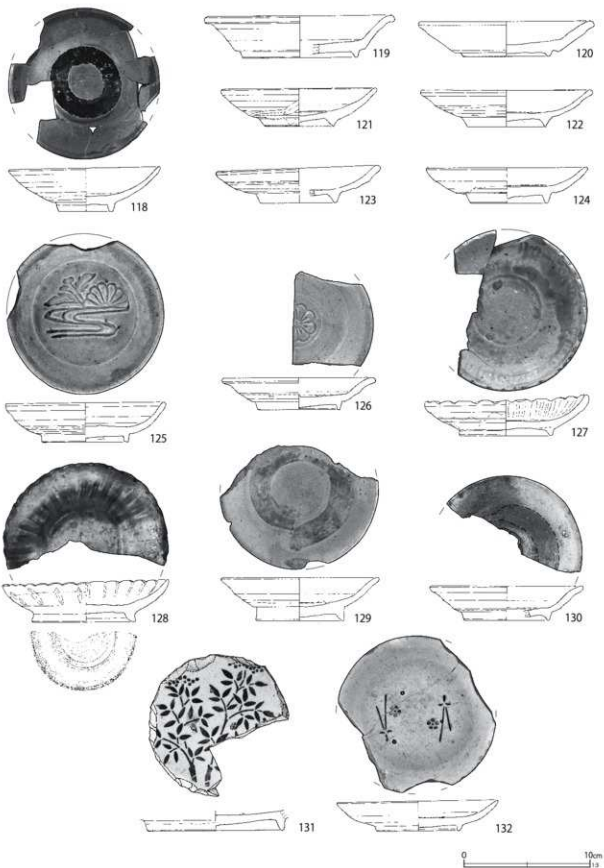
第624图 第497号土坑出土遗物(5)



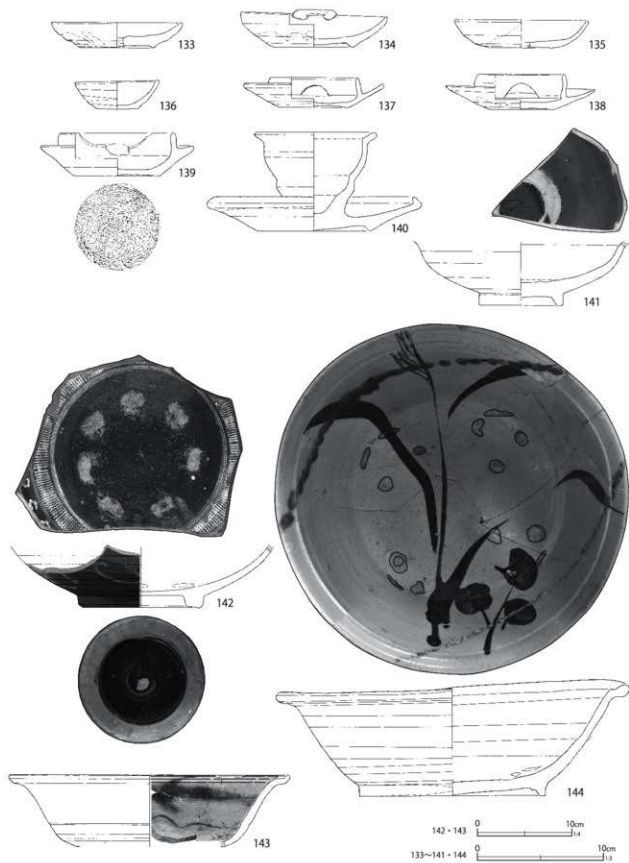
第 625 图 第 497 号土坑出土遗物 (6)



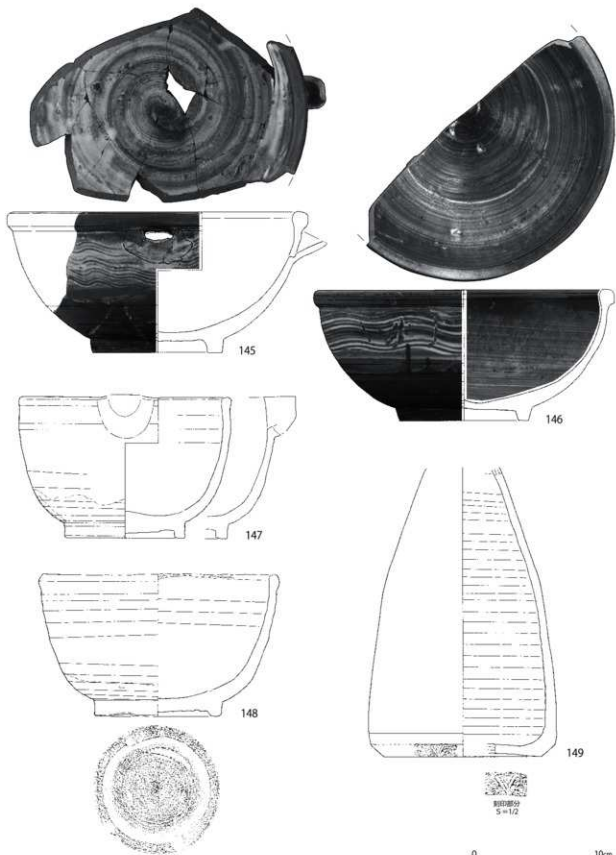
第626图 第497号土坑出土遗物(7)



第 627 图 第 497 号土坑出土遗物 (8)

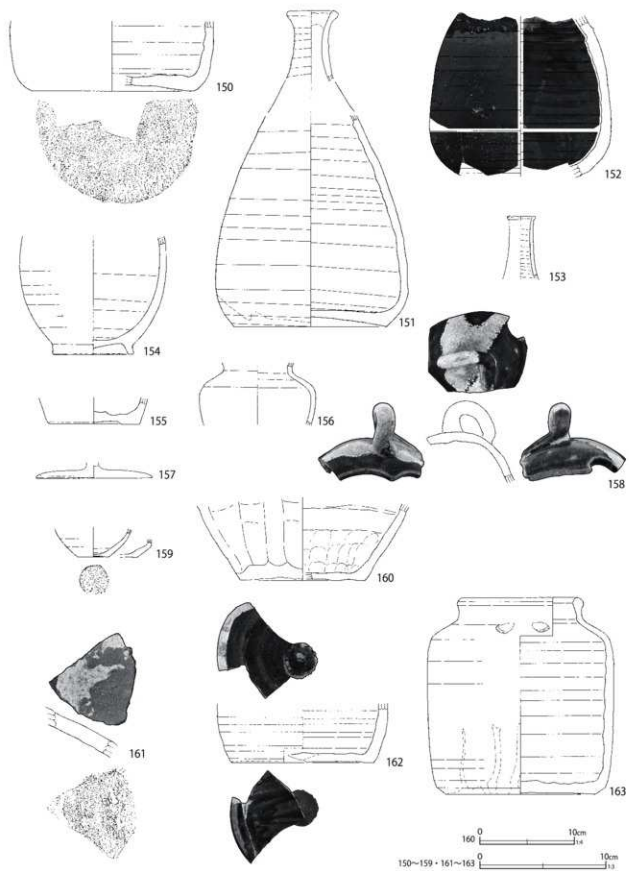


第 628 图 第 497 号土坑出土遗物 (9)

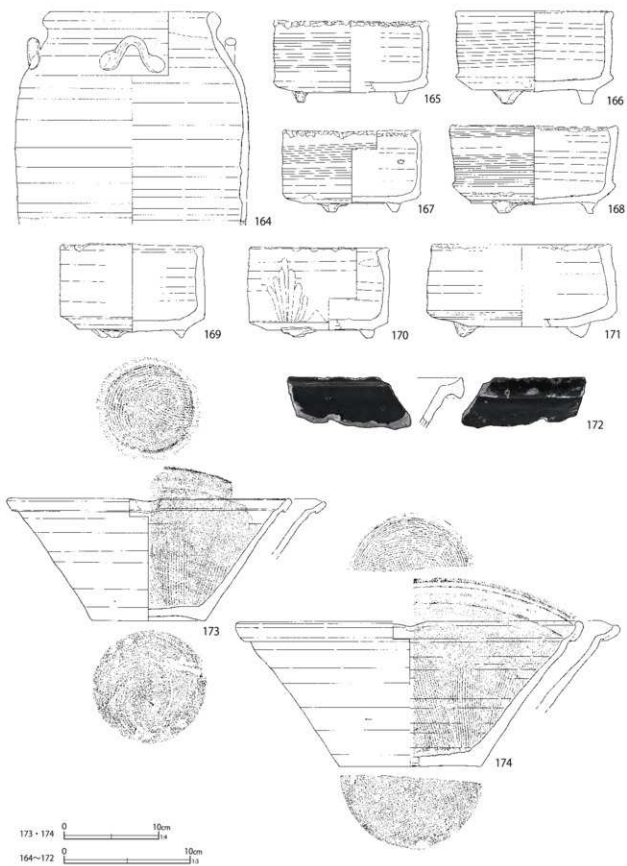


第 629 図 第 497 号土坑出土遺物 (10)

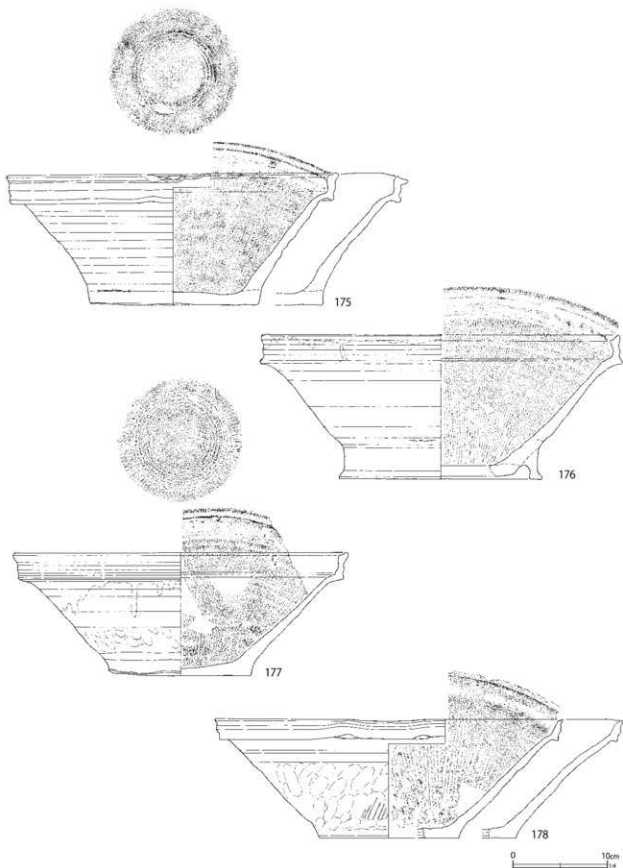




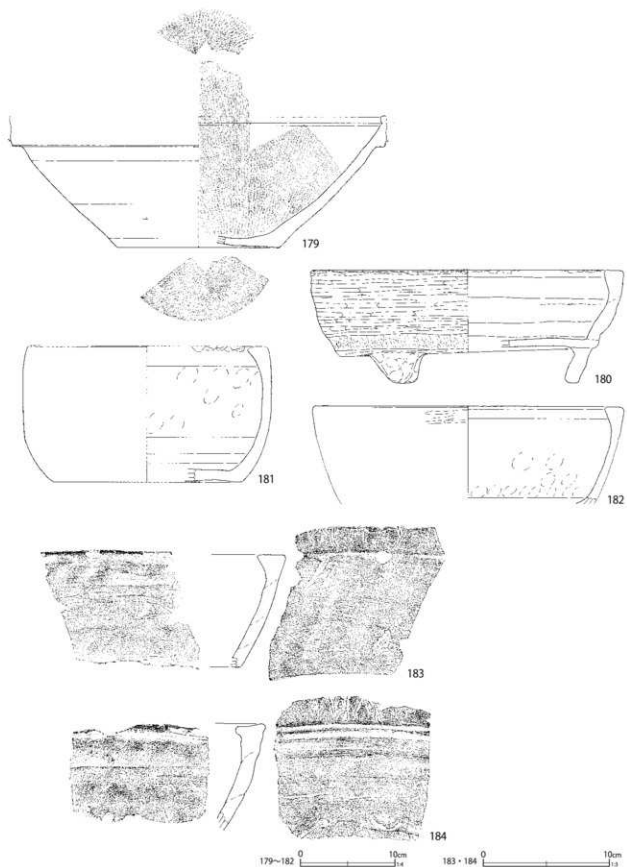
第 630 图 第 497 号土坑出土遗物 (11)



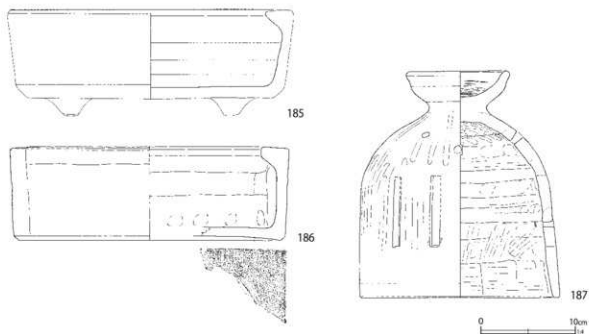
第 631 图 第 497 号土坑出土遗物 (12)



第 632 图 第 497 号土坑出土遗物 (13)



第 633 图 第 497 号土坑出土遗物 (14)



第 634 図 第 497 号土壙出土遺物 (15)

る。

第620～660図に出土遺物を図示した。第620図1～第623図70は肥前系磁器である。1～4は白磁の丸碗である。1は高台断面がシャープな「U」字状で高台高が高い。3・4は器高が低く、4は極めて細かな貫入がみられる。5は丸碗で、外面に雨降らし文の染付がみられる。6は波佐見系のくらわんか手碗である。外面にコンニャク印判染付がみられる。7はやや薄手の丸碗で、外面はコンニャク印判染付である。10・14・17・21は波佐見系のくらわんか手碗である。外面に雪輪草花文染付がみられる。11・13は高台断面がシャープな「U」字状を呈する丸碗である。梅樹文状の染付に、コンニャク印判染付が組み合わされている。

第621図36～38は小碗で、外面に雨降らし文染付が施される。39は高台が高いくらわんか手碗で、外面に笹文染付がみられる。

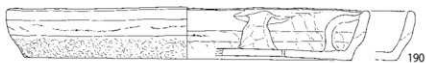
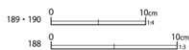
47は初期伊万里様式の皿である。第523号土壙出土資料(第590図2・3)は同文である。48は初期伊万里の芙蓉手大皿である。第523号土壙出

土資料(第590図6)は同一個体である可能性が高い。第622図49～56は見込み蛇ノ目軸刺ぎの皿である。底部は露胎である。

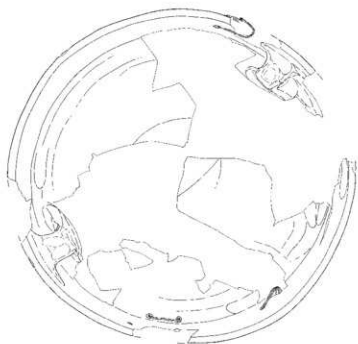
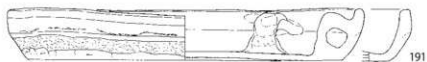
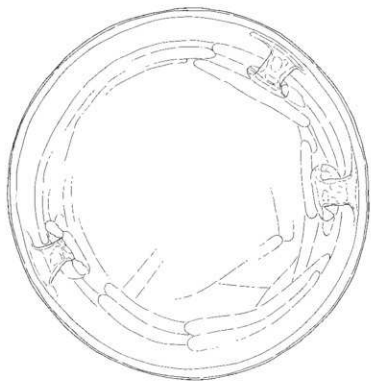
第623図59～62は仏飯器である。59・60底部の削り込みは浅く、外周に面取りが施される。外面は雨降らし文染付である。62は脚部中位に段が付く。底部の削り込みは浅く、外周に面取りが施される。上部は打ち欠きで円形に二次加工を施している。

第624図71～第625図91肥前系陶器の碗である。73～78は呉手碗である。77は高台に小礫が付着し、胎土は緻密且つ硬質である。黒色粒子が斑状にみえる。79～82は丸腰で筒形を呈する京焼風碗である。82は高台内に刻印がみられる。85～91は刷毛目軸碗である。

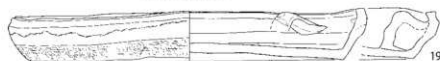
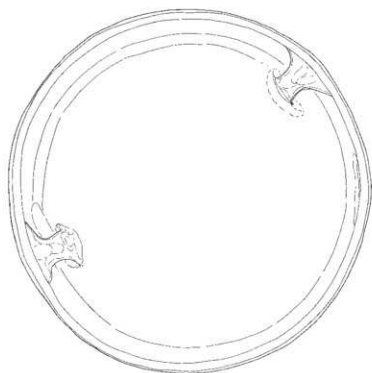
第625図92～94・96～第626図107は瀬戸美濃系陶器の碗である。92～94は天目碗である。96・97・107は尾呂茶碗である。栗橋宿での出土は稀である。98は外面に長石軸が散らされた腰錆碗である。栗橋宿での出土は稀である。99～106は腰錆碗である。すべて口縁部が逆「ハ」字状に開



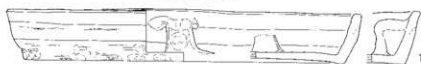
第 635 図 第 497 号土坑出土遺物 (16)



第 636 图 第 497 号土坑出土遗物 (17)



193

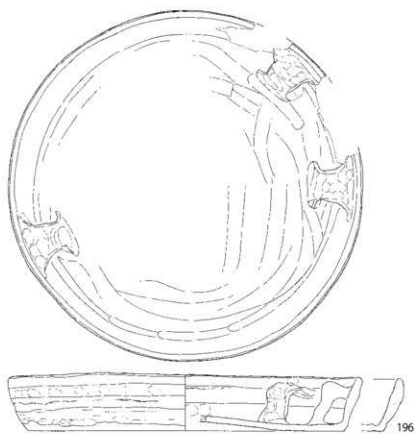
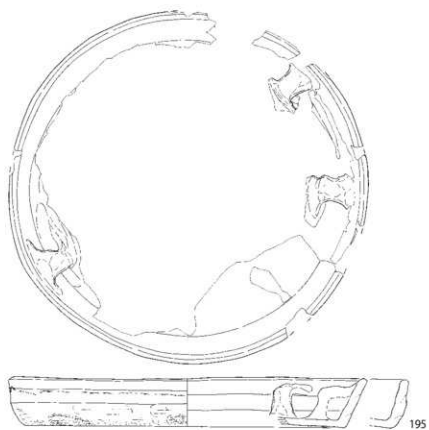


194

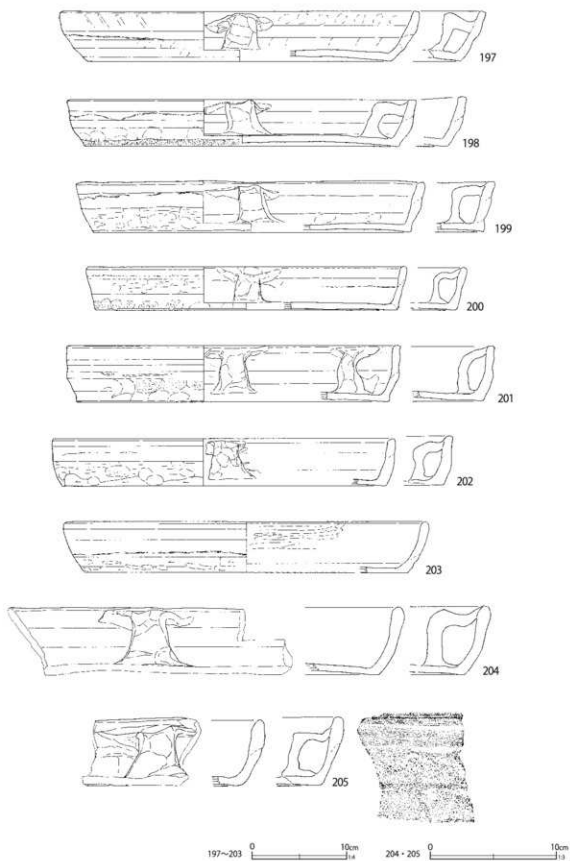


第 637 图 第 497 号土坑出土遗物 (18)

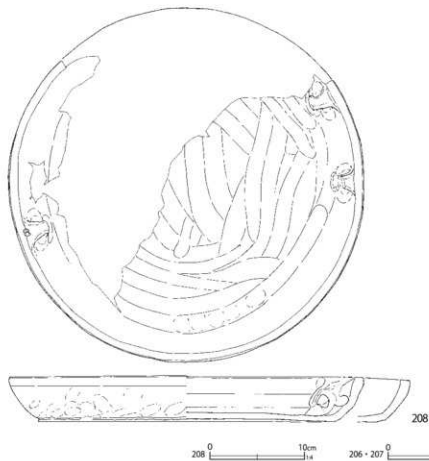
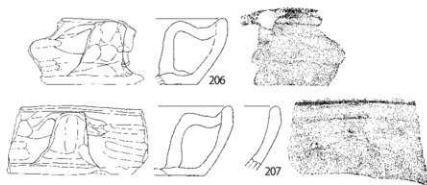




第 638 图 第 497 号土坑出土遗物 (19)



第 639 图 第 497 号土坑出土遗物 (20)



第640図 第497号土壙出土遺物(21)

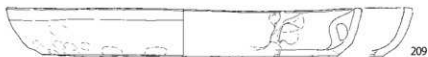
口し、99・101・102・104・105は体部を凹ませている。105・106は高台内に刻印がみられる。

第626図109～第627図118は肥前系陶器の青緑釉輪壳皿である。被熱し、煤が付着する資料が目立つ。

第627図119～第628図131・133は瀬戸美濃系陶器の皿である。119・120は灰軸そり皿である。121～124は内面に輪状の直重ね焼き痕がみられ

る灰軸丸皿である。高台畳付けに灰軸が付着する。125は内面に陰刻文が施される灰軸丸皿である。126・129・130は灰軸輪壳皿で、126と130には内面中央に陰刻文が施されている。131は内面に鉄絵の摺絵が施される皿で、いわゆる御深井である。底部周囲に打ち欠き状の欠失がみられ、二次加工の可能性が疑われる。

第628図135は志戸呂系陶器の灯明皿である。



第 641 图 第 497 号土坑出土遗物 (22)



211



212



213



214



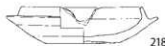
215



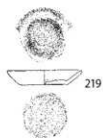
216



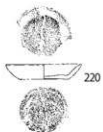
217



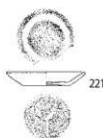
218



219



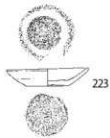
220



221



222



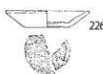
223



224



225



226



227

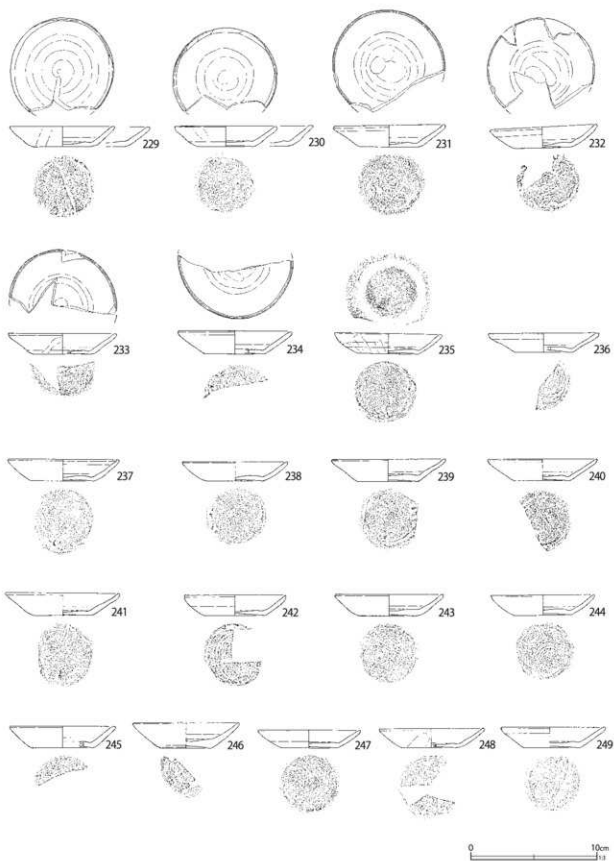


228

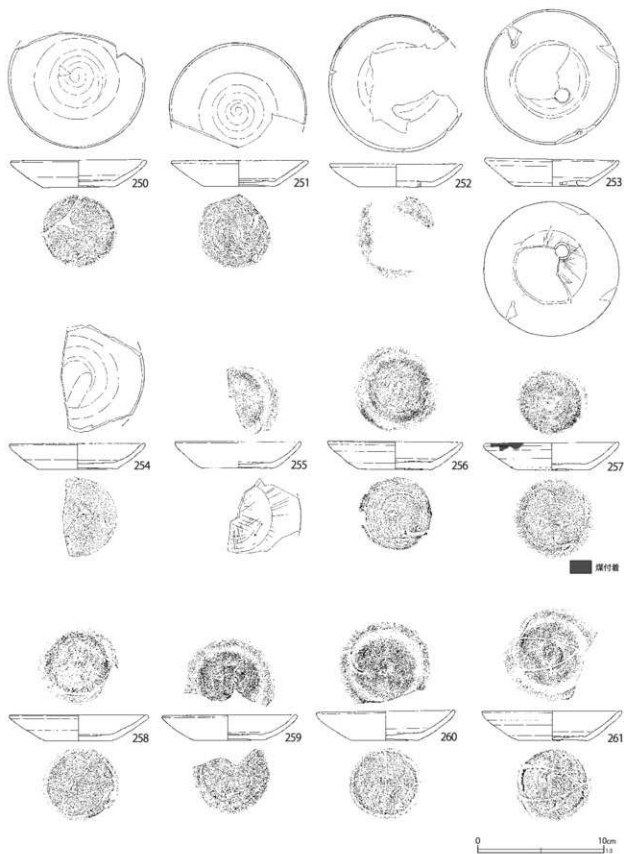
212~214 0 10cm

211·215~228 0 10cm

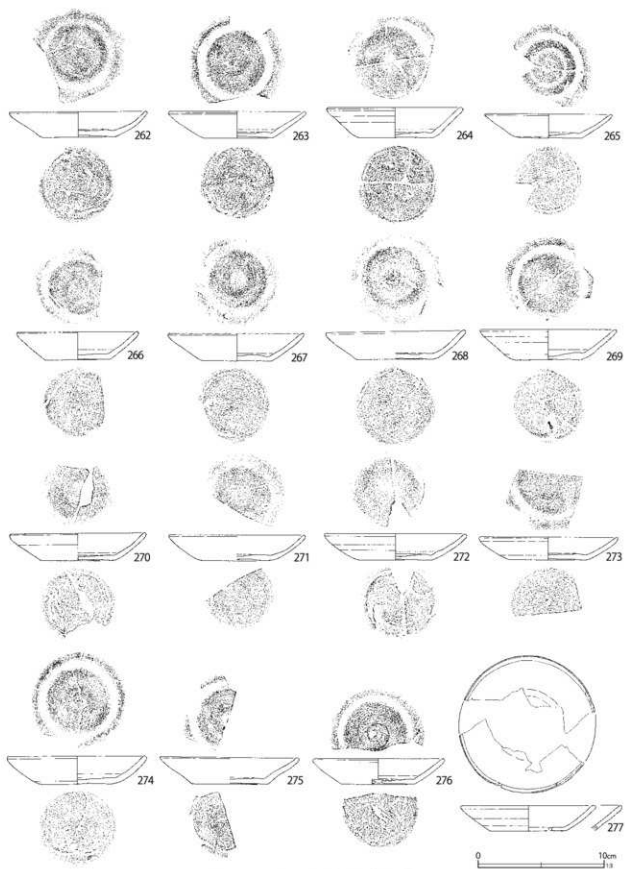
第 642 图 第 497 号土坑出土遗物 (23)



第 643 图 第 497 号土坑出土遗物 (21)

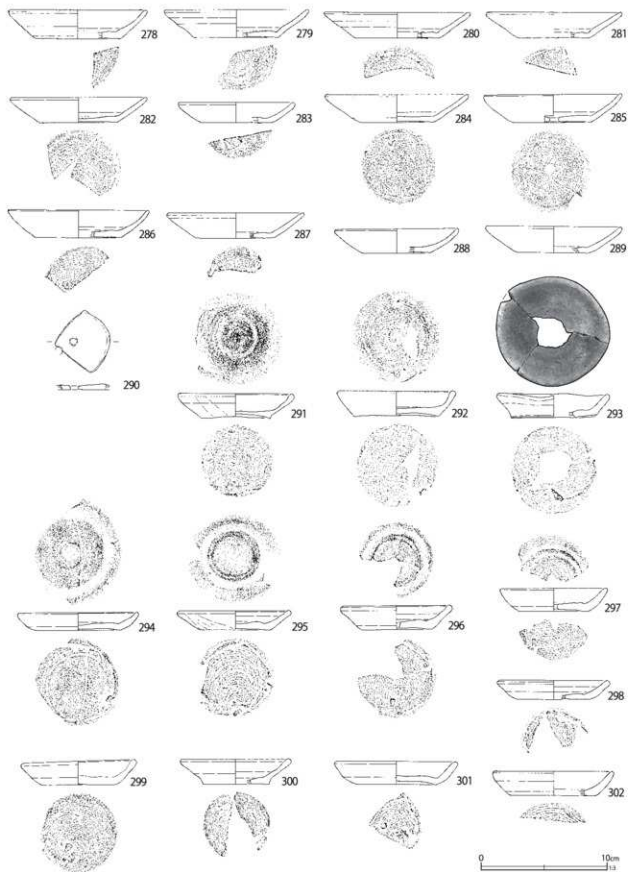


第 644 图 第 497 号土坑出土遗物 (25)

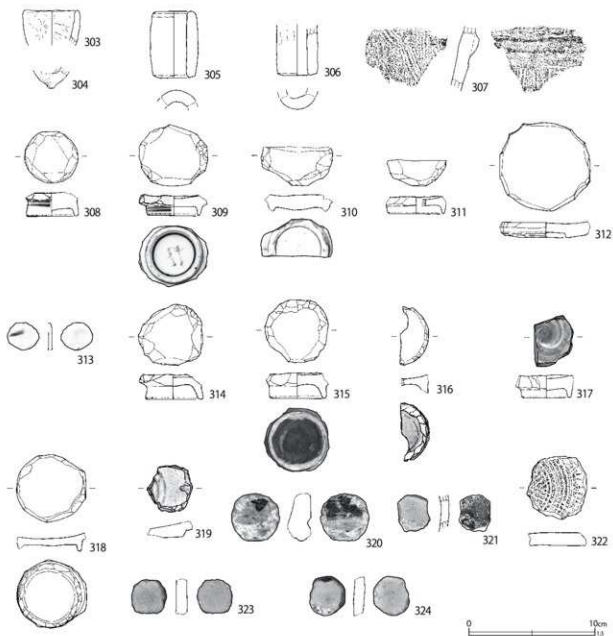


第 645 図 第 497 号土坑出土遺物 (26)





第 646 图 第 497 号土坑出土遗物 (27)

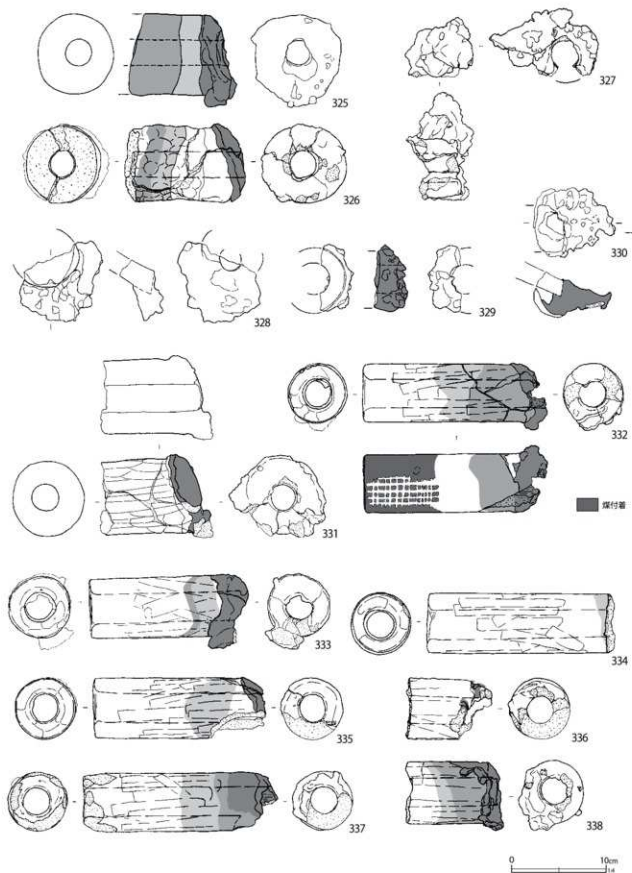


第647図 第497号土壙出土遺物(28)

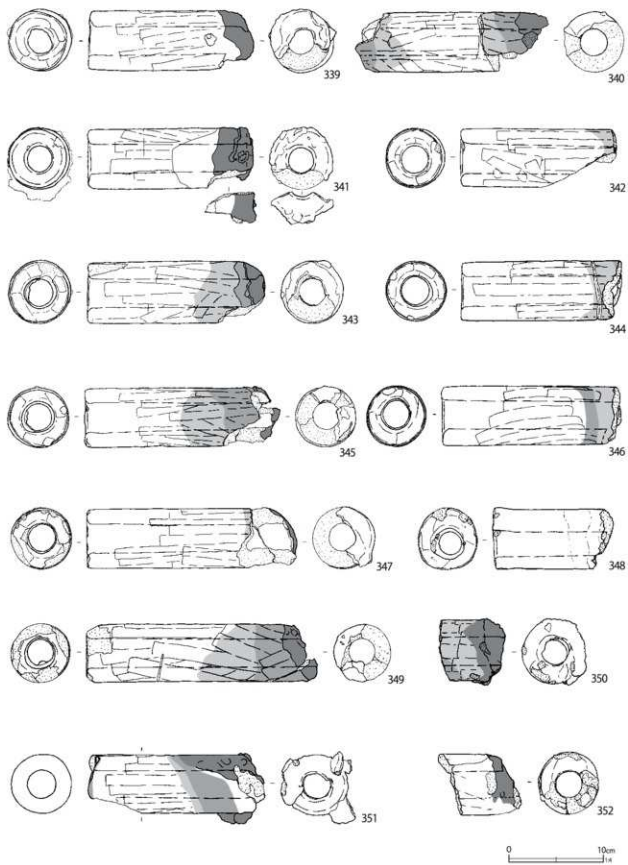
137・138は志戸呂系陶器の油受皿で、透かしが3箇所みられる。136は坏形を呈する産地不詳の陶器で灯明皿の可能性が疑われる。144は瀬戸美濃系陶器の笠原鉢である。灰釉が施軸され、内面に緑釉が流し掛けられている。鉄絵が施されている。第629図149、第630図150・153は備前系陶器の徳利である。149はかぶら形を呈し、体部下端部に刻印がみられる。150の底部には圧痕がみられ、被熱し、煤が付着する。153は外面に塗土が

施されている。151は志戸呂系陶器のかぶら形徳利である。外面に錆釉が施軸される。152は瀬戸美濃系陶器の徳利である。内外面に柿釉が施軸され、外面上位に黒釉が流し掛けられている。

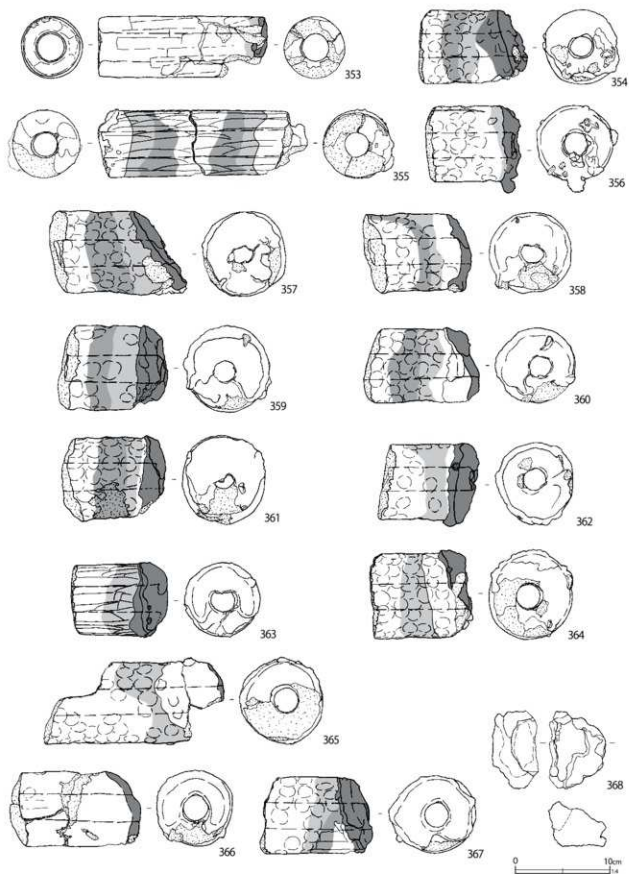
第632図175～178は丹波系陶器の播鉢である。栗橋宿ではまとまった出土が極めて稀である。175・176は外面にヨコナデ調整が施され、176には輪高台状の脚部が付く。177は外面下位に左上がりの指頭痕がみられ、上位はヨコナデ調整であ



第 648 图 第 497 号土坑出土遗物 (29)



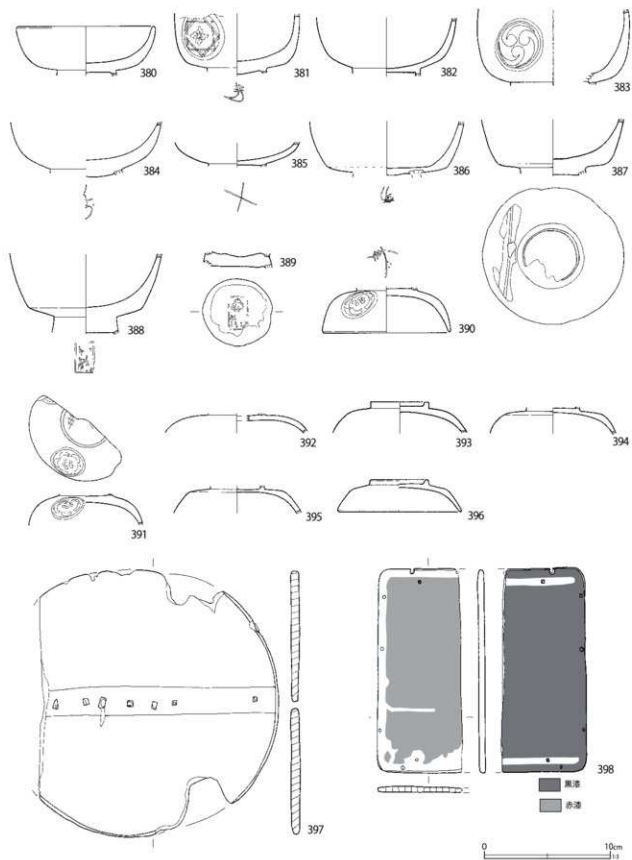
第 649 图 第 497 号土坑出土遗物 (30)



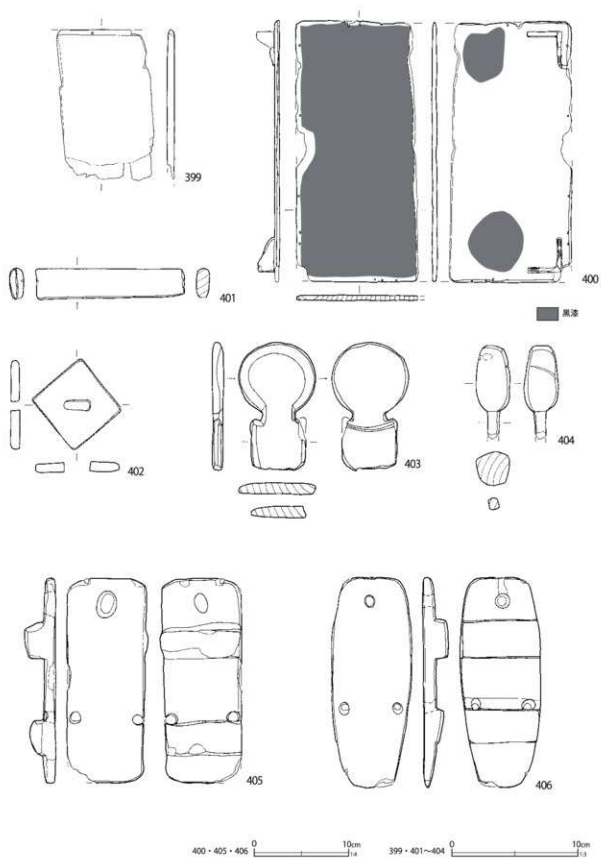
第 650 图 第 497 号土坑出土遗物 (31)



第 651 图 第 497 号土坑出土遗物 (32)

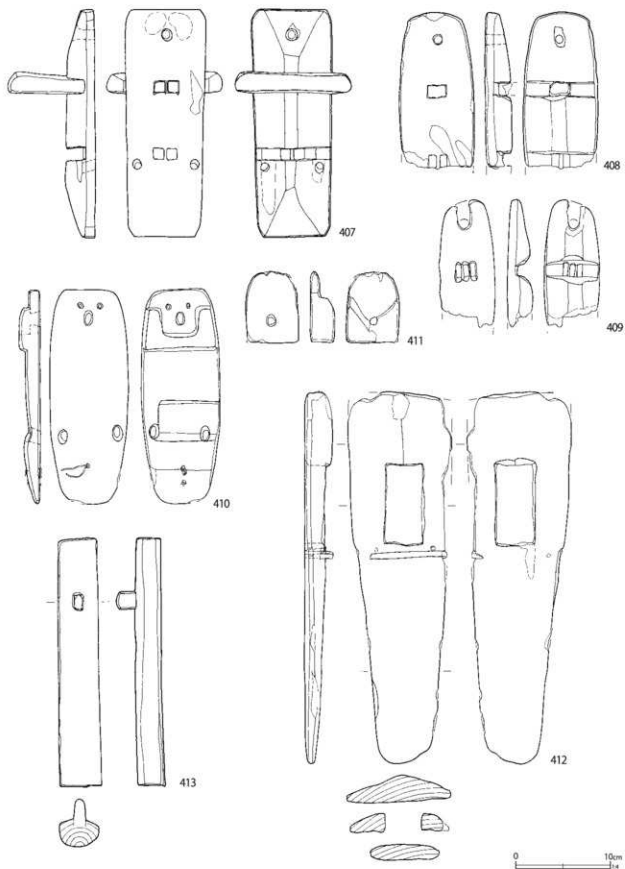


第 652 图 第 497 号土坑出土遗物 (33)

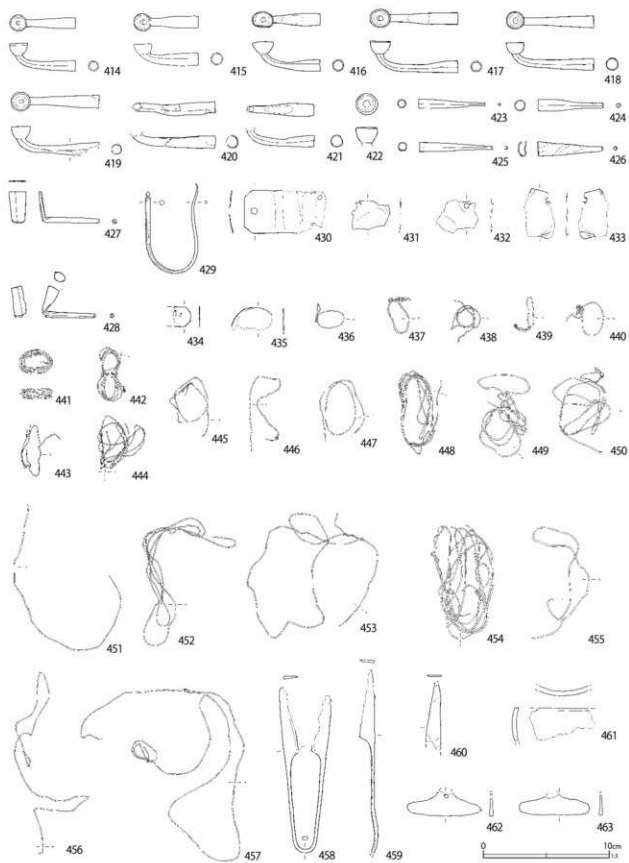


第 653 図 第 497 号土坑出土遺物 (34)

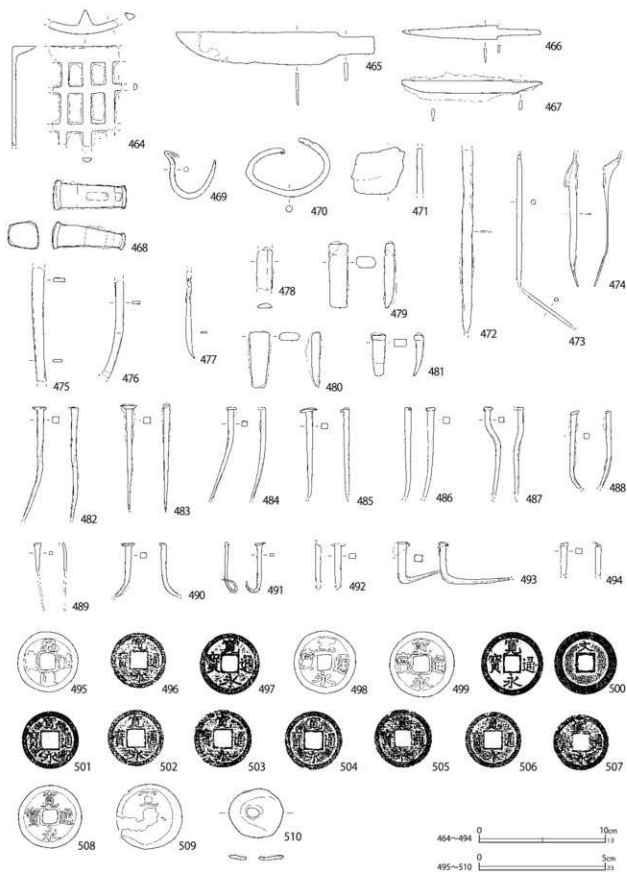




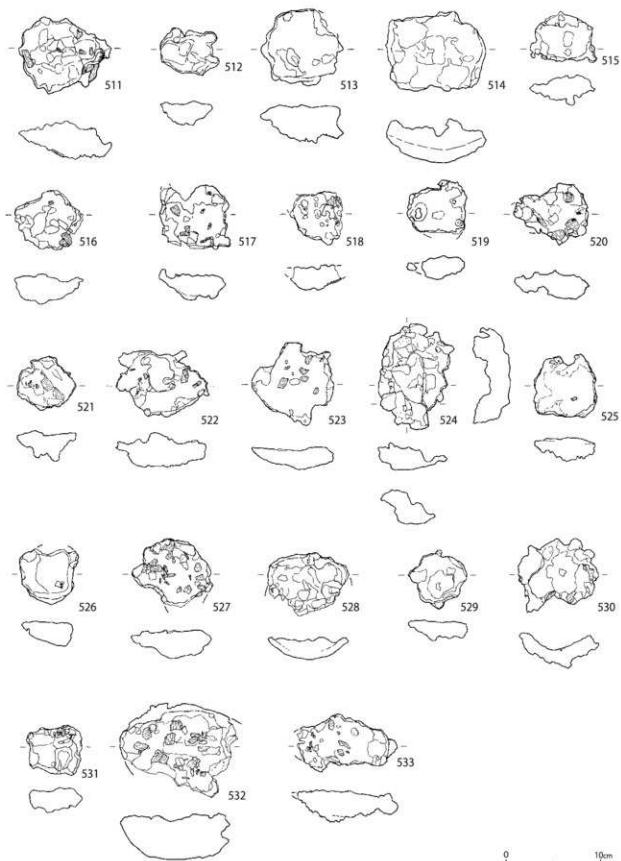
第 654 图 第 497 号土坑出土遗物 (35)



第 655 图 第 497 号土坑出土遗物 (36)



第 656 图 第 497 号土坑出土文物 (37)



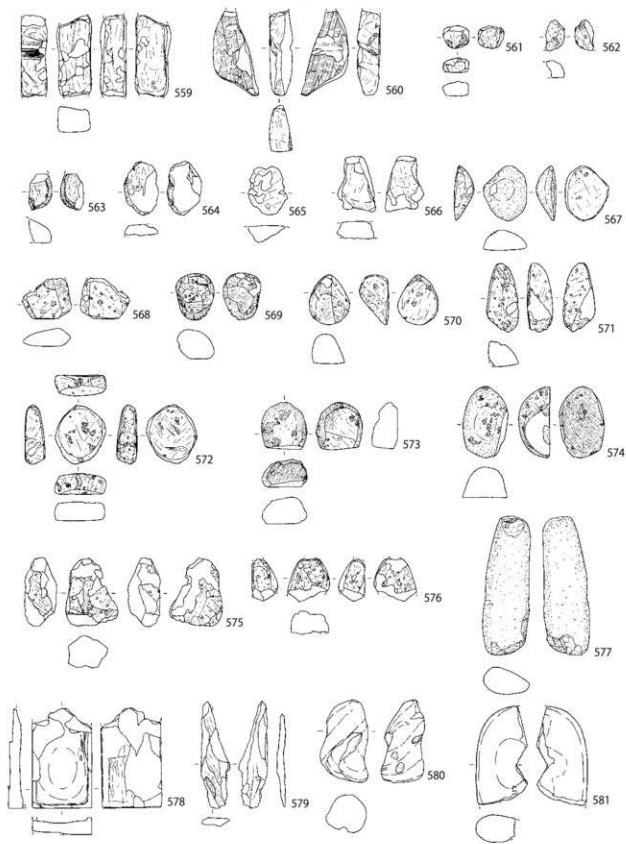
第 657 图 第 497 号土坑出土遗物 (38)



第 658 图 第 497 号土坑出土遗物 (39)



第 659 图 第 497 号土坑出土遗物 (40)



559~576・578・579・581 0 10cm 1:4 577・580 0 10cm 1:3

第660图 第497号土坑出土文物(11)